

---

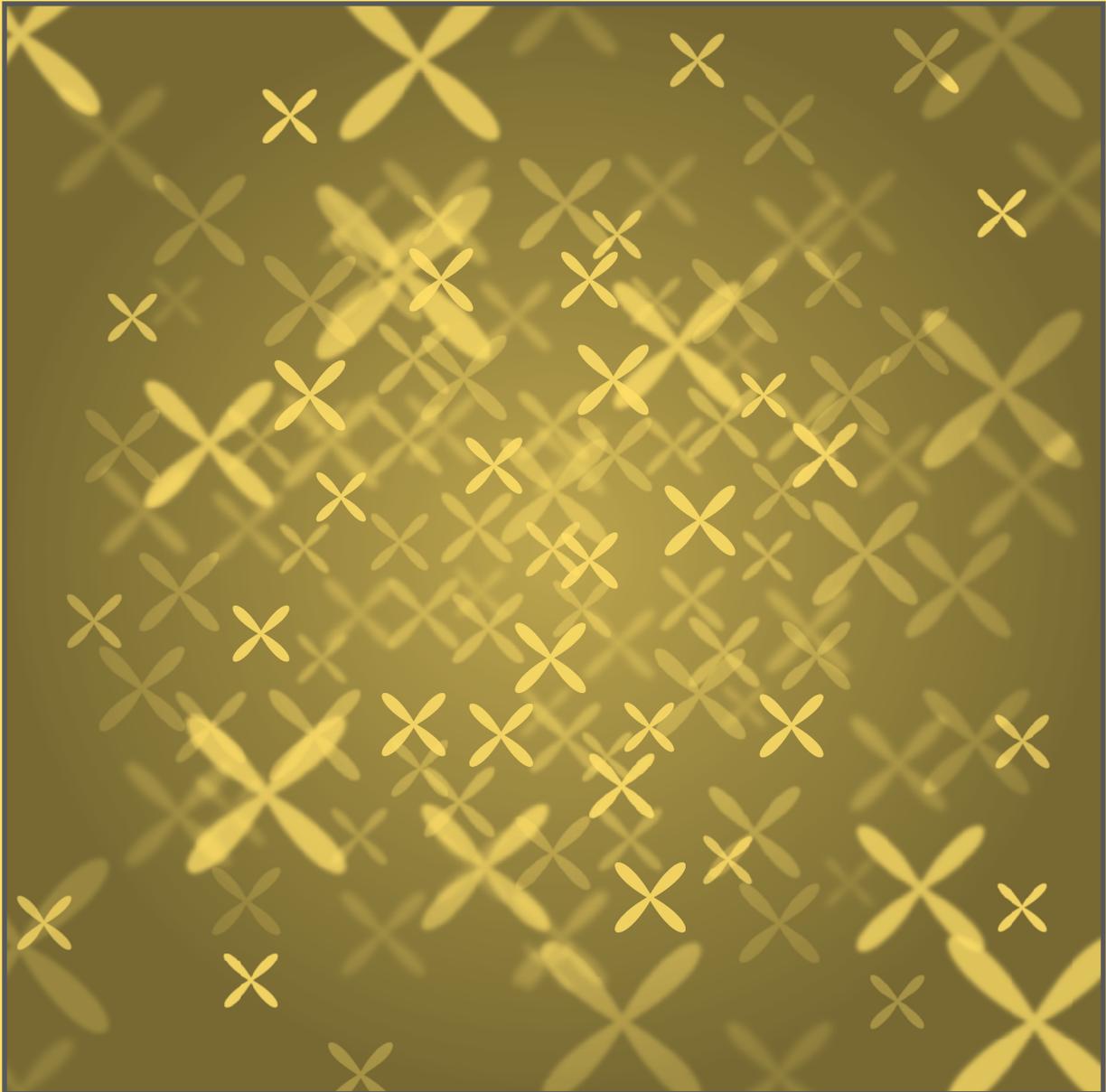
2012年度

---

# シラバス

# 言語文化学科

---



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

---

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

## 【シラバスの見方】

### 1. 目次について

#### ①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。

目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

#### ②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部

養：国際教養学部

経：経済学部

法：法学部

独：ドイツ語学科

済：経済学科

律：法律学科

英：英語学科

営：経営学科

国：国際関係法学科

仏：フランス語学科

総：総合政策学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

### 2. シラバスページの見方(右図参照)

#### ①適用学生

養：国際教養学部生および2007年度以降入学者対象科目

外言：外国語学部言語文化学科生および2006年度以前入学者対象科目

#### ②科目名

入学年度に対応した科目名が記載されています。

#### ③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

#### ④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

#### ⑤授業で使用するテキスト、参考文献が記載されています。

#### ⑥評価方法について記載されています。

#### ⑦原則としてページ上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
<b>春学期</b>		⑦
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
<b>秋学期</b>		⑦
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

### 3. 注意事項

#### ①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』で確認した上で、履修登録をしてください。

#### ②定員

経済学部の科目は、学習環境および防災上などの観点から、「全学共通授業科目」と同様に定員を設けています。

各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

# 国際教養学部言語文化学科授業科目(2007年度以降入学者用)

## 目次 必須教養科目群

### 「学科基礎」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	基礎演習a	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	基礎演習b	各担当教員	木4	2	1	全	1
	秋	言語文化論	安井 一郎	月4	2	1	全	2
	春	哲学Ⅰ	松丸 壽雄	金4	2	1	全	3
	春	現代世界論	佐藤 勘治	月4	2	1	全	4
	春	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	5
20631	秋	哲学Ⅱ	松丸 壽雄	金3	2	4	全	5

### 「外国語」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	英語Ⅰ(IE)	各担当教員		1	1	全	6
	春	英語Ⅰ(S)	各担当教員		1	1	全	7
	春	英語Ⅰ(W)	各担当教員		1	1	全	8
	秋	英語Ⅱ(IE)	各担当教員		1	1	全	6
	秋	英語Ⅱ(S)	各担当教員		1	1	全	7
	秋	英語Ⅱ(W)	各担当教員		1	1	全	8
	春	英語Ⅲ(IE)	各担当教員		1	2	全	9
	春	英語Ⅲ(S)	各担当教員		1	2	全	10
	春	英語Ⅲ(W)	各担当教員		1	2	全	11
	秋	英語Ⅳ(IE)	各担当教員		1	2	全	9
	秋	英語Ⅳ(S)	各担当教員		1	2	全	10
	秋	英語Ⅳ(W)	各担当教員		1	2	全	11
	春	英語Ⅴ(AE)	C. チャー		1	3	全	12
	春	英語Ⅴ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	13
	春	英語Ⅴ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	14
	春	英語Ⅴ(AE)	M. ハルデイン		1	3	全	15
	春	英語Ⅴ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	16
	春	英語Ⅴ(AE)	奥平 文子		1	3	全	17
	春	英語Ⅴ(AE)	山本 英政		1	3	全	18
	春	英語Ⅴ(AE)	松山 響子		1	3	全	19
	秋	英語Ⅵ(AE)	C. チャー		1	3	全	12
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. A. クラウン		1	3	全	13
	秋	英語Ⅵ(AE)	K. ヤブノ		1	3	全	14
	秋	英語Ⅵ(AE)	M. ハルデイン		1	3	全	15
	秋	英語Ⅵ(AE)	S. K. エリス		1	3	全	16
	秋	英語Ⅵ(AE)	奥平 文子		1	3	全	17
	秋	英語Ⅵ(AE)	山本 英政		1	3	全	18
	秋	英語Ⅵ(AE)	松山 響子		1	3	全	19
20010	春	英語Ⅴ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	20
18614	秋	英語Ⅴ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	20
18610	春	英語Ⅵ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	20
21324	秋	英語Ⅵ(AE)再履修	S. K. エリス		1	3	全	20
	春	スペイン語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	21
	春	スペイン語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	22
	春	スペイン語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	23
	春	スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	24
	秋	スペイン語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	21
	秋	スペイン語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	22
	秋	スペイン語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	23
	秋	スペイン語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	24
	春	スペイン語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	25
	春	スペイン語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	26
	春	スペイン語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	27
	春	スペイン語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	28

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	スペイン語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	25
	秋	スペイン語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	26
	秋	スペイン語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	27
	秋	スペイン語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	28
	春	スペイン語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	29
	春	スペイン語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	30
	秋	スペイン語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	29
	秋	スペイン語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	30
21231	春	スペイン語Ⅴ(応用1)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
20019	秋	スペイン語Ⅴ(応用1)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
21232	春	スペイン語Ⅴ(応用2)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
20020	秋	スペイン語Ⅴ(応用2)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
21209	春	スペイン語Ⅵ(応用1)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
21336	秋	スペイン語Ⅵ(応用1)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
21210	春	スペイン語Ⅵ(応用2)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
21337	秋	スペイン語Ⅵ(応用2)再履修	児島 峰	月2	1	3	全	31
	春	中国語Ⅰ(総合1)	各担当教員		1	1	全	32
	春	中国語Ⅰ(総合2)	各担当教員		1	1	全	33
	春	中国語Ⅰ(入門)	各担当教員		1	1	全	34
	春	中国語Ⅰ(会話)	各担当教員		1	1	全	35
	秋	中国語Ⅱ(総合1)	各担当教員		1	1	全	32
	秋	中国語Ⅱ(総合2)	各担当教員		1	1	全	33
	秋	中国語Ⅱ(基礎表現)	各担当教員		1	1	全	34
	秋	中国語Ⅱ(会話)	各担当教員		1	1	全	35
	春	中国語Ⅲ(総合)	各担当教員		1	2	全	36
	春	中国語Ⅲ(講読)	各担当教員		1	2	全	37
	春	中国語Ⅲ(会話1)	各担当教員		1	2	全	38
	春	中国語Ⅲ(会話2)	各担当教員		1	2	全	39
	秋	中国語Ⅳ(総合)	各担当教員		1	2	全	36
	秋	中国語Ⅳ(講読)	各担当教員		1	2	全	37
	秋	中国語Ⅳ(会話1)	各担当教員		1	2	全	38
	秋	中国語Ⅳ(会話2)	各担当教員		1	2	全	39
	春	中国語Ⅴ(応用1)	各担当教員		1	3	全	40
	春	中国語Ⅴ(応用2)	各担当教員		1	3	全	41
	秋	中国語Ⅵ(応用1)	各担当教員		1	3	全	40
	秋	中国語Ⅵ(応用2)	各担当教員		1	3	全	41
20023	秋	中国語Ⅴ(応用1)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
21235	春	中国語Ⅴ(応用1)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
20024	秋	中国語Ⅴ(応用2)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
21236	春	中国語Ⅴ(応用2)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
21213	春	中国語Ⅵ(応用1)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
21338	秋	中国語Ⅵ(応用1)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
21214	春	中国語Ⅵ(応用2)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
21343	秋	中国語Ⅵ(応用2)再履修	永田 小絵	水1	1	3	全	42
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	43
	春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	44
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	45
	春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	46
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	43
	秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	44
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	45
	秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	46
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	47
	春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	48
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	49
	春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	50
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	47
	秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	48
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	49
	秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	50

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14744	春	韓国語Ⅴ(応用1)	白 寅英	火2	1	3	全	51
18538	春	韓国語Ⅴ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	52
13378	春	韓国語Ⅴ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	53
18495	春	韓国語Ⅴ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	54
14739	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	白 寅英	火2	1	3	全	51
18539	秋	韓国語Ⅵ(応用1)	沈 民珪	水3	1	3	全	52
13408	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	白 寅英	金2	1	3	全	53
18497	秋	韓国語Ⅵ(応用2)	沈 民珪	木1	1	3	全	54
21241	春	韓国語Ⅴ(応用1)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65
20027	秋	韓国語Ⅴ(応用1)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65
21242	春	韓国語Ⅴ(応用2)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65
20028	秋	韓国語Ⅴ(応用2)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65
21219	春	韓国語Ⅵ(応用1)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65
21331	秋	韓国語Ⅵ(応用1)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65
21220	春	韓国語Ⅵ(応用2)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65
21332	秋	韓国語Ⅵ(応用2)再履修	金 秀晶	水3	1	3	全	65

### 選択教養科目群

#### 「外国語演習科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
18606	春	英語演習Ⅰ	J. ハント	木3	2	3	全	55
19414	春	英語演習Ⅰ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	56
18602	春	英語演習Ⅰ	ロン 美香	木3	2	3	全	57
18620	春	英語演習Ⅰ	関戸 冬彦	月4	2	3	全	58
18622	春	英語演習Ⅰ	中込 知子	水3	2	3	全	59
19816	春	英語演習Ⅰ	中島 直美	火2	2	3	全	60
18607	秋	英語演習Ⅱ	J. ハント	木3	2	3	全	55
19415	秋	英語演習Ⅱ	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	56
18603	秋	英語演習Ⅱ	ロン 美香	木3	2	3	全	57
18621	秋	英語演習Ⅱ	関戸 冬彦	月4	2	3	全	58
18623	秋	英語演習Ⅱ	中込 知子	水3	2	3	全	59
19817	秋	英語演習Ⅱ	中島 直美	火2	2	3	全	60
19402	春	スペイン語演習Ⅰ	J. フェレーラス	金5	2	3	全※1	61
19404	春	スペイン語演習Ⅰ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	62
19403	秋	スペイン語演習Ⅱ	J. フェレーラス	金5	2	3	全※1	61
19405	秋	スペイン語演習Ⅱ	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	62
19410	春	中国語演習Ⅰ	武信 彰	月2	2	3	全※1	63
18590	春	中国語演習Ⅰ	吉田 桂子	金2	2	3	全※1	64
19411	秋	中国語演習Ⅱ	武信 彰	月2	2	3	全※1	63
18591	秋	中国語演習Ⅱ	吉田 桂子	金2	2	3	全※1	64
18626	春	韓国語演習Ⅰ	金 秀晶	水3	2	3	全※1	65
18625	秋	韓国語演習Ⅱ	金 秀晶	水3	2	3	全※1	65

※1: 交流文化学科は除く

#### 「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13167	春	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ(スペイン)	二宮 哲	月5	2	1	全	66
13168	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ(ラテンアメリカ)	佐藤 勤治	月5	2	1	全	66
14676	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅰ(ラテンアメリカの歴史と社会)	佐藤 勤治	木4	2	2		67
14584	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会)	浦部 浩之	月2	2	2		68
14848	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会)	今井 圭子	月3	2	2		69
14596	春	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅳ(スペイン語圏の言語文化)	二宮 哲	水2	2	2		70
14677	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅰ(ラテンアメリカ近現代史)	佐藤 勤治	木4	2	2		67
14585	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論)	浦部 浩之	月2	2	2		68
14849	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論)	今井 圭子	月3	2	2		69
14597	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅳ(スペイン語学)	二宮 哲	水2	2	2		70
15045	春	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅴ(ブラジル研究)	E. ウラノ	火2	2	2	全	71
14621	秋	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法	二宮 哲	月4	2	2	全	72

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
14590	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅰ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a)	P. ラゴ	金2	2	2		73
14591	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅱ(スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b)	P. ラゴ	金2	2	2		73
15044	春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	74
14938	秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火5	2	2	全	74

「中国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13470	春	中国研究入門	森 保裕	土2	2	1		75
14605	秋	中国研究Ⅰ(中国社会論)	山本 秀也	土1	2	2		75
14586	春	中国研究Ⅱ(中国の思想・文学)	永田 小絵	木5	2	2		76
14909	春	中国研究Ⅲ(中国史a)	張 士陽	木4	2	2	全	77
14910	秋	中国研究Ⅳ(中国史b)	張 士陽	木4	2	2	全	77
14594	春	中国研究各論Ⅰ(現代中国論a)	大澤 昇	水4	2	2	法	78
14595	秋	中国研究各論Ⅱ(現代中国論b)	大澤 昇	水4	2	2	法	78
14678	春	中国研究各論Ⅲ(日中交流史)	武信 彰	月4	2	2		79
14587	秋	中国研究各論Ⅳ(中国の芸能・芸術)	永田 小絵	木5	2	2		76
14679	秋	中国研究各論Ⅴ(言語文化論)	武信 彰	月4	2	2		79
14691	春	中国特殊研究Ⅰ(日中比較文化論a)	易 友人	月2	2	2		80
14692	秋	中国特殊研究Ⅱ(日中比較文化論b)	易 友人	月2	2	2		80
14703	春	中国特殊研究Ⅲ(中国文学研究古典)	易 友人	火3	2	2		81
14704	秋	中国特殊研究Ⅳ(中国文学研究現代)	易 友人	火3	2	2		81

「韓国研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13141	春	韓国研究入門	金 泰植	水3	2	1	全	82
14675	春	韓国研究Ⅰ(韓国史)	佐藤 厚	金2	2	2		83
14680	秋	韓国研究Ⅱ(韓国社会論)	平田 由紀江	水2	2	2	全	83
14627	秋	韓国研究Ⅲ(韓国の言語文化)	金 泰植	水3	2	2		84
		韓国研究各論Ⅰ(韓国社会各論a)	2012年度不開講					
14974	春	韓国研究各論Ⅱ(韓国社会各論b)	全 載旭	木3	2	2	全	85
14889	秋	韓国研究各論Ⅲ(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	85
14626	春	韓国研究各論Ⅳ(韓国文化各論a)	吳 吉煥	水1	2	2		86
14667	秋	韓国研究各論Ⅴ(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金2	2	2		86
14892	春	韓国研究各論Ⅵ(韓国文化各論c)	佐藤 厚	火2	2	2	全	87
14891	秋	韓国研究情報収集法	金 熙淑	月4	2	2	全	88
14894	秋	韓国特殊研究Ⅰ(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
14890	春	韓国特殊研究Ⅱ(日韓比較文化論b)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
14893	秋	韓国特殊研究Ⅲ(文献読解)	金 秀晶	金3	2	2	全	90

「日本研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13471	春	日本研究Ⅰ(日本文学古典)	福沢 健	月2	2	1	全	91
13198	秋	日本研究Ⅱ(日本文学現代)	佐藤 毅	木1	2	1	全	91
13199	春	日本研究Ⅲ(日本史a)	丸浜 昭	水1	2	1	全	92
13200	秋	日本研究Ⅳ(日本史b)	丸浜 昭	水1	2	1	全	92
13201	春	日本研究Ⅴ(日本経済論a)	須藤 時仁	火2	2	1	全	93
13202	秋	日本研究Ⅵ(日本経済論b)	須藤 時仁	火2	2	1	全	93
13203	春	日本研究Ⅶ(日本文化論)	飯島 一彦	木2	2	1	全	94
14674	秋	日本研究各論Ⅰ(民俗芸能)	飯島 一彦	木2	2	2	全	94
15072	春	日本研究各論Ⅱ(企業経営)	黒川 文子	火5	2	2	全	95
14851	秋	日本研究各論Ⅲ(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	96
14673	春	日本研究各論Ⅳ(古典芸能)	馬場 光子	水4	2	2	全	97
14850	春	日本特殊研究Ⅰ(民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	96
14689	秋	日本特殊研究Ⅱ(文献読解)	馬場 光子	水4	2	2	全	97
14645	春	日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98
14647	秋	日本特殊研究Ⅳ(碑文を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98

「多言語間交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13443	春	多言語間交流研究Ⅰ(言語学a)	安間 一雄	金1	2	1	全	99
13444	秋	多言語間交流研究Ⅱ(言語学b)	安間 一雄	金1	2	1	全	99
		多言語間交流研究Ⅲ(英語学a)	2012年度不開講				全	
		多言語間交流研究Ⅳ(英語学b)	2012年度不開講				全	
13142	秋	多言語間交流研究Ⅴ(英語圏の文学)	松山 響子	月2	2	1	全	100
14636	春	多言語間交流研究各論Ⅰ(応用言語学)	臼井 芳子	火2	2	2	全	101
14637	秋	多言語間交流研究各論Ⅱ(第二言語習得)	臼井 芳子	火2	2	2	全	101
14852	春	多言語間交流研究各論Ⅲ(英語圏の小説a)	上野 直子	水2	2	2	全	102
14853	秋	多言語間交流研究各論Ⅳ(英語圏の小説b)	島田 啓一	木3	2	2	全	102
15238	春	多言語間交流研究各論Ⅴ(英語圏の詩a)	遠藤 朋之	木4	2	2	全	103
14888	秋	多言語間交流研究各論Ⅵ(英語圏の詩b)	白鳥 正孝	水3	2	2	全	103
		多言語間交流研究各論Ⅶ(英語圏の演劇a)	2012年度不開講				全	
		多言語間交流研究各論Ⅷ(英語圏の演劇b)	2012年度不開講				全	
14617	春	多言語間交流研究各論Ⅸ(国際語としての英語)	臼井 芳子	火4	2	2	全	104
14618	秋	多言語間交流研究各論Ⅹ(多言語環境と英語)	臼井 芳子	火4	2	2	全	104
14592	春	多言語間交流研究各論ⅩⅠ(英語圏の文化)	山本 英政	水2	2	2	全	105
14593	秋	多言語間交流研究各論ⅩⅡ(英語圏事情)	山本 英政	水2	2	2	全	105
15211	春	多言語間交流特殊研究Ⅰ(翻訳通訳論・英語)	中島 直美	火1	2	2		106
14638	春	多言語間交流特殊研究Ⅱ(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	月2	2	2		107
14615	春	多言語間交流特殊研究Ⅲ(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		108
15212	秋	多言語間交流特殊研究Ⅳ(翻訳通訳実習・英語)	中島 直美	火1	2	2		106
14659	秋	多言語間交流特殊研究Ⅴ(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	月2	2	2		107
15034	秋	多言語間交流特殊研究Ⅵ(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		108

「多文化共生研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13204	春	多文化共生研究Ⅰ(文化人類学a)	井上 兼行	月3	2	1	全	109
13205	秋	多文化共生研究Ⅱ(文化人類学b)	井上 兼行	月3	2	1	全	109
13206	春	多文化共生研究Ⅲ(社会学a)	岡村 圭子	土1	2	1	全	110
13207	秋	多文化共生研究Ⅳ(社会学b)	岡村 圭子	土1	2	1	全	110
13210	春	多文化共生研究Ⅴ(異文化間コミュニケーションa)	岡村 圭子	木2	2	1	全	111
13211	秋	多文化共生研究Ⅵ(異文化間コミュニケーションb)	山本 英政	月2	2	1	全	111
14856	春	多文化共生研究各論Ⅰ(アメリカの多文化共生a)	佐藤 唯行	火3	2	2		112
14857	秋	多文化共生研究各論Ⅱ(アメリカの多文化共生b)	佐藤 唯行	火3	2	2		112
		多文化共生研究各論Ⅲ(異文化社会の認識と世界観a)	2012年度不開講				全	
14566	秋	多文化共生研究各論Ⅳ(異文化社会の認識と世界観b)	井上 兼行	火3	2	2	全	113
14568	春	多文化共生研究各論Ⅴ(比較社会論)	井上 兼行	木3	2	2		114
14663	春	多文化共生研究各論Ⅵ(比較文化論)	岡村 圭子	水2	2	2		115
15176	春	多文化共生研究各論Ⅶ(大衆文化論)	木本 玲一	火4	2	2	全	116
14664	秋	多文化共生研究各論Ⅷ(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	115
15007	秋	多文化共生特殊研究Ⅰ(滞日外国人研究)	田房 由起子	土2	2	2	法	117
14699	春	多文化共生特殊研究Ⅱ(アメリカ合衆国のラティーノ社会)	佐藤 勘治	水2	2	2		118
14569	秋	多文化共生特殊研究Ⅲ(カリブ海域社会の民族関係)	井上 兼行	木3	2	2		118

「国際交流研究科目群」

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
13145	春	国際交流研究Ⅰ(国際関係論)	山本 秀也	土1	2	1		119
13319	春	国際交流研究Ⅱ(国際協力論)	浦部 浩之	水3	2	1		120
13212	春	国際交流研究Ⅲ(国際機構論)	鈴木 淳一	月3	2	1	全	121
13143	秋	国際交流研究Ⅳ(NGO論)	清水 俊弘	水4	2	1	全	121
13320	秋	国際交流研究Ⅴ(南北問題)	浦部 浩之	水3	2	1		120
13213	秋	国際交流研究Ⅵ(情報とメディア)	森 保裕	土2	2	1		122
14860	春	国際交流研究各論Ⅰ(国際政治論a)	星野 昭吉	月2	2	2	法	123
14861	秋	国際交流研究各論Ⅱ(国際政治論b)	星野 昭吉	月2	2	2	法	123
14977	春	国際交流研究各論Ⅲ(国際経済論a)	益山 光央	火3	2	2	全	124
14979	秋	国際交流研究各論Ⅳ(国際経済論b)	益山 光央	火3	2	2	全	124
14868	春	国際交流特殊研究Ⅰ(日本政治外交史a)	福永 文夫	金3	2	2	全	125
14869	秋	国際交流特殊研究Ⅱ(日本政治外交史b)	福永 文夫	金3	2	2	全	125

時間割コード	開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
14870	春	国際交流特殊研究Ⅲ(アジア太平洋地域交流a)	高安 健一	金1	2	2	全	126
14871	秋	国際交流特殊研究Ⅳ(アジア太平洋地域交流b)	高安 健一	金1	2	2	全	126
14872	春	国際交流特殊研究Ⅴ(グローバル・ガバナンスa)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	127
14873	秋	国際交流特殊研究Ⅵ(グローバル・ガバナンスb)	一之瀬 高博	木2	2	2	全	127

「宗教・文化・歴史研究科目群」

時間割コード	開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13144	春	宗教・文化・歴史研究Ⅰ(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	1	全	128
13214	春	宗教・文化・歴史研究Ⅱ(東洋思想史a)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	129
13215	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅲ(東洋思想史b)	松丸 壽雄	水2	2	1	全	129
13472	春	宗教・文化・歴史研究Ⅳ(文明史研究a)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	130
13473	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅴ(文明史研究b)	櫻井 悠美	月2	2	1	全	130
13148	春	宗教・文化・歴史研究Ⅵ(倫理学a)	川口 茂雄	金3	2	1	全	131
13149	秋	宗教・文化・歴史研究Ⅶ(倫理学b)	川口 茂雄	金3	2	1	全	131
14695	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ(地中海世界の宗教と文化a)	古川 堅治	水1	2	2		132
14696	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ(地中海世界の宗教と文化b)	古川 堅治	水1	2	2		132
14874	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ(比較宗教史)	谷口 郁夫	月5	2	2		133
14669	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ(日本思想史1)	川村 肇	火3	2	2	全	134
		宗教・文化・歴史研究各論Ⅴ(日本思想史2)	2012年度不開講				全	
14875	春	宗教・文化・歴史研究各論Ⅵ(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリマ エルサムニー	月2	2	2	全	135
14876	秋	宗教・文化・歴史研究各論Ⅶ(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリマ エルサムニー	月2	2	2	全	135
14711	秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ(世界の宗教と文化ー神教と多神教)	古川 堅治	水2	2	2		128
14700	秋	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		136

「日本語教育研究科目群」

時間割コード	開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13216	春	日本語教育研究Ⅰ(日本語教育概説)	石塚 京子	月4	2	1	全	137
13217	春	日本語教育研究Ⅱ(日本事情とコミュニケーション教育)	小山 慎治	月2	2	1	全	138
14687	春	日本語教育研究各論Ⅰ(日本語教授法1a)	中西 家栄子	火4	2	2		139
14688	秋	日本語教育研究各論Ⅱ(日本語教授法1b)	中西 家栄子	火4	2	2		139
14879	秋	日本語教育研究各論Ⅲ(日本語音声学)	磯村 一弘	水5	2	2		140
14557	春	日本語教育研究各論Ⅳ(日本語文法形態論)	松浦 恵津子	月2	2	2	全※1	141
14558	秋	日本語教育研究各論Ⅴ(日本語文法統語論)	松浦 恵津子	月2	2	2	全※1	141
14559	春	日本語教育研究各論Ⅵ(日本語談話論)	武田 明子	水4	2	2	全※2	142
14563	秋	日本語教育研究各論Ⅶ(日本語意味論・語用論)	武田 明子	水4	2	2		142
14693	春	日本語教育特殊研究Ⅰ(対照言語学・誤用分析a)	中西 家栄子	火2	2	2		143
14694	春	日本語教育特殊研究Ⅱ(対照言語学・誤用分析b)	白石 実	月3	2	2		144
14612	春	日本語教育特殊研究Ⅲ(文献読解a)	白石 実	木2	2	2		145
14613	秋	日本語教育特殊研究Ⅳ(文献読解b)	中西 家栄子	火2	2	2		145
20834	春	日本語教育特殊研究Ⅴ(日本語教授法2)	坂谷 佳子	水2	2	4		146
20835	春	日本語教育特殊研究Ⅵ(日本語教授法2)	中西 家栄子	水2	2	4		147
20836	春	日本語教育特殊研究Ⅶ(日本語教授法2)	野村 美知子	木2	2	4		148
14668	秋	日本語教育特殊研究Ⅷ(日本語教育教材論)	中西 家栄子	水2	2	2	全※2	147
20887	春/秋	日本語教育特殊研究Ⅷ(教育実習)	中西 家栄子	その他	2	4		149

※1:07年度入学者は除く、※2:08年度以降入学者は除く

「教育科学研究科目群」

時間割コード	開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13218	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	木3	2	1	全	150
13219	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	川村 肇	火1	2	1	全	150
13220	春	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	小島 優生	木4	2	1	全	151
13221	秋	教育科学研究Ⅰ(教育の原理)	小島 優生	木4	2	1	全	151
		教育科学研究Ⅱ(教育の歴史1)	2012年度不開講				全	
14670	秋	教育科学研究Ⅲ(教育の歴史2)	川村 肇	火3	2	1	全	152
13225	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月4	2	1	全	153
13224	春	教育科学研究Ⅳ(教職論)	川村 肇	火1	2	1	全	152
13226	秋	教育科学研究Ⅳ(教職論)	桑原 憲一	月5	2	1	全	153

時間割コード	開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13474	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	白砂 佐和子	火4	2	1	全	154
13227	春	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	155
13475	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	松尾 由美	火2	2	1	全	154
13228	秋	教育科学研究Ⅴ(発達と学習の心理学)	田口 雅徳	金1	2	1	全	155
13476	春	教育科学研究Ⅵ(こころの世界)	田口 雅徳	木2	2	1	全	156
14749	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	桑原 憲一	月5	2	2	全	157
14751	春	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	158
14750	秋	教育科学研究各論Ⅰ(比較教育制度論)	小島 優生	水3	2	2	全	158
14758	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火4	2	2	全	159
14757	春	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	安井 一郎	水2	2	2	全	160
14756	秋	教育科学研究各論Ⅱ(教育課程論)	桑原 憲一	火5	2	2	全	159
14672	春	教育科学研究各論Ⅲ(カウンセリング論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	161
19177	秋	教育科学研究各論Ⅳ(パーソナリティ理論)	瀧本 孝雄	木3	2	2	全	161
14761	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	松尾 由美	火1	2	2	全	162
14759	春	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	瀧本 孝雄	水2	2	2	全	163
14760	秋	教育科学研究各論Ⅴ(学校カウンセリング)	松尾 由美	火1	2	2	全	162
		教育科学研究各論Ⅵ(こども論)	2012年度不開講				全	
14862	春	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	164
14863	秋	教育科学研究各論Ⅶ(認知科学)	田口 雅徳	水2	2	2	全	164
14867	春	教育科学特殊研究Ⅰ(異文化理解教育)	小島 優生	金3	2	2	全	165
14865	秋	教育科学特殊研究Ⅱ(教師と語る)	川村 肇	金3	2	2	全	165
14864	秋	教育科学特殊研究Ⅲ(心理検査法と自己理解)	田口 雅徳	木2	2	2	全	166
14649	春	教育科学特殊研究Ⅳ(スポーツコーチ学a)	依田 珠江	木4	2	2	全	167
14629	秋	教育科学特殊研究Ⅴ(スポーツコーチ学b)	松原 裕	金3	2	2	全	167
14877	春	教育科学特殊研究Ⅵ(リーダーシップ論)	和田 智	金2	2	2	全	168
14604	春	教育科学特殊研究Ⅶ(体育経営スポーツマネジメント)	川北 準人	月3	2	2	全	169
	秋	教育科学特殊研究Ⅷ(ボランティア論)※	未定		2	2	全	

※詳細は未定です。開講情報は、掲示等でお知らせします。

「自然・環境研究科目群」

時間割コード	開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13229	春	自然・環境研究Ⅰ(科学史a)	野澤 聡	金4	2	1	全	170
13230	秋	自然・環境研究Ⅱ(科学史b)	野澤 聡	金4	2	1	全	170
13477	春	自然・環境研究Ⅲ(数学a)	福井 尚生	月3	2	1	全	171
13478	秋	自然・環境研究Ⅳ(数学b)	福井 尚生	月3	2	1	全	171
13231	春	自然・環境研究Ⅴ(宇宙論a)	福井 尚生	金1	2	1	全	172
13232	秋	自然・環境研究Ⅵ(宇宙論b)	福井 尚生	金1	2	1	全	172
13233	春	自然・環境研究Ⅶ(天文学a)	福井 尚生	金3	2	1	全	173
13234	秋	自然・環境研究Ⅷ(天文学b)	福井 尚生	金3	2	1	全	173
15182	春	自然・環境研究各論Ⅰ(地球環境論a)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	174
15183	秋	自然・環境研究各論Ⅱ(地球環境論b)	北崎 幸之助	金4	2	2	全	174
		自然・環境研究各論Ⅲ(科学技術交流史研究a)	2012年度不開講				全	
		自然・環境研究各論Ⅳ(科学技術交流史研究b)	2012年度不開講				全	
14608	春	自然・環境特殊研究Ⅰ(自然観察a)	加藤 僖重	火1	2	2	全	175
14609	秋	自然・環境特殊研究Ⅱ(自然観察b)	加藤 僖重	火1	2	2	全	175
14611	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木2	2	2	全	176
14665	春	自然・環境特殊研究Ⅲ(観察と実験生物学a)	加藤 僖重	木3	2	2	全	176
14614	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木2	2	2	全	176
14666	秋	自然・環境特殊研究Ⅳ(観察と実験生物学b)	加藤 僖重	木3	2	2	全	176

「多言語情報処理研究科目群」

時間割コード	開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
13235	春	多言語情報処理研究Ⅰ(コンピュータと言語)	呉 浩東	月2	2	1	全	177
15100	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	178
15078	春	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	内田 俊郎	木2	2	2	全	178
15084	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	田中 雅英	火4	2	2	全	178
15101	秋	多言語情報処理研究各論Ⅰ(表計算とプレゼンテーション)	松山 恵美子	水2	2	2	全	178
14642	春	多言語情報処理研究各論Ⅱ(情報検索と加工)	黄 海湘	水3	2	2	全	179

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
15079	春	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木3	2	2	全	180
15121	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	金子 憲一	月3	2	2	全	180
15082	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	田中 雅英	火3	2	2	全	180
15080	秋	多言語情報処理研究各論Ⅲ(ホームページ設計)	内田 俊郎	木2	2	2	全	180
15088	秋	多言語情報処理研究各論Ⅳ(データベース)	黄 海湘	水3	2	2		179
14690	春	多言語情報処理研究各論Ⅴ(統計と調査法)	安間 一雄	火3	2	2	全	181
		多言語情報処理研究各論Ⅵ(コーパス言語学)	2012年度不開講					
14697	春	多言語情報処理特殊研究Ⅰ(自然言語処理a)	呉 浩東	木1	2	2		182
14698	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅱ(自然言語処理b)	呉 浩東	木1	2	2		182
14880	春	多言語情報処理特殊研究Ⅲ(プログラミング論a)	黄 海湘	水4	2	2		183
14881	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅳ(プログラミング論b)	黄 海湘	水4	2	2		183
14610	秋	多言語情報処理特殊研究Ⅴ(コンピュータ構造論)	呉 浩東	月2	2	2	全	184
15083	春	多言語情報処理特殊研究Ⅵ(マルチメディア論)	田中 雅英	火4	2	2	全	184

**「卒業研究」**

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	185

**全学総合科目**

**「スポーツ・レクリエーション部門」**

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	春	スポーツ・レクリエーション(学生交流プログラム)	各担当教員	±1/±2	1	1	全	186

**「日本語科目」(外国人学生・帰国学生専用)**

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	秋	初級日本語	各担当教員		1	1	全	187
	春/秋	中級日本語	各担当教員		1	1	全	188
	春/秋	上級日本語Ⅰ	各担当教員		1	1	全	189
	春/秋	上級日本語Ⅱ	各担当教員		1	1	全	190

# 外国語学部言語文化学科授業科目(2003年度～2006年度入学者用)

## 目次 学科基礎科目

### 「基礎講座」部門

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
08659	春	現代世界論	佐藤 勤治	月4	2	1	全	4
		コンピュータ基礎演習			2	1	全	

※「コンピュータ基礎演習」のシラバスは、外国語学部共通科目「情報科学各論」の頁を参照する。

※過去にコンピュータ基礎演習を修得した場合、過去に修得したコンピュータ基礎演習の副題の異なる情報科学各論を登録すること。

### 「概論」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
02271	秋	比較思想概論	谷口 郁夫	月5	2	1		133
01969	春	日本文化論a	飯島 一彦	木2	2	1		94
02104	春	スペイン・ラテンアメリカ文化論a	二宮 哲	月5	2	1		66
02105	秋	スペイン・ラテンアメリカ文化論b	佐藤 勤治	月5	2	1		66
01905	春	現代中国論a	大澤 昇	水4	2	1	法	78
01906	秋	現代中国論b	大澤 昇	水4	2	1	法	78

## 学科共通科目

### 「外国語」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
09780	春	英語演習	J. ハント	木3	2	3	全	55
13165	春	英語演習	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	56
13158	春	英語演習	ロン 美香	木3	2	3	全	57
15265	春	英語演習	関戸 冬彦	月4	2	3	全	58
13156	春	英語演習	中込 知子	水3	2	3	全	59
11610	春	英語演習	中島 直美	火2	2	3	全	60
09781	秋	英語演習	J. ハント	木3	2	3	全	55
13166	秋	英語演習	M. デル ベツキオ	水4	2	3	全	56
13159	秋	英語演習	ロン 美香	木3	2	3	全	57
15266	秋	英語演習	関戸 冬彦	月4	2	3	全	58
13157	秋	英語演習	中込 知子	水3	2	3	全	59
11611	秋	英語演習	中島 直美	火2	2	3	全	60
10638	春	スペイン語演習	J. フェレーラス	金5	2	3	全	61
09417	春	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全	62
10641	秋	スペイン語演習	J. フェレーラス	金5	2	3	全	61
09416	秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全	62
09420	春	中国語演習	吉田 桂子	金2	2	3	全	63
10646	春	中国語演習	武信 彰	月2	2	3	全	64
09421	秋	中国語演習	吉田 桂子	金2	2	3	全	63
10649	秋	中国語演習	武信 彰	月2	2	3	全	64

## 学科専門科目

### 「日本研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06317	春	日本思想史a	川村 肇	火3	2	2	全	134
06319	春	日本文化・芸能論a	馬場 光子	水4	2	2	全	97
06320	秋	日本文化・芸能論b	飯島 一彦	木2	2	2	全	94
06479	春	日本近現代史a	丸浜 昭	水1	2	2	全	92
06480	秋	日本近現代史b	丸浜 昭	水1	2	2	全	92
07116	春	日本経済論a	須藤 時仁	火2	2	2	全	93
07117	秋	日本経済論b	須藤 時仁	火2	2	2	全	93

時間割 コード	開講 区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06281	春	日本政治外交史a	福永 文夫	金3	2	2	全	125
06282	秋	日本政治外交史b	福永 文夫	金3	2	2	全	125
15110	春	日本研究特殊講義(企業経営)	黒川 文子	火5	2	2	全	95
15111	秋	日本研究特殊講義(地域文化)	林 英一	木1	2	2	全	96
15112	春	日本研究特殊講義(民俗学)	林 英一	木1	2	2	全	96
15113	秋	日本研究特殊講義(文献読解)	馬場 光子	水4	2	2		97
15114	春	日本研究特殊講義(写本を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98
15115	秋	日本研究特殊講義(碑文を読む)	飯島 一彦	金2	2	2	全	98

### 「日本語教育研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06321	春	日本語文法論a	松浦 恵津子	月2	2	2		141
06322	秋	日本語文法論b	松浦 恵津子	月2	2	2		141
06323	秋	日本語音声学a	磯村 一弘	水5	2	2		140
06325	春	対照言語学a	中西 家栄子	火2	2	2		143
06326	春	対照言語学b	白石 実	月3	2	2		144
14564	秋	日本語語彙・意味論	武田 明子	水4	2	2		142
06327	春	日本語教授法 I a	中西 家栄子	火4	2	2		139
06328	秋	日本語教授法 I b	中西 家栄子	火4	2	2		139
02080	春	日本語教授法 II	坂谷 佳子	水2	2	4		146
02192	春	日本語教授法 II	中西 家栄子	水2	2	4		147
02036	春	日本語教授法 II	野村 美知子	木2	2	4		148
01884	秋	日本語学a	中西 家栄子	水2	2	1		147
01885	春	日本語学b	武田 明子	水4	2	1	全	142
02163	春	日本語教育論	石塚 京子	月4	2	1		137
02353	春	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論a)	白石 実	木2	2	2		145
02354	秋	日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論b)	中西 家栄子	火2	2	2		145

### 「情報・コミュニケーション」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
06329	春	自然言語処理a	呉 浩東	木1	2	2		182
06330	秋	自然言語処理b	呉 浩東	木1	2	2		182
02291	春	通訳翻訳論	永田 小絵	水3	2	2	全	191
07121	春	プログラミング論a(プログラミング論・自然言語処理入門)	黄 海湘	水4	2	2	経・法	183
07122	秋	プログラミング論b(プログラミング論・自然言語処理入門)	黄 海湘	水4	2	2	経・法	183
07123	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	木2	2	2	経・法	192
07127	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	水1	2	2	経・法	193
11815	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	柏原 賢二	木3	2	2	経・法	194
11818	春	プログラミング論a(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月2	2	2	経・法	195
07124	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	堀江 郁美	木2	2	2	経・法	192
07128	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	水1	2	2	経・法	193
11816	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	柏原 賢二	木3	2	2	経・法	194
11819	秋	プログラミング論b(コンピュータ・プログラミング論)	加藤 尚吾	月2	2	2	経・法	195
06331	春	異文化間コミュニケーション論a	岡村 圭子	木2	2	2	英	111
06332	秋	異文化間コミュニケーション論b	山本 英政	月2	2	2	英	111
11755	秋	マス・コミュニケーション論b	森 保裕	土2	2	2		122
02355	春	認知科学	田口 雅徳	水2	2	2		164
02356	秋	認知科学	田口 雅徳	水2	2	2		164
06333	春	人間関係とカウンセリングa	瀧本 孝雄	木3	2	2		161
06334	秋	人間関係とカウンセリングb	瀧本 孝雄	木3	2	2		161
15116	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)	臼井 芳子	火4	2	2	全	104
15117	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(多言語環境と英語)	臼井 芳子	火4	2	2	全	104
15240	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・英語)	中島 直美	火1	2	2		106
15118	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・中国語)	永田 小絵	月2	2	2		107
15119	秋	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		108
16992	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・中国語)	永田 小絵	月2	2	2		106
15218	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・英語)	中島 直美	火1	2	2		107
14616	春	情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・スペイン語)	柴田 バネッサ	火3	2	2		108

「地域研究」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07132	春	地域文化論 i a	佐藤 勤治	木4	2	2		67
07133	秋	地域文化論 i b	佐藤 勤治	木4	2	2		67
07135	秋	地域文化論 ii a	二宮 哲	水2	2	2		70
07134	春	地域文化論 ii b	二宮 哲	水2	2	2		70
07136	春	地域文化論 iii a	武信 彰	月4	2	2		79
07137	秋	地域文化論 iii b	武信 彰	月4	2	2		79
14588	春	地域文化論 iv a	永田 小絵	木5	2	2		76
14589	秋	地域文化論 iv b	永田 小絵	木5	2	2		76
06278	春	地域経済論 i a	今井 圭子	月3	2	2		69
06279	秋	地域経済論 i b	今井 圭子	月3	2	2		69
07140	春	地域経済論 ii a	高安 健一	金1	2	2	経・法	126
07141	秋	地域経済論 ii b	高安 健一	金1	2	2	経・法	126
07144	春	地域経済論 iii a	全 載旭	木2	2	2	経・法	196
07145	秋	地域経済論 iii b	全 載旭	木2	2	2	経・法	196
07147	春	比較社会論b	井上 兼行	木3	2	2		114
15107	秋	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論a)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
15108	春	比較文化論特殊講義(日韓比較文化論b)	金 熙淑	火3	2	2	全	89
15109	春	比較文化論特殊講義(大衆文化論)	木本 玲一	火4	2	2	全	116
15177	秋	比較文化論特殊講義(地域メディア論)	岡村 圭子	水2	2	2	全	115
01822	春	比較文化論特殊講義(グローバル化とローカル文化)	岡村 圭子	水2	2	2		115
01823	秋	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)	田房 由起子	土2	2	2	全	117
07161	春	比較文化論特殊講義(日中文化比較論a)	易 友人	月2	2	2		80
07162	秋	比較文化論特殊講義(日中文化比較論b)	易 友人	月2	2	2		80
07576	秋	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術b)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	135
07575	春	地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a)	師岡 カリーマ エルサムニー	月2	2	2	全	135
07158	秋	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史b)	古川 堅治	水1	2	2		132
12355	春	地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史a)	古川 堅治	水1	2	2		132
07153	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーb)	佐藤 唯行	火3	2	2		112
07152	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリーa)	佐藤 唯行	火3	2	2		112
07151	秋	地域社会文化論特殊講義(カリブ地域の民俗と文化b)	井上 兼行	木3	2	2		118
11820	春	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究a)	浦部 浩之	月2	2	2		68
11821	秋	地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究b)	浦部 浩之	月2	2	2		68
13466	春	地域社会文化論特殊講義(文化史入門)	古川 堅治	水2	2	2	全	128
07156	春	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明a)	P. ラゴ	金2	2	2		73
07157	秋	地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明b)	P. ラゴ	金2	2	2		73
15179	春	地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)	E. ウラノ	火2	2	2	全	71
15086	秋	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法)	二宮 哲	月4	2	2	全	72
15180	春	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	倉田 量介	火3	2	2	全	74
15087	秋	地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	兒島 峰	火5	2	2	全	74
15089	春	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究古典)	易 友人	火3	2	2		81
15090	秋	地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)	易 友人	火3	2	2		81
15091	春	地域社会文化論特殊講義(韓国史)	佐藤 厚	金2	2	2	全	83
15092	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国社会論)	平田 由紀江	水2	2	2	全	83
15093	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国の言語文化)	金 泰植	水3	2	2	全	84
15095	春	地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論b)	全 載旭	木3	2	2	全	85
15096	秋	地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	金 熙淑	月3	2	2	全	85
15097	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論a)	呉 吉煥	水1	2	2	全	86
15098	秋	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論b)	佐藤 厚	金2	2	2	全	86
15099	春	地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論c)	佐藤 厚	火2	2	2	全	87
15102	春	地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)	山本 英政	水2	2	2	全	105
15103	秋	地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	山本 英政	水2	2	2	全	105
15104	春	地域社会文化論特殊講義(アメリカ合衆国のラティノ社会)	佐藤 勤治	水2	2	2		118
15106	秋	地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	松丸 壽雄	金4	2	2		136

「国際交流」部門

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
07366	春	国際関係概論a	浦部 浩之	水3	2	2		120
07367	秋	国際関係概論b	浦部 浩之	水3	2	2		120
06275	春	国際機構論a	鈴木 淳一	月3	2	2	経・法	121
06276	秋	国際機構論b	鈴木 淳一	月3	2	2	経・法	197
07163	春	地球環境論a(地理学)	北崎 幸之助	金4	2	1	全	174
07164	秋	地球環境論b(地理学)	北崎 幸之助	金4	2	1	全	174
07166	春	地球環境論a(太陽系)	福井 尚生	金3	2	2		173
07167	秋	地球環境論b(太陽系)	福井 尚生	金3	2	2		173
11823	春	国際経済論a	益山 光央	火3	2	2	経・法	124
11824	秋	国際経済論b	益山 光央	火3	2	2	経・法	124
07174	春	国際政治論a	星野 昭吉	月2	2	2	法	123
07175	秋	国際政治論b	星野 昭吉	月2	2	2	法	123
13464	春	国際交流特殊講義(国際関係・日米中)	山本 秀也	土1	2	2		119
13465	秋	国際交流特殊講義(NGO論)	清水 俊弘	水4	2	2	全	121

卒業研究

時間割 コード	開講 学期	開講科目名称	担当者	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
	通年	卒業論文	各担当教員		4	4	全	198

## 外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	廣田 愛理	春	水2	2	1	養・経・法	199
総合講座	廣田 愛理	秋	水2	2	1	養・経・法	199
総合講座	谷口 亜沙子	春	水3	2	1	養・経・法	200
総合講座	谷口 亜沙子	秋	水3	2	1	養・経・法	200
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	201
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	202
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	202
(情報処理演習)[総合]	内田 俊郎	秋	木4	2	1	養・経・法	202
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水1	2	1	養・経・法	203
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水1	2	1	養・経・法	203
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	204
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	204
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	205
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田 俊郎	春	木2	2	1	養・経・法	205
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	205
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	205
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	206
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	206
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	207
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	207
(Word中級)	内田 俊郎	春	木4	2	1	養・経・法	207
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	207
(Word中級)	内田 俊郎	秋	木3	2	1	養・経・法	207
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	208
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	208
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	209
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	金2	2	2	英・養・経・法	210
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	209
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2	英・養・経・法	210
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	内田 俊郎	春	木3	2	1	養・経・法	211
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	211
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	211
(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	2	1	養・経・法	211
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	212
経済原論a	(掲示にて確認)	春	金2	2	2	養・経・法	213
経済原論b	(掲示にて確認)	秋	金2	2	2	養・経・法	213
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、外国語学部各学科『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考してください。

養	基礎演習 a	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>基礎演習の目的は、1年次に今後4年間の大学生活を有意義に過ごすためのアドバイスおよびケアおよび2年次以降の専門研究に対処できるよう準備することにある。</p> <p>そのために、読み書きの能力などのリテラシー、分析能力、達成指向力などのコンピテンシーを高めていくことを課題とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.基礎演習 a の目的と課題 (1回)</li> <li>2.大学生活を考える (2回) 大学で学ぶ心構え (目標、課題)、将来展望 (学習計画、キャリア形成)、サークル活動など</li> <li>3.問題の発見と書き方 (3回) 資料や文献を調べる、情報の収集、図書館の利用法、レポート・小論文の書き方、要約の仕方</li> <li>4.話し方、聴き方、ノートの取り方 (2回) グループ討議、プレゼンテーションのスキル、授業の受け方、講義でのノートの取り方</li> <li>5.読み方、文章理解 (2回) 読書の方法、読書の整理法、テキストの読み方</li> <li>6.パソコンの利用 (3回) 文章作成の基本、eメールの使い方、インターネットの使い方と情報検索、パワーポイントの作り方と使い方</li> <li>7.まとめと基礎演習 b の決定 (2回) 演習 a のまとめ、ふりかえり、演習 b 選択およびオリエンテーション</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当教員による		出欠状況およびレポートなどにより、総合的に評価する	

養	基礎演習 b	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期の基礎演習 b は、春学期の基礎演習 a を担当した7名の教員によって独自に行われる。</p> <p>講義の目的、講義の概要、授業計画についてはすでに春学期に手引きに基づいて説明がなされており、それに従って行われる。</p> <p>演習と同時に、必要なら、2年次以降の勉強とそのため の科目履修計画について、各教員は学生の相談相手になり、アドバイスをすることになっている。積極的に教員を利用してほしい。</p>		各担当教員による	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当教員による		各担当教員による	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	言語文化論	担当者	安井 一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するための授業である。学科が設置している各選択教養科目群がおおまかにどのような分野であり、それぞれの担当教員がどのような演習を開講しているかを把握し、学生諸君自身による今後の履修のための「設計図」をえがくことを目的とする。</p> <p>講義概要 講義内容としては、各研究科目群についての概説、2年次以降の演習担当教員による内容紹介、「言語」と「文化」をキーワードとして複数の教員によって展開される議論の3種類で構成される。第1の概説はこの科目の担当者による、第2、第3の内容は、毎回学科の専任教員をゲストにむかえておこなう。授業中の学生からの質問を、つよく要求する。</p>		<p>第1回 インTRODクシヨンー「言語」と「文化」を学ぶ意味 第2回 研究科目群の編成について 第3回 スペイン・ラテンアメリカ、国際交流、各研究科目群 第4回 中国、韓国、各研究科目群 第5回 日本、日本語教育、各研究科目群 第6回 多言語間交流、多文化共生、各研究科目群 第7回 宗教・歴史・文化、教育科学、各研究科目群 第8回 自然・環境、多言語情報処理、各研究科目群 第9回 特別トピックに関する研究討論(1) 第10回 特別トピックに関する研究討論(2) 第11回 特別トピックに関する研究討論(3) 第12回 特別トピックに関する研究討論(4) 第13回 演習選択について 第14回 2年生になるに当たってー「学ぶ」と言うことの意味 第15回 まとめ なお、この予定は、各研究科目群担当教員の状況により、前後する可能性がある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
言語文化学科『演習の手引き』		出席(8割以上、厳守のこと)、レポートによる総合評価	

養	哲学 I	担当者	松丸 壽雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>下記の課題について、概要説明と問題への取り組み方、およびその例が示される。この課題ごとに、グループ分けし、それぞれが興味ある課題と取り組む。さらに後半に時間配分される課題研究発表に向けて、前半部各グループは研究調査および討議により適切な解答を考える。後半には各グループが発表を行い、最後に教師をも含めて、他の学生と共に全体討議を行うことを目指す。</p> <p>その課題とは、人間と世界との関係、愛とは、諸文化の交流の意義、意識とは、感情の意味、教養は世界の平和に貢献できるか、他者の意味、幸福と倫理、言語の意味と役割などである。詳しくは、授業始めに、課題の一覧表を配る予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題説明とグループ分け</li> <li>2. 各グループごとの調査研究</li> <li>3. 各グループごとの調査研究</li> <li>4. 各グループごとの調査研究</li> <li>5. 第一、第二グループの発表と討論</li> <li>6. 第三、第四グループの発表と討論</li> <li>7. 第五、第六グループの発表と討論</li> <li>8. 第七、第八グループの発表と討論</li> <li>9. 第九、第十グループの発表と討論</li> <li>10. 第十一、第十二グループの発表と討論</li> <li>11. 第十三、第十四グループの発表と討論</li> <li>12. 第十五、第十六グループの発表と討論</li> <li>13. 第十七、第十八グループの発表と討論</li> <li>14. 第十九、第二十グループの発表と討論</li> <li>15. 授業の総まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示。		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定（30%）、およびレポートから最終判定（70%）。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養	現代世界論	担当者	佐藤 勘治
<b>講義目標</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、世界が抱える諸問題や謎を各担当教員およびゲストスピーカーが提示する身近で具体的テーマにそって受講生とともに深く考える場とし、後の専門研究へのきっかけとすることである。そのため、一年目の学生を主な履修対象者としている。2年次以降の学生も履修できるが、研究入門の講義であることを了解していただきたい。</p> <p>現代世界は、受講者や担当教員もその構成員であることを忘れてはならない。現代世界の問題は、ほかでもない、われわれ自身の問題である。したがって、ここでいう現代世界は、日本以外の世界という意味ではない。</p>		<p>1 佐藤勘治：国際教養学部 <u>総論 現代世界の歴史的位置 (4/9)</u></p> <p>2 押尾和美：国際交流基金 +中西家栄子 <u>日本語教育におけるスタンダード (4/16)</u></p> <p>3 及川晋平：Jキャンブ理事長 +依田珠江 <u>ロンドンパラリンピックを目指して(車椅子バスケット) (4/23)</u></p> <p>4 飯島一彦：国際教養学部長 <u>日本で日本を研究すること (4/30)</u></p> <p>5 平田由紀江：国際教養学部 (仮) <u>板門店観光 (5/7)</u></p> <p>6 吉村宏和：元東京大学教授 +福井尚生 <u>金環食に太陽の恵みをみよう (5/14)</u></p> <p>7 安間一雄：国際教養学部 <u>「英語帝国主義」の諸相 (5/21)</u></p> <p>8 大山顕：フリーライター・写真家 +岡村圭子 <u>どこまでが東京？ (5/28)</u></p> <p>9 古畑康雄：共同通信社 国際局記者 <u>ネット用語で読み解く現代中国 (6/4)</u></p> <p>10 青砥恭：彩の国子ども若者支援ネットワーク代表理事 <u>子どもの貧困と日本の教育 (6/11)</u></p> <p>11 窪岡文男：日本テレビ・ディレクター <u>本土復帰40年、基地の島沖縄の怒りと苛立ち (6/18)</u></p> <p>12 名波正晴：共同通信社 記者 +浦部浩之 <u>ラテンアメリカ世界を歩く (6/25)</u></p> <p>13 佐藤勘治： <u>レポート課題について (7/2)</u></p> <p>14 松丸壽雄： <u>現代世界と私たち (7/9)</u></p> <p>15 まとめ</p>	
<b>講義概要</b>			
<p>言語文化学科所属教員や各界で活躍しているゲストスピーカーにそれぞれの研究分野との関連から現代世界の抱える諸問題に切り込んでもらう。担当者の専門分野は、言語、歴史、社会学、文学、天文、教育学など多様である。とくに、統一のテーマを設定していない。現代世界の全体像というよりも、その一面を論じてもらう。</p> <p>なお、順番や論題などについて、変更の可能性はある。授業の初めに指示する。</p>			
<b>受講生への要望</b>			
各授業の最後に、必ず質問の時間をとるようにしたい。積極的な発言を期待している。			
<b>評価方法</b>			
毎回、内容理解を確かめる小レポート課題が出される。また最終レポートを提出してもらう。			
<b>テキスト、参考文献</b>			

養	哲学Ⅱ	担当者	松丸 壽雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、春学期の間取り組むことになる。各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表は英語でなされる。しかし、討論は受講生の状況を見て言語を決定する。なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたいうえて、発表に臨むこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。</li> <li>2.各グループの研究調査、発表準備。</li> <li>3.各グループの研究調査、発表準備。</li> <li>4.各グループの研究調査、発表準備。</li> <li>5.第1、第2グループの発表とディスカッション</li> <li>6.第3、第4グループの発表とディスカッション</li> <li>7.第5、第6グループの発表とディスカッション</li> <li>8.第7、第8グループの発表とディスカッション</li> <li>9.第9、第10グループの発表とディスカッション</li> <li>10.第11、第12グループの発表とディスカッション</li> <li>11.第13、第14グループの発表とディスカッション</li> <li>12.第15、第16グループの発表とディスカッション</li> <li>13.第17、第18グループの発表とディスカッション</li> <li>14.第19、第20グループの発表とディスカッション</li> <li>15.授業の総まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示		発表とディスカッションの貢献度（20%）と、それに基づく個人のレポート（80%）	

養	哲学Ⅱ	担当者	松丸 壽雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代世界において直面せざるを得ない諸問題の基礎となる課題について、簡単な概要説明といくつかの問題への取り組み方がまず示される。この課題ごとに、グループ分けした各班がそれぞれに興味を抱いた課題を、秋学期の間取り組むことになる。各グループは研究調査およびディスカッションにより、自分たちならばどのような見解と解決を与えるのが最適と考えるかを探り、発表を行い、今度は教師をも含めて、他の学生との全体討議を行う。学生による発表と全体ディスカッションは英語でなされるが、参加者の状況を見極めて、ディスカッション使用言語を最終的に決定する。なお、このグループ内で、研究調査計画、および担当分担、研究発表の手順担当者、および質疑応答の準備等を自主的に決めたいうえて、発表に臨むこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.現代世界の我々を取り巻く思想的状況の哲学的説明。</li> <li>2.各グループの研究調査、発表準備。</li> <li>3.各グループの研究調査、発表準備。</li> <li>4.各グループの研究調査、発表準備。</li> <li>5.第1、第2グループの発表とディスカッション</li> <li>6.第3、第4グループの発表とディスカッション</li> <li>7.第5、第6グループの発表とディスカッション</li> <li>8.第7、第8グループの発表とディスカッション</li> <li>9.第9、第10グループの発表とディスカッション</li> <li>10.第11、第12グループの発表とディスカッション</li> <li>11.第13、第14グループの発表とディスカッション</li> <li>12.第15、第16グループの発表とディスカッション</li> <li>13.第17、第18グループの発表とディスカッション</li> <li>14.第19、第20グループの発表とディスカッション</li> <li>15.授業の総まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示		発表とディスカッションの貢献度（20%）と、それに基づく個人のレポート（80%）	

養	英語 I (IE)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約(英語)ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはクラスによって異なります。  (Class A): <i>THINK Sociology</i> (Pearson Longman)  (Class B, C, D): <i>We'll Read 4</i> (Oxford University Press)  (Class E, F, G, H): <i>We'll Read 2</i> (Oxford University Press)</p>		<p>課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%)  出席: 出席を大前提とする。8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 II (IE)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約(英語)ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期(英語 I)と同じ		春学期(英語 I)と同じ	

養	英語 I (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスにより異なる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>Dynamic Presentations</i> (桐原書店)(Class A-G)</li> <li>• <i>Nice Talking with You</i> (Macmillan), <i>Getting Ready for Speech</i> (Language Solutions)(Class H)</li> </ul>		参加態度・予習・努力等 ( 10% ), 口頭発表 ( 30% ), 期末ペアインタビュー ( 30% ), 課題到達度 ( 30% )	

養	英語 II (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 I(S)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語 I (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスにより異なる。          ・<i>Discoveries in Academic Writing</i> (Cengage) (Class A)          ・<i>Effective Academic Writing 2</i> (Oxford UP) (Class B-H)</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)，期末作文課題 (20%)，授業参加態度 (20%)，ポートフォリオ (10%)</p>	

養	英語 II (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語 I(W)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレンストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語Ⅲ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ⅡIE」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスによって異なります。  (Class A) : <i>Exploring Language</i> (Pearson Education)  (Class B, C, D, E, F, G, H) : <i>Academic Encounters: Life in Society</i> (Cambridge University Press)</p>		<p>課題 (20%), 多読関連 (20%), 語彙テスト (20%), 期末テスト (40%)  出席: 出席を大前提とする。8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語Ⅳ (IE)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語ⅢIE」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期(英語Ⅲ)と同じ		春学期(英語Ⅲ)と同じ	

養	英語Ⅲ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。「英語Ⅱ(S)」に引き続き、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習を行うほか、異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、正確に情報が伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスにより異なる。  <i>Clockwise Advanced</i> (Oxford UP) (Class A); <i>People Like Us, Too</i> (Macmillan) (Class B-H)</p>		<p>参加態度・予習・努力等 (10%), 口頭発表 (30%), 期末ペアインタビュー (30%), 課題到達度 (30%)</p>	

養	英語Ⅳ (S)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語Ⅲ(S)」に引き続き、柔軟で応用性の高い口頭言語表現を使いこなす能力を養う。異文化間理解に関する様々なテーマに基づいたディスカッションやプレゼンテーションの練習を行う。ここでは、単に流暢さを増すだけでなく、より説得力があるメッセージが伝わるように内容構成・表現形式の質を高める練習を行う。また、用意された発話が適切に遂行できることのみならず、不測の場面においても適切に対処できることを目標とする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。</p> <p>授業の使用言語は英語とする。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語Ⅲ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的論文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレインストーミング、アウトラインプロセッシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはクラスにより異なる。          ・Sourcework (Cengage) (Class A)          ・Effective Academic Writing 2 (Class B-H), Basic Steps to Writing Research Papers (Cengage) (Class B-H)</p>		<p>テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度 (50%)、期末作文課題 (20%)、授業参加態度 (20%)、ポートフォリオ (10%)</p>	

養	英語Ⅳ (W)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 III (W)」に引き続き、実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが、いずれもより高度な内容を含み、より安定したスキルの証明が求められる。教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他、受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。</p>		各担当教員が初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

養	英語V (AE) (Basic Research and Discussion: Human Rights)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</li> <li>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</li> <li>③ can write a short opinion paper</li> <li>④ can narrow down a topic effectively</li> <li>⑤ can write a good thesis statement</li> <li>⑥ can organize ideas in an outline format</li> <li>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</li> <li>⑧ can write an abstract for the completed research paper</li> <li>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</li> </ol>		<p><b>Course Objective: Research and Discussion on Human Rights Issues in Japan and the world</b></p> <p><b>Coursework Part 1 Week 1</b> Orientation and Introduction</p> <p><b>Week 2 to 5 Using Academic articles</b> Summarizing, paraphrasing, note-taking, evaluate and criticize, discuss and debate the articles and issues involved Write a summary with opinion on the article</p> <p><b>Week 5 to 7</b> Repeat the above process with student chosen articles</p> <p><b>Week 7 – 10</b> Discussion/debate, research for essay</p> <p><b>Week 12 to 15</b> <b>Peer editing, presentation, exam</b></p> <p><b>Evaluation:</b> opinion paper 10%, assignments: 20%, research essay 30%, presentation 20%, exam 20%</p> <p>above. Will do a mini presentation to a group using a simple visual aid.</p> <p><b>Coursework Part 2</b> <b>Weeks 7 to 14</b> Students will work on a Research Paper: Narrowing down a topic, writing an abstract and thesis statement, planning outline referencing and quoting, peer editing, work on a visual aid and use skills from Week 2 -7 to present their research and finally hand in a Research Paper</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Thomson Learning Japan)</i> Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1</p>		<p>評価基準：準備・参加（10%）、課題（10%）、opinion paper（15%）、research paper（50%: outline, drafts, final product）、口頭発表（15%）</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (Research and Discussion: Current Issues)	担当者	C. チャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p><b>Course Objective: Research and Discussion on Current Issues in Japan and the world</b></p> <p><b>Coursework Part 1 Week 1</b> Orientation and Introduction</p> <p><b>Week 2 to 5 Using Academic articles</b> Summarizing, paraphrasing, note-taking, evaluate and criticize, discuss and debate the articles and issues involved, write a summary with opinion on the article</p> <p><b>Week 5 to 7</b> Repeat the above process with student chosen articles</p> <p><b>Week 7 – 10</b> Discussion/debate, research for Essay</p> <p><b>Week 12 to 15</b> <b>Peer editing, presentation, exam</b></p> <p><b>Evaluation:</b> opinion paper 10%, assignments: 20%, research essay 30%, presentation 20%, exam 20%</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Student Text: Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Thomson Learning Japan)</i> Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1</p>		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語 V (AE) (Environmental Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</li> <li>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</li> <li>③ can write a short opinion paper</li> <li>④ can narrow down a topic effectively</li> <li>⑤ can write a good thesis statement</li> <li>⑥ can organize ideas in an outline format</li> <li>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</li> <li>⑧ can write an abstract for the completed research paper</li> <li>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course and themes</li> <li>2. Shopping and Us: consumption patterns</li> <li>3. Shopping and Us: Fair Trade and animal testing</li> <li>4. Food and Us: Food safety</li> <li>5. Review of prior units and Review Exam</li> <li>6. Writing an Opinion Essay</li> <li>7. Health and Us: chemicals in food and cosmetics</li> <li>8. Energy and Us: energy sources</li> <li>9. Transport and Us: cars vs. mass transit</li> <li>10. Nature and Us: environmental destruction</li> <li>11. Nature and Us: endangered wildlife</li> <li>12. Travel: effects of tourism on local areas</li> <li>13. Recreation: skiing and the environment</li> <li>14. Review of prior units and Review Exam</li> <li>15. Oral Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1  <i>Looking Back, Moving Forward: Reading and Discussion</i>, Chris Summerville (Macmillan Languagehouse, 2006)</p>		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%）  出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 VI (AE) (Global Issues)	担当者	K. A. クラウン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the course and themes</li> <li>2. Information and misinformation</li> <li>3. Saving tropical rainforests</li> <li>4. Concerning happiness</li> <li>5. Review of prior units and Review Exam</li> <li>6. Writing an Opinion Essay</li> <li>7. Gizmo addiction</li> <li>8. Coping with noise</li> <li>9. The whaling debate</li> <li>10. Food: not just a commodity</li> <li>11. Sweatshop labor</li> <li>12. World Poverty</li> <li>13. Japan's declining population</li> <li>14. Review of prior units and Review Exam</li> <li>15. Oral Presentations</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1  <i>Confronting the Issues</i>, David Peaty, (Kinseido, 2008)</p>		<p>春学期（英語 V）と同じ</p>	

養	英語 V (AE) (Environmental Business)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</li> <li>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</li> <li>③ can write a short opinion paper</li> <li>④ can narrow down a topic effectively</li> <li>⑤ can write a good thesis statement</li> <li>⑥ can organize ideas in an outline format</li> <li>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</li> <li>⑧ can write an abstract for the completed research paper</li> <li>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction  Week 2/3: Opinion paper 1  Week 4/5: Opinion paper 2  Week 6: Research paper topic &amp; bibliography  Week 7: Research paper detailed outline  Week 8: Research paper citations  Week 9: Research paper draft 1 &amp; conferencing 1  Week 10: Research paper draft 2 &amp; peer review  Week 11: Research paper draft 3 &amp; conferencing 2  Week 12: Abstract  Week 13: Research paper due  Week 14: Oral presentation (Group 1)  Week 15: Oral presentation (Group 2)</p> <p>Additional reading to be introduced as needed.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		<p>評価基準：準備・参加 (10%) , 課題 (10%), opinion paper (15%), research paper (50%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (15%)</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (Green Technology)	担当者	K. ヤブノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。</p>		<p>Week 1: Introduction  Week 2/3: Opinion paper 1  Week 4/5: Opinion paper 2  Week 6: Research paper topic &amp; bibliography  Week 7: Research paper detailed outline  Week 8: Research paper citations  Week 9: Research paper draft 1 &amp; conferencing 1  Week 10: Research paper draft 2 &amp; peer review  Week 11: Research paper draft 3 &amp; conferencing 2  Week 12: Abstract  Week 13: Research paper due  Week 14: Oral presentation (Group 1)  Week 15: Oral presentation (Group 2)</p> <p>Additional reading to be introduced as needed.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語 V (AE) (History of Ideas)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</li> <li>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</li> <li>③ can write a short opinion paper</li> <li>④ can narrow down a topic effectively</li> <li>⑤ can write a good thesis statement</li> <li>⑥ can organize ideas in an outline format</li> <li>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</li> <li>⑧ can write an abstract for the completed research paper</li> <li>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction: <i>The Ascent of Man</i> and <i>Civilisation</i></li> <li>2 TAoM (1): Crossing the Bazuft: the Nomad Lifestyle</li> <li>3 TAoM (2): The Incas, the City, and the Arch</li> <li>4 TaoM (3): Fire, Gold, and Mercury; the Japanese Sword</li> <li>5 TaoM (4): The Telescope, Propaganda, and Revolution</li> <li>6 TaoM (5): The Hand; The Long Childhood / Opinion Paper</li> <li>7 Civilisation (1): The Christian Cross; the Magical Power of Beauty</li> <li>8 Civilisation (2): Portraiture: Giotto's Sense of Space and van Eyck's Revelation of Personality</li> <li>9 Civilisation (3): Rome: City of Giants and Heroes</li> <li>10 Civilisation (4): Protestantism and the Word; Montaigne and the Essay</li> <li>11 Civilisation (5): Dutch Tolerance; Scientific Truth</li> <li>12 Civilisation (6): The Court, the Salon, and the Opera House</li> <li>13 Civilisation (7): The Divinity of Nature; Mountains and Landscapes; Turner and Impressionism</li> <li>14 Presentations (1)</li> <li>15 Presentations (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%）</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語 VI (AE) (Japan, Past and Present, through Westerners' Eyes)	担当者	M. ハルデイン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction: <i>Traveller from Tokyo</i> and <i>Dogs and Demons</i></li> <li>2 TtT: Houses and Servants</li> <li>3 TtT: Education and the Plate Glass Window</li> <li>4 TtT: Food and Dress</li> <li>5 TtT: Language – 漢字 and Glasses, and Idiosyncratic Readings</li> <li>6 TtT: Entertainment</li> <li>7 TtT: The Status of Women / Opinion Paper</li> <li>8 DaD: Construction State: The Uglification of Japan</li> <li>9 DaD: The Environment / Money and Debt</li> <li>10 DaD: Kyoto and Tourism / Nanny-state Noise</li> <li>11 DaD: Manga and Anime</li> <li>12 DaD: Education – Following the Rules; Bullying</li> <li>13 DaD: To change or not to change?</li> <li>14 Presentations (1)</li> <li>15 Presentations (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1</p> <p><i>Traveller from Tokyo.</i> John Morris. The Book Club, 1945.</p> <p><i>Dogs and Demons: Tales from the Dark Side of Modern Japan.</i> Alex Kerr. Hill &amp; Wang, 2002.</p>		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語V (AE) (Race and Gender in American Popular Culture)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can write a short opinion paper</p> <p>④ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑤ can write a good thesis statement</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<p>1. Introduction and course overview/ The problem with stereotypes</p> <p>2. Stereotypes in advertising &amp; Disney/ Opinion paper</p> <p>3. Stereotypes continued/ Opinion paper due</p> <p>4. What is gender?/ Mini research presentations</p> <p>5. Gender continued/ Finalize topics &amp; thesis statement</p> <p>6. Continued reading on gender in popular media/ Preliminary outline</p> <p>7. Begin racial representation in popular media/ Final outline</p> <p>8. Racial representation continued/ First Draft &amp; reverse outlining</p> <p>9. Censoring difference: The Hollywood production code / Portfolio conferences</p> <p>10. Single motherhood in Hollywood cinema/ Preliminary second draft &amp; peer review</p> <p>11. The celluloid closet/ Second draft due</p> <p>12. Historical and cultural white washing/ Presentation preparation</p> <p>13. Course overview/ Abstract writing</p> <p>14. Course overview continued/Begin presentations &amp; review for final draft</p> <p>15. Final draft of paper due and finish presentations</p> <p><i>The instructor may amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Articles and links will be provided by the instructor. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%）</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (Issues and the Impact of Social Media)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>1. Introduction, course overview/ History of social media</p> <p>2. Virtual communities, fandom and participatory culture/ Opinion paper</p> <p>3. Virtual communities, fandom and participatory culture / Opinion paper due</p> <p>4. Mash ups, memes, and cultural production/ Mini-research presentations</p> <p>5. Social media and community involvement / Finalize topics &amp; thesis statement</p> <p>6. Social media and community involvement / Preliminary outline</p> <p>7. Social media and dissent / Final outline</p> <p>8. Anonymity and behavior / First draft &amp; reverse outlining</p> <p>9. Copyright vs. free culture / Portfolio conferences</p> <p>10. Copyright vs. free culture/ Preliminary second draft &amp; peer review</p> <p>11. Multi-tasking: social media and the brain / Second draft due</p> <p>12. Course overview/ Presentation preparation</p> <p>13. Course overview continued/ Abstract writing</p> <p>14. Begin final presentations/ Review for final draft</p> <p>15. Final draft due and finish presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Articles and links will be provided by the instructor. Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1		春学期（英語 V）と同じ	

養	英語 V (AE) (Global Understanding)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</li> <li>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</li> <li>③ can write a short opinion paper</li> <li>④ can narrow down a topic effectively</li> <li>⑤ can write a good thesis statement</li> <li>⑥ can organize ideas in an outline format</li> <li>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</li> <li>⑧ can write an abstract for the completed research paper</li> <li>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation</p> <p>2: Reading 1 / Academic skills</p> <p>3: Reading 2 / Discussion and Facilitation</p> <p>4: Reading 3 / Summary and Opinion paper</p> <p>5: Reading 4 / Model conference Oral presentations (group)</p> <p>6-13 : Readings / Research paper -topics -sources -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product</p> <p>14: Power Point presentations (individual)</p> <p>15: Presentations and Evaluation</p> <p>*Reading materials: TBA</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1  <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> ( Kluge&amp;Taylor, Thomson Learning) / Handouts</p>		<p>評価基準 : 準備・参加 (10%) , 課題 (10%), opinion paper (15%), research paper (50%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (15%)          出席: 出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (Global Issues)	担当者	奥平 文子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語 V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語 V での経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<p>Week 1: Orientation / Academic Skills (review)</p> <p>2: Reading 1 / Discussion and Facilitation</p> <p>3: Reading 2 / Summary and Evaluation</p> <p>4: Reading 3 / Opinion Paper</p> <p>5: Reading 4 / Model Conference Oral presentations (group)</p> <p>6-13 : Readings/ Research paper - topics –sources -thesis statement and plan -abstract -outline -drafts -conferencing -final product</p> <p>14: Power Point presentations (individual)</p> <p>15: Presentations and Evaluation</p> <p>*Reading materials: TBA</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning)ISBN978-4-902902-89-1  <i>Basic Steps to Writing Research Papers</i> ( Kluge&amp;Taylor, Thomson Learning) / Handouts</p>		<p>春学期 (英語 V) と同じ</p>	

養	英語V (AE) (繋がる世界の課題とは)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <p>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</p> <p>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</p> <p>③ can write a short opinion paper</p> <p>④ can narrow down a topic effectively</p> <p>⑤ can write a good thesis statement</p> <p>⑥ can organize ideas in an outline format</p> <p>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</p> <p>⑧ can write an abstract for the completed research paper</p> <p>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Brics, eat up Japanese food</li> <li>2. UN's fight against poverty in Africa</li> <li>3. Hollywood in need of Japanese</li> <li>4. World's new seven wonders chosen</li> <li>5. Pluto demoted, no longer a true planet</li> <li>6. New citizen judge system</li> <li>7. X-pigs and bioclip</li> <li>8. Local leaders of post-Kyoto plan</li> <li>9. Two more nations join the EU</li> <li>10. Globalization</li> <li>11. Japanese turn to China for organ transplants</li> <li>12. Media literacy</li> <li>13. No cash, no cure?</li> <li>14. The making of a plagiarist</li> <li>15. Presentation</li> </ol> <p>二コマ連続の授業である。英文を読み、内容を理解し、他者に伝え、質疑応答する。後半では各自が選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Topics in Contemporary World (Tsurumi Shoten)</p> <p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1</p>		<p>評価基準：準備・参加 (10%) , 課題 (10%), opinion paper (15%), research paper (50%: outline, drafts, final product), 口頭発表 (15%)</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE) (アメリカと試練)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし(反省点を克服する)一段上のタスク完成度を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Rachel Carson and the wonders of the Earth</li> <li>2. Gambling wit survival</li> <li>3. Think different</li> <li>4. War comes home</li> <li>5. War for sale</li> <li>6. Barbara Lee votes 'No'</li> <li>7. Isamu Noguchi and the internment of Japanese-Americans</li> <li>8. The spirit of aloha</li> <li>9. The limits of forgiveness</li> <li>10. Eugene Debs and Joseph McCarthy</li> <li>11. The end of "separate but equal"</li> <li>12. Wounded Knee</li> <li>13. Ethnicity</li> <li>14. Directness and honesty</li> <li>15. Presentation</li> </ol> <p>英文を読み、内容を理解し、他者に伝え、質疑応答する。後半では各自が選んだトピックを発表形式に仕上げてゆく</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Different Histories(Kinseido)</p> <p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning)ISBN978-4-902902-89-1</p>		春学期 (英語V) と同じ	

養	英語V(AE)(First Encounter with English Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>At the completion of the course, students:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① can evaluate and make a critique of academic articles in a convincing way</li> <li>② can and are willing to express their opinions in a discussion in a convincing way</li> <li>③ can write a short opinion paper</li> <li>④ can narrow down a topic effectively</li> <li>⑤ can write a good thesis statement</li> <li>⑥ can organize ideas in an outline format</li> <li>⑦ can write a research paper on a topic relevant to the class theme using sufficient amount of reliable sources (minimum 5) with appropriate citation</li> <li>⑧ can write an abstract for the completed research paper</li> <li>⑨ can make an effective visually aided presentation (e.g., power point) of the research paper they have written</li> </ol>		<p>第1週：オリエンテーション・背景説明  第2週：Short Story  第3週：Poetry  第4週：Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Intro)  第5週：Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 1)  第6週：Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 2)  第7週：Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 3)  第8週：Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 4)  第9週：Shakespeare's <i>Much Ado About Nothing</i>(Act 5)  第10週：Academic Paper Writing session-1  第11週：Academic Paper Writing session-2  第12週：Presentation-1  第13週：Presentation-2  第14週：Presentation-3  第15週：Opinion Paper Writing session</p> <p>Class schedule may change due to Academic Calender</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1  <i>Much Ado About Nothing</i> (William Shakespeare, Penguin Readers)  Short Stories と Poetry (配布プリント)</p>		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%）  出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI(AE)(First Encounter with English Literature)	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英語V」に引き続き、同じ授業形態の許で、当該テーマに基づく統合的学習を行う。Opinion paper, research paper, 口頭発表等のタスクに関しては、英語Vでの経験を生かし（反省点を克服する）一段上のタスク完成度をを目指す。</p>		<p>第1週：オリエンテーション・背景説明  第2週：Short Story  第3週：Poetry  第4週：Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Intro)  第5週：Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 1)  第6週：Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 2)  第7週：Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 3)  第8週：Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 4)  第9週：Shakespeare's <i>A Midsummer Night's Dream</i> (Act 5)  第10週：Academic Paper Writing session-1  第11週：Academic Paper Writing session-2  第12週：Presentation-1  第13週：Presentation-2  第14週：Presentation-3  第15週：Opinion Paper Writing session</p> <p>Class schedule may change due to Academic Calender</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&amp;Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1  <i>A Midsummer Night's Dream</i> (William Shakespeare, Penguin Readers)  Short Stories と Poetry (配布プリント)</p>		<p>春学期（英語V）と同じ</p>	

養	英語VI (AE)再履修 (Science Fiction and Technology) 英語V (AE)再履修 (Science Fiction and Technology)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will focus on the genre of science fiction as it interconnects with past, present, and future technologies. Once marginalized in the corner of the bookstore, science fiction is now recognized as one of the few genres dealing with the psychological and societal implications of technological development. More specifically, it poses questions about how such technology changes the ways in which we interact and what it means to be human.</p> <p>While reading short SF stories and articles on the genre, students will research and analyze the implications of current technological and scientific developments. Students will also be asked to watch up to two canonical SF films as part of their home research. The instructor will provide a list. Using these resources as a base, students will work on organizing and communicating their thoughts through discussion, formal presentations, and a final academic research paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and course overview What is science fiction?</li> <li>2. SF &amp; technology overview/ Opinion paper</li> <li>3. Artificial intelligence: What makes us human?/Opinion paper due</li> <li>4. What makes us Human? continued/ Mini-research presentations</li> <li>5. Biotechnology/Finalize topics &amp; thesis Statement</li> <li>6. Biotechnology continued/ Preliminary outline</li> <li>7. Technology &amp; surveillance/Final outline</li> <li>8. Technology &amp; surveillance continued/ First draft &amp; reverse outlining/</li> <li>9. Weapons and war/Portfolio conferences</li> <li>10. Weapons and war/ Preliminary second draft &amp; peer review</li> <li>11. Apocalyptic SF/ Second draft due</li> <li>12. Begin course overview/ Presentation preparation</li> <li>13. Course overview continued/ Abstract writing</li> <li>14. Begin final presentations/ Review for final draft</li> <li>15. Final paper due and finish presentations.</li> </ol> <p><i>The instructor may amend the syllabus.</i></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Short stories, articles, and links will be provided by the instructor.		<p>評価基準：準備・参加（10%），課題（10%），opinion paper（15%），research paper（50%：outline, drafts, final product），口頭発表（15%）</p> <p>出席：出席を大前提とし、8回以上欠席した場合は不合格とする。</p>	

養	英語VI (AE)再履修(Science Fiction as Social Commentary) 英語V (AE)再履修 (Science Fiction as Social Commentary)	担当者	S. K. エリス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will explore science fiction as social commentary. Often referred to as the “literature of ideas,” science fiction has not only pushed the boundaries of human technological achievement, but has also been first to tackle social issues dealing with race, gender, politics, and economics.</p> <p>Students will read short SF stories and articles on the genre while researching and analyzing related social issues. As part of their home research, students will also be asked to view up to two canonical SF films related to their topic. The instructor will provide a list. Using these resources as a base, they will work on organizing and communicating their thoughts through discussion, formal presentations, and a final academic research paper.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and course overview/ What is science fiction?</li> <li>2. SF as social commentary overview/ Opinion paper</li> <li>3. Encountering the other: Cold War paranoia and beyond/Opinion paper due</li> <li>4. Encountering the other continued/ Mini-research presentations</li> <li>5. Utopias and dystopias /Finalize topics &amp; thesis Statement</li> <li>6. Utopias and dystopias / Preliminary outline</li> <li>7. SF as environmental commentary/Final outline</li> <li>8. Environmental commentary continued / First draft &amp; reverse outlining</li> <li>9. Gender and sexuality in SF /Portfolio conferences</li> <li>10. Gender and sexuality continued / Preliminary second draft &amp; peer review</li> <li>11. Alternate histories/ Second draft due</li> <li>12. Begin course overview/ Presentation preparation</li> <li>13. Course overview continued/ Abstract writing</li> <li>14. Begin final presentations/ Review for final draft</li> <li>15. Final Paper due and finish presentations.</li> </ol> <p><i>The instructor may amend the syllabus.</i></p> <p>The instructor may amend the syllabus.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Short stories, articles, and links will be provided by the instructor.		春学期と同じ	

養	スペイン語 I (総合 1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(総合) は、スペイン語 I の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 I (総合 2) とのペア授業である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 発音・アクセント</li> <li>② 発音・アクセント</li> <li>③ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>④ 名詞の性・数、冠詞</li> <li>⑤ 形容詞</li> <li>⑥ ser, estar 動詞の使い方</li> <li>⑦ ser, estar 動詞の使い方</li> <li>⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用</li> <li>⑨ 代名詞の用法</li> <li>⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用</li> <li>⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用</li> <li>⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用</li> <li>⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞</li> <li>⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞</li> <li>⑮ 今学期の復習</li> </ol> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p> <p>また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらおう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語 II (総合 1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語 II (総合 1) は、スペイン語 I (総合 1, 2) の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(総合) は、スペイン語 II の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>なお、この授業はスペイン語 II (総合 2) とのペア授業である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 春学期の復習</li> <li>② 動詞の活用 --- 再帰動詞</li> <li>③ 再帰動詞と諸用法</li> <li>④ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形</li> <li>⑤ 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形</li> <li>⑥ 比較表現</li> <li>⑦ 動詞の活用 --- 直説法点過去</li> <li>⑧ 動詞の活用 --- 直説法線過去</li> <li>⑨ 点過去と線過去の違い</li> <li>⑩ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形</li> <li>⑪ 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形</li> <li>⑫ 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用</li> <li>⑬ 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用</li> <li>⑭ 命令表現</li> <li>⑮ 今学期の復習</li> </ol> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：柳沼孝一郎 他 著“Plaza Mayor I (青い表紙)” 朝日出版社</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語 I (総合 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (総合 2) はスペイン語 I (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 I (総合 1) と同 (総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 I (総合 1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語 I (総合 1) に同じ。</p>		<p>基本的にスペイン語 I (総合 1) と同じ評価基準である。</p>	

養	スペイン語 II (総合 2)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語 I (総合 2) の継続の授業である。</p> <p>スペイン語 II (総合 2) はスペイン語 II (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 II (総合 1) と同 (総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p>		<p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>		<p>基本的にスペイン語 II (総合 1) と同じ評価基準である。</p>	

養	スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>（基礎表現）では、（総合1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>（会話）では、スペイン語Ⅰ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。</p> <p>接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>（会話）では、スペイン語Ⅱ（総合1,2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p>		<p>学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1,2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。</p> <p>学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1,2）の「授業計画」を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。</p> <p>（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、大過去、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。</p> <p>（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。</p> <p>（会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。</p> <p>（LL）の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。</p>		<p>15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅲ（会話 1）の継続である。</p> <p>（会話 1）、（会話 2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。</p> <p>（会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。</p> <p>（LL）の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。</p>		<p>15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅲ（会話 1）を参照。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
スペイン語Ⅳ（会話 1）を参照。		15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語V（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（応用1）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語VI（応用1）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語V（応用1）の継続の授業である。</p> <p>（応用1）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）		出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語Ⅴ（応用Ⅱ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（応用Ⅱ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。</p> <p>スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用Ⅱ）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語Ⅵ（応用Ⅱ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語Ⅴ（応用Ⅱ）の継続の授業である。</p> <p>（応用Ⅱ）の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、作文・発話を中心とした言語のアウトプットの訓練をする。</p> <p>スペイン語Ⅲ、Ⅳまでのスペイン語力で、ある程度の「通じる会話」はできるかもしれない。この授業では「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。（応用Ⅱ）の担当者はスペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。</p> <p>この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>	

養	スペイン語V・VI（応用1・2）再履修	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
P29, 30 のスペイン語V・VI（応用1・2）のシラバスを参照のこと。		クラスの数や各人のスペイン語の能力を確認後、初回の授業で指示する。	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業開始時に指示する。		出席状況、定期試験によって評価する。小テストをおこなう場合がある。	

養	スペイン語（応用1・2）再履修	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同じ。			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	中国語Ⅰ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1~3 発音・ピンイン</p> <p>4 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不”</p> <p>5 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾</p> <p>6 形容詞述語文、選択疑問文</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9 二重目的文、量詞</p> <p>10 連動文、年月日・曜日の言い方</p> <p>11 有／没有、几／多少、方位詞、数詞</p> <p>12 在、金額の表現</p> <p>13 助動詞、語気助詞“了”</p> <p>14 動態助詞“了”、禁止の表現、反語の表現 時量・回数と時点、時間量の言い方</p> <p>15 復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ（総合Ⅰ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。</p>		<p>1 主述述語文、程度補語、離合詞</p> <p>2 進行相、動詞の重ね型</p> <p>3 方向補語、結果補語</p> <p>4 持続相、可能補語</p> <p>5 経験相、将然相、時刻の表現</p> <p>6 存現文</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9 “把”字文、定着表現、到達表現</p> <p>10 比較の表現</p> <p>11 受身文</p> <p>12 様態補語</p> <p>13 使役文、後置修飾</p> <p>14 “（是）...的”構文</p> <p>15 復習</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語一年目の教科書 ユニバーサル・ユース』（好文出版）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ(総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 発音</p> <p>4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8～10 第3課 程度の表現（Ⅰ） 第4課 行為の表現</p> <p>11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（Ⅰ）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『新表現の達人Ⅰ』【基本ブック】（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ(総合2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、構文・作文力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（Ⅰ）</p> <p>4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8～10 第14課 程度の表現（Ⅱ） 第15課 比較の表現（Ⅰ）</p> <p>11～14 第16課 動作の時間的な量と回数の表現 第17課 動作の結果の表現（Ⅰ） 第18課 可能の表現（Ⅱ）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『新表現の達人Ⅰ』【基本ブック】（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅰ(入門)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下、発音指導を中心に、簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。</p>		<p>1～3 発音 4～6 第1課 第2課 第3課 7 中間試験 8 復習 9～12 第4課 第5課 第6課 13 第7課 14 第8課 15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅱ(基礎表現)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下、反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。</p>		<p>1～3 第9課 第10課 第11課 4～6 第12課 第13課 第14課 7 中間試験 8～11 第15課 第16課 第17課 12～14 第18課 第19課 第20課 15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『新版例解中国語入門 你问我答〔第2版〕』（白帝社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語 I (会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに、徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い、人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び、かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ、中国語がどのような言語であるかを知り、その学習の基盤を作る」中国語 I の学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 発音</p> <p>4～6 第1課 姓名の表現 第2課 判断の表現</p> <p>7 中間試験</p> <p>8～10 第3課 程度の表現（I） 第4課 行為の表現</p> <p>11～14 第5課 時間の表現 第6課 所有の表現 第7課 存在の表現（I）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『表現の達人 I』[発展ブック]（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語 II (会話)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め、その語彙を活用して、簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い、基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び、中国語学習の基礎力を養成する」中国語 II の学習目標の下、中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）</p>		<p>1～3 第8課 生活習慣の表現 第9課 行為完了の表現 第10課 可能と許可の表現（I）</p> <p>4～6 第11課 願望と感情の表現 第12課 条件と選択の表現 第13課 状態の持続と経験の表現</p> <p>7 中間試験 8 復習</p> <p>8～10 第14課 程度の表現（II） 第15課 比較の表現（I） 第16課 動作の時間的な量と回数の表現</p> <p>11～14 第17課 動作の結果の表現（I） 第18課 可能の表現（II）</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『表現の達人 I』[発展ブック]（白帝社）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅲ(総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		1 第1課 2 第2課 3 第3課 4 第4課 5 第5課 6 第6課 7 中間試験 8 復習 9 第7課 10 第8課 11 第9課 12 第10課 13 第11課 14 第12課 15 復習  ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅳ(総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下、作文のための基本文法を整理し、併せて虚詞（機能語）・文型を学んで、文の組み立てをしっかりとつかませる。</p>		1 第13課 2 第14課 3 第15課 4 第16課 5 第17課 6 第18課 7 中間試験 8 復習 9 第19課 10 第20課 11 第21課 12 第22課 13 第23課 14 第24課 15 復習  ※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『作文ルール66 — 日中翻訳技法 — 』（朝日出版社）		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅲ(講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」</p> <p>中国語Ⅲの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第1課 第2課</p> <p>4～6 第3課 第4課</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第5課 第6課</p> <p>12～14 第7課 読み物(プリント教材)</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進捗によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』(白帝社)</p> <p>+ (各クラス担当者作成の)プリント教材</p>		<p>授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。</p> <p>中間試験と適宜小テストを実施する。</p>	

養	中国語Ⅳ(講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。</p>		<p>1～3 第8課 第9課</p> <p>4～6 第10課 第11課</p> <p>7 中間試験</p> <p>8 復習</p> <p>9～11 第12課 第13課</p> <p>12～14 第14課 読み物(プリント教材)</p> <p>15 復習</p> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進捗によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>『中国語Ⅱ — 中級読解コース — 』(白帝社)</p> <p>+ (各クラス担当者作成の)プリント教材</p>		<p>授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果(定期試験)を総合して評価する。</p> <p>中間試験と適宜小テストを実施する。</p>	

養	中国語Ⅲ(会話 1)	担当者	各担当教員 (日本人教員)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。</p> <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の音読を繰り返し行うこと</li> <li>・巻末の単語を暗記すること</li> </ul> <p>訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語のクイックレスポンス</li> <li>・本文のリピーティング</li> <li>・シャドーイング</li> <li>・日→中訳</li> <li>・ペア・ワークによる会話練習</li> </ul> <p>LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。</p>		<p>第1課～33課までを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業方法に関するガイダンス PCによる中国語の入力練習</li> <li>2. 1～3課</li> <li>3. 4～6課</li> <li>4. 7～9課</li> <li>5. 10～12課</li> <li>6. 第1課～12課の復習テストと解説</li> <li>7. 13～15課</li> <li>8. 16～18課</li> <li>9. 19～21課</li> <li>10. 22～24課</li> <li>11. 第12課～24課の復習テストと解説</li> <li>12. 25～27課</li> <li>13. 28～30課</li> <li>14. 31～33課</li> <li>15. 特別プログラム (映画観賞)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語会話ルート 66』 東方書店		出席率・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

養	中国語Ⅳ (会話 1)	担当者	各担当教員 (日本人教員)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>会話文のリスニングとスピーキングの訓練を行う。</p> <p>予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の音読を繰り返し行うこと</li> <li>・巻末の単語を暗記すること</li> </ul> <p>訓練内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単語のクイックレスポンス</li> <li>・本文のリピーティング</li> <li>・シャドーイング</li> <li>・日→中訳</li> <li>・ペア・ワークによる会話練習</li> </ul> <p>LL 教室での授業となるため、学生は積極的に口を動かして練習することが求められる。</p>		<p>第34課から第66課までを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. 34～36課</li> <li>3. 37～39課</li> <li>4. 40～42課</li> <li>5. 43～45課</li> <li>6. 第34課～45課の復習テストと解説</li> <li>7. 46～48課</li> <li>8. 49～51課</li> <li>9. 52～54課</li> <li>10. 54～56課</li> <li>11. 第46課～56課の復習テストと解説</li> <li>12. 57～59課</li> <li>13. 60～62課</li> <li>14. 63～66課</li> <li>15. 特別プログラム (映画観賞)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語会話ルート 66』 東方書店		出席率・復習テスト・期末テストの点数の平均点で評価する。	

養	中国語Ⅲ(会話 2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに、単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また、補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め、同時に語彙力を増強し、識字数も増やす」</p> <p>中国語Ⅲの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書の1~33の話題について会話練習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己紹介、家庭Ⅰ・Ⅱ</li> <li>2 住まい、食事、買い物</li> <li>3 1日のスケジュール、通学・通勤、学校</li> <li>4 授業Ⅰ・Ⅱ、中国語</li> <li>5 テスト、 留学、部活動</li> <li>6 アルバイト、就職、仕事</li> <li>7 中間試験</li> <li>8 復習</li> <li>9 病気、健康</li> <li>10 余暇、趣味、レジャー</li> <li>11 旅行、スポーツ</li> <li>12 グルメ、タバコ・酒</li> <li>13 ショッピング、おしゃれ</li> <li>14 恋愛、電話・手紙</li> <li>15 復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語会話ルート 66』（東方書店）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし、一定の長さをもった内容について、リスニングとスピーキングの訓練を積み、基礎的運用能力を養う。また、多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し、もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下、話題をめぐってまとめた内容を話す練習を行い、会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。</p> <p>※ 教科書の34~66の話題について会話練習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 テレビ・新聞、映画、音楽</li> <li>2 読書、訪問、パーティ</li> <li>3 バースデー・クリスマス、生活、ことば</li> <li>4 故郷、天気、</li> <li>5 友だち、性格</li> <li>6 中国人、中国文化、日本と中国、</li> <li>7 中間試験</li> <li>8 復習</li> <li>9 観光地で、ホテルで、レストランで</li> <li>10 お店で、街で、交通</li> <li>11 あいさつ、お礼、おわび</li> <li>12 約束、依頼</li> <li>13 お祝い・励まし、慰め、お別れ</li> <li>14 感情表現、教室用語</li> <li>15 復習</li> </ol> <p>※ 上記の進行表は、各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『中国語会話ルート 66』（東方書店）		授業への出席，授業への積極的参加，授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。	

養	中国語Ⅴ（応用1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国語Ⅳまでの学習で身につけた、話す・書く能力を用いてさらに高度な中国語能力を養成するための学習を行う。オーラル面においては発音の不自然な癖を修正するよう心がける。中国人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p><b>【予習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。</li> <li>・討論の質問に対する回答を準備する。</li> </ul> <p><b>【授業】</b></p> <p><u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。</p> <p><u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。</p> <p><u>討論</u>：教師の質問に回答する。</p> <p><b>【復習】</b>各課の全体を見直し、<u>単語と表現</u>を用いて作文の練習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 入国手続き</li> <li>3. 申請書</li> <li>4. あたらしい友だち</li> <li>5. ひとを訪ねる</li> <li>6. 道をさく</li> <li>7. 自転車</li> <li>8. <b>復習テスト</b></li> <li>9. タクシー</li> <li>10. 旅</li> <li>11. 宿泊</li> <li>12. 銀行</li> <li>13. 買い物</li> <li>14. 郵便</li> <li>15. 学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、復習テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅵ（応用1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国人教員が担当する。春学期に引き続き、『情景漢語』を用いるが、学生のレベルにしたがって、討論の時間を前期よりも長くする。オーラル面においてはより自然な発音を身につけるよう心がける。</p> <p><b>【予習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。</li> <li>・討論の質問に対する回答を準備する。</li> </ul> <p><b>【授業】</b></p> <p><u>コミュニケーションの文型</u>：ペアで会話を作り発表する。</p> <p><u>朗読</u>：復唱練習後、指名された学生が朗読の発表を行う。</p> <p><u>討論</u>：教師の質問に回答する。</p> <p><b>【復習】</b>各課の全体を見直し、<u>単語と表現</u>を用いて作文の練習を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. 電話</li> <li>3. 学校の食堂</li> <li>4. 外での食事</li> <li>5. ホームパーティー</li> <li>6. 茶・たばこ・酒</li> <li>7. <b>復習テスト</b></li> <li>8. 映画を見る</li> <li>9. 公演を見る</li> <li>10. ダンス</li> <li>11. 観光旅行</li> <li>12. 病気の治療</li> <li>13. 天候と健康</li> <li>14. 体をきたえる</li> <li>15. 学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅴ（応用2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国語Ⅴ（応用1）と同じテキストを用い、読解力と聞く能力を向上させることを目的とする。日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p><b>【予習】</b> ・基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換する。</p> <p><b>【授業】</b> <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。</p> <p><b>【復習】</b> <u>教科書付属のCD</u>を利用して復唱と書き取りを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 入国手続き</li> <li>3. 申請書</li> <li>4. あたらしい友だち</li> <li>5. ひとを訪ねる</li> <li>6. 道をきく</li> <li>7. 自転車</li> <li>8. <b>復習テスト</b></li> <li>9. タクシー</li> <li>10. 旅</li> <li>11. 宿泊</li> <li>12. 銀行</li> <li>13. 買い物</li> <li>14. 郵便</li> <li>15. 学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、復習テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語Ⅵ（応用2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、日本人教員が担当し、以下にそって授業を行う。</p> <p><b>【予習】</b> 基本の会話、場面の会話を漢字表記に変換して意味を確認したうえで朗読練習を行う。</p> <p><b>【授業】</b> <u>基本の会話、場面の会話</u>：漢字表記を確認し、日本語に訳して意味を理解した後にペアで発話練習を行う。 テキストを見ずに中国語を聞いて日本語へ訳す。 <u>練習問題</u>：漢字表記と解答を確認し、日本語に訳す。 <u>朗読</u>：日本語に訳して意味を確認する。</p> <p><b>【復習】</b> <u>教科書付属のCD</u>を利用して復唱と書き取りを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の復習</li> <li>2. 電話</li> <li>3. 学校の食堂</li> <li>4. 外での食事</li> <li>5. ホームパーティー</li> <li>6. 茶・たばこ・酒</li> <li>7. <b>復習テスト</b></li> <li>8. 映画を見る</li> <li>9. 公演を見る</li> <li>10. ダンス</li> <li>11. 観光旅行</li> <li>12. 病気の治療</li> <li>13. 天候と健康</li> <li>14. 体をきたえる</li> <li>15. 学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、授業に対する積極性を50%、小テスト、中間テスト・期末テストの点数を50%で評価する。	

養	中国語V・VI（応用1・2）再履修	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>『情景漢語』（朋友書店）のピンイン表記を漢字表記にしたものを配布し、以下の練習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーティング</li> <li>・シャドーイング</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・中国語→日本語への訳出</li> <li>・日本語→中国語への訳出</li> </ul> <p>授業の達成目標は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連単語を暗記し、語彙力をつける。</li> <li>・会話の内容を正しく解釈できるようにする。</li> <li>・漢字表記を見ながらなめらかに朗読できるようにする。</li> <li>・場面に応じた簡単な会話がスムーズに行える中国語力をつける。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、資料配布</li> <li>2. 電話</li> <li>3. 学校の食堂</li> <li>4. 外での食事</li> <li>5. 復習テスト(1)</li> <li>6. ホームパーティー</li> <li>7. 茶・たばこ・酒</li> <li>8. 映画を見る</li> <li>9. 公演を見る</li> <li>10. 復習テスト(2)</li> <li>11. ダンス</li> <li>12. 観光旅行</li> <li>13. 病気の治療</li> <li>14. 天候と健康</li> <li>15. 体をきたえる</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

養	中国語V・VI（応用1・2）再履修	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>『情景漢語』（朋友書店）のピンイン表記を漢字表記にしたものを配布し、以下の練習を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リピーティング</li> <li>・シャドーイング</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・中国語→日本語への訳出</li> <li>・日本語→中国語への訳出</li> </ul> <p>授業の達成目標は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連単語を暗記し、語彙力をつける。</li> <li>・会話の内容を正しく解釈できるようにする。</li> <li>・漢字表記を見ながらなめらかに朗読できるようにする。</li> <li>・場面に応じた簡単な会話がスムーズに行える中国語力をつける。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、資料配布</li> <li>2. 入国手続き</li> <li>3. 申請書</li> <li>4. あたらしい友だち</li> <li>5. 復習テスト(1)</li> <li>6. ひとを訪ねる</li> <li>7. 道をきく</li> <li>8. 自転車</li> <li>9. タクシー</li> <li>10. 復習テスト(2)</li> <li>11. 旅</li> <li>12. 宿泊</li> <li>13. 銀行</li> <li>14. 買い物</li> <li>15. 郵便</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『情景漢語』 朋友書店		出席率、復習テスト、期末テストの点数を平均して総合評価を出します。	

養	韓国語Ⅰ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。</p> <p>ハンゲルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。</p> <p>よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。</p>		<p>1 ハンゲルのしくみ①</p> <p>2 ハンゲルのしくみ②</p> <p>3 ハンゲルのしくみ③</p> <p>4 あいさつ①</p> <p>5 あいさつ②</p> <p>6 名詞文</p> <p>7 存在文</p> <p>8 用言文</p> <p>9 数詞①</p> <p>10 数詞②</p> <p>11 否定形</p> <p>12 尊敬形</p> <p>13 連用形</p> <p>14 해요体</p> <p>15 해요体の尊敬形</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅱ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、韓国語Ⅰで学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。</p>		<p>1 基本事項の確認①</p> <p>2 基本事項の確認②</p> <p>3 過去形</p> <p>4 連体形①</p> <p>5 連体形②</p> <p>6 未来意思形</p> <p>7 ㄷ語幹</p> <p>8 ㄷ変則用言</p> <p>9 ㄴ変則用言</p> <p>10 ㄹ変則用言</p> <p>11 ㅎ変則用言</p> <p>12 ㄹ変則用言</p> <p>13 変則用言のまとめ</p> <p>14 まとめと復習①</p> <p>15 まとめと復習②</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅰ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ（文法・読解1）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ハングルのしくみ①</li> <li>2 ハングルのしくみ②</li> <li>3 ハングルのしくみ③</li> <li>4 あいさつ①</li> <li>5 あいさつ②</li> <li>6 名詞文</li> <li>7 存在文</li> <li>8 用言文</li> <li>9 数詞①</li> <li>10 数詞②</li> <li>11 否定形</li> <li>12 尊敬形</li> <li>13 連用形</li> <li>14 해요体</li> <li>15 해요体の尊敬形</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅱ（文法・読解2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、韓国語Ⅱ（文法・読解1）で学んだ単語、文法を教室内で使用してみるにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 基本事項の確認①</li> <li>2 基本事項の確認②</li> <li>3 過去形</li> <li>4 連体形①</li> <li>5 連体形②</li> <li>6 未来意思形</li> <li>7 ㄷ語幹</li> <li>8 ㄷ変則用言</li> <li>9 ㄴ変則用言</li> <li>10 ㄹ変則用言</li> <li>11 ㅎ変則用言</li> <li>12 ㄹ変則用言</li> <li>13 変則用言のまとめ</li> <li>14 まとめと復習①</li> <li>15 まとめと復習②</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋 改訂版』白帝社		出席、小テスト、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハングルの紹介</li> <li>2. 母音字（短母音、二重母音など）</li> <li>3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音）</li> <li>4. バッチム</li> <li>5. ハングル keyboard 練習</li> <li>6. 聞き取り練習・発音練習</li> <li>7. 第1課 基本文型 @は何ですか。@です。</li> <li>8. 第3課 自己紹介</li> <li>9. 第5課 否定文</li> <li>10. 第7課 時間の表現（曜日）</li> <li>11. 第9課 過去時制</li> <li>12. 第11課 電話の表現</li> <li>13. 第13課 注文</li> <li>14. 聞き取り練習・発音練習</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

養	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅠ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習</li> <li>2. 第13課 提案表現</li> <li>3. 第15課 交通</li> <li>4. 第15課 目的表現、指示表現</li> <li>5. 第17課 家族</li> <li>6. 第17課 事実の確認</li> <li>7. 復習(韓国歌・聞き取り練習など)</li> <li>8. 第19課 誕生日</li> <li>9. 第19課 同時、接続表現</li> <li>10. 第21課 購入</li> <li>11. 第21課 希望表現・可能表現</li> <li>12. 第23課 薬局</li> <li>13. 第23課 推測表現・連体形</li> <li>14. 語彙・聞き取り・activity など</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006		言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%	

養	韓国語Ⅰ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>韓国語Ⅰに引き続き、文法では、連体形までの基礎的文法事項をまなび初級文法を終える。初級学習者に不足しがちな語彙力の増加、見落としがちな正しい発音への矯正にも配慮する。韓国語を学ぶ上での言語文化的基礎知識の一層の獲得を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハングルの紹介</li> <li>2. 母音字（短母音、二重母音など）</li> <li>3. 子音字（平音、激音、濃音、鼻音、流音）</li> <li>4. バッチム</li> <li>5. ハングル keyboard 練習</li> <li>6. 聞き取り練習・発音練習</li> <li>7. 第2課 基本文型 はい、@です。いいえ、@ではありません など。</li> <li>8. 第4課 場所表現、敬語</li> <li>9. 第6課 天気表現</li> <li>10. 第8課 位置と数字、ㄹ form)</li> <li>11. 第10課 不規則動詞変化・漢数字</li> <li>12. 第12課 買い物</li> <li>13. 第14課 交通手段</li> <li>14. 聞き取り練習・発音練習</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%</p>	

養	韓国語Ⅱ（コミュニケーションⅡ）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>韓国語初習者向けの授業。文法・言語文化的基礎知識・会話の構成をとる。文法の授業では項目をおいながら基礎的な表現とその聞き取りができる総合的能力の習得を目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習</li> <li>2. 第14課 理由、義務などの表現</li> <li>3. 第16課 招待</li> <li>4. 第16課 不規則活用、時間表現</li> <li>5. 復習(韓国歌・聞き取り・activity など)</li> <li>6. 第18課 趣味</li> <li>7. 第18課 お断り表現、理由・提案表現</li> <li>8. 第20課 旅行</li> <li>9. 第20課 連体形</li> <li>10. 第22課 週末計画</li> <li>11. 第22課 談話表現・未来時制</li> <li>12. 第24課 喫茶店</li> <li>13. 第24課 お詫び表現</li> <li>14. 語彙・聞き取り・activity など</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ』 Moonjin Media, 2006 ソウル大学言語教育院, 『韓国語Ⅰ Practice Book』, Moonjin Media, 2006</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則 出席30%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%</p>	

養	韓国語Ⅲ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 韓国語Ⅱの復習</li> <li>2 引用形</li> <li>3 変則用言の復習</li> <li>4 補助動詞지다</li> <li>5 婉曲・感嘆・非難の語尾</li> <li>6 整理①</li> <li>7 意思表示の語尾</li> <li>8 目的의러</li> <li>9 間接疑問</li> <li>10 感嘆形の군</li> <li>11 1 단</li> <li>12 아도/어도</li> <li>13 것 같다</li> <li>14 는데/는데</li> <li>15 整理②</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『総合韓国語3』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅳ（文法・読解1）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かしてより実践的な韓国語能力の習得をめざす。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 韓国語Ⅲまでの復習①</li> <li>2 韓国語Ⅲまでの復習②</li> <li>3 韓国語Ⅲまでの復習③</li> <li>4 懸念르까 보다</li> <li>5 成り行きと使役</li> <li>6 同格の「の」</li> <li>7 否定疑問文と付加疑問文</li> <li>8 整理</li> <li>9 ぞんざいな命令、語尾 -다가</li> <li>10 根拠の提示 거든</li> <li>11 助詞</li> <li>12 形容詞からの派生副詞、語尾 -다면, -거나</li> <li>13 整理</li> <li>14 まとめと復習①</li> <li>15 まとめと復習②</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『総合韓国語4』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅲ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ内容を復習しつつ、新しい文法の知識と語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 韓国語Ⅱの復習</li> <li>2 引用形</li> <li>3 変則用言の復習</li> <li>4 補助動詞지다</li> <li>5 婉曲・感嘆・非難の語尾</li> <li>6 整理①</li> <li>7 意思表示の語尾</li> <li>8 目的의러</li> <li>9 間接疑問</li> <li>10 感嘆形の군</li> <li>11 1 단</li> <li>12 아도/어도</li> <li>13 것 같다</li> <li>14 는데/는데</li> <li>15 整理②</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『総合韓国語 3』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅳ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、これまで学んだ文法や単語、表現を生かし、より実践的な韓国語能力の習得をめざす。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1 韓国語Ⅲまでの復習①</li> <li>2 韓国語Ⅲまでの復習②</li> <li>3 韓国語Ⅲまでの復習③</li> <li>4 懸念ㄹ까 보다</li> <li>5 成り行きと使役</li> <li>6 同格の「の」</li> <li>7 否定疑問文と付加疑問文</li> <li>8 整理</li> <li>9 ぞんざいな命令、語尾 -다가</li> <li>10 根拠の提示 거든</li> <li>11 助詞</li> <li>12 形容詞からの派生副詞、語尾 -다면, -거나</li> <li>13 整理</li> <li>14 まとめと復習①</li> <li>15 まとめと復習②</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『総合韓国語 4』油谷幸利ほか著		出席、課題提出、中間テスト、期末テスト	

養	韓国語Ⅲ (コミュニケーション 1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. 第 25 課 一日中の出来事</li> <li>3. 第 25 課 要請表現</li> <li>4. 第 27 課 夏休みの計画</li> <li>5. 第 27 課 故郷紹介</li> <li>6. 第 29 課 銀行</li> <li>7. 第 29 課 両替・話題転換</li> <li>8. 復習</li> <li>9. 第 1 課 連用形、</li> <li>10. 第 1 課 連体形</li> <li>11. 第 3 課 ぞんざいな文末表現(会話、読解)</li> <li>12. 第 3 課 表現、</li> <li>13. 第 3 課 文法</li> <li>14. 語彙・聞き取り・activity など</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1』 Moonjin Media, 2006  ソウル大学言語教育院, 『韓国語 1 Practice Book』, Moonjin Media, 2006  生越直樹, 『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100% が原則  出席 20%、期末試験 30%、小テスト 30%、課題提出 10%  3 分 speech 10%</p>	

養	韓国語Ⅳ (コミュニケーション 1)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. 第 5 課 引用形(会話、読解)</li> <li>3. 第 5 課 引用形(表現、文法)</li> <li>4. 第 5 課 引用形(作文、発音)</li> <li>5. 引用形の activity(news, ドラマなど)</li> <li>6. 第 7 課 受身形(会話、読解)</li> <li>7. 第 7 課 受身形(表現、文法)</li> <li>8. 第 7 課 受身形(作文、発音)</li> <li>9. 受身形の activity(news, ドラマなど)</li> <li>10. 第 9 課 使役形(会話、読解)</li> <li>11. 第 9 課 使役形(表現、文法)</li> <li>12. 第 9 課 使役形 (作文、発音)</li> <li>13. 使役形の activity(news, ドラマなど)</li> <li>14. 聞き取り練習・発音練習</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>生越直樹, 『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席 100% が原則  出席 30%、期末試験 30%、小テスト 20%、課題提出 10%、  5 分 speech 10%</p>	

養	韓国語Ⅲ (コミュニケーション2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。文法では、韓国語Ⅰ、Ⅱで学んだ初級文法のうち、初級レベルの説明では不十分である文法項目を中心に扱い理解の深化と定着を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の復習</li> <li>2. 第26課 喫茶店</li> <li>3. 第26課 感嘆表現、感謝表現</li> <li>4. 第28課 計画</li> <li>5. 第28課 比較表現</li> <li>6. 第30課 週末の出来事</li> <li>7. 第30課 否定疑問文</li> <li>8. 復習</li> <li>9. 第2課 ㄷ語幹用言、 変則用言(1)</li> <li>10. 第2課 変則用言(2)、作文</li> <li>11. 第4課 未来連体形を使う表現(会話、読解)</li> <li>12. 第4課 表現、文法</li> <li>13. 第4課 さまざまな表現(2)、作文</li> <li>14. 語彙・聞き取り・activity など)</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ソウル大学言語教育院、『韓国語1』Moonjin Media, 2006  ソウル大学言語教育院、『韓国語1 Practice Book』,  Moonjin Media, 2006  生越直樹,『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則  出席20%、期末試験30%、小テスト30%、課題提出10%  3分 speech 10%</p>	

養	韓国語Ⅳ (コミュニケーション2)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>韓国語Ⅲに引き続き、文法の補強、購読力の養成、ヒアリング力の強化、表現力の増強を目指す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 復習</li> <li>2. 第6課 名詞化語尾(会話、読解)</li> <li>3. 第6課 名詞化語尾(表現、文法)</li> <li>4. 第6課 名詞化語尾(作文、発音)</li> <li>5. 名詞化語尾の activity</li> <li>6. 第8課 さまざまな慣用句(会話、読解)</li> <li>7. 第8課 さまざまな慣用句(表現、文法)</li> <li>8. 第8課 さまざまな慣用句(作文、発音)</li> <li>9. さまざまな慣用句の activity</li> <li>10. 第10課 書きことばの表現(会話、読解)</li> <li>11. 第10課 書きことばの表現(表現、文法)</li> <li>12. 第10課 書きことばの表現(作文、発音)</li> <li>13. 第 書きことばの表現の activity</li> <li>14. 聞き取り練習・発音練習</li> <li>15. 整理・復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>生越直樹,『ことばの架け橋 中級表現編』, 白帝社, 2009</p>		<p>言語習得のための積極的な activity 参加が必要。出席100%が原則  出席30%、期末試験30%、小テスト20%、課題提出10%、5分 speech 10%</p>	

養	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う		1 大衆文化について 2 引用形の縮約形 3 風習や慣習について 4 ジャンル別文章表現法 5 Review 6 作文の構想／意見交換 7 仮定法 8 韓国語学習の経験について 9 丁寧度による様々な表現 10 Review 11 効果的な外国語学習方法について 12 擬声語と擬態語 13 男女平等について 14 用言の名詞化 15 Review	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	白 寅英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。		1 趣味について 2 動詞「보다」の多義性 3 各国の人気（伝統）スポーツについて 4 回想の表現Ⅰ 5 Review 6 回想の表現Ⅱ 7 旅行の計画を立てる 8 好きなインターネットサイトについて 9 推測の表現 10 Review 11 未来の生活の変化を推測する 12 依存名詞Ⅰ 13 依存名詞Ⅱ 14 絵をつかって物語りをつくる 15 Review	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅴ（応用Ⅰ）	担当者	沈民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大衆文化について</li> <li>2 引用形の縮約形</li> <li>3 風習や慣習について</li> <li>4 ジャンル別文章表現法</li> <li>5 Review</li> <li>6 作文の構想／意見交換</li> <li>7 仮定法</li> <li>8 韓国語学習の経験について</li> <li>9 丁寧度による様々な表現</li> <li>10 Review</li> <li>11 効果的な外国語学習方法について</li> <li>12 擬声語と擬態語</li> <li>13 男女平等について</li> <li>14 用言の名詞化</li> <li>15 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用Ⅰ）	担当者	沈民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 趣味について</li> <li>2 動詞「보다」の多義性</li> <li>3 各国の人気（伝統）スポーツについて</li> <li>4 回想の表現Ⅰ</li> <li>5 Review</li> <li>6 回想の表現Ⅱ</li> <li>7 旅行の計画を立てる</li> <li>8 好きなインターネットサイトについて</li> <li>9 推測の表現</li> <li>10 Review</li> <li>11 未来の生活の変化を推測する</li> <li>12 依存名詞Ⅰ</li> <li>13 依存名詞Ⅱ</li> <li>14 絵をつかって物語りをつくる</li> <li>15 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅴ（応用2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大衆文化について</li> <li>2 引用形の縮約形</li> <li>3 風習や慣習について</li> <li>4 ジャンル別文章表現法</li> <li>5 Review</li> <li>6 作文の構想／意見交換</li> <li>7 仮定法</li> <li>8 韓国語学習の経験について</li> <li>9 丁寧度による様々な表現</li> <li>10 Review</li> <li>11 効果的な外国語学習方法について</li> <li>12 擬声語と擬態語</li> <li>13 男女平等について</li> <li>14 用言の名詞化</li> <li>15 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用2）	担当者	白 寅英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 趣味について</li> <li>2 動詞「보다」の多義性</li> <li>3 各国の人気（伝統）スポーツについて</li> <li>4 回想の表現Ⅰ</li> <li>5 Review</li> <li>6 回想の表現Ⅱ</li> <li>7 旅行の計画を立てる</li> <li>8 好きなインターネットサイトについて</li> <li>9 推測の表現</li> <li>10 Review</li> <li>11 未来の生活の変化を推測する</li> <li>12 依存名詞Ⅰ</li> <li>13 依存名詞Ⅱ</li> <li>14 絵をつかって物語りをつくる</li> <li>15 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅴ（応用2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅳ」に引き続き、文法力、読解力、語彙力の発展を目指し、新しい文型を用いた例文作りの練習をするとともに長文を読んでいく。また、会話能力や聞き取り能力の向上を目指し、授業はほとんど韓国語で行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 大衆文化について</li> <li>2 引用形の縮約形</li> <li>3 風習や慣習について</li> <li>4 ジャンル別文章表現法</li> <li>5 Review</li> <li>6 作文の構想／意見交換</li> <li>7 仮定法</li> <li>8 韓国語学習の経験について</li> <li>9 丁寧度による様々な表現</li> <li>10 Review</li> <li>11 効果的な外国語学習方法について</li> <li>12 擬声語と擬態語</li> <li>13 男女平等について</li> <li>14 用言の名詞化</li> <li>15 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養	韓国語Ⅵ（応用2）	担当者	沈 民珪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は「韓国語Ⅰ～Ⅴ」で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意見交換ができる場とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 趣味について</li> <li>2 動詞「보다」の多義性</li> <li>3 各国の人気（伝統）スポーツについて</li> <li>4 回想の表現Ⅰ</li> <li>5 Review</li> <li>6 回想の表現Ⅱ</li> <li>7 旅行の計画を立てる</li> <li>8 好きなインターネットサイトについて</li> <li>9 推測の表現</li> <li>10 Review</li> <li>11 未来の生活の変化を推測する</li> <li>12 依存名詞Ⅰ</li> <li>13 依存名詞Ⅱ</li> <li>14 絵をつかって物語りをつくる</li> <li>15 Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『韓国語－高級Ⅰ』 Kyung Hee University Press		出席、中間テスト、期末テスト、課題	

養 外言	英語演習 I (Environmental Issue: Energy Production for the 21st century.) 英語演習 (Environmental Issue: Energy Production for the 21st century.)	担当者	J. ハント
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Safe, reliable energy production and distribution is one of the major issues to be addressed in the 21st century. The recent backlash against nuclear energy has opened up greater opportunities for alternative energy production methods. What are the alternatives, the benefits and the drawbacks of these new technologies, and what is the best solution to our growing global energy dependence?</p> <p>The goals of this course are to investigate, present and discuss the pros and cons of a variety of energy production techniques, making good use of all four language skills: reading, writing, listening and speaking. This course will also test your critical thinking abilities.</p> <p>Students will introduce a topic to the class by way of a powerpoint presentation, leading into class discussions and a summary by the teacher.</p>		<p>Week 1: Course outline; why is energy an issue? Week 2: Presentation techniques and good research practice - a refresher Week 3: Nuclear power - the pros, cons and alternatives Week 4: Solar power - PV cells Week 5: Solar thermal power Week 6: Space-based solar power Week 7: Wind power Week 8: Hydro power Week 9: Geothermal power Week 10: Thermal power - Hydrocarbons Week 11: Thermal power - Biofuels Week 12: Ocean thermal power Week 13: Other alternatives? Week 14: What should we do? Week 15: Pair discussions/interviews</p> <p>(Some topics may change depending on the number of participants and the interests of the class)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required, but students will need access to a computer with internet connection, a printer and a photocopier to download, print out and copy materials for class.		Assessment will be based on class participation (50%), presentations (25%), and written assignments/homework (25%).	

養 外言	英語演習 II (Food for Thought: the production, consumption, sustainability and ethics of the food we eat.) 英語演習 (Food for Thought: the production, consumption, sustainability and ethics of the food we eat.)	担当者	J. ハント
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>What do we eat? Where does our food come from? What should we be eating? What are the global consequences of our daily purchases? What is the future of food production? These are the kinds of questions that will be raised and investigated in this course. Some of the material will be disturbing, some may even be shocking, but in order to be informed and conscientious consumers it is important to have an awareness of the issues involved in producing our daily meals.</p> <p>The goals of this course are to improve English ability, presentation and critical thinking skills, through in-depth investigations into controversial aspects of modern food production and eating habits.</p> <p>Students will introduce a topic to the class by way of a powerpoint presentation, leading into class discussions and a summary by the teacher.</p>		<p>Week 1: Course outline; why is food an issue? Week 2: Presentation techniques and good research practice - a refresher Week 3: Changing diets - a global trend Week 4: Meat Week 5: Animal rights Week 6: Fast food Week 7: Global obesity epidemic Week 8: Seafood Week 9: GM Food Week 10: Cloning Week 11: Additives Week 12: Agricultural pollution Week 13: Water Week 14: What should we do? Week 15: Pair discussions/interviews</p> <p>(Some topics may change depending on the number of participants and the interests of the class)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required, but students will need access to a computer with internet connection, a printer and a photocopier to download, print out and copy materials for class.		Assessment will be based on class participation (50%), presentations (25%), and written assignments/homework (25%).	

養 外言	英語演習 I (Advertising Strategies and Techniques) 英語演習 (Advertising Strategies and Techniques)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course will investigate the context of advertising. Students will learn to recognize the strategies and techniques organizations use to promote goods or services to encourage people to buy or use them. Forms of advertising to be analyzed will include television commercials, radio adverts, press advertising in newspapers and magazines, film and sponsorship.</p> <p>Students will be expected to share their experience, knowledge and opinions.</p> <p>English level: Intermediate</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and questionnaire</li> <li>2. Media</li> <li>3. Image Analysis</li> <li>4. Visual Language</li> <li>5. Audience</li> <li>6. Appeal</li> <li>7. Persuasion</li> <li>8. Presentation</li> <li>9. Representation</li> <li>10. Stereotypes</li> <li>11. Stereotypes</li> <li>12. Codes of Advertising and Sales promotion</li> <li>13. Review</li> <li>14. Speaking test</li> <li>15. Film</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have a dictionary.		The final grade will combine the following: Attendance, classwork, homework, presentation.	

養 外言	英語演習 II (Media Studies) 英語演習 (Media Studies)	担当者	M. デル ベツキオ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to discuss issues represented in the media. Students will also learn how and why they are produced, the messages and values they contain and how the audience is expected to respond.</p> <p>Students are expected to do some research, share their experience, knowledge and opinions on the issues brought up by the media viewed in class.</p> <p>Since the material used for this class will not be adapted, the level of English required is upper intermediate to advanced.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reality shows</li> <li>3. Reality shows</li> <li>4. Chat shows</li> <li>5. Talk shows</li> <li>6. Presentation</li> <li>7. Cartoons</li> <li>8. Print</li> <li>9. Newspapers</li> <li>10. Newspapers</li> <li>11. Magazines</li> <li>12. Magazines</li> <li>13. Movies</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Discussion and Review</li> </ol> <p>Note: Changes may be made.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should have a dictionary.		The final grade will combine the following: Attendance, classwork, homework, presentation.	

養 外言	英語演習Ⅰ (Taking sides on current issues) 英語演習 (Taking sides on current issues)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In a recent study 「企業の求める英語力調査」 funded by MEXT (文科省), over 5,000 leading business people in Japan insisted that the most required skill to survive in the highly competitive global market is the negotiation skill. They strongly suggest to students to have an ample practice in both presentation and debate in educational institutions.</p> <p>This course will focus on developing students' critical thinking and persuasion skill through analyzing controversial issues. Students are encouraged to propose topics that would interest them and learn to convey their ideas precisely in more convincing and effective manners. Each lesson will focus on developing a specific debate skill area rather than having in-class debate tournaments. By learning the theories, students will have a basic knowledge of conducting a formal debate that would also be useful in the business context.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Orientation</li> <li>2 Topic Selection</li> <li>3 Research and Note cards</li> <li>4 Signposts and the basic rules of a debate</li> <li>5 Organizing ideas/ Constructive speech planning</li> <li>6 Agree/Disagree to arguments</li> <li>7 Testing supports and critical thinking</li> <li>8 Refutation/Responding to attacks</li> <li>9 Nonverbal matters</li> <li>10 Persuasion</li> <li>11 Rebuttal/ Cross-examination</li> <li>12 Time management</li> <li>13 Judging a debate</li> <li>14 Review test</li> <li>15 Course reflection</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials will be provided by the instructor. Students should bring their own English-English dictionary.		The final grade will be based on the attendance, class performance, assignments, and one review test.	

養 外言	英語演習Ⅱ (Society through Music) 英語演習 (Society through Music)	担当者	ロン 美香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Music has a significant influence on its listeners and sets the tone for cultures. Likewise, social matters and world events influence the content of music. The goal of this course is to develop students' linguistic abilities by listening to popular music and reading related articles from printed and online sources to raise more awareness towards the world in which we live in. The course will be divided into three parts. First, we will cover some of the key events around the world to deepen our understanding of the modern world history. Next, we will look at social issues such as racism, poverty, and materialism. Lastly, students will conduct individual research and present their findings in class. The attendance is utmost important and students are expected to actively engage in discussions and learnings.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. USA</li> <li>3. The Middle East</li> <li>4. Europe</li> <li>5. South East Asia</li> <li>6. Russia</li> <li>7. South America</li> <li>8. Racism</li> <li>9. Materialistic society</li> <li>10. Social isolation</li> <li>11. Violence</li> <li>12. Love and modern slavery</li> <li>13. Peace</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. Examination</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Articles will be provided by the instructor. Students should bring their own English dictionary and have the access to the internet.		Students' evaluation will be based on their attendance, class performance, completion of assignments on time, one exam, and a presentation.	

養 外言	英語演習Ⅰ 英語演習	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語演習」(Scientific &amp; Philosophical Love Theory with Exercises)では「恋心を科学・哲学する」というテーマを素材にし、英語能力のさらなる向上と対象を独自の視点で詳細に分析する能力を養うのが狙いである。授業ではテキストのリーディングとそれに基づいたディスカッションからなる。加えて、歌詞など身近な素材も適宜併用して授業を活性化させる。いずれにせよ、あくまで「英語演習」なので授業内は基本的に英語での参加/進行とする予定。また、毎回の積極的な参加が必要であり、規定の回数(特段の理由なく3回)以上欠席した場合には単位取得とはなりえないのであらかじめその旨了解した上で受講すること。</p> <p>The aim this course is to improve your integrated English skills through Scientific &amp; Philosophical Love Theory. You cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. We will basically use English though all the classes.</p>		1 Introduction 2 Being in Love 3 Love among the Animals 4 Scanning the Brain in love 5 Lust, Romance, and Attachment 1 6 Lust, Romance, and Attachment 2 7 Who We Choose 1 8 Who We Choose 2 9 The Evolution of Romantic Love 1 10 The Evolution of Romantic Love 2 11 Lost Love 1 12 Lost Love 2 13 Making Romance Last 14 The Triumph of Love 15 Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Why we love?</i> Helen Fisher 恋愛に関する文献は随時授業内で紹介します。		Attendance & Participation 30% Class work & Homework 40% Final Paper or Presentation 30%	

養 外言	英語演習Ⅱ 英語演習	担当者	関戸 冬彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この「英語演習」(<i>The Great Gatsby</i> with Exercises)では春学期のテーマ「恋心」に通底する小説<i>The Great Gatsby</i>を素材にしなが、英語能力のさらなる向上と対象を独自の視点で詳細に分析する能力を養うのが狙いである。クラス内ではテキストのリーディングとそれに基づいたディスカッションからなる。ただ読むだけで(も面白いが)、を超えて「男脳・女脳」の違いなど、男女の違いについての視線を絶えず意識しながら多角的に考えたい。加えて、歌詞など身近な素材も適宜併用して授業を活性化させる。いずれにせよ、あくまで「英語演習」なので授業内は基本的に英語での参加/進行とする予定。また、毎回の積極的な参加が必要であり、規定の回数(特段の理由なく3回)以上欠席した場合には単位取得とはなりえないのであらかじめその旨了解した上で受講すること。</p> <p>The aim this course is to improve your integrated English skills through <i>The Great Gatsby</i>. You cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons. We will basically use English though all the classes.</p>		1 Introduction 2 Chapter 1 3 Chapter 2 4 Chapter 3 5 Chapter 4 6 Chapter 5 7 Chapter 6 8 Chapter 7 9 Chapter 8 10 Chapter 9 11 Thinking Gatsby though the movie 1 12 Thinking Gatsby through the movie 2 13 Comparing Gatsby with other fictions 1 14 Comparing Gatsby with other fictions 2 15 Final Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Great Gatsby</i> F. Scott Fitzgerald 「男脳・女脳」に関する文献は随時授業内で紹介します。		Attendance & Participation 30% Class work & Homework 40% Final Paper or Presentation 30%	

養 外言	英語演習Ⅰ（映画英語） 英語演習（映画英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ジャーナリストを目指す20代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画<i>The Devil Wears Prada</i>を教材として、英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。</p> <p>講義内容 オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていき、最終的には映画のいくつかのシーンを英語でダビングやグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、グループディスカッションで登場人物の会話の含みを考えていく。</p> <p>毎回課題があるので、必ずやってくる。グループプロジェクトとして1シーンのscriptの共同執筆、ロールプレイの発表がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2</li> <li>4. Chapter 3</li> <li>5. Chapter 4</li> <li>6. Chapter 5</li> <li>7. Chapter 6</li> <li>8. Chapter 7</li> <li>9. Chapter 8</li> <li>10. Chapter 9</li> <li>11. Chapter 10</li> <li>12. Chapter 11</li> <li>13. Chapter 12</li> <li>14. Review</li> <li>15. Exam</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Aline Brosh McKenna, <i>The Devil Wears Prada</i> 松柏社		出席（30%） 課題、授業への積極的参加度、口頭発表（40%） 期末テスト（30%）	

養 外言	英語演習Ⅱ（映画英語） 英語演習（映画英語）	担当者	中込 知子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 98年度のアカデミー賞やゴールデングローブ賞を受賞した<i>Good Will Hunting</i>を教材として現代アメリカの社会背景を学びながら日常に話される英語のスピードに慣れ、聴解力と自分の意見をまとめて発表できる発話力の向上を目指す。</p> <p>講義内容 各シーンの台詞の内容を理解した後に、それぞれの意見をまとめ、グループディスカッションを通して主人公の心の変化、登場人物の発言の意味、性格等について意見の交換を行う。また、監督の意図するテーマに対しての各場面設定の持つ意味も考えていく。</p> <p>毎回課題があるので、必ずやってくる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Chapter 1</li> <li>3. Chapter 2</li> <li>4. Chapter 3</li> <li>5. Chapter 4</li> <li>6. Chapter 5</li> <li>7. Chapter 6</li> <li>8. Chapter 7</li> <li>9. Chapter 8</li> <li>10. Chapter 9</li> <li>11. Chapter 10</li> <li>12. Chapter 11</li> <li>13. Chapter 12</li> <li>14. Review</li> <li>15. Exam</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alan Rosen 楠元実子, <i>Good Will Hunting</i> 松柏社		出席（30%） 課題、授業への積極的参加度、口頭発表（40%） 期末テスト（30%）	

養 外言	英語演習Ⅰ（英語翻訳） 英語演習（英語翻訳）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、翻訳の実技演習をおこなう。</p> <p>翻訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。</p> <p>翻訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。</p> <p>なお、グループ作業中心の授業となるので、チームで協力して作業する態度が求められる。</p>		01 オリエンテーション 02 字幕翻訳とは 03 字幕翻訳の約束事 04 プロモーションビデオの翻訳 1 05 プロモーションビデオの翻訳 2 06 プロモーションビデオの翻訳 3 07 作品発表・講評 08 映画の翻訳 1 09 映画の翻訳 2 10 映画の翻訳 3 11 映画の翻訳 4 12 経過発表・講評 13 映画の翻訳 5 14 映画の翻訳 6 15 作品発表・総評	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時プリントなどを配布する。		授業内で実施する確認テスト 100%	

養 外言	英語演習Ⅱ（英語通訳） 英語演習（英語通訳）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、「英語を単なる『知識』ではなく、活用できる『スキル』にすること」を目標ととらえ、その目標を達成するために、主に通訳の実技演習をおこなう。つまり、通訳の技能を修得・向上させることにより、「知識」としての英語を実際に使いこなせる「スキル」へと質的变化を起こさせることを狙う。</p> <p>通訳の技能を修得する過程では、複合的な分野を強化していくことになる。英語の運用能力のみならず、日本語の運用能力、知識の増強なども行う予定である。</p>		1 オリエンテーション 2 アテンド・随行通訳 3 パーティー・レセプション通訳 4 工場見学通訳 5 ビジネス・商談通訳 6 芸能・スポーツ通訳 7 確認テスト (1) 8 ニュースのボイスオーバー 9 司法通訳 10 医療通訳 11 国際政治や軍事に関するトピックの通訳 12 インタビュー対談通訳 13 セミナー・講演会通訳 14 国際会議同時通訳 15 確認テスト (2)	
テキスト、参考文献		評価方法	
『通訳の現場から学ぶ実践演習』		出席 50% テスト 50%	

養 外言	スペイン語演習 I スペイン語演習	担当者	J. フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語にないスペイン語の独特な「音」を一人一人に繰り返させて、スペイン語らしい発音ができるようにすることとともに聞き取り能力を養成する。参加者のご興味にしたがって色々な話をして見ること。</p> <p>スペイン語圏の国々に於ける行事、慣習(洗礼、初聖体拝領、結婚式、葬式、イースター、クリスマス、死者の日、など)をビデオや写真によって学ぶこと。日本文化との比較できるだけスペイン語を使いながら表現して見ること。</p>		<p>参加者のスペイン語能力を判断してから授業の中身を決める。</p> <p><b>1</b> Juzgar el nivel de cada estudiante haciéndolos recordar lo aprendido.</p> <p><b>2-3</b> Repaso de tiempos verbales en que parezcan tener más dificultades, en especial el uso de reflexivo y subjuntivo.</p> <p><b>4</b> Ceremonias religiosas y celebraciones importantes en la cultura de los hispanohablantes ilustrando con videos o fotografías: Bautismo.</p> <p><b>5</b> Primera Comunión.</p> <p><b>6</b> Casamiento</p> <p><b>7</b> Funeral</p> <p><b>8</b> Pascua de resurrección</p> <p><b>9</b> Navidad</p> <p><b>10</b> Día de los Muertos</p> <p><b>11</b> Día del Estudiante</p> <p><b>12</b> Descubrimiento de América</p> <p><b>13</b> Modas femeninas: Uso de peinetón y mantilla.</p> <p><b>14</b> Comidas y bebidas típicas: Asado argentino.</p> <p><b>15</b> Mate.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト代わり必要な時プリントを配布する。		出席、授業への積極的参加、小テスト2回。	

養 外言	スペイン語演習 II スペイン語演習	担当者	J. フェレーラス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語圏の国と日本文化との比較できるだけスペイン語を使いながら表現して見ること。参加者のご興味にしたがって色々な話をして見ること。</p>		<p>Presentaciones a cargo de los estudiantes que lo deseen:</p> <p><b>1-2-3-4-5</b> Experiencias de viajes de estudio, quienes hayan estudiado en otro país hablarán de su experiencia mostrando fotos o videos.</p> <p><b>6-7-8-9-10</b> Sobre infancia y adolescencia, comparadas en algunos casos con las experiencias del profesor.</p> <p><b>11-12-13-14-15</b> Temas de actualidad, artes, tecnología, política, etc. Expresiones de deseos para el futuro, vocaciones.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト代わり必要な時プリントを配布する。		出席、授業への積極的参加、小テスト2回。	

養 外言	スペイン語演習 I スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけていきます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Presentación del curso, evaluación de nivel.</li> <li>2. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte 1.</li> <li>3. España: grandes protagonistas de la pintura. Parte 2.</li> <li>4. Presentación oral sobre pintores españoles.</li> <li>5. Antonio Gaudí y sus obras más emblemáticas. Parte 1.</li> <li>6. Antonio Gaudí y sus obras más emblemáticas. Parte 2.</li> <li>7. Presentación oral sobre algunas obras de A. Gaudí.</li> <li>8. Examen Parcial.</li> <li>9. Cine hispano. Grandes protagonistas.</li> <li>10. Análisis de una película hispana. Parte I.</li> <li>11. Análisis de una película hispana. Parte II.</li> <li>12. Intercambio de opiniones sobre películas.</li> <li>13. España: Patrimonios de la Humanidad.</li> <li>14. Presentación oral sobre un Patrimonio de la Humanidad.</li> <li>15. Examen Final.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	

養 外言	スペイン語演習 II スペイン語演習	担当者	N. ウエチ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。スペインとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけていきます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。</p>		<p>Plan de estudio sujeto a cambios.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Gabriel García Márquez. Referencia biográfica.</li> <li>2. Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras I.</li> <li>3. Comprensión y discusión sobre partes de sus Obras II.</li> <li>4. Presentación oral de una sinopsis de una de sus obras.</li> <li>5. Fernando Botero. Sus obras. Parte 1.</li> <li>6. Fernando Botero. Sus obras. Parte 2.</li> <li>7. Intercambio de opiniones sobre sus obras.</li> <li>8. Examen Parcial.</li> <li>9. Argentina: información general.</li> <li>10. Literatura argentina. Parte 1.</li> <li>11. Literatura argentina. Parte 2.</li> <li>12. Cuba. Información general.</li> <li>13. Che Guevara y Cuba.</li> <li>14. Presentación oral.</li> <li>15. Examen Final.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で配布		60%を授業への出席と積極的参加ならびに提出課題、口頭発表とグループ討論、残りの40%を2回の試験によって行う。	

養 外言	中国語演習 I 中国語演習	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>台湾で 2008 年に公開され大ヒットした『海角七號』（君想う、国境の南）の脚本（魏徳聖原著）を小説に改作した『海角七號』（藍戈豊改作）をダイジェストで読む。</p> <p>1940 年代と現代の台湾を舞台に、約 60 年間届かなかったラブレターが 2 つの時代の恋物語をつなぐ切ないラブストーリーである。</p> <p>受講生各自が中国語Ⅳまでで身につけた語彙力・文法知識や中国理解を動員して読んでいき、もって読解力の養成を目指す。</p> <p>常套表現・方言的色彩・文化的な背景などの面にも目配りし、言語と文化をともに読み解く姿勢で臨む。</p> <p><u>もちろん、教科書のようにピンイン付きの分かり書きになどになったテキストではないので、基礎力と相当の努力が必要となる。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 台北（台北）</li> <li>2 南（南）、恒春（恒春）</li> <li>3 南投（南投）、西門（西门）</li> <li>4 海角（海角）、南 その二（南之二）</li> <li>5 シャトーホテル（夏都）</li> <li>6 公会堂（活动中心）</li> <li>7 バンド（乐团）</li> <li>8 練習スタジオ（练团室）</li> <li>9 保力村（保力）、恒春 その二（恒春之二）</li> <li>10 南 その三（南之三）</li> <li>11 披露宴（喜宴）、虹（彩虹）</li> <li>12 トンボ玉（琉璃珠）、海角七号（海角七号）</li> <li>13 コンサート（演唱会）、</li> <li>14 南 その四（南之四）</li> <li>15 映画鑑賞</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業への出席，授業への積極的参加（発表），授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国語演習 II 中国語演習	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。</p> <p>これらから面白いニュースを拾って、そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。</p> <p>“ナマの”記事だけに、語彙や文体に特有のものも含まれる一方、内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。</p> <p><u>もちろん、教科書のようにピンイン付きの分かり書きになどになったテキストではないので、基礎力と相当の努力が必要となる。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 列に並ばぬ理由「割り込みしないと前に進めない」</li> <li>3 「教員職務ガイドライン」が訳がわからないと議論に</li> <li>4 息子の結婚式にストリッパーを呼んだ父親に罰金刑</li> <li>5 そこまでして座りたいのか！「ニセ妊婦」</li> <li>6 ありのままがかっこいい？中国の新世代の「裸現象」</li> <li>7 中国版「なんでも鑑定団」に不祥事？！</li> <li>8 村1つ「なかった」ことに…行政ミスで12年間放置</li> <li>9 中国で話題のイケメン医師、女性患者が殺到</li> <li>10 暴漢が開き直り「おれの親父が法律だ」</li> <li>11 「高句麗は…」、中国人ガイドの説明に大激怒</li> <li>12 野生のゾウが高圧電線に触れ感電死</li> <li>13 風船が爆発…ライター隣の隣で販売</li> <li>14 故宮博物院の恥ずかしい失敗とスキャンダル</li> <li>15 動物園でパンダがクジャクを襲撃、かみ殺す</li> </ol> <p>※ 記事については差し替えの可能性があります</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。		授業への出席，授業への積極的参加（発表），授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国語演習Ⅰ（中国語ビジネス文書） 中国語演習	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年、世界に存在感を増す中国の急成長を背景に、現在、中国語を操り、日中間のコミュニケーションの一翼を担える人材の育成が急務となっています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス業務に焦点を合わせ、「ビジネスレター」「契約書」など、中国語によるビジネス文書の様々な表現方法を習得します。</p> <p>授業は、現在ビジネス実務の現場にいる講師が、実際に使用されている実務資料を使って進め、中国語とともにビジネス分野の専門用語や「貿易業務」に関する基礎知識の理解を目指します。</p> <p>実際の授業では将来の進路選択の一助となるよう、毎回中国語で「ビジネスレター」を作成すると同時に、ゼミ形式で授業を進め全員に発言の機会を提供します。</p> <p>理解をより深める為、秋学期中国語演習Ⅱ（金2限）の受講を薦めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日中貿易概説</li> <li>2 中国語のビジネスレターの概要</li> <li>3 業務取引の申し込みと CIF</li> <li>4 業務取引の申し込みと CFR</li> <li>5 見積書の送付依頼</li> <li>6 見積書の送付依頼と FOB</li> <li>7 サンプル送付に対する回答（一）</li> <li>8 サンプル送付に対する回答（二）</li> <li>9 製品紹介のレターと Form A</li> <li>10 オフファーシートの送付</li> <li>11 L/C と船積書類（一）</li> <li>12 L/C と船積書類（二）</li> <li>13 契約書（Ⅰ）（契約内容）</li> <li>14 契約書（Ⅱ）（支払方法）とインボイス</li> <li>15 実習とまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ 毎回配布するプリント		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が60点以上で単位取得。	

養 外言	中国語演習Ⅱ（中国語ビジネス会話） 中国語演習	担当者	吉田 桂子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を中心に、<b>聞いて話せる中国語能力</b>を習得します。授業では、徹底的に「聞く」/「話す」/「理解する」訓練を繰り返すことにより、語学力の確実な向上を目指します。</p> <p>同時に、様々なビジネス分野の専門用語を含め、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、「ビジネス業務」全般の基礎知識を習得し、日本企業の積極的な中国進出が続く中、中国語で直接コミュニケーションができ、且つ中国社会や現地の商習慣を理解し得る人材の育成を目指します。</p> <p>また、ビジネス業務をスムーズに遂行するため中国現地のビジネスマナーも併せて学習します。</p> <p>実際の授業では、<b>毎回全員にビジネス会話のチャンス</b>を配分しながらゼミ形式で授業を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 商談の基礎/アポイントメント</li> <li>2 アポイントメントの取得</li> <li>3 引き合い</li> <li>4 オフファー</li> <li>5 商品及びメーカーの紹介</li> <li>6 カウンタービット</li> <li>7 コミッションに関する話し合い</li> <li>8 オーダーを確認する</li> <li>9 支払条件（一）</li> <li>10 船積期日</li> <li>11 パッキング条件</li> <li>12 契約締結</li> <li>13 インシュランス（保険）と A/R、WA、FPA</li> <li>14 クレームの申し立て</li> <li>15 実習とまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
・ 『実習ビジネス中国語—商談編』 白水社		・ 出席率、平常授業及び定期試験の成績を総合して評価。総合成績が60点以上で単位取得。	

養	韓国語演習 I 韓国語 V・VI (応用 1・2) 再履修	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
本講義は、高度な韓国語運用力を習得するためのものである。ある程度まとまった文章を読むことによって、豊かな表現力を身に付けていく。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 戦争からの解放(韓国史ドキュメンタリ)</li> <li>3. 資料講読&amp;作文</li> <li>4. 貧困からの解放(韓国史ドキュメンタリ)</li> <li>5. 資料講読&amp;作文</li> <li>6. 独裁からの解放(韓国史ドキュメンタリ)</li> <li>7. 資料講読&amp;作文</li> <li>8. 性からの解放(韓国史ドキュメンタリ)</li> <li>9. 資料講読&amp;作文</li> <li>10. 無知からの解放(韓国史ドキュメンタリ)</li> <li>11. 資料講読&amp;作文</li> <li>12. ディベート準備①</li> <li>13. ディベート準備②</li> <li>14. ディベート①</li> <li>15. ディベート②</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料をコピーして配布する 授業中に参考文献を紹介する		出席 100%、 課題、 小テスト、 ディベート	

養	韓国語演習 II 韓国語 V・VI (応用 1・2) 再履修	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
韓国語の様々な様相を学ぶ。 講義はすべて韓国語で行われるため、受講者には高度な韓国語運用能力が要求される。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. エッセイ①(因縁)</li> <li>3. エッセイ②</li> <li>4. 小説 ①(夕立)</li> <li>5. 小説 ②</li> <li>6. 小説 ③</li> <li>7. 小説 ④</li> <li>8. 小説 ⑤</li> <li>9. エッセイ①(無所有)</li> <li>10. エッセイ②</li> <li>11. コラム①</li> <li>12. 中世詩①(詩調)</li> <li>13. 近代詩①</li> <li>14. 現代詩①</li> <li>15. 現代詩②</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料をコピーして配布する 授業中に参考文献を紹介する		出席 100%、小テスト、課題、発表	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰ（スペイン） スペイン・ラテンアメリカ文化論 a	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅰでは、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。</p> <p>講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。</p> <p>なお、秋学期に開講される「スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ）」と関連性・連続性が強いので、秋学期には左記授業を選択することが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界のスペイン語</li> <li>2. イベリア半島の地理・言語状況</li> <li>3. カタルーニャの言語文化 1</li> <li>4. カタルーニャの言語文化 2</li> <li>5. バスク、ガリシアの言語文化</li> <li>6. アンダルシーアの言語文化</li> <li>7. イスラム・スペイン</li> <li>8. 1492</li> <li>9. フラメンコ・闘牛</li> <li>10. スペイン黄金世紀</li> <li>11. 18、19世紀のスペイン</li> <li>12. 18、19世紀のスペイン</li> <li>13. スペイン内戦とフランコ体制</li> <li>14. スペインの民主化とヨーロッパ統合</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、定期試験によって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究入門Ⅱ（ラテンアメリカ） スペイン・ラテンアメリカ文化論 b	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、ラテンアメリカを対象とした地域研究入門の授業である。スペイン語履修者が知らなければならないラテンアメリカに関する基礎知識を修得して、ラテンアメリカの特徴や魅力、抱えている課題についての理解を深めることを目的としている。</p> <p>高校での地理、世界史などの授業においてラテンアメリカの項目は限定されているが、それでもいくつかの重要項目については教えられている。この授業では、それらの基礎知識を(再)確認するとともに、ラテンアメリカの人々の生活や社会の現状について歴史的背景を含めてより深く知る場としたい。佐藤と浦部で担当する。</p> <p>春学期授業とセットで履修することを希望する。 ラテンアメリカ研究を研究課題としたいと考えている人は必須である。</p>		<p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入：「ラテンアメリカ」とは</li> <li>2 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況①</li> <li>3 ラテンアメリカの「人種」エスニック集団と言語状況②</li> <li>4 ラテンアメリカ史概説 独立まで</li> <li>5 カリブ海地域の概要 歴史と社会・文化</li> <li>6 メキシコ・中米地域の概要 歴史と社会・文化</li> <li>7 現代ラテンアメリカの文化：文学、音楽、絵画</li> </ol> <p>浦部担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8 環境と生活1：アンデスの自然環境と食料生産</li> <li>9 環境と生活2：アマゾンの自然環境と資源利用</li> <li>10 人と社会1：宗教・価値規範と人間関係</li> <li>11 人と社会2：家族・大土地所有制と社会格差</li> <li>12 政治と経済1：政治体制と人権・民主主義</li> <li>13 政治と経済2：経済政策と貧困・社会公正</li> </ol> <p>佐藤担当</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>14 米国のラテンアメリカ系住民</li> <li>15 まとめ 佐藤担当</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）		期末テスト、出席・発言など	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究 I (ラテンアメリカの歴史と社会) 地域文化論 i a	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、ラテンアメリカおよびカリブ海地域を対象として、人の移動とその結果生まれることになる「人種・エスニック」間関係史に焦点をあてながら、ラテンアメリカ史（カリブ海地域史も含まれる）の基礎的事項とその特徴を世界史の展開と関係付けて理解することにある。歴史理解を通じて、ラテンアメリカ的特質とは何かを探っていく場としたい。その際、米国史の諸特質との差異や類似点には特に注意を向けたいと思う。</p> <p>また、上記と密接に関係するが、史上、欧米列強の支配領域（公式、非公式）であったラテンアメリカの自立の道のりを概観する。</p> <p>この講義では、先コロンブス期から現代までを絵画や音楽、文献史料などのおもにメキシコ関係の具体的な素材を使って概観していく。参加型の授業形態を試みたいので、履修生に全員の発言を求める。授業計画の各回後半に示したものは、みんなで検討したい資料である。</p> <p>なお、より詳しい 20 世紀史については春学期に別の授業が用意されている。一部、重なる部分がある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 問題の所在</li> <li>2 ラテンアメリカの自己表象と他者表象：メキシコ 1930 年代の観光ポスター</li> <li>3 1492 年と現代世界：『コロンブス航海記』</li> <li>4 『インディアス破壊に関する簡潔な報告』：カリブ海の征服</li> <li>5 「メンドーサ絵文書」：先コロンブス期の諸文明</li> <li>6 アステカとインカの征服：『メキシコ征服記』</li> <li>7 スペイン植民地支配の特徴：「グアダルーベの聖母」像</li> <li>8 ラテンアメリカの独立：浜忠雄『ハイチ革命とフランス革命』表紙絵と「ジャマイカ書簡」</li> <li>9 国家形成の模索と「ラテンアメリカ」概念の成立：フアレスの肖像とサルセドの詩</li> <li>10 西欧列強のカリブ海地域支配の展開：『太鼓歌を聞け』</li> <li>11 イギリス非公式帝国と米国の覇権：野球とサッカー</li> <li>12 「近代化」の模索（20 世紀のラテンアメリカ）：フリーダ・カーロ</li> <li>13 中国人排斥プロパガンダ：アジアとラテンアメリカの関係史</li> <li>14 21 世紀アメリカの時代：リラ・ダウンス</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社、文庫版もある）。参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）。		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論 I (ラテンアメリカ近現代史) 地域文化論 i b	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、主に 19 世紀半ば以降のカリブ海地域・ラテンアメリカを対象にして、米国と向き合わざるを得ないラテンアメリカとその自立の動きを現代までおっていき。基礎的歴史事項の修得を第一の目標にするが、それとともに、現代ラテンアメリカに関する多面的理解に資するものとして。現代ラテンアメリカの特徴は、①「もうひとつの世界」をもとめるラテンアメリカ、②経済と人の移動を通して一体化する南北「アメリカ」、という一見相反する動きがみられるところにある。ラテンアメリカはこれからどの方向に進んでいくのか考えるための素材を提供していき、履修生が自ら考える場としたい。</p> <p>ラテンアメリカ史の全体的ながれについては、春学期に別の授業が用意されている。</p> <p>なお、授業の最初には、音楽、映画、絵画、文学、大衆芸術など多様なラテンアメリカ文化を本論のテーマと関連付けて紹介し、ラテンアメリカ文化理解への導入としたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 問題の所在 サパティスタ蜂起の問いかけ</li> <li>2 「ラテンアメリカ」概念の誕生 パナマ「スイカ事件」①</li> <li>3 「ラテンアメリカ」概念の誕生 パナマ「スイカ事件」②</li> <li>4 メキシコ・米国関係史① テキサス共和国の独立</li> <li>5 メキシコ・米国関係史② 米墨戦争から 20 世紀初頭</li> <li>6 メキシコ・米国関係史③ メキシコ革命</li> <li>7 中米・カリブ海地域と米国① 米西戦争と米国による中米・カリブ海支配</li> <li>8 中米・カリブ海地域と米国② 米国の運河：ニカラグアとパナマ +ニカラグア革命</li> <li>9 中米・カリブ海地域と米国③ 米国からの自立の模索 +キューバ革命</li> <li>10 権威主義体制から民主化へ（南米を中心に）</li> <li>11 ラテンアメリカにおけるアイデンティティ・ポリティクスの展開①：先住民</li> <li>12 カリブ海地域におけるアイデンティティ・ポリティクスの展開②：クレオール</li> <li>13 新しい「人種」カテゴリーの誕生③：米国ラティーノ</li> <li>14 現代ラテンアメリカにおける反システム運動と対抗文化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：高橋均・網野徹也『ラテンアメリカ文明の興亡（世界の歴史 18）』（中央公論社、文庫版もある）。参考文献：増田義郎『物語 ラテンアメリカの歴史』（中公新書）。		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅱ(ラテンアメリカの政治と社会) 地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究a)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異なる言語や文化をもつ小国家群も存在する。</p> <p>本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に挙げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考えていく。</p>		<p>I. 政治と社会の歩み</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ラテンアメリカ諸国の独立(19世紀)</li> <li>2. 近代化とポピュリズム政権(20世紀前半)</li> <li>3. 国家発展の追求と軍事政権(1960年代～)</li> <li>4. 民主化の波(1980年代～)</li> </ol> <p>II. ラテンアメリカ地域の共通性と多様性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. アンデス地域(ペルー・ボリビアなど)</li> <li>6. コノスール地域(アルゼンチン・ブラジルなど)</li> <li>7. メキシコ・中米地域(メキシコ・グアテマラなど)</li> <li>8. カリブ地域(ジャマイカ、ハイチなど)</li> </ol> <p>III. 現代ラテンアメリカの諸問題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. ネオリベリズムと貧困・社会格差</li> <li>10. 先住民運動と多文化主義</li> <li>11. 麻薬問題と暴力・ゲリラ</li> <li>12. 民主主義と人権・自由</li> </ol> <p>IV. 政治と社会の展望</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 民主主義は根付くのか?</li> <li>14. 経済成長と社会公正の両立は実現できるのか?</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験(これに出席状況を加味する)。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅱ(ラテンアメリカ国際関係論) 地域社会文化論特殊講義(現代ラテンアメリカ研究b)	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解を深めることを目標とする。</p> <p>ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また独立国としても200年近い歴史をもつ、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。</p> <p>本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、米州(南北アメリカ)やラテンアメリカ域内の国際関係に関する重要論点について学んでいく。そして、経済グローバル化とその副作用、ラテンアメリカで強まりつつある反米・左傾化の流れを把握し、この地域が抱える21世紀の課題について考えていきたい。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。</p>		<p>I. ラテンアメリカの国際関係史</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コロンブスとラテンアメリカ(植民地期)</li> <li>2. ラテンアメリカの近代化世界経済(19世紀)</li> <li>3. 米国の覇権主義とラテンアメリカ(20世紀)</li> <li>4. 地域協調時代のラテンアメリカ(1990年代以降)</li> </ol> <p>II. 米州域内の国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. キューバと米国</li> <li>6. ラテンアメリカの軍事政権と米国</li> <li>7. 経済改革とワシントン・コンセンサス</li> <li>8. 米州機構と民主主義支援</li> </ol> <p>III. 現代ラテンアメリカの国際関係</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 自由貿易の拡大とインフラ統合</li> <li>10. 経済のグローバル化と貧困の増大</li> <li>11. 反グローバリズムと社会運動</li> <li>12. 反米・左傾化するラテンアメリカ</li> </ol> <p>IV. 日本とラテンアメリカの関係</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 日本人移民と日系社会</li> <li>14. 日本の対ラテンアメリカ協力</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験(これに出席状況を加味する)。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究Ⅲ(ラテンアメリカの経済と社会) 地域経済論 i a	担当者	今井 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. ラテンアメリカ経済社会構造の特質を、アジア、アフリカとの比較しながら理解し、ラテンアメリカ地域の自然・住民・宗教・文化について概観する。</p> <p>2. ラテンアメリカ地域の経済社会の歴史の変遷過程を辿り、植民地前の先住民社会、植民地期の政策に関してその基本構造を把握する。そして独立後の国家建設および経済開発の思想と政策を学び、経済社会構造の変容を理解する。</p> <p>3. こうした考察を踏まえてラテンアメリカ経済の現状を分析し、グローバル化が進む中でラテンアメリカ諸国が直面している主要な経済社会問題について考察する。そしてこれらの問題に対する各国政府や国際機関の取り組みを紹介する。</p> <p>4. ラテンアメリカにおける開発の思想、理論、政策について紹介し、コスタリカ・モデル（非武装・中立・教育・福祉・環境重視）と呼ばれる開発政策を中心に、持続可能な開発のあり方について考える。</p> <p>5. 日本とラテンアメリカの関係を移民、外交、貿易、投資、経済協力について考察し、グローバル化時代における日本とラテンアメリカの協力関係のあり方について考える。主として講義形式で授業を進めるが、テーマに応じて受講生によるディスカッション形式もとり入れたい。</p>		<p>1. ラテンアメリカ概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカの比較</p> <p>2. 第1章 ラテンアメリカ経済社会の歴史の変遷過程 第1節 ラテンアメリカ経済史の時期区分</p> <p>3. 第2節 植民地期以前の先コロンブス期（-15世紀末）コロンブス一行到来以前の先住民社会の概観</p> <p>4. 第3節 植民地期（15世紀末-19世紀初め）</p> <p>5. 第4節 独立期（19世紀初め-19世紀半ば）</p> <p>6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期（19世紀半ば-1929年恐慌）</p> <p>7. 第6節 工業化から地域統合に至る時期（1929年恐慌-現在）</p> <p>8. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題</p> <p>9. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題</p> <p>10. 第2章 ラテンアメリカ経済社会の現状と課題</p> <p>11. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策</p> <p>12. 第3章 ラテンアメリカの開発思想・理論・政策</p> <p>13. 第4章 日本とラテンアメリカの経済関係</p> <p>14. 第4章 日本とラテンアメリカの経済関係</p> <p>15. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（参考書）国本伊代・中川文雄編『ラテンアメリカ研究への招待』新評論、2005、今井圭子編『ラテンアメリカ 開発の思想』日本経済評論社、2004、西島章次・細野昭雄編『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2004、宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本経済評論社、2009。</p>		<p>授業中にリアクション・ペーパー、学期末にレポートを提出。リアクション・ペーパーとレポート、出席、授業参加状況を合わせて評価する。</p>	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論Ⅲ(ラテンアメリカ経済発展論) 地域経済論 i b	担当者	今井 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1. ラテンアメリカの経済を理解するために、まず基礎的な経済理論、経済用語について学ぶ。</p> <p>2. ラテンアメリカ経済の現状と特質を、その政治社会構造を踏まえながら理解する。ラテンアメリカ経済の主要なテーマをとりあげ、その現状と課題、政策について考察する。こうした問題への理解を深めながら、経済のグローバル化がラテンアメリカ経済に及ぼしてきた影響を、WTOとラテンアメリカの経済統合・自由貿易協定、経済の自由化と格差問題、開発と環境などを中心に考察し、持続可能な発展の可能性について考える。</p> <p>3. 以上を理解した上で、日本とラテンアメリカの経済関係について、貿易、投資、政府開発援助を中心に考察し、今後の望ましい方向性について考える。</p> <p>授業は、講義、関連資料の解説、ディスカッション等の形で進められるので、積極的参加を歓迎する。</p>		<p>1. 序、第1章 経済学の基礎 第1節 経済学的な考え方、ミクロ経済学・マクロ経済学 第2節 市場原理—需要・供給と価格</p> <p>2. 第3節 公共部門・経済政策</p> <p>3. 第4節 雇用・失業問題・雇用政策</p> <p>4. 第5節 インフレ・デフレ、財政・金融政策</p> <p>5. 第6節 貿易・対外投資・国際収支・為替レート</p> <p>6. 第2章 ラテンアメリカ経済の現状と課題 第1節 マクロ経済の諸問題、経済の自由化</p> <p>7. 第2節 経済開発と政府の役割</p> <p>8. 第3節 経済成長と企業</p> <p>9. 第4節 人的資本と教育、技術開発</p> <p>10. 第5節 雇用・格差・貧困問題と労働・社会政策</p> <p>11. 第6節 農業と土地所有制度、第一次産品輸出経済</p> <p>12. 第7節 経済のグローバル化と貿易、国際資本移動</p> <p>13. 第8節 環境問題と環境政策</p> <p>14. 第9節 日本とラテンアメリカの経済関係</p> <p>15. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（参考書）宇佐見耕一他共著『図説 ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009年、西島章次・小池洋一編著『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011年、ジョセフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ 入門経済学』東洋経済、最新版、今井圭子『アルゼンチン研究の基礎資料—国勢調査・経済社会統計—』上智大学、イペロアメリカ研究所、2008年など。</p>		<p>授業中に課したリアクション・ペーパーと最後の授業までに提出するレポートおよび出席・授業参加状況を合わせて評価する。</p>	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究IV (スペイン語圏の言語文化) 地域文化論 ii b	担当者	二宮 哲
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。</p> <p>主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語史上重要な文献や作品を実際に読む。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「スペイン」と「スペイン語」1</li> <li>② 「スペイン」と「スペイン語」2 “Glosas Emilianenses”</li> <li>③ イスラム・スペイン “Jarchas”</li> <li>④ Cantar de Mio Cid</li> <li>⑤ 1492 “Gramática de la Lengua Castellana”</li> <li>⑥ Don Quijote</li> <li>⑦ El Siglo de Oro</li> <li>⑧ 18c, 19c のスペイン1</li> <li>⑨ 18c, 19c のスペイン2</li> <li>⑩ 18c, 19c のスペイン3</li> <li>⑪ フラメンコ・闘牛</li> <li>⑫ スペイン内戦とピカソ1</li> <li>⑬ スペイン内戦とピカソ2</li> <li>⑭ 近現代のスペイン 1</li> <li>⑮ 近現代のスペイン 2</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。		出席状況と数回のレポートによって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論IV (スペイン語学) 地域文化論 ii a	担当者	二宮 哲
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見だし、問題設定をする練習の場とも考える。</p> <p>今年度の主なテーマは「動詞と代名詞の関係とその構造」とする。</p> <p>まず、スペイン語の動詞と代名詞に関する基本的な知識を獲得・復習するために講義を行う。その際に先行研究を紹介し、それらの分析にはどのような問題点があるのかを洗い出す。</p> <p>ある程度の予備知識がついたところで、扱ったテーマの中からひとつテーマを選択し、それに関する短いレポートを課題とする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 1</li> <li>② スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 2</li> <li>③ スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 3</li> <li>④ スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 4</li> <li>⑤ 問題点 1</li> <li>⑥ 課題 1</li> <li>⑦ 課題の説明 1</li> <li>⑧ スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 5</li> <li>⑨ スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 6</li> <li>⑩ スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 7</li> <li>⑪ スペイン語の動詞と代名詞について (説明講義) 8</li> <li>⑫ 問題点 2</li> <li>⑬ 課題 2</li> <li>⑭ 課題の説明 2</li> <li>⑮ 講義のまとめ</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜プリントを配布。		出席状況、授業への参加度、数回のレポートによって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究各論V (ブラジル研究) 地域社会文化論特殊講義(ブラジル研究)	担当者	E. ウラノ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ブラジルは、2014年にワールドカップ、2016年にはオリンピック開催を迎えており、世界で注目されている新興国の一つである。</p> <p>この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会・経済・政治面から解説する。例えば、最近の経済成長をどのようなファクターが支えているのか。これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や政策が必要なのか。これらの課題について、特に1960年代以降の歴史的経緯に言及しながら、ブラジルのグローバルプレーヤーとしての可能性について解説し、講義をすすめる。</p> <p>近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。</p> <p>講義の目的は、受講生が積極的にこれらの内容について考え、ブラジルというテーマについて独自の視点を開発することにある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション：世界のなかのブラジル</li> <li>2.政治経済：「失われた80年代」</li> <li>3.政治経済：90年代、インフレーション、経済安定化</li> <li>4.政治経済：2000年代、経済成長への道</li> <li>5.格差社会の是正に向けて：Bolsa Família</li> <li>6.格差社会の是正に向けて：新中間層</li> <li>7.映像から見たブラジル</li> <li>8.映像から見たブラジル</li> <li>9.持続可能な成長への課題：教育・インフラ整備</li> <li>10.持続可能な成長への課題：世界情勢</li> <li>11.産業開発：農業、油田開発、代替エネルギー</li> <li>12.ブラジル企業の多国籍化と世界経済</li> <li>13.BRICs、南南関係：多極的外交の展開</li> <li>14.新たな路線：ブラジルの Third Way?</li> <li>15.まとめ：「未来の大国」から「現在の大国」？</li> </ol> <p>※トピックごとに可能な限り映像資料もまじえて授業を進める予定である。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストとして特定の書籍を用いることはないが、必要に応じてレジュメ、資料を配付する。参考書籍としては、『現代ブラジル事典』（新評論、2005年）を挙げておく。</p>		<p>基本的には学期末の筆記試験による評価を予定しているが、出席や授業内ペーパー、レポート等を加味した評価とする可能性もある。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカ研究情報収集法)	担当者	二宮 哲
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>スペイン語圏の人文学的な研究をする際に必要となる情報の収集法について考え、実践する講義である。</p> <p>スペイン・ラテンアメリカ研究の各テーマに必要な情報(源)の特定の方法を考え、実際にいくつかのテーマに沿って実践する。</p> <p>情報(源)の特定を完了した後、具体的にその情報を提供するメディアの収集を行う。刊行物を中心とした文献、各種メディア(CD・DVD、インターネット、人間等)を調査し、設定したテーマに適した情報を取り出す練習をする。また、各メディアの著作権についても触れる。</p> <p>集めた情報の整理の方法、プレゼンテーションの仕方についても学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報を集めるテーマの選定</li> <li>② 文献の調査法・情報収集法 1</li> <li>③ 文献の調査法・情報収集法 2</li> <li>④ 文献の調査法・情報収集法 3</li> <li>⑤ 大学内での調査法・情報収集法 1</li> <li>⑥ 大学外での調査法・情報収集法 2</li> <li>⑦ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法</li> <li>⑧ CD, DVD 等メディアの調査法・情報収集法</li> <li>⑨ インターネット上の調査法・情報収集法 1</li> <li>⑩ インターネット上の調査法・情報収集法 2</li> <li>⑪ インターネット上の調査法・情報収集法 3</li> <li>⑫ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 1</li> <li>⑬ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 2</li> <li>⑭ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 3</li> <li>⑮ 収集した情報の整理とプレゼンテーション 4</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。		出席状況、プレゼンテーションによって評価する。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 I (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a) 地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 a)	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>Objetivo del curso:</b> 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los artistas más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral mediante los diálogos que se llevan a cabo durante la clase. -La comprensión oral a través de las explicaciones de la profesora. -Expresión escrita por medio de las tareas que hay que realizar al finalizar cada tema . <b>Destinatarios:</b> alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.		1. Presentación del curso. 2. Introducción.: geografía y relieve I 3. Geografía y relieve II 4. Los albores del arte español: <i>La cueva de Altamira</i> . 5. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas I. 6. Los iberos y los celtas. Sus manifestaciones artísticas II. 7. La romanización y sus consecuencias I. 8. La romanización y sus consecuencias II 9. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad y el arte visigodo. 10. La invasión musulmana (s. VIII). Sociedad, cultura y arte árabe. 11. la Alhambra de Granada y los jardines del Generalife I. 12. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife II. 13. La Reconquista (ss.XI-XIII). 14. La sociedad medieval. Castillos y ciudades medievales . 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. <b>La asistencia a clase es importantísima.</b>	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 II (スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b) 地域社会文化論特殊講義(スペインの文化と文明 b)	担当者	P. ラゴ
講義目的、講義概要		授業計画	
Ver el apartado anterior.		1. El arte durante la Reconquista: el románico. 2. El arte durante la Reconquista: el gótico 3. El Camino de Santiago (Patrimonio de la humanidad). 4. Haciendo el camino. 5. <i>La Celestina</i> : el paso de la Edad Media al Renacimiento I 6. <i>La Celestina</i> : el paso de la Edad Media al Renacimiento II. 7. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). 8. El Greco (1541-1614), un pintor manierista. 9. La arquitectura renacentista: El Monasterio de El Escorial. 10. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). 11. Diego de Velázquez (1599-1660), un pintor barroco. 12. Otros pintores barrocos: Murillo (1617-1682), Zurbarán (1598-1664) y Ribera (1591-1652). 13. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración I. 14. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración II. 15. Película sobre alguno de los temas tratados.	
テキスト、参考文献		評価方法	
No es necesario.		La entrega de una tarea por cada tema estudiado. <b>La asistencia a clase es importantísima.</b>	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅲ (スペイン・ラテンアメリカの芸術文化) 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの芸術文化)	担当者	倉田 量介
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、スペインとその旧植民地という位置づけにあるラテンアメリカ諸国の音楽実践を扱います。欧米や日本のポップスと比較することにより、背景となる社会や時代の諸相を検討します。</p> <p>この地域の音楽はダンスと不可分に様式化されてきたことから、身体技法についても言及します。クレオールをはじめ、文化混淆の概念がキーワードとなるため、前半の授業では、キューバの音楽を歴史的に概観し、成分といわれる音楽的要素をひとつひとつ考察します。音楽研究一般の可能性を吟味しつつ、各自の関心に応じた題目を選んでもらい、レポート提出の手引きをします。後半の授業では、指定のテキストに準拠し、スペイン語圏、非スペイン語圏の音楽環境を広く眺望します。楽器の実物に触れる機会も設ける予定ですが、議論の基盤は文化人類学に置きます。単なる名曲紹介や知識の丸暗記にとどまらない思索の場を目指します。視聴覚資料を多用することで、スペイン語履修者以外の受講にも配慮します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション: VTR を鑑賞しながら</li> <li>2. 文化混淆の実態: キューバの音楽を事例として</li> <li>3. スペイン由来の音楽的要素: 弦楽器の系譜を主に</li> <li>4. アフリカ由来の音楽的要素: 打楽器の系譜を主に</li> <li>5. 先住民由来の音楽的要素: フォルクローレを主に</li> <li>6. クラブカルチャーとの相関性: ラップからレゲトンへ</li> <li>7. 民族音楽学およびポピュラー音楽研究の手法と展開</li> <li>8. 対抗文化から主流へ: 「黒人」、「若者」、「農民」、「女性」...</li> <li>9. ジャマイカで生まれ育ったスタイル: スカ, レゲエ, ダブ...</li> <li>10. 北米の移民(ラティーン, チカーノ, テハーノ)音楽: サルサ...</li> <li>11. 南米大陸の音楽地図: ペルー, ボリビア, アルゼンチン...</li> <li>12. 音楽大国ブラジル: サンバ, ボサノヴァ, セルタネージャ...</li> <li>13. カリブ海地域の英語圏やフランス語圏: カリプソ, コンバ...</li> <li>14. 日本の大衆演劇や欧米志向のJポップと「ラテン音楽」</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布し、参考書を紹介するが、各専門家の寄稿による論集をテキストに指定する。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版, 2010, ISBN: 978-4490206678)		評価方法: 平常授業におけるコメントなどの実績(30%)と期末レポート(70%)。	

養 外言	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究Ⅳ (スペイン・ラテンアメリカの社会文化) 地域社会文化論特殊講義(スペイン・ラテンアメリカの社会文化)	担当者	兒島 峰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目標) この講義の目標は、ラテンアメリカの社会と文化の特徴を歴史的な形成過程と地理的状況とともに学び、現在におけるラテンアメリカ文化と社会との関係について理解することにある。</p> <p>(講義概要) ラテンアメリカとは何か、今日のラテンアメリカの特徴はどのように形成されてきたのか、また、ラテンアメリカと呼ばれる地域の相違について理解を深めることを目標とする。 ラテンアメリカの社会と文化について、いくつかのトピックスに分けて、地域ごとの特徴を提示しながら説明する。毎回、映像などの具体的な資料を提示し、その資料をもとに授業計画に沿って授業を進める。</p> <p>(受講生への要望) スペイン語の知識は必ずしも必要としない。 ラテンアメリカの社会と文化に対する関心と学ぶ意欲が重要である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 受講上の注意</li> <li>2. ラテンアメリカに関する基礎知識</li> <li>3. ラテンアメリカの全体的特徴</li> <li>4. ラテンアメリカの社会構造 その1</li> <li>5. ラテンアメリカの社会構造 その2</li> <li>6. ラテンアメリカにおける“人種”概念</li> <li>7. ラテンアメリカにおける男と女</li> <li>8. ラテンアメリカ各地域における異なる男女観と人種概念</li> <li>9. 先住民文化</li> <li>10. 文化的差異</li> <li>11. ラテンアメリカにおける国家の概念</li> <li>12. ラテンアメリカにおける国民の概念</li> <li>13. 国際社会におけるラテンアメリカの位置づけ</li> <li>14. 今日のラテンアメリカと今後の展望</li> <li>15. 論述試験</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献については授業中にその都度指示する。		学期末に行なう筆記試験を中心に評価する。	

養	中国研究入門	担当者	森 保裕
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代の中国を理解するために必要な基礎知識を幅広く講義します。現代中国論の入門版です。</p> <p>私が通信社記者となって30年余り、そのうち約20年間は、外信部で国際ニュースを担当。うち約10年間は北京、台北特派員として中国・台湾を中心に取材をしました。今は論説・編集委員として、国際関係の論説記事やコラム、フィーチャー記事を執筆しています。</p> <p>中国・台湾関係の生ニュースを同時進行で取り上げながら、政治、経済、国際関係、社会問題、文化などの各分野について概観したいと思います。</p> <p>今年は日中国交正常化40年、そして日台断交40年です。中国、台湾といかに向き合うか、を考えるよい機会です。</p> <p>学生のみなさんには、正しく中国や台湾を理解し、狭隘なナショナリズムにとらわれず、冷静、客観的に中国や台湾について考えることができる歴史的、人道的な認識を持ってほしいと考えています。</p> <p>中国語の記事や資料も用いるので、中国語を学習していることが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、中国を知るために</li> <li>2、中国史概観</li> <li>3、政治体制（共産党一党独裁）</li> <li>4、経済体制（市場経済化）</li> <li>5、国際関係</li> <li>6、日中関係</li> <li>7、中台関係</li> <li>8、社会問題（貧富の格差、官僚腐敗）</li> <li>9、民主化問題</li> <li>10、少数民族問題（チベット、ウイグル）</li> <li>11、環境問題（温暖化問題を含む）</li> <li>12、言語や文化（方言、映画、流行歌）</li> <li>13、台湾概観</li> <li>14、生ニュースをめぐって</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回、コピー教材を配布。副教材として『世界年鑑2012』（共同通信社）＝図書館で利用可		出席、レポート	

養	中国研究Ⅰ（中国社会論）	担当者	山本 秀也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代中国を理解する上で欠かせない社会問題をテーマ別に取り上げてゆきます。毎回取り上げられるテーマは異なりますが、現代中国の社会で起きている事象を解き明かすことで、中国の伝統文化と現在の政治体制が絡み合っていることを浮き彫りにします。等身大の中国に理解を深めることで、中国社会の未来像に目を向ける手がかりを得ることが講座の目的です。</p> <p>受講にあたって、中国語の履修はとくに必要としません。隣国・中国に関心のある諸君を広く歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入－中国社会の諸相</li> <li>2. 巨大人口の圧力</li> <li>3. 農村の状況－基層統治をめぐる現実</li> <li>4. 環境問題と生活への影響（治水と砂漠化）</li> <li>5. 食の安全をめぐる課題と対策</li> <li>6. 「ニセモノ天国」への考察</li> <li>7. 感染症が与える衝撃と対策の課題</li> <li>8. 中国社会におけるジェンダー問題</li> <li>9. マスコミと情報統制</li> <li>10. 汚職・腐敗の拡大と抑止</li> <li>11. 広がる「黒社会」の影</li> <li>12. 宗教信仰</li> <li>13. 階層社会の再来</li> <li>14. 民主化と権利保護運動の可能性</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回レジュメを配布する。		期末試験（ないしレポート）を主とするが、平常の出席状況も評価対象とする。	

養 外言	中国研究Ⅱ（中国の思想・文学） 地域文化論Ⅳa	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>中国中央テレビ局の古典普及番組「百家講壇」で爆発的な人気を集めた、北京師範大学の于丹教授の『論語』を読み解くシリーズ講座のDVDを利用して、中国思想において最も重要な位置を占める『論語』と儒教の真髄について学習します。儒教と道教は中国のみならず、東洋人の精神世界形成に大きな役割を果たしました。社会の中で生きる規範（社会的人格の形成）を儒教に求め、人生を楽しむための哲学を道教に求める思想はアジアに共通のものであります。</p> <p>とくに『論語』は日本でも古くから研究が進んでおり、不朽の価値を持っている書物であると言えます。</p> <p>テキストに使用する『論語心得』は上述テレビ番組の講演を忠実に書き起こしたのですが、この番組では論語を非常に分かりやすく（中学生にも分かるように）解説しています。</p>		<p>1回 ガイダンス、『論語』および『論語心得』について</p> <p>2～4回 「交友之道」；よい友達つきあいとは何でしょうか？孔子の言う「益者三友、損者三友」の概念を用いて友達つきあいの重要性について学びます。</p> <p>5～7回 「理想之道」：人はいかなる理想を抱いて人生を歩むべきでしょうか？理想や目標の実現のために、私たちが今なすべきことを孔子の言葉から探っていきます。</p> <p>8～10回 「処世之道」：複雑な現代社会において誠実に生きていくための方策とは？社会の中でよりよい人間関係を築くための生き方を考えましょう。</p> <p>11～13回 「人生之道」：孔子は「十五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」と述べています。人は自分の一生をどのように計画すべきでしょうか？</p> <p>14～15回 映画「孔子」観賞</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。		出席率、授業に対する積極性を50%、期末テストの点数を50%で評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅳ（中国の芸能・芸術） 地域文化論Ⅳb	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グループ分けをし、それぞれのテーマに沿って調査と発表をしていただきます。</p> <p>第4回目から1は学生の発表と教員の解説、2はDVD鑑賞および小テストによる復習とします。</p> <p>教材で使用するDVDは以下のとおりです。</p> <p>A 八千里路雲和月 B 中華五千年的文化紀錄 C 中国自然文化遺産 D 中国大紀行</p> <p>以上のDVDで実際に中国美術、戯曲などを鑑賞し、さらに中国の芸術を育んだ風土の歴史と地理について学びます。</p> <p>毎回、グループごとのプレゼンテーションあるいは映像資料鑑賞を行うので、遅刻・欠席は厳禁です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、教授用資料の入手方法など</li> <li>2. 京劇鑑賞 1</li> <li>3. 京劇鑑賞 2</li> <li>4. 古墳と遺跡 1</li> <li>5. 古墳と遺跡 2</li> <li>6. 陶磁器 1</li> <li>7. 陶磁器 2</li> <li>8. 絵画芸術 1</li> <li>9. 絵画芸術 2</li> <li>10. 庭園芸術 1</li> <li>11. 庭園芸術 2</li> <li>12. 書道芸術 1</li> <li>13. 書道芸術 2</li> <li>14. 中国音楽鑑賞</li> <li>15. 学期のまとめと期末試験に関する説明</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
以上のDVDの他、事前に提出されたプレゼン資料を用いる。特にテキストを購入する必要はない。		出席率、授業に対する積極性を50%、期末試験の点数を50%で評価する。	

養	中国研究Ⅲ（中国史 a）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 この講義では現代の中国及び東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>〔講義概要〕 19世紀前半、中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000年間、王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続のために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して、当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思えます。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p> <p>〔受講生への要望〕 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 清朝体制下の社会変動</li> <li>3 アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺</li> <li>4 太平天国</li> <li>5 体制の反撃</li> <li>6 洋務運動</li> <li>7 中体西用の諸相</li> <li>8 開港場の社会と経済</li> <li>9 周辺地域宗主権の喪失 1</li> <li>10 周辺地域宗主権の喪失 2</li> <li>11 琉球問題と台湾出兵</li> <li>12 朝鮮をめぐる日中対立 1</li> <li>13 朝鮮をめぐる日中対立 2</li> <li>14 講義のまとめ</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008年。		出席状況（20%）と期末定期試験の結果（80%）による。	

養	中国研究Ⅳ（中国史 b）	担当者	張 士陽
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 この講義では、現代の中国と東アジアの国際関係をより深く理解するために、その成立の背景となる中国近代史について講義します。</p> <p>〔講義概要〕 日清戦争の敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々、さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し、また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら、中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが、伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。</p> <p>〔受講生への要望〕 教科書や講義中に配布した史料プリントを熟読すること</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 日清戦争</li> <li>3 台湾の割譲と台湾住民の抵抗</li> <li>4 変法改革</li> <li>5 戊戌の政変</li> <li>6 キリスト教布教と仇教運動</li> <li>7 義和団の蜂起 1</li> <li>8 義和団の蜂起 2</li> <li>9 纏足問題と天足運動</li> <li>10 革命派の台頭</li> <li>11 光緒新政と地方自治の試み</li> <li>12 王朝体制の崩壊と中華民国の成立</li> <li>13 第二革命と袁世凱政権の成立</li> <li>14 講義のまとめ</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書：並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19 中華帝国の危機』（中公文庫 S 22-19）中央公論新社，2008年。		出席状況（20%）と期末定期試験の結果（80%）による。	

養 外言	中国研究各論Ⅰ（現代中国論 a） 現代中国論 a	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（キーワードで見る現代中国史）中国 4 千年の歴史の中で、現在の「中華人民共和国」を理解するためには、アヘン戦争以降の歴史を知らなければならない。初めて「夷」ではない、「外」と接触したとき、中国人はどう対応したか、約 170 年の歴史を各時代のキーワードから振り返る。中華民国成立後の百年、とりわけ人民共和国後の 60 年余りの激動を主要な人物・群像を中心に時代を追って見ていきたい。そうすることで、急激な社会主義化が、「文化大革命」を経ることで、逆に大胆な国家資本主義になぜ、変貌したかを解明したい。</p> <p>今後、中国や中国人と付き合うためにも、名目上の「社会主義」下で、現在の過剰な「資本主義」を生んだのは、2千万人の餓死者を出したといわれる「大躍進」運動、1千万人以上の犠牲者がいるという「文革」の武闘、そして2回の天安門前広場での非武装の民衆の鎮圧という悲劇があったことをバイアスを掛けずに見ていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国とは？「中華人民共和国」を分解して読む</li> <li>2 「中華帝国」から「中華民国」へ</li> <li>3 戦争の時代（1911～1949 年）</li> <li>4 建国から社会主義建設へ（1949～55 年）</li> <li>5 百家争鳴から大躍進へ（1955～60 年）</li> <li>6 経済調整政策と毛沢東の“陽謀”（1960～66 年）</li> <li>7 文革前期・紅衛兵の活躍（1966～71 年）</li> <li>8 文革後期・林彪と四人組の陰謀（1971～76 年）</li> <li>9 “不倒翁”鄧小平の復活（1976～80 年）</li> <li>10 改革をどこまで進めるか！（1980～86 年）</li> <li>11 『最後の皇帝』と天安門事件（1986～90 年）</li> <li>12 孤立する中国と『南巡談話』（1990～96 年）</li> <li>13 江沢民は何故、生き残った？（1996～2004 年）</li> <li>14 胡錦濤と共青团人脈（2004 年～10 年）</li> <li>15 習近平時代は来るか？（2010～22 年）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅱ（現代中国論 b） 現代中国論 b	担当者	大澤 昇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（ホットワードで探る分野別中国）日本を抜き、世界第 2 位の経済大国となった現在の中国、しかも米国と肩を並べるほどになった世界政治での発言権、こうしたパワーのもつ「光と影」を地勢、経済、教育、政治、外交、軍事、社会などのジャンルごとに読み解いていく。</p> <p>中国は世界一の人口をもち、この「人口ボーナス」で高度成長を遂げたが、これが逆に将来の「超高齢者大国」になるという不安、人口増を抑えるために行った「一人っ子政策」は、多くの「小皇帝」を生み、急激に増えたエリート大学生が就職難に陥っている事実、彼ら「80 后」は IT 技術の向上を生み、経済活動の担い手となってきているが、「丁克族」や「剩男・剩女」と呼ばれるディンクスや独身貴族となり、従来の伝統的な家族観が都市では急速に崩壊しつつあることなどを具体的な事例や流行語（ホットワード）で見ていきたい。</p> <p>また、中国は世界一長い国境線を持つ国でもある。このため、近年、日本を含め海洋での紛争が絶え間ない、こうした国際問題も考えていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「地大物博」の国—世界一の国境線（自然と国土）</li> <li>2 外企、央企、民企ほか（中国は世界の工場）</li> <li>3 億万長者列伝（中国の南北問題）</li> <li>4 博客、黑客、紅客—見えない大衆（普及する IT）</li> <li>5 蟻族・鼠族—就職できないエリートたち（教育）</li> <li>6 3 人のノーベル賞受賞者（知識人と民主化）</li> <li>7 成人保健用品—大家族から無家族へ（家族観）</li> <li>8 名前は“社”それとも“資”？（社会主義論）</li> <li>9 民主主義と人民独裁（政治制度と政治改革）</li> <li>10 「藍色国土」—膨張する海軍（国境紛争）</li> <li>11 解放軍か国軍か？（シベリアンコントロール）</li> <li>12 “中美国”—G20 から G2 へ（超大国への道）</li> <li>13 “日本鬼子、小日本、哈日族”（日中関係）</li> <li>14 「中華連邦」それとも「中華帝国」？（少数民族問題）</li> <li>15 中国はどこへ？—中国的社会主義とは何か？</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅲ (日中交流史) 地域文化論 iii a	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが、2つの時期の状況がとりわけ注目を引く。</p> <p>唐代においては、日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。</p> <p>そして、近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み、当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。</p> <p>中国語を学ぶ日本人の観点から、これを論ずる中国人学者の論文を読み、われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。</p> <p>&lt;隔在中西之间的日本 — 现代汉语中的日语“外来语”问题 —&gt; (王彬彬, 《上海文学》1998年) を読みつつ進行する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 唐代と近代 双方向の交流</li> <li>3 現代中国語に深く根付く日本語由来の外来語</li> <li>4 日本の翻訳と中国の翻訳</li> <li>5 中国語を通して抽象語彙を翻訳した日本語</li> <li>6 近代日本人学者の翻訳方法</li> <li>7 訳語の競合と定着</li> <li>8 梁啓超と日本新漢語流入の契機 (1)</li> <li>9 梁啓超と日本新漢語流入の契機 (2)</li> <li>10 嚴復の不满・反論</li> <li>11 欧米の概念をいかに翻訳すべきかの議論</li> <li>12 嚴復のスタンスと限界</li> <li>13 中国語にとって欧米の概念 (1)</li> <li>14 中国語にとって欧米の概念 (2)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席, 授業への積極的参加, 授業へ積極的参加した成果 (定期試験) を総合して評価する。	

養 外言	中国研究各論Ⅴ (言語文化論) 地域文化論 iii b	担当者	武信 彰
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は、古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離においての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は、背景の文化に対するそれと同様、独特のものがある。</p> <p>日本語母語話者の中国語学習においては、この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 中国語とは? 普通话、汉语、华语、国語 漢字文化圏 (=漢語文化圏)</li> <li>3 現代中国語の音韻</li> <li>4 華人と中国語の比喩</li> <li>5 中国人のコミュニケーションの特色</li> <li>6 中国人の「色」</li> <li>7 ことわざ・歇後語</li> <li>8 “既成の言い回し” 描写表現</li> <li>9 東西南北、右左</li> <li>10 日本語母語話者ゆえの誤謬</li> <li>11 飲食に関する言葉</li> <li>12 中国人の名前・命名</li> <li>13 自尊心・コネ社会・宗教</li> <li>14 「漢文」の時代の中国語と現代中国語</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。 参考文献は適宜紹介。		授業への出席, 授業への積極的参加, 授業へ積極的参加した成果 (定期試験) を総合して評価する。	

養 外言	中国特殊研究Ⅰ（日中比較文化論 a） 比較文化論特殊講義(日中文化比較論 a)	担当者	易 友人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本と中国は一衣帯水の隣国ですが遥かに遠いようです。遙遠という感じはやはり両国の文化などの相違によって形成されたと思います。中国人と日本人との居住、行為方式、文化心理などを通じて両国文化の相違点を追究しそれぞれの文化の特殊性をまとめ両国民の各自深層的文化特徴を理解することが出来ると思います。</p> <p>授業内容が、実状によって一部変更することもあります。</p>		<p>一、居住方式</p> <p>1、中国人的住宅和四合院（1）</p> <p>2、中国人的住宅和四合院（2）</p> <p>3、日本人の住宅和榻榻米（1）</p> <p>4、日本人の住宅和榻榻米（2）</p> <p>二、中日育児方式比較</p> <p>5、從一次探險夏令營談起</p> <p>6、中日育児方式的相似点</p> <p>7、親子關係的差異（1）</p> <p>8、親子關係的差異（2）</p> <p>9、親子關係的差異（3）</p> <p>三、日本社会現代模式的特点及对中国的啓示</p> <p>10、日本社会現代模式的特点（1）</p> <p>11、日本社会現代模式的特点（2）</p> <p>12、对日本社会現代模式的評價</p> <p>四、「名」与「恥」</p> <p>13、日本人的名譽觀</p> <p>14、有關「恥感文化」的比較</p> <p>15、有關「恥感文化」的比較</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、初授業時に配布する。</p> <p>『日中辞典』を用意するよう。</p>		<p>評価方法：期末定期試験の結果(70%)によって評価するが、授業における課題レポートなどの実績(30%)も評価対象とする。試験時ノートや辞書などの参照を許可する。</p>	

養 外言	中国特殊研究Ⅱ（日中比較文化論 b） 比較文化論特殊講義(日中文化比較論 b)	担当者	易 友人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本と中国は一衣帯水の隣国ですが、遥かに遠いようです。遙遠という感じはやはり両国の文化などの相違によって形成されたと思います。中国人と日本人との居住、行為方式、文化心理などを通じて両国文化の相違点を追究しそれぞれの文化の特殊性をまとめ両国民の各自深層的文化特徴を理解することが出来ると思います。</p> <p>授業内容が、実状によって一部変更することもあります。</p>		<p>五、男人眼中的女人</p> <p>1、伝統的女性觀与婦女的社會地位（1）</p> <p>2、伝統的女性觀与婦女的社會地位（2）</p> <p>3、性別分工与两性間的人格差異(1)</p> <p>4、性別分工与两性間的人格差異(2)</p> <p>六、「小集團本位」与「家族本位」</p> <p>5、日本的「小集團本位」（1）</p> <p>6、日本的「小集團本位」（2）</p> <p>7、中国人的「家族本位」意識（1）</p> <p>8、中国人的「家族本位」意識（2）</p> <p>七、「序列意識」与「平均意識」</p> <p>9、日本人の「序列意識」（1）</p> <p>10、日本人の「序列意識」（2）</p> <p>八、「義理人情」与「人情世故」</p> <p>11、什麼是「義理」和「人情」（1）</p> <p>12、什麼是「義理」和「人情」（2）</p> <p>13、中国人和日本人の「報恩」方式（1）</p> <p>14、中国人和日本人の「報恩」方式（2）</p> <p>15、中国人和日本人の「報恩」方式（3）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、初授業時に配布する。</p> <p>『日中辞典』を用意するよう。</p>		<p>評価方法：期末定期試験の結果(70%)によって評価するが、授業における課題レポートなどの実績(30%)も評価対象とする。試験時ノートや辞書などの参照を許可する。</p>	

養 外言	中国特殊研究Ⅲ（中国文学研究古典） 地域社会文化論特殊講義(中国文学研究古典)	担当者	易 友人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>すでに中国語の基礎的な文法や表現などを学んだ学生さんが一歩進んで中国古典を楽しむために、授業を進めたいと思います。</p> <p>内容は、中国人なら誰でも知っているものですが、唐詩や宋詞など古典のままで、一部の古代文学作品については現代文の改作版を使用するものもあります。この授業を通じて学生さんに、中国古典に、ある程度興味をもたせるようにしたいです。古典（唐詩、宋詞、古文）は勿論音読しますが、先生の指導のもとで現代中国語文に改作作業をする予定です。とにかく楽しい授業を進めたいと思います。</p> <p>授業内容が、実状によって一部変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、李白《静夜思》等</li> <li>2、杜甫《春夜喜雨》等</li> <li>3、孟浩然、王維《春暁》《紅豆》等</li> <li>4、蘇軾《水調歌頭》（名月幾時有）</li> <li>5、羅貫中《三国演義》節選（1）</li> <li>6、羅貫中《三国演義》節選（1）</li> <li>7、吳承恩《西遊記》節選（1）</li> <li>8、吳承恩《西遊記》節選（2）</li> <li>9、吳承恩《西遊記》節選（3）</li> <li>10、施耐庵《水滸伝》節選（1）</li> <li>11、施耐庵《水滸伝》節選（2）</li> <li>12、蒲松齡《聊齋志異》節選（1）</li> <li>13、蒲松齡《聊齋志異》節選（2）</li> <li>14、曹雪芹《紅樓夢》節選（1）</li> <li>15、曹雪芹《紅樓夢》節選（2）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、初授業時に配布する。 『日中辞典』を用意するよう。</p>		<p>評価方法：期末定期試験の結果（70%）によって評価するが、授業における課題レポートなどの実績（30%）も評価対象とする。試験時ノートや辞書などの参照を許可する。</p>	

養 外言	中国特殊研究Ⅳ（中国文学研究現代） 地域社会文化論特殊講義(中国文学研究現代)	担当者	易 友人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>すでに中国語の基礎的な文法や表現などを学んだ学生さんが一歩進んで現代中国文学を楽しむために、授業を進めたいと思います。</p> <p>内容は、中国人なら誰でも知っている現代名作もありますが、近年最新の人気作家の作品もあります。中国改革開放政策実施以来の、特につい最近中国の変化を反映する作品も含まれています。この授業を通じて学生さんに、近代以来、中国人の各時代の考え方を了解させたいと思います。</p> <p>授業内容が、実状によって一部変更することもあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、朱自清《背影》（1）</li> <li>2、朱自清《背影》（2）</li> <li>3《雷雨》節選</li> <li>4《家》節選</li> <li>5、巴金《春》節選</li> <li>6、巴金《秋》節選</li> <li>7、氷心《桜花贊》</li> <li>8、氷心《桜花和友誼》</li> <li>9、金庸《射鵰英雄伝》節選</li> <li>10、六六《蝸居》節選（1）</li> <li>11、六六《蝸居》節選（2）</li> <li>12、六六《蝸居》節選（3）</li> <li>13、石康《奮闘》節選（1）</li> <li>14、石康《奮闘》節選（2）</li> <li>15、石康《奮闘》節選（3）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、初授業時に配布する。 『日中辞典』を用意するよう。</p>		<p>評価方法：期末定期試験の結果（70%）によって評価するが、授業における課題レポートなどの実績（30%）も評価対象とする。試験時ノートや辞書などの参照を許可する。</p>	

養	韓国研究入門	担当者	金 泰植
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義はこれから韓国研究をはじめようとする学生たちが、韓国社会に対する幅広い知識を習得することを目的とする。特に韓国という国を理解する上で重要な、植民地過去と分断についての知識に重点を置く。</p> <p>講師がただ一方的に講義をするのではなく学生の積極的な発言と参加を期待し、歴史問題に関するディベートや映画鑑賞後の討論、グループワークなども課す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 日本と韓国の文化・風習の違い</li> <li>3. 植民地過去を眺めるみつつの視点</li> <li>4. 朝鮮戦争と分断①</li> <li>5. 朝鮮戦争と分断②</li> <li>6. 軍事独裁政権の記憶①</li> <li>7. 軍事独裁政権の記憶②</li> <li>8. 韓国の徴兵制</li> <li>9. 民主化と韓流</li> <li>10. 日本と朝鮮半島の歴史問題を考える①</li> <li>11. 朝鮮民主主義人民共和国</li> <li>12. 若者文化と恋愛事情①</li> <li>13. 若者文化と恋愛事情②</li> <li>14. 日本と朝鮮半島の歴史問題を考える②</li> <li>15. コリアンディアスポラとは誰か</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
初回講義時に提示する。		出席と平常点を重視する。授業中に行う課題および平常点（50%）と定期試験の成績（50%）を総合して評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	韓国研究Ⅰ（韓国史） 地域社会文化論特殊講義（韓国史）	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>昨今の韓流ブームにより、私たちは韓国に関する情報に触れやすくなりました。しかし残念なことに、韓国の歴史については知らないことが多いと思います。韓国の歴史を知ることは、同時に日本の歴史を知ることであり、相互理解にとってとても大事なことです。</p> <p>このようなわけで、本講義では韓国（朝鮮半島）の通史を講義します。講義の進め方は、プリントを配布し、それに基づいて話をしていきます。</p> <p>なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てます。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くことが必要です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 古代から統一新羅へ（1）</li> <li>3. 古代から統一新羅へ（2）</li> <li>4. 高麗時代（1）</li> <li>5. 高麗時代（2）</li> <li>6. 朝鮮時代（1）</li> <li>7. 朝鮮時代（2）</li> <li>8. 朝鮮時代（3）</li> <li>9. 日本植民地時代（1）</li> <li>10. 日本植民地時代（2）</li> <li>11. 現代（1）1945年から1960年</li> <li>12. 現代（2）1960年から1980年</li> <li>13. 現代（3）1980年から2000年</li> <li>14. 現代（4）2000年以後</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは水野俊平著『韓国の歴史』（河出書房新社、2007年、1800円）。参考文献は授業時に指示します。</p>		<p>毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。</p>	

養 外言	韓国研究Ⅱ（韓国社会論） 地域社会文化論特殊講義（韓国社会論）	担当者	平田 由紀江
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、変化の著しい韓国社会をジェンダーの視点で読み解いていく。</p> <p>とりわけ講義の前半では韓国社会の「家族」をめぐるさまざまな変化に焦点を当てて論じ、後半には、徴兵制度や、日本と韓国間の歴史問題などに焦点を当てていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インTRODクシヨン・講義紹介</li> <li>2 ジェンダーとは</li> <li>3 韓国社会の女と男① - 家父長制のはなし（1）</li> <li>4 韓国社会の女と男② - 家父長制のはなし（2）</li> <li>5 韓国社会の女と男③ - マネージメントママとは</li> <li>6 ジェンダーと制度① - 法と制度の変遷</li> <li>7 ジェンダーと制度② - 少子高齢化社会・韓国</li> <li>8 変わりゆく「家族」① - シングル女性をめぐる</li> <li>9 変わりゆく「家族」② - ひとり親世帯の現状</li> <li>10 変わりゆく「家族」③ - 「多文化」家族について</li> <li>11 軍隊とジェンダー① - 徴兵制について</li> <li>12 軍隊とジェンダー② - 「軍事化された社会」とは</li> <li>13 歴史とジェンダー①</li> <li>14 歴史とジェンダー②</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>適宜紹介していく。</p>		<p>出席、期末テスト</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	韓国研究Ⅲ（韓国の言語文化） 地域社会文化論特殊講義（韓国の言語文化）	担当者	金 泰植
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>K-POPの歌詞や、化粧品の説明文、インターネット上のニュース記事や、短い文学作品、韓国社会についてかかれた書籍や論文などをテキストとし、それらを翻訳しながら韓国語独特の言い回しを学び、韓国文化についての理解を深める。</p> <p>受講者は、韓国語初級までの学習を終えていることが求められる。また課題やグループワークも課す。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 翻訳の基礎</li> <li>3. 商品説明を訳す①</li> <li>4. 商品説明を訳す②</li> <li>5. 新聞記事を訳す①</li> <li>6. 新聞記事を訳す②</li> <li>7. 歌詞を訳す①</li> <li>8. 歌詞を訳す②</li> <li>9. 歌詞を訳す③</li> <li>10. 人文書籍を訳す①</li> <li>11. 人文書籍を訳す②</li> <li>12. 人文書籍を訳す③</li> <li>13. 人文書籍を訳す④</li> <li>14. 人文書籍を訳す⑤</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初回講義時に提示する。 ※韓国語の辞書を必ず持参すること。</p>		<p>出席と平常点を重視する。課題および平常点（50%）と期末レポートの成績（50%）を総合して評価する。</p>	

養 外言	韓国研究各論Ⅱ（韓国社会各論b） 地域社会文化論特殊講義(韓国社会各論b)	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界で最も貧しい国の一つであった韓国が、40年ばかりで工業国に変貌し、経済的に成功した。一方、韓国経済の成功は韓国社会に大きな社会変化をもたらしている。この講義は、この40年間にわたる韓国の発展過程において社会はどのように変貌したのか、経済成長と社会変容を担ったのは何か、ということをも明らかにすることを目的とする。</p> <p>まず経済発展以前の韓国社会の構造を家族、血縁関係を中心に検討する。韓国の経済発展と開発戦略がどのようにもたらされてきたのかを考察する。また経済成長による韓国社会の変化を人口移動、教育の変化、中間層の形成などを中心に検討する。社会発展過程において「財閥」と呼ばれる巨大なビジネス・グループがなぜ、いかに形成されたのかを探る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国の歴史、政治（1）</li> <li>2. 韓国の歴史、政治（2）</li> <li>3. 家族の構造</li> <li>4. 社会の人間関係ネットワーク</li> <li>5. 経済成長の社会学的考察</li> <li>6. 経済成長をどう表すか</li> <li>7. 二重構造モデル（ルイス・モデル）</li> <li>8. 経済発展と後発性利益</li> <li>9. 韓国の経済成長（1）</li> <li>10. 韓国の経済成長（2）</li> <li>11. 工業化パターンー日本モデル</li> <li>12. 輸出志向工業化と輸入代替工業化</li> <li>13. 韓国の財閥</li> <li>14. 日・韓経済関係</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
服部民夫（2005）『開発の経済社会学ー韓国の経済発展と社会変容ー』文真堂		出席状況と試験によって評価する。	

養 外言	韓国研究各論Ⅲ（日韓交流史） 地域社会文化論特殊講義(日韓交流史)	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本と朝鮮半島の間では、古くからさまざまな面での交流が行われてきており、両地域は政治・経済的にばかりでなく、社会・文化的にも密接な関係にあるといえる。本講座では、古代から近現代に至るまでの両地域間における交流の歴史を概観する。その際、抽象的な議論に終始しないよう、具体的な「出来事」を中心に講義を進めていく予定である。また、その過程における双方への「まなざし」（あるいは相互認識）のあり方やその変化についても焦点を当てていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 韓国の歴史の流れ</li> <li>3. 王仁博士と漢文</li> <li>4. 日本の中の百濟文化</li> <li>5. 高麗時代の社会状況</li> <li>6. 『三国史記』と『三国遺事』</li> <li>7. 朝鮮通信史①</li> <li>8. 朝鮮通信し②</li> <li>9. 豊臣秀吉と李舜臣</li> <li>10. 申叔舟と雨森芳洲</li> <li>11. 安重根と伊藤博文</li> <li>12. 日韓併合①</li> <li>13. 日韓併合①</li> <li>14. 浅川巧と韓国</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布する。 参考文献：授業時に指示する。		最終レポート及び、感想文、小レポートなどを総合的に評価する。	

養 外言	韓国研究各論Ⅳ（韓国文化各論a） 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論a)	担当者	呉 吉煥（オー・キルハン）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、韓国の政治・政治史・政治文化を学び、現在の韓国政治に対する理解を深めることが目的である。</p> <p>授業で対象とする時期は基本的に近現代であるが、近現代の韓国の政治を理解するには前近代における政治史の流れを把握しておく必要がある。そこでまず前近代のことについて、政治史の視点から概観し、それ以後の時期については、政治主体を基準に時期を分け、各時期の重要な政治的出来事を取り上げ、それを中心に検討していく。</p>		<p>1回 ガイダンス、韓国政治の時期区分</p> <p>2回 韓国の政治文化について</p> <p>3回 前近代期①</p> <p>4回 前近代期②</p> <p>5回 大韓帝国期</p> <p>6回 植民地期</p> <p>7回 米軍政期</p> <p>8回 李承晩政権期</p> <p>9回 4・19 学生革命と 5・16 軍事クーデタ</p> <p>10回 朴正熙政権期①</p> <p>11回 朴正熙政権期②</p> <p>12回 全斗煥政権期</p> <p>13回 盧泰愚・金永三政権期</p> <p>14回 金大中・盧武鉉政権期</p> <p>15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。参考文献については、授業中に紹介する。		出席・授業への参加度：50%、期末試験：50%	

養 外言	韓国研究各論Ⅴ（韓国文化各論b） 地域社会文化論特殊講義(韓国文化各論b)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では韓国の宗教を講義します。韓国と日本は隣国ですが異なる点も多くあります。宗教もその一つで、現在の韓国の宗教分布は、キリスト教と仏教とがほぼ同率になっています。また宗教が社会において持っている意味合いも日本とは異なります。</p> <p>本講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行います。</p> <p>講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をします。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定です。</p> <p>なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てます。これも成績評価の対象としますので、きちんと授業を聴くことが必要です。</p>		<p>1.ガイダンス</p> <p>2.韓国宗教の構造と問題</p> <p>3.民間信仰</p> <p>4.仏教（1）</p> <p>5.仏教（2）</p> <p>6.仏教（3）</p> <p>7.仏教（4）</p> <p>8.儒教（1）</p> <p>9.儒教（2）</p> <p>10.儒教（3）</p> <p>11.キリスト教（1）</p> <p>12.キリスト教（2）</p> <p>13.キリスト教（3）</p> <p>14.現代韓国と宗教</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介する。		毎回の小レポート（30%）、期末試験（70%） ※ただし、期末試験が50点未満の場合は単位を与えません。このほか情報点（任意のレポート）は1件あたり、期末テストに2点プラスします。	

養 外言	韓国研究各論VI (韓国文化各論c) 地域社会文化論特殊講義 (韓国文化各論c)	担当者	佐藤 厚
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>音楽とは、人間の感性に直結するものであり、それだけ文化の根底に根ざしているものです。本講義では韓国の音楽を講義することにより、韓国文化を理解することを目的とします。音楽といっても幅広いですが、本講義では民謡、伝統音楽といった古典から、トロット (ポップな演歌)、80-90年代のポップス、そして宗教音楽やアニメなどを取り扱います。(残念ながら、少女時代、2NE1、KARAといった、現代の楽曲は扱いません)</p> <p>講義方法は、それぞれのジャンルの中の代表的な楽曲を取り上げて鑑賞した後、楽曲の構成や時代背景を解説し、理解を深めます。その後、講師と参加者が一緒に歌います。ここがメインです。これにより韓国文化の一端を直接体得できるでしょう。</p> <p>そのようなわけで、この講義には、①韓国文化に関心があり、②歌を歌うことが好きな人、の参加を歓迎します。韓国語の知識は、あれば良いですが、韓国語を勉強したことがない人でも一緒に歌えるように配慮します。</p>		1. 講義ガイダンス 2. 民謡 (1) 3. 民謡 (2) 4. 伝統音楽 5. 愛国歌 6. トロット (1) 7. トロット (2) 8. ポップス (1) 9. ポップス (2) 10. ポップス (3) 11. アニメ 12. 宗教音楽 13. 軍歌 14. 朝鮮民主主義人民共和国の音楽 15. 講義のまとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは無し。プリントを配布して授業を進めます。参考文献は授業で随時紹介します。		毎回の小レポート (30%)、期末試験 (70%) ※参加人数によっては歌を試験に課す可能性もあります。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	韓国研究情報収集法	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。3-4名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。</p> <p>*韓国語を理解する者に限る。</p> <p>注意：はじめの授業で演習のグループ分け、発表担当者と担当日を決めるので必ず出席すること。欠席は遠慮し極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 各自発表する方法を選び、発表日程決定</li> <li>3. ハングルのタイピング練習①</li> <li>4. ハングルのタイピング練習②</li> <li>5. ハングルのタイピング練習③</li> <li>6. ハングルのタイピング練習④</li> <li>7. インタネット検索</li> <li>8. インタネット検索</li> <li>9. 調査発表①</li> <li>10. 調査発表②</li> <li>11. 調査発表③</li> <li>12. 調査発表④</li> <li>13. 現地調査発表⑤</li> <li>14. 現地調査発表⑥</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布する。		主に調査、発表の取組、研究成果の課題レポートで評価する。	

養 外言	韓国特殊研究Ⅱ（日韓比較文化論 b） 比較文化論特殊講義（日韓比較文化論 b）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講座では、韓国と日本の「教育」にテーマを絞って文化比較を行い、その共通点と相違点について理解を深めるとともに、「異文化比較」の具体的な方法を模索し、それを身につけていくことを目的とする。主に「教育政策」、「教育と文化」、「高等教育のあり方」、「教育と人間関係」、「生涯教育と社会」、「教育とジェンダー」などのテーマで日韓両国（両地域）の比較を行っていく予定である。身近なテーマであるため、履修者には積極的な授業参加が期待される。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 書堂と寺子屋</li> <li>3. 三国時代の教育と文化</li> <li>4. 高麗時代の教育と文化①</li> <li>5. 高麗時代の教育と文化②</li> <li>6. 朝鮮時代の教育と文化①</li> <li>7. 朝鮮時代の教育と文化②</li> <li>8. 植民地支配の教育政策</li> <li>9. 植民地支配の国語教育</li> <li>10. 日韓生涯教育と社会</li> <li>11. 日韓ジェンダー教育</li> <li>12. 日韓女性の教育</li> <li>13. 韓国における日本語教育の歴史</li> <li>14. 日本における韓国語教育の歴史</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>レジュメを配布する。 参考書：授業時に紹介する。</p>		<p>積極的な授業参加を評価する。 課題レポート：講義内容から一つのテーマを選び、レポートを提出する。</p>	

養 外言	韓国特殊研究Ⅰ（日韓比較文化論 a） 比較文化論特殊講義（日韓比較文化論 a）	担当者	きむ ひいすく 金 熙淑(김 희숙)
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取り組むことを期待したい。</p> <p>●参加型授業による人数制限をする。(50名まで) ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力1回目の授業から出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓比較文化概説 ガイダンス</li> <li>2. 韓日の建国神話</li> <li>3. 韓日の国土構造</li> <li>4. 韓日の村落</li> <li>5. 韓日の歳時風俗①</li> <li>6. 韓日の歳時風俗②</li> <li>7. 韓日の祭祀風習</li> <li>8. 韓日の民俗信仰</li> <li>9. 韓日の家族</li> <li>10. 韓日の食文化①</li> <li>11. 韓日の食文化②</li> <li>12. 韓日の住生活</li> <li>13. 韓日の服飾</li> <li>14. 韓日の福祉レジーム</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>適宜プリントを配布する。 参考文献：講義においてその都度紹介する。</p>		<p>授業への積極的な参加。自分のテーマを決め、「日韓文化比較」を行い、レポート提出による評価。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	韓国特殊研究Ⅲ（文献読解）	担当者	金 秀晶
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時事韓国語の読解力強化を目的とする。今学期は、毎週、新聞・雑誌や短いエッセイなどを取り上げ、一つの記事を読み通す。日本語と同じ漢字用語が多い時事韓国語の習得とともに、記事の読解力を高め、文化、経済、政治など、韓国社会全般にわたる理解をも深める。中級以上の韓国語の知識が必要である。</p> <p>エッセイや新聞・雑誌など時事に関する文章を読解する。毎週一つのテーマを読み通すことを目標とし、記事に出てくる特殊表現、専門的用語などをまとめながら、全体の内容を掴む訓練を重ねる。必要な資料は毎週、授業中に配布する。</p>		<p>1 - 5. 韓国の新聞を読む（5回）</p> <p>6-10 韓国の政治・経済雑誌を読む（5回）</p> <p>11-15 韓国の文化(伝統・芸能など)を読む（5回）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要な資料はコピーして配布する。		出席と平常点を重視する。授業中に出される課題の達成度と授業参加の積極性を総合評価する。	

養	日本研究Ⅰ（日本文学古典）	担当者	福沢 健
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>日本の古典文学史は、上代(奈良)・中古(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世(江戸)の五つの時代に区分される。限られた時間の中でこの全ての時代のテキストを取り扱うことは不可能なので、春学期は奈良時代の文学テキストについて講義する。</p> <p>講義概要</p> <p>奈良時代の文学テキストの代表的なものは、古事記・万葉集・風土記である。この中で、興味が持てそうなストーリーを持った、古事記・風土記に載せられている神話伝説を取り扱う。具体的には、古事記のヤマタノヲロチ神話を題材として、上代と現代の人々の自然観の違いについて話をしていきたい。それに際して、同一のテーマを扱った現代の作品として、宮崎駿の「もののけ姫」や「水爆大怪獣ゴジラ」（時間があれば…）についても扱うことを予定している。</p>		<p>1 神話とは何か</p> <p>2 ヤマタノヲロチ神話を読む①</p> <p>3 ヤマタノヲロチ神話を読む②</p> <p>4 ヤマタノヲロチ神話を読む③</p> <p>5 ヤマタノヲロチ神話を読む④</p> <p>6 日本人遙かな旅を見る①</p> <p>7 日本人遙かな旅を見る②</p> <p>8 宮崎駿「もののけ姫」を見る①</p> <p>9 宮崎駿「もののけ姫」を見る②</p> <p>10 宮崎駿「もののけ姫」を見る③</p> <p>11 宮崎駿「もののけ姫」を見る④</p> <p>12 宮崎駿「もののけ姫」を見る⑤</p> <p>13 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る①</p> <p>14 「水爆大怪獣ゴジラ」を見る②</p> <p>15 まとめ</p> <p>授業時に配布したプリントは、  <a href="http://www.geocities.jp/nofukuzawa/">http://www.geocities.jp/nofukuzawa/</a>  に載せてあります。休んだ人は、そこからダウンロードしてください。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト なし</p> <p>参考文献 授業時に指示する</p>		試験(持ち込み不可)・レポート・出席の総合点によって決める。	

養	日本研究Ⅱ（日本文学現代）	担当者	佐藤 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(講義目的)</p> <p>現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。</p> <p>(講義概要)</p> <p>現代文学のベストセラーを詳細に分析する。秋学期は「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。</p> <p>(受講者への要望)</p> <p>講義で紹介した作品は、できるだけ読破してほしい。読書の必要性とか重要性ではなく、読書の楽しみを伝えて行くことが目的なので、とにかく楽しんでほしい。</p>		<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 ①人間関係からの癒し</p> <p>第3回 ② 同上</p> <p>第4回 ③ 同上</p> <p>重松清「ビタミンF」  浅田次郎「鉄道員」  恩田陸「夜のピクニック」  佐藤多佳子「一瞬の風になれ」  他</p> <p>第5回 ①時間からの救い</p> <p>第6回 ② 同上</p> <p>第7回 ③ 同上</p> <p>浅田次郎「地下鉄に乗って」  北村薫「スキップ」「ターン」  佐藤正午「Y」  他</p> <p>第8回 ①笑いの持つ救い</p> <p>第9回 ② 同上</p> <p>第10回 ①美しい生き方</p> <p>第11回 ② 同上</p> <p>第12回 ①原作を映像で見る</p> <p>第13回 ② 同上</p> <p>第14回 まとめ(総集編)</p> <p>第15回 まとめ(総集編)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
その都度、紹介する。		レポート(定期試験)	

養 外言	日本研究Ⅲ（日本史 a） 日本近現代史 a	担当者	丸浜 昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1945年に終わった戦争は普通には太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを見直す必要がある。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば 1931 年の満州事変にいきつく。足かけ 15 年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。</p> <p>中高でのこの戦争の学習では、原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく、戦争全体の中での加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、ビデオをかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中、この戦争はどのようなものだったかの事実はしっかり知っておきたい。なお、なるべく秋学期とあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって</li> <li>2 満州事変から日中戦争へ</li> <li>3 日中戦争と対米英戦争</li> <li>4 真珠湾からか、コタバルからか</li> <li>5 被害の問題①—空襲は何を示すか</li> <li>6 被害の問題②—原爆投下をどうとらえるか</li> <li>7 加害の問題①—731 部隊とは何か</li> <li>8 加害の問題②—南京事件をどうとらえるか</li> <li>9 加害の問題③—三光作戦をめぐって</li> <li>10 兵士と民衆①—日本軍隊の特徴をみる</li> <li>11 兵士と民衆②—教育でどう兵士が育てられたか</li> <li>12 戦時下の社会—天皇制と国家神道・戦争への動員</li> <li>13 戦争と経済の関わりを考える①</li> <li>14 戦争と経済の関わりを考える②</li> <li>15 まとめとして—この戦争の原因をどうとらえるか</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

養 外言	日本研究Ⅳ（日本史 b） 日本近現代史 b	担当者	丸浜 昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>なぜ沖縄には、たくさんの米軍基地があるのか…。それはどうつくられ、どう維持されてきたのか。戦後のアメリカとの関わりをふまえて日本と沖縄の歩み学ばなければ、今日の沖縄の問題をとらえることはできない。1945 年 8 月 15 日に敗戦を迎えた戦争（アジア太平洋戦争・15 年戦争）は、戦後 60 年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。占領以来のアメリカとの関係が、講和や賠償問題等とおしての今日の日本の在り方、また日本人の戦争認識にも大きな影響を与えてきた事実を目に向けたい。</p> <p>中国や韓国をはじめとするアジアの国々は、この 2、30 年間で大きく変わってきた。民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、かつては不可能だった民衆同士の交流が大きく進んできた。戦後補償や戦争の認識をめぐる論議が今もおこることを、やっとそういう論議ができるようになったと捉える必要がある。そうしたことをきちんと論議ができる知識をもつ若者でいて欲しい。</p> <p>2011 年の 3・11 を経て、原発がどのように導入されてきたかを知ることの不可欠になった。取り上げていきたい。なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本土決戦と日本の戦争の終わり方</li> <li>2 沖縄戦が私たちに投げかけたこと</li> <li>3 日本国憲法はどう生まれたか</li> <li>4 東京裁判をめぐって</li> <li>5 サンフランシスコ講和のもった問題</li> <li>6 ビキニ被曝と原発の導入をめぐって その 1</li> <li>7 ビキニ被曝と原発の導入をめぐって その 2</li> <li>8 日本の国内での補償をめぐって</li> <li>9 日本のアジアへの補償をめぐって</li> <li>10 日韓条約はなぜ 1965 年に結ばれたか</li> <li>11 日中国交回復を考える</li> <li>12 沖縄の復帰が「日本」に問いかけていること</li> <li>13 アジアの民衆からの戦後補償要求</li> <li>14 「731 部隊展」の取り組みが意味したこと</li> <li>15 戦後 50 年の国会決議をめぐって</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中で紹介する		定期試験の時間の中で、事前出題による論述形式で試験を実施する。出席カードによる出席点をいくらか加味する。	

養 外言	日本研究V(日本経済論 a) 日本経済論 a	担当者	須藤 時仁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、基礎的な経済理論をベースに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにするものである。講義を通じて、現実の日本経済がどうなっているのか、また実際の経済現象が理論的にどのように説明されるのかについて理解してもらいたい。なお、新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。</p> <p>特に受講の条件というわけではないが、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 国民経済計算 (1)</li> <li>3. 国民経済計算 (2)</li> <li>4. 日本経済と産業構造の推移 (1)</li> <li>5. 日本経済と産業構造の推移 (2)</li> <li>6. 日本経済と産業構造の推移 (3)</li> <li>7. 家計の消費行動 (1)</li> <li>8. 家計の消費行動 (2)</li> <li>9. 家計の消費行動 (3)</li> <li>10. 家計の消費行動 (4)</li> <li>11. 企業の設備投資行動 (1)</li> <li>12. 企業の設備投資行動 (2)</li> <li>13. 企業の設備投資行動 (3)</li> <li>14. 企業の設備投資行動 (4)</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。		定期試験により評価する。	

養 外言	日本研究VI(日本経済論 b) 日本経済論 b	担当者	須藤 時仁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、基礎的な経済理論をもとに日本経済の仕組みや日本経済が抱えている問題点を明らかにすることを主眼としており、日本経済論 a の続編である。この講義では、民間経済主体の行動についての理解を前提として、経済政策はどのように経済に影響を及ぼすのか、世界経済と日本経済との相互の関係について理解してもらいたい。なお、本講義でも新聞やニュースで取り上げられている経済問題も紹介しながら講義を行う予定である。</p> <p>特に受講の条件というわけではないが、日本経済論 a の場合と同様に、受講生はマクロ経済学とミクロ経済学の基礎的な知識を学習していることが望ましい。また、できるかぎり新聞や雑誌に目を通して、現実の経済の動きを理解するよう努めてもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 日本の雇用と物価 (1)</li> <li>3. 日本の雇用と物価 (2)</li> <li>4. 日本の雇用と物価 (3)</li> <li>5. 日本の雇用と物価 (4)</li> <li>6. 日本の財政 (1)</li> <li>7. 日本の財政 (2)</li> <li>8. 日本の財政 (3)</li> <li>9. 日本の金融市場 (1)</li> <li>10. 日本の金融市場 (2)</li> <li>11. 日本の金融市場 (3)</li> <li>12. 日本の国際収支 (1)</li> <li>13. 日本の国際収支 (2)</li> <li>14. 日本の国際収支 (3)</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは特に指定しない。講義ではレジメを配り、それに基づいて進める。		レポート (20%) および定期試験 (80%) により評価する。	

養 外言	日本研究Ⅶ（日本文化論） 日本文化論 a	担当者	飯島 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本は世間一般がぼんやりと信じているような単一民族国家でもないし単一言語国家でもない。当然そこに見られる「文化」も決して単純で直線的な、いわば教科書記述的な歴史を持っているわけではない。そしてそれは日本に限ったあり方でもない。</p> <p>文化とは、「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。</p> <p>「日本」が含む諸地域の持つ文化的特徴を「歴史的複合重層性」ととらえ、周辺諸地域（朝鮮半島・ユーラシア大陸・南島諸地域）との文化交流によって複合し、新たな形態を産み出していく文化のあり方と、ある時代に盛期を迎えた典型的な文化的特徴が積み重なり、時代を超えて重層化するあり方が現在の文化を形作っているという立場から、海外との交流、国内交流、文字表記、振る舞い、季節感、信仰、文芸、美術・建築、芸能、思想、東西・都鄙観などの諸分野を概観し、具体例を示して講義していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 文化と文明…政治と現実</li> <li>3 日本文化の歴史的複合重層性…特殊な回帰性</li> <li>4 日本は閉鎖的な国か？</li> <li>5 日本人の振る舞い①…歩き方</li> <li>6 季節感…「四季」の嘘と作られた感受性</li> <li>7 文字の輸入…漢字・片仮名・平仮名</li> <li>8 ものの行き来、人の行き来</li> <li>9 日本人の振る舞い②…正直・清潔・契約</li> <li>10 律令の輸入…「天皇」と「国家」</li> <li>11 「鎖国」…開かれていた国「日本」</li> <li>12 明治維新の文化史的意味付け…「和魂洋才」</li> <li>13 「日本」はいつから「日本」か？</li> <li>14 「日本人」の暮らしと死生観</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
【参考文献】日本史年表と国語便覧（大学受験程度の内容、どこの出版社のものでも可、できれば図版を多く載せるもの、世界史との対照ができるもの）		学期末試験（論述式）の成績による。	

養 外言	日本研究各論Ⅰ（民俗芸能） 日本文化・芸能論 b	担当者	飯島 一彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「ある特定の人間集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたもの」の総体を「文化」と言う。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて「文化」である。その中でも民俗芸能は、民衆生活との結びつきの深さという点からは特徴的な「文化」である。</p> <p>日本の民俗芸能は世界にもまれに見る濃厚さで民衆生活と結びついてまだ残存している。いわゆる先進国に属する国としては唯一と言って良い。</p> <p>そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義していく。「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料を用いて、概念や価値観・認識の実際がどう機能しているかに留意する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 日本文化の複合重層性と「見えないもの」</li> <li>3 神の来訪と芸能①…春日若宮のおん祭</li> <li>4 神の出現と芸能②…八重山の祭と芸能Ⅰ</li> <li>5 異人の出現と芸能①…八重山の祭と芸能Ⅱ</li> <li>6 異人の出現と芸能②…岩手県の鹿踊・剣舞</li> <li>7 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植</li> <li>8 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊りⅠ</li> <li>9 稲作の習俗と芸能③…東北の田植踊りⅡ</li> <li>10 稲作の習俗と芸能④…能登のアエノコト</li> <li>11 年齢階梯と芸能①…福島県の成人儀礼「幡祭」</li> <li>12 年齢階梯と芸能②…兵庫県宮座Ⅰ</li> <li>13 年齢階梯と芸能③…兵庫県宮座Ⅱ</li> <li>14 境界領域の時空…曖昧な時間・空間・人間関係</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特になし。</p> <p>【参考文献】『日本の伝統芸能』錦正社、(税込 3,500 円) ISBN4-7646-0109-5</p>		学期末試験（論述式）の成績による。	

養 外言	日本研究各論Ⅱ（企業経営） 日本研究特殊講義（企業経営）	担当者	黒川 文子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、我国企業の経営の特質について、グローバルな視点から考察することが目標である。グローバルな日本企業を数社取り上げて、先進国、発展途上国を問わず、如何に市場に参入し、成功を収めているかについて考察する。その上で、日本企業の企業経営における競争優位性について理解を深めていく。</p> <p>日本企業がグローバル企業として世界に認められるには、その条件がある。日本国内だけに目を向けた経営は、やがて世界から排除されるだけでなく、市場からの消滅の恐れもある。したがって、限定された地域、人々を対象とするのではなく、開放的な経営をすることが、肝要となる。未成熟な経営段階からグローバル企業として認知されてきている我国企業の経営について、具体例を取り上げながら講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代企業の諸形態</li> <li>2. 株式会社の発展と企業支配</li> <li>3. 日本の会社機関とコーポレート・ガバナンス</li> <li>4. 現代企業の社会的責任</li> <li>5. 現代企業の環境経営</li> <li>6. 現代企業の経営戦略</li> <li>7. 人間関係論からモチベーション論へ</li> <li>8. 経営組織の基本形態</li> <li>9. 経営組織の発展形態</li> <li>10. 製造業の国際競争力と生産管理</li> <li>11. 経営のグローバル化と多国籍企業</li> <li>12. 現代企業における IT 戦略</li> <li>13. 日本型企业システムの変容</li> <li>14. 自動車産業の経営戦略</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
黒川文子『21世紀の自動車産業戦略』（税務経理協会、2008年）		期末試験と出席によって、総合的に評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	日本特殊研究Ⅰ（民俗学） 日本研究特殊講義（民俗学）	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちの生活はいきなり始まったものではなく、先祖から受け継がれてきたものである。その受け継がれてきた心意や価値観を解明するのが民俗学である。だからといって過去の問題として研究するものではない。現在にどのようなつながり、現在の我々の「存在」をどのようにして捉えることができるのかという目的のもとで研究が行われている。</p> <p>本講義では民俗学の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの問題を取り出し、これまでの研究成果を学び、自分たちの生活世界がどのようなものであったか、そしてそれが現在にどのように受け継がれているのかということを理解してもらいたいと思っている。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 民俗学の研究対象（具体的に）</li> <li>3 国学から民俗学へ（民俗学の成立）</li> <li>4 民俗学の研究と方法</li> <li>5 日本の祭り1（祭りの映像記録を見る）</li> <li>6 日本の祭り2</li> <li>7 異界の問題1（妖怪・幽霊とは何か）</li> <li>8 異界の問題2（日本の幽霊観）</li> <li>9 異界の問題3（妖怪と神の関係）</li> <li>10 昔話にみる「日本」</li> <li>11 年中行事1（とくに正月をめぐって）</li> <li>12 年中行事2（とくに盆をめぐって）</li> <li>13 人生儀礼（人の一生における様々な儀礼）</li> <li>14 日本人の死生観</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業時にプリント配布		試験による。ただし、4回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻2回で欠席1回とする。	

養 外言	日本研究各論Ⅲ（地域文化） 日本研究特殊講義（地域文化）	担当者	林 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在、特に都会では隣にどのような人が住んでいるのかわからない状況にある。しかし少なくとも江戸時代以降には、地縁的共同体が形成され、それにより個々の生活が支えられていた。その共同体を単位として受け継がれてきた。</p> <p>阪神淡路大震災において、地縁的共同体が相互の助け合いに大きく役立ったという報道がなされている。また東日本大震災では「地域」移転の問題が大きく報じられている。現在では都市化やネットの普及で、近隣との縁が薄くなった現実があり、従来の「地域」が崩壊しているといえる。その中で阪神淡路大震災での「地域」の役割は興味深いものがあるだけではなく、東日本大震災での「地域」移転による生活の変化、文化の変化を他人事のように捉えることはできない。</p> <p>本講義では従来の「地域」がどのようなものであり、どのように機能してきたか、そして現在ではどのように機能しているか、祭りや実際の「地域」構造を例示しつつ説明するものである。本講義により、「地域」とは何か、また崩壊したといわれる地縁性をどのようにすればよいのか、「地域」の再生か、再生せずに別の在り方があるのか考えるきっかけになればと思う。人は一人では生きていけないのである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 地名の成り立ちと地域（地域差の問題）</li> <li>3 地域形成と生活構造</li> <li>4 白川郷の「結」（ビデオと解説）</li> <li>5 地域認識の問題（地名と地域の関係）</li> <li>6 地域文化としての祭り</li> <li>7 地域の重層的構成</li> <li>8 内的他者とその機能</li> <li>9 伝統的祭りの方向性1（過疎地域の問題、具体例を通して）</li> <li>10 伝統的祭りの方向性2（都市地域の問題、具体例を通して）</li> <li>11 文化圏としての地域文化（ビデオと解説）</li> <li>12 地域文化とフォークロリズムの問題</li> <li>13 地域文化と新興の祭り（伝統的「地域」を離れた祭り。ビデオと解説）</li> <li>14 地域とボーダレス社会（現在にとって地域とは何か、シャッター商店街、子どもへの目の問題も含めて）、</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業時にプリント配布		試験による。ただし、4回以上の欠席は評価の対象としない。また出席表配布後の入室は遅刻として扱い、遅刻2回で欠席1回とする。	

養 外言	日本研究各論Ⅳ（古典芸能） 日本文化・芸能論 a	担当者	馬場 光子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本における古典芸能はそれぞれの時代に展開し、幅広く深い。それらは、人々の感情や世界観に基づいて形成されたものであり、時代の流れの中で見事な変容を遂げながら、その命を豊かにつむいできた。</p> <p>そうでありながら、私たち日本人はそれらに無自覚に接していたり、あるいはそれらをまったく知らずに過ごして来たかもしれない。この講義では、日本独自に成立完成した芸能に触れるとともに、それらを展開してきた原理について考察を深めたい。</p> <p>本講義では、古事記の神話に古代人の死生観を読み解くところから始めて、蛇へ変身して男を追う清姫の道成寺伝承の変遷をたどり、また平安朝末期に都ではやった流行歌「今様」や能・狂言・歌舞伎などの作品を取り上げる。（テープ、ビデオ鑑賞を含む）</p> <p>なお、4～7月に歌舞伎の実際の鑑賞（参加費 1500～2000 円）を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション…古典と芸能</li> <li>2 古代の芸能…死者の国への訪問と帰還</li> <li>3 説話を読む…道成寺伝承の主題（変身）</li> <li>4 説話を読む…道成寺伝承の話型（禁室型）</li> <li>5 絵画と伝承の関連を読み解く…語り部の視線</li> <li>6 変貌する芸能…能「道成寺」鐘入りを聴く</li> <li>7 変貌する芸能…歌舞伎「道成寺」物のビデオ鑑賞</li> <li>8 今様の語り歌…歩き巫女の一生</li> <li>9 今様の語り歌…告発「自分は何者なのか」鶴飼は嘆く</li> <li>10 伝承の変遷…表現の変遷・能「鶴飼」（夢幻能）</li> <li>11 演劇の方法（能の時間と空間）…現在能と夢幻能</li> <li>12 演劇の方法…（狂言の「笑い」の原点）</li> <li>13 アニメ「風の谷のナウシカ」の伝承の実現の原理…</li> <li>14 まとめ 1</li> <li>15 まとめ 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト…その都度プリントを配布する。 参考文献…その都度指示する</p>		<p>授業ごとのキーワードメモ(20%)と、学期末レポート(80%)の成績</p>	

養 外言	日本特殊研究Ⅱ（文献読解） 日本研究特殊講義(文献読解)	担当者	馬場 光子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では平安時代末期の帝王後白河院が自ら記した今様生活の記『梁塵秘抄口伝集（りょうじんひしょうくでんしゅう）』巻十を読む。</p> <p>日本には平安時代、遊女（あそび）や傀儡子（くぐつ）と呼ばれる民がいた。戸籍には載らない流浪の芸能民で、女性は売色のほか今様歌謡の唱歌をもって生業（なりわい）としていた。しかし、その実態は容易に知れない。</p> <p>けれども、『梁塵秘抄口伝集』巻十は、今様に耽溺した後白河院によって記されたので、プロ歌手としての傀儡子のプライドやありさまを生き生きと記し、また他書には描かれなかった後白河院の真情を、直裁に吐露するなど、後白河院の実像を彷彿とさせる点で、稀代の書といえる。系図・地図・絵画（復元の今様音声）等も用い、この特殊な文献を読み解きたい。</p> <p>『梁塵秘抄口伝集』は校訂本文・現代語訳（ともにテキスト所収）を用いて読む。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 概説（日本中世の概念・後白河院・流行歌今様・都市京都）</li> <li>3 『梁塵秘抄口伝集』を読む…書名の由来・「遊びをせんとや生まれけむ」</li> <li>4 『梁塵秘抄口伝集』を読む…今様の歌声の文献</li> <li>5 『梁塵秘抄口伝集』を読む…少年後白河院、今様に耽溺する</li> <li>6 『梁塵秘抄口伝集』を読む…傀儡女乙前との出会い</li> <li>7 『遊女記（ゆうじょき）』を読む</li> <li>8 『傀儡子記（かいらいしき）』を読む</li> <li>9 『新猿楽記（しんざるがくき）』を読む</li> <li>10 『梁塵秘抄口伝集』を読む…傀儡女の今様正統争い</li> <li>11 『今様の濫觴』を読む…秘曲「足柄」の相承系図</li> <li>12 『梁塵秘抄口伝集』を読む…神の感応（夢語り）・清盛</li> <li>13 『梁塵秘抄口伝集』を読む…「声技の悲しき」</li> <li>14 まとめ 1</li> <li>15 まとめ 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト…『梁塵秘抄口伝集』全訳注、（講談社学術文庫 1,250 円） 参考文献…その都度指示する</p>		<p>授業ごとのメモ(20%)と、学期末レポート(80%)の成績</p>	

養 外言	日本特殊研究Ⅲ (写本を読む) 日本研究特殊講義(写本を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本には、いわゆる古典文献以外にも、近代になっても多量に残された生活に関わる文書等、筆墨で記された文献(版本を含む)が無数に存在している。それらは貴重な文化遺産なのだが、それらを読み解くものがいなければただの紙屑でしかない。この授業はそれらを読み解くために必要な基本的技能(連綿体・変体仮名・書類上の日本漢文を読み解く力)を、実際に手を動かし、写本類を読むことで養う。</p> <p>具体的には、変体仮名を読む訓練を徹底的にした後、近世に記された文芸(物語・和歌類)・地方文書・実用書(版本)等の各ジャンルから様々な様態を示すもののうち、典型的な例を影印で示して読解の指導と作業を行う。</p> <p>さらに、基礎力を養った後に架蔵の写本類から比較的量の少ないものを影印で与えて翻刻を課する。余裕のあるものには毛筆での書写も課する。 <u>全体としては手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</u></p> <p>なお、参加するものは筆ペン(実際に毛筆を使用しているもの)を用意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 概説(日本の筆写・筆記の歴史、変体仮名)</li> <li>3 変体仮名演習①</li> <li>4 変体仮名演習②</li> <li>5 変体仮名演習③</li> <li>6 変体仮名演習④</li> <li>7 和歌を読む①</li> <li>8 和歌を読む②</li> <li>9 和歌を詠む③</li> <li>10 和歌を読む④</li> <li>11 物語を読む①</li> <li>12 物語を読む②</li> <li>13 文書を読む①</li> <li>14 文書を読む②</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト…プリントして配布 参考文献(必携)… 『字典かな』 定価:本体 380 円(税別) ISBN4-305-00000-8		数回の提出物、および学期末試験の成績による。	

養 外言	日本特殊研究Ⅳ (碑文を読む) 日本研究特殊講義(碑文を読む)	担当者	飯島 一彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類(道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等)を読み解くために必要な基本的技能(連綿体・変体仮名・日本漢文・梵字等の読解力)を養い、解釈と理解の道筋を示して身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。</p> <p>具体的には各分野の碑文のうち、典型的な例を写真などで示して(写真のデジタル処理に関してある程度の知識がある方が望ましい)読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、<u>学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。</u></p> <p>変体仮名の初歩等から教えることはしないので、日本特殊研究Ⅲ(写本を読む)をすでに履修したもの、もしくは変体仮名を読むことが履修の最低条件である。その上で漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 <u>全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・導入</li> <li>2 概説(石碑の種類・刻まれた文字達)</li> <li>3 日本漢文体の読解、梵字の読解</li> <li>4 道標・講中碑を読む</li> <li>5 墓碑銘・供養碑を読む</li> <li>6 記念碑・文学碑を読む</li> <li>7 学生諸君の報告と検討①</li> <li>8 学生諸君の報告と検討②</li> <li>9 学生諸君の報告と検討③</li> <li>10 学生諸君の報告と検討④</li> <li>11 学生諸君の報告と検討⑤</li> <li>12 学生諸君の報告と検討⑥</li> <li>13 学生諸君の報告と検討⑦</li> <li>14 学生諸君の報告と検討⑧</li> <li>15 学生諸君の報告と検討⑨</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト・参考文献…プリントして配布		各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、検討した上で手直しして提出してもらおう。その内容による。	

養	多言語間交流研究 I (言語学 a)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、必要に応じて他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域(考古学・医学・物理学・電子工学・数学)における言語研究にも言及する。</p> <p>参考文献 David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7) D. クリスタル/風間・長谷川訳 『言語学百科事典』(大修館, 1992; ISBN: 4-469-01202-2) 町田健 『言語学が好きになる本』(研究社出版, 1999; ISBN:4-327-37674-4)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>話し言葉と書き言葉 →言葉は約束事:言語学の研究対象, 記号論, ローマ字表記</li> <li>動物の言語と人間の言語 →チンパンジーも言葉が話せる?:動物のコミュニケーション</li> <li>言語と脳 →失われた言葉を取り戻す:心理言語学と大脳生理学</li> <li>子供の言葉の発達 →どのようにして言語を習得するか?:第 1 言語の発達過程</li> <li>外国語の上達 →どのようにしたらうまく話せるようになるか?:第 2 言語の習得理論</li> <li>音と音声 (1) →カテゴリーができるまで:調音音声学と音韻論</li> <li>音と音声 (2) →音声はどのように聞こえるか?:音響音声学と聴覚音声学</li> <li>統語論 →「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述:構造主義文法, 生成文法, その他の文法</li> <li>形と意味 →発話に意味を込める:意味論, 語用論</li> <li>会話の原則 →言葉の適切な使い方:談話分析</li> <li>言語と社会 →言葉の多様性と普遍性:社会言語学</li> <li>世界の言語とその系統 →言語の系統と分類:歴史言語学</li> <li>言語の進化 →言語と人類の発達:言語考古学</li> <li>コンピューターと言語 →近未来の言語研究:人工知能, 機械翻訳, コーパス言語学</li> <li>まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
G. ユール/今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

養	多言語間交流研究 II (言語学 b)	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>人間の言語は動物のそれと異りアナログ的要素と共にデジタル的要素がある。メッセージを単位記号(デジタル信号)に置き換えることでコミュニケーションの媒体となり、文学ばかりでなく政治や科学などの社会を構成する要素が確立したのである。この授業では言語の基本的な構造を取り上げ、理論的枠組みを理解すると共に、ハンズオンの学習を通して言語資料の分析練習を行う。対象言語は英語を初め各国語にわたる。教材の事前予習を前提とする。</p> <p>参考文献 Edward Finegan, <i>Language: Its Structure and Use, 6th ed.</i> (Wadsworth, 2011; ISBN: 978-0495900412) David Crystal, <i>The Cambridge Encyclopedia of Language</i> (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>形態論 (1) 形態素の同定(ハンガリー語, スペイン語)</li> <li>形態論 (2) 形態素の同定(現代ヘブライ語, マレー・インドネシア語, ペルシア語)</li> <li>形態論 (3) 形態素の同定(ラテン語, ラコタ語)</li> <li>音声学・音韻論 (1) 発音記号, 音素・異音(英語)</li> <li>音声学・音韻論 (2) 音韻の同定(ウィチタ語, 古典ヘブライ語, ラコタ語)</li> <li>音声学・音韻論 (3) 音素の同定(スペイン語, ヒンディー語, 日本語)</li> <li>音声学・音韻論 (4) 超分節音素の同定(中国語, アイスランド語・スワヒリ語・アラビア語・英語)</li> <li>音声学・音韻論 (5) 音韻現象, 生成音韻論(トルコ語, 英語)</li> <li>統語論 (1) 直接構成素分析, 句構造規則(英語)</li> <li>統語論 (2) 句構造規則(英語, イタリア語・ギリシア語)</li> <li>統語論 (3) 構造形成, 語順, 格(英語, 中国語, ドイツ語, クリンゴン語)</li> <li>意味論 上位概念・下位概念, 同意語・反意語(英語, 日本語, ペルシア語)</li> <li>語用論 新旧情報, 言語行為, 話題化(英語, 中国語)</li> <li>書記法(英語, イタリア語, ギリシア語, ヘブライ語)</li> <li>まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Paul R. Frommer & Edward Finegan, <i>Looking at Languages: a Workbook in Elementary Linguistics, 5th ed.</i> (Heinle, 2011; ISBN: 978-0495912316)		定期試験 x 出席率 + 平常授業における課題	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多言語間交流研究Ⅴ（英語圏の文学）	担当者	松山 響子
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義目的</b> 文学というと通常みなさんはどのようなイメージを持っていらっしゃるでしょうか。「古臭くて、長くて、面白くない。」そのような言葉が頭に思い浮かぶのではないのでしょうか。しかし言語を学んでいく上で文学をかじらずして当該言語の文化を語ることはできません。なぜなら文学は文化の中で中核をなす要素だからです。文学はその言語を使用する人間の考え方、知識、宗教的・歴史的背景を、最も洗練された形で記録している媒体なのです。同時に、文学史の中で言及される作品は時間という最も厳しい読者が選別をしているベストセラーリストです。この講義では、そのベストセラーリストの一端に触れて、「英語圏」の人々がどのようなものを文学と見なしているのか、少しでも理解していただけたらと思います。		第1週：オリエンテーション 第2週：古英語から中世へ 第3週：ルネッサンスが花ひらく 第4週：演劇時代の到来 第5週：そしてシェイクスピアの登場 第6週：時代は清教徒革命に向かう 第7週：清教徒革命の後 第8週：18世紀の散文、詩、そして劇 第9週：小説時代の到来 第10週：ロマン主義の光と影 第11週：ヴィクトリア朝の詩と散文 第12週：ヴィクトリア朝の小説 第13週：20世紀の詩と劇 第14週：20世紀の小説 第15週：20世紀の小説関連映像	
<b>概要</b> ひとくちに「英語圏」といっても、イギリス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポール、インドなど数多くあります。そして文化の中核をなす「文学」を取り上げるとなると、当然だが秋学期の授業だけでは足りません。したがって、この授業では最も歴史が長く、さまざまな英語圏の文学に影響を与えた「イギリス文学」を中心に、他の地域の文学も合わせて取り上げていきます。		授業によっては、スケジュールどおり進まないこともあるかもしれませんが、この点を承知しておいてください。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<b>テキスト</b> 川崎寿彦著『イギリス文学史入門』（研究社、1986年）		<b>評価方法</b> 期末定期試験(60%)、課題レポート(20%)、出席(20%) (2/3以上の出席がないと単位を認定しません。)	

養	多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>応用言語学は言語、言語習得そして言語運用に関する理論を応用し、言語に関わるあらゆる問題の解決策を模索する学問である（言語学の基礎・応用の応用ではなく、応用言語学という分野である）。本講義では、応用言語学にはどのような領域があるか、そしてそれぞれの領域が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。</p> <p>言語習得、外国語教育、言語と社会、言語研究の4領域を中心に進めていく。各領域においてどのような研究がなされ、外国語教育に何を示唆しているかを中心にみていく。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週：概論</p> <p>第2～3週：言語習得 －言語習得 －言語維持 －言語喪失</p> <p>第4～6週：言語と社会 －バイリンガリズム・マルチリンガリズム（個人・社会） －マイノリティ言語</p> <p>第7週：言語と脳</p> <p>第8～12週：外国語教育 －Second language vs. Foreign language －教室における第2言語習得（指導法） －言語政策（公用語化、小学校英語、教育方法など）</p> <p>第13～15週：言語研究</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布資料等有り。		期末レポート&課題(50%)、期末テスト(50%)	

養	多言語間交流研究各論Ⅱ（第二言語習得）	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを様々な理論をもとに考える。また、この分野における専門用語を日英の両言語で認識し、これらの理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。</p> <p>多言語間交流研究各論Ⅰ（応用言語学）を履修していることが望ましい。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点：英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週：概論</p> <p>第2～7週：SLA理論・仮説 －普遍文法 －モニターモデル －認知プロセス －インプット・アウトプット・インターアクション仮説他</p> <p>第8～13週：学習者要因 －年齢 －動機・態度(諸理論) －学習ストラテジー・学習スタイル －適正 －不安 －多重知能理論など</p> <p>第14・15週：発表および総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布資料等有り。		期末レポート&課題(50%)、期末テスト(50%)	

養	多言語間交流研究各論Ⅲ（英語圏の小説 a）	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。</p> <p>1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。</p> <p>2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します）</p> <p>3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。</p> <p>講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。</p> <p>注意事項:TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。</p>		<p>1. 新奇なるもの、小説？（1）</p> <p>2. 新奇なるもの、小説？（2）</p> <p>3. 英語圏の拡大（1）</p> <p>4. English Bestsellers of all time（1）</p> <p>5. English Bestsellers of all time（2）</p> <p>6. 英語圏の拡大（2）</p> <p>7. 国民文学と政治的無意識</p> <p>8. 小説の新たな挑戦（1）</p> <p>9. 小説の新たな挑戦（2）</p> <p>10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図(1)</p> <p>11. ポストコロニアルの文学地図（2）</p> <p>12. ポストコロニアルの文学地図（3）</p> <p>13. ポストコロニアルの文学地図（4）</p> <p>14. テキストの思わぬ旅路（1）</p> <p>15. テキストの思わぬ旅路（2）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。</p>		<p>出席 30%</p> <p>定期試験 70%</p>	

養	多言語間交流研究各論Ⅳ（英語圏の小説 b）	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的</p> <p>アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接接触する（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。</p> <p>講義概要</p> <p>まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。</p> <p>講義形式が主であるが、希望があれば、学生諸君による作家や作品に関するプレゼン形式も採り入れる予定。</p> <p>なお、昨年度単位取得者の履修は許可しません。</p>		<p>1：アメリカ小説の概略（歴史・文化・社会）</p> <p>2：アメリカ小説の創生期</p> <p>3：アメリカン・ルネッサンス</p> <p>4：リアリズム小説1（第一世代と第二世代のリアリズム作家たち）</p> <p>5：リアリズム小説2（Mark Twain と <i>The Adventures of Huckleberry Finn</i>）</p> <p>6：リアリズム小説3（Naturalism）</p> <p>7：モダニズム小説1（アメリカ小説のモダニストたち）</p> <p>8：モダニズム小説2（William Faulkner と "That Evening Sun"）</p> <p>9：モダニズム小説3（"That Evening Sun"）</p> <p>10：モダニズム小説4（William Faulkner と <i>The Sound and the Fury</i>）</p> <p>11：多文化主義小説1（多文化主義とアメリカ小説）</p> <p>12：多文化主義小説2（黒人作家とユダヤ系作家）</p> <p>13：多文化主義小説3（Bernard Malamud と "The First Seven Years"）</p> <p>14：多文化主義小説4（"The First Seven Years"）</p> <p>15：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：プリントを使用</p> <p>参考書：随時、授業にて紹介する</p>		<p>定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。</p>	

養	多言語間交流研究各論V (英語圏の詩 a)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 「アメリカ詩史」をたどる。 山登りをしようとする、いくつかルートがある。もちろん、各々のルートによって見える眺望は異なる。同じことは歴史にも言える。歴史とは作られるものだ。移民の国であるアメリカ合州国の詩の歴史も、元々住んでいた人のものからはじめるか、それとも移民のものから始めるか、それで大きな眺望の違いが見られるだろう。 この授業では、後者の立場からはじめた「アメリカ詩史」をたどる。</p> <p><b>講義概要</b> 「アメリカ詩史」をどこからはじめるか、これは大問題だ。「アメリカ文学史」などでは Anne Bradstreet からはじまることになっているが、この授業では、Native American (いわゆる、インディアン) の口承詩からはじめる。そして、着地点は、昨年来日し、谷川俊太郎と朗読会をして、その健在ぶりを見せた Gary Snyder だ。 さて、Native American の詩と、Snyder の詩、そのあいだになにがあったのか、それが重要だ。なぜ Snyder と Native American の詩がつながるのか。そのあいだに、どのような詩が書き継がれてきたのか、それを考察する。</p>		<p>1: introduction 2: Native American Poems. 3: Walt Whitman, "Poets to Come!," "I Hear America Singing" など。 4: Emily Dickinson, "Because I could not Stop for Death" "I Taste a Liqueur Never Brewed" など 5: Robert Frost, "Stopping bu Woods on a Snowy Evening" 6~8: Ezra Pound の初期の Imagism の短詩など。 9~10: William Carlos Williams の詩 11~12: Wallace Stevens の詩 13~14: T. S. Eliot の詩 14~15: H.D. の短詩、Gary Snyder の詩、そして全体のまとめ。</p> <p>授業へは予習をして、頭をカラにしておくこと。受講生にはときおり、質問をする。7, 80 人の前でも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		レポートおよび出席。ときに、こちらから質問をし、そこで答えてくれた学生には、ボーナスあり。	

養	多言語間交流研究各論VI (英語圏の詩 b)	担当者	白鳥 正孝
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義の目的</b> ワーズワス (W. Wordsworth 1770-1850) の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。</p> <p><b>講義概要</b> 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。</p> <p><b>参考文献</b> 新井明著 『英詩鑑賞入門』 研究社 1987</p>		<p>1. 詩形について 2. &lt;マザーグース&gt; I 3. &lt;マザーグース&gt;II (video 鑑賞) 4. &lt;現代英詩アラカルト&gt;I T.S.Eliot (1888-1965) (video 鑑賞、字幕なし、以下同じ) 5. &lt;同&gt;II T.Hughes(1992-1985)など (video 鑑賞) 6. Alfred Tennyson(1809-92), Robert Browning(1812-89) 7. &lt;ロマン派の曙&gt; W.Blake(1757-1827), video 鑑賞 8. &lt;ロマン派の詩&gt; I ワーズワス、video 鑑賞 9. &lt;ロマン派の詩&gt; II S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824) (video 鑑賞) 10. &lt;ロマン派の詩&gt; III P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) 11. &lt;ロマン派の詩&gt; 総括 解説と video 鑑賞 12. Thomas Gray(1716-1771), "Elegy Written in a Country Churchyard" (1751)を読む。 Video 鑑賞 13. John Milton(1608-74) Paradise Lost(1667)のさわり、ソネット23. Video 鑑賞 14. William Shakespeare(1564-1616), 詩の紹介と解説 DVD, video 鑑賞 15. 総括</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂 1987 (プリント)</p>		<p>テストを課す。数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。</p>	

養 外言	多言語間交流研究各論IX (国際語としての英語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(国際語としての英語)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>約3億人といわれる英語母語話者に、公用語として英語を使用する人々及び外国語または「国際語」として英語を使用する人々を加えると20億人あまり英語話者がいるという。20億人全員が同じ英語を話しているのだろうか。日本人にとって英語とは何なのであろうか。</p> <p>本講義では、「世界英語(World Englishes)」そのものの理解を高めることを目的とする。また、非英語母語話者としてどのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(リーディングやフィールドワーク)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点: 英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週: 概論 第2週: 英語の普及 -ディアスポラなど 第3~4週: 英語の多様化 -ピジンとクレオール -方言と標準語 第5~7週: 世界英語—内部圏における多様化 -アメリカ、オーストラリア、イギリス英語など -Hawaii Creole English -Ebonics -Spanglish など 第8~9週: 世界英語—外部圏における多様化 -インド英語 -Singlish 第10~11週: 世界英語—拡大圏における多様化 -ヨーロッパと英語、ロシアと英語 -中国と英語、韓国と英語 第12~13週: 日本人にとっての英語とは何か -日本での英語使用 -日本の英語教育史 -現状と動向: 政策、教師、カリキュラム、目的など 第14~15週 -発表と総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布資料等有り。		フィールドワークに基づいた期末レポートおよび他課題(50%)、 期末テスト(50%)	

養 外言	多言語間交流研究各論X (多言語環境と英語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(多言語環境と英語)	担当者	白井 芳子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、「多言語使用」の意義、「多言語共生」の可能性、および「言語政策」(教育、サービス含む)の役割について理解を高めることを目的とする。また英語が普遍語になっていくのか考える。</p> <p>出席を前提とする。 また、課題(リーディングとフィールドワークなど)をしてきたことを前提とした講義である。</p> <p>留意点: 英語で書かれた文献を課題として出すこともある。</p>		<p>第1週: 概論 第2~4週: 言語権、言語サービス、複言語主義、多言語主義など 第5~8週: 世界の言語政策と英語の位置づけ -内部圏: アメリカ、オーストラリアなど -外部圏: インド、シンガポールなど -拡大圏: フランス、韓国など 第9~13週: 日本の中の多言語と英語 -日本の中の多言語 -言語政策と教育 -各地方自治体の言語政策・言語サービス -言語意識教育など 第14~15週: 発表と総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布資料等有り。		期末レポート&課題(50%)、期末テスト(50%)	

養 外言	多言語間交流研究各論X I (英語圏の文化) 地域社会文化論特殊講義(英語圏の文化)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには5割を切るという。</p> <p>国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワस्प (WASP&lt;White Anglo-Saxon Protestant&gt;) 社会を創造した。19世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワस्प文化は依然として社会の根幹をなしていた。</p> <p>冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。</p> <p>近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 国家建設とワस्प主義</li> <li>3. 工業化と新移民の流入</li> <li>4. 多民族社会の問題</li> <li>5. 異文化と差別</li> <li>6. メルティングポット論</li> <li>7. ビートニクス</li> <li>8. 冷戦とベトナム戦争</li> <li>9. カウンターカルチャー</li> <li>10. カウンターカルチャー</li> <li>11. 映像</li> <li>12. 文化多元論</li> <li>13. アファーマティブアクション</li> <li>14. 多文化主義</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

養 外言	多言語間交流研究各論X II (英語圏事情) 地域社会文化論特殊講義(英語圏事情)	担当者	山本 英政
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバル化の理想は、世界の共生である。しかし、現状は欧米、とくに経済と軍事の強大な力をもつアメリカの影響に圧倒されている。他方、世界はアメリカがつくるポップカルチャーの魅力の虜となっている。硬軟両方のアメリカのパワーを認識し、世界のあるべき姿を考える。</p> <p>イスラム世界に対する軍事力の行使は、「力」を信望するアメリカの姿をわたしたちに再認識させた。アメリカはその歴史において自国の要求を受け入れない国に対し、ときに容赦なく武力を用いてきたのである。</p> <p>反面、大衆文化という柔らかなイメージで世界に向け「アメリカ的なるもの」を発信しつづけ、それは「文化帝国主義」との非難を誘起するほどに、人びとの生活様式を単一化させている。</p> <p>アメリカのハードとソフトの両面パワーを明らかにし、グローバル化がすすむ世界に与える影響を考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 銃社会アメリカ</li> <li>3. 〃</li> <li>4. 911</li> <li>5. アメリカと戦争</li> <li>6. ベトナム戦争</li> <li>7. 湾岸戦争</li> <li>8. イラク戦争</li> <li>9. 〃</li> <li>10. もう一つの911</li> <li>11. 映像</li> <li>12. ソフト・パワー</li> <li>13. アメリカンポップカルチャーの力</li> <li>14. 〃</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：授業で紹介する		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅰ（翻訳通訳論・英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義（翻訳通訳論・英語）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、通訳・翻訳という言語コミュニケーションの理解を目的とする。</p> <p>本講義では、コミュニケーションという行為について考察するとともに、通訳・翻訳を含む言語コミュニケーション一般についての理解を深める。</p> <p>第1回目の講義では、細かい指示を出すので、必ず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 コミュニケーションとはなにか</li> <li>3 翻訳とはなにか</li> <li>4 通訳とはなにか</li> <li>5 産業翻訳</li> <li>6 文芸翻訳</li> <li>7 字幕翻訳</li> <li>8 翻訳を体験してみよう</li> <li>9 社内通訳</li> <li>10 会議通訳</li> <li>11 通訳案内業（ガイド通訳）</li> <li>12 芸能通訳</li> <li>13 スポーツ通訳</li> <li>14 放送通訳</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『初めて学ぶ翻訳通訳 言語コミュニケーション入門』 『通訳の英語 日本語』		授業における発表・取り組みにより評価するが、出席状況も評価対象とする。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅳ（翻訳通訳実習・英語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義（翻訳通訳実習・英語）	担当者	中島 直美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、通訳のトレーニングを通して、すでに持っている英語の「知識」を「スキル」に転化することを目的とする。徹底したトレーニングを行い、英語の受信力・発信力を鍛える。</p> <p>春学期の特殊研究Ⅰを受講していることが望ましい。</p> <p>第1回目の講義では細かい指示を出すので、かならず出席すること。基本的に初回の授業に欠席した者は、その後の受講を認めないので注意すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 アテンド・随行通訳</li> <li>3 パーティ・レセプション通訳</li> <li>4 工場見学通訳</li> <li>5 ビジネス・商談通訳</li> <li>6 芸能・スポーツ通訳</li> <li>7 パフォーマンステスト (1)</li> <li>8 ニュースのボイスオーバー</li> <li>9 司法通訳</li> <li>10 医療通訳</li> <li>11 国際政治や軍事に関するトピックの通訳</li> <li>12 インタビュー対談通訳</li> <li>13 セミナー・講演会通訳</li> <li>14 国際会議同時通訳</li> <li>15 パフォーマンステスト (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『通訳の現場から学ぶ実践演習』		授業内で実施する確認テスト 100%	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅱ（翻訳通訳論・中国語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義（翻訳通訳論・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：日本と中国の翻訳の歴史と理論についての理解を深め、さらに実際の翻訳作品を素材として比較や分析を行います。また、学期の最後には種々のテキストを用いて翻訳実習を行います。</p> <p>中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。林語堂、魯迅の翻訳論に関しては中国語の原文と参考用に日本語翻訳または参考文献を配布します。</p> <p>学期の半ばでは、実際の翻訳作品を例にとり、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。</p> <p>最後に実際に自分で翻訳を行い、翻訳の楽しさや難しさを体験します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 翻訳の理論が扱う問題</li> <li>3. 中国における翻訳の歴史</li> <li>4. 中国の翻訳論と日本の翻訳論</li> <li>5. 近代文学と翻訳</li> <li>6. 日本における中国文学の翻訳（近代以前）</li> <li>7. 日本における中国文学の翻訳（近代以降）</li> <li>8. 日本文学の中国語訳を読む（1）</li> <li>9. 日本文学の中国語訳を読む（2）</li> <li>10. 中国文学の日本語訳を読む（1）</li> <li>11. 中国文学の日本語訳を読む（2）</li> <li>12. 翻訳実習（1）</li> <li>13. 翻訳実習（2）</li> <li>14. 翻訳実習（3）</li> <li>15. 学期のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業でプリントを配布します。 指定教科書は使用しません。		出席率と期末レポートで評価します。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅴ（翻訳通訳実習・中国語） 情報・コミュニケーション研究特殊講義（翻訳通訳実習・中国語）	担当者	永田 小絵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：中日・日中翻訳・通訳入門</p> <p>学期の前半は翻訳練習とし、新聞・雑誌・エッセイなどの長文を取り上げて中国語→日本語の翻訳を行う予定ですが、履修者の希望に応じて中国語作文力を養うための日→中単文翻訳練習を取り入れることも可能です。</p> <p>8回目からはそれぞれのトピックについて教材（音声ファイル・文字テキスト）を配布し、テキストに基づいて逐次通訳と同時通訳の練習を行います。</p> <p>翻訳・通訳についてそれぞれ実技試験を実施し、平均点で総合点を出します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、教材配布</li> <li>2. 社会ニュースの翻訳</li> <li>3. 文化コラムの翻訳</li> <li>4. エッセイ翻訳</li> <li>5. 漫画の翻訳</li> <li>6. 映像翻訳</li> <li>7. 翻訳の試験</li> <li>8. 通訳練習 1 アジア差別発言</li> <li>9. 通訳練習 2 サマータイム導入に賛成か反対か</li> <li>10. 通訳練習 3 多動症（ADHD）</li> <li>11. 通訳練習 4 魚を食べると頭が良くなるのか？</li> <li>12. 通訳練習 5 インターネット・オークション</li> <li>13. 通訳練習 6 専業主婦になりたいですか？</li> <li>14. 通訳試験（逐次通訳）</li> <li>15. 通訳試験（同時通訳）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中にそのつど配布する。		授業に対する積極性と期末テストで評価します。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅲ (翻訳通訳論・スペイン語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳論・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>翻訳・通訳とは何か。実践例や演習を通して、翻訳・通訳の概要を検討する。</p> <p>翻訳では特に接続法に焦点を当てて、訳出の違いを研究する。</p> <p>また、翻訳者養成に有意義だとされているメモリーレッスンを実践し、伝達意図を即時につかみ取り入れ、発表する演習を行う。内容先取り練習を兼ねる文化紹介記事を主に使用する。</p> <p>また、通訳に関しては、通訳者の役割と訓練法の説明を行い、さらに通訳技術を応用した翻訳方法についても論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 数字の QR</li> <li>2. 通訳・翻訳の共通点と相違点</li> <li>3. メモリーレッスン1 翻訳技法・接続法 1</li> <li>4. メモリーレッスン2 翻訳技法・接続法 2</li> <li>5. メモリーレッスン3 視訳の説明</li> <li>6. メモリーレッスン4 翻訳技法・接続法 3</li> <li>7. メモリーレッスン5 翻訳技法・接続法 4</li> <li>8. 数字テスト 接続法テスト</li> <li>9. ノートテイクングとサマリー作成 研究</li> <li>10. ノートテイクングとサマリー作成 研究</li> <li>11. デュアル・レッスン</li> <li>12. 長文音読と視訳</li> <li>13. 長文音読と視訳</li> <li>14. 実技試験</li> <li>15. 予備日</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席 30% 参加度30% 課題20% 試験20% 課題は PC で仕上げてくるものとする。	

養 外言	多言語間交流特殊研究Ⅵ (翻訳通訳実習・スペイン語) 情報・コミュニケーション研究特殊講義(翻訳通訳実習・スペイン語)	担当者	柴田 バネッサ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ラテン・アメリカについてのエッセイを教材として通訳トレーニング演習を行う。</p> <p>数字 QR</p> <p>以下の手順で本番に近い演習を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音読、サイトトランスレーション、</li> <li>2. 訳文の提出、ペアまたはグループによる逐次通訳、</li> <li>3. 逐次同通、ウイスパリング同通の練習、</li> <li>4. 同通ブースを使用した同時通訳練習</li> <li>5. 実技試験</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 素材音読 視訳</li> <li>2. 課題提出 逐次通訳練</li> <li>3. 逐次同通、ウイスパリング同通の練習</li> <li>4. 同時通訳</li> <li>5. 実技試験</li> <li>6. 素材音読 視訳</li> <li>7. 課題提出 逐次通訳練</li> <li>8. 逐次同通、ウイスパリング同通の練習</li> <li>9. 同時通訳</li> <li>10. 同時通訳実技試験</li> <li>11. 実技試験 素材音読 視訳</li> <li>12. 素材音読 視訳</li> <li>13. 課題提出 逐次通訳練 同時通訳</li> <li>14. 実技試験</li> <li>15. 予備日</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		出席・参加 40% 課題提出 30% 実技試験 30%	

養	多文化共生研究Ⅰ（文化人類学 a）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文化人類学は 19 世紀後半、当時の西欧社会によって 'primitive' と表現された（日本では、おおむね「未開」と表現されてきた）、極めて異なった文化をもつ社会の研究として始まった学問である。現在こうした文化は消滅しつつあるが、今までの資料によってこれを追求してゆくことは、文化の多様性を知る上で無駄ではないだろう。春学期は、この学問の誕生までの経緯、対象、視点などを前半で簡単に述べ、後半はこうした文化の事例と、その理解について説明する。</p> <p>注：文化人類学の研究対象は上に述べたように「未開社会」、つまりわれわれの視点からすると、「遅れた」あるいは「非科学的」な社会です。またその文化は、現在の世界の画一化のなかでどんどん消滅しつつありますし、消滅してしまったものもたくさんあります。自分がそういうものに興味があるのか、よく考えて取るかどうか決めてください。</p>		<p>1 どんな学問か</p> <p>2 概説書の紹介</p> <p>3 文化人類学誕生まで (1)</p> <p>4 同上 (2)</p> <p>5 同上 (3)</p> <p>6 文化人類学の誕生</p> <p>7 研究対象としての「文化」の概念</p> <p>8 分析の視点——歴史的視点</p> <p>9 歴史的視点から現在の視点へ</p> <p>10 この回以降は文化の事例とその理解について話す、具体的に話に出す事例は、流れのなかで決めてゆく。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

養	多文化共生研究Ⅱ（文化人類学 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>a で話したことを基礎に、まず「異文化」（「未開」文化）を明らかにしてゆく文化人類学の方法について述べる。そのあとこうした文化の事例を具体的に示し、それをどのように理解するかを明らかにする。また文化人類学はその理解の過程でわれわれ自身の文化について意識化し、批判を加える努力もしてきた。その点についても話ができればと思う。</p> <p>注：強制はできませんが、なるべく春学期の a を受講した人が取ってくれることを望みます。</p>		<p>1 方法としての実地調査 (1)</p> <p>2 同上 (2)</p> <p>3 この回以降は文化の事例とその理解、またそれを通して可能になる自文化の意識化について話をする。具体的に話す事例は、今のところ、「生業」数回、「成人式」数回を予定しているが、これに加えていずれも映像（ビデオ）を見てもらう機会を 3 回ほど用意している。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		定期試験期間中の試験による。	

養	多文化共生研究Ⅲ（社会学 a）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も他者であり、家族や親しい友人も、ある意味では他者である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、多少なりともそういった他者と社会的関係を持たなくては、私たちは生活できない。社会は、他者とともに生きる世界である。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では、「他者 other(s)」が重要なキー概念のひとつとなっている。さらに言えば、他者について考えることは、「自己（わたし）」について考えることでもある。とくに本講義では、社会学がこれまで関心を寄せてきた諸概念をとりあげ、それを現代的な文脈で考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、「社会学」という学問が、どういった経緯で成立したか、また社会的視点、社会的な考察とは、どういったものか、さらに社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズムについて学び、それをとおして社会における自己と他者についての関係を考えることである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション—社会的な視座とは</li> <li>2. 社会学の歴史（1）—A. コント、H. スペンサー</li> <li>3. 社会学の歴史（2）—E. デュルケム</li> <li>4. 社会学の歴史（3）—M. ウェーバー</li> <li>5. 社会の類型（1）—コミュニティとアソシエーション</li> <li>6. 社会の類型（2）—ゲマインシャフトとゲゼルシャフト</li> <li>7. 社会の類型（3）—第一次集団</li> <li>8. Identity形成と社会（1）—鏡に映った自己</li> <li>9. Identity形成と社会（2）—重要な他者</li> <li>10. Identity形成と社会（3）—マージナル・マン</li> <li>11. Identity形成と社会（4）— 未定</li> <li>12. 補完的アイデンティティについて（1）</li> <li>13. 補完的アイデンティティについて（2）</li> <li>14. 補完的アイデンティティについて（3）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>G. ジンメル『社会学の根本問題（個人と社会）』世界思想社  E. デュルケム『自殺論』中央公論社  M. ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』  G.H. ミード『社会的自我』恒星社厚生閣</p>		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

養	多文化共生研究Ⅳ（社会学 b）	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしたちは、つねに安穏とした平和な社会だけに生きているわけではない。他者と共に生きる社会は、大小問わずさまざまな問題を抱えている。そういった問題を社会学では、どのように研究してきたのだろうか。まず本講義の前半では、何人かの社会学者の研究業績を紹介しながら、近代社会が抱える問題について講義する。つづく後半では、できるだけ身近な例を挙げて、ある事象が「社会問題化する」とはどういうことか、そして社会学が射程におく現代的課題にはどういったものがあるかを考えてみたい。</p> <p>本講義のねらいは、異なった社会的・文化的背景をもつひとびとが、ともに生き、ともに暮らす社会において、なにが問題とみなされるのか、なにが必要とされているのかを社会的視点から考え、「都市」「移民」「地域」に注目しつつ、現代のグローバル化・国際化のもとで日本社会が直面する課題とはなにか、そこからどのようなネットワークがあらたに生まれるかについて学ぶことである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 社会的性格と「自由からの逃走」—E. フロム</li> <li>3. 同調様式の3類型—D. リースマン</li> <li>4. 都市化と移民—W.I. トマスとF.W. ズナニエツキ</li> <li>5. 同心円地帯説—E. パーゼス</li> <li>6. シカゴ学派と都市問題—R. パーク</li> <li>7. 「社会」問題と社会的視座（1）</li> <li>8. 「社会」問題と社会的視座（2）</li> <li>9. 「社会」問題と社会的視座（3）</li> <li>10. 予言の自己成就—R.K. マートン</li> <li>11. 誇示的消費—T. ヴェブレン</li> <li>12. 認知的不協和の理論—L. フェスティンガー</li> <li>13. 文化的再生産—P. ブルデュー</li> <li>14. コンフルエント・ラブ—A. ギデンズ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>E. フロム『自由からの逃走』東京創元社  D. リースマン『孤独な群集』みすず書房  W.I. トマス、F. ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房  A. ギデンズ『親密性の変容』而立書房 ほか</p>		出席とレポート（履修者多数の場合、期末試験を行う）	

養 外言	多文化共生研究V (異文化間コミュニケーション a) 異文化間コミュニケーション論 a		岡村 圭子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>あなたにとってなにが異文化/自文化か? そう訊ねられたとき、私たちはどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。</p> <p>本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究、およびその歴史的背景を概観し、現代社会の異文化関係について学ぶ。とくに重要なテーマは、さまざまな文化的差異を意識し、身近な異文化にも目を向けることである。そのうえで、異文化への/からの「まなざし」について、また多文化共生の理想と現実について考えていきたい。これらはきわめて慎重に扱わねばならない難しいテーマであるが、本講義をとおして異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 異文化と自文化</li> <li>3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史</li> <li>4. コミュニケーションの構造 ——コンテキストとステレオタイプ</li> <li>5. 異文化へのまなざし (1) 「日本」の表象</li> <li>6. 異文化へのまなざし (2) 自文化中心主義</li> <li>7. 異文化へのまなざし (3) 未定</li> <li>8. 内なる異文化 (1)</li> <li>9. 内なる異文化 (2)</li> <li>10. マルチカルチュラリズムについて (1) ——文化的差異の承認をめぐるジレンマ</li> <li>11. マルチカルチュラリズムについて (2) ——多文化教育の視点</li> <li>12. マルチカルチュラリズムについて (3) ——多層的アイデンティティ</li> <li>13. 相互行為分析と異文化研究 (1)</li> <li>14. 相互行為分析と異文化研究 (2)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート (履修者の状況によってはテストになる場合もある)	

養 外言	多文化共生研究VI (異文化間コミュニケーション b) 異文化間コミュニケーション論 b	担当者	山本 英政
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、アメリカにおける異文化間の闘争とハワイの多民族社会の形成について紹介する。</p> <p>複数の民族を有する国の理想は異なる文化を認め合う社会の創造であろう。多民族社会アメリカでは、人種、民族間で生じる摩擦によって、ときに多大な犠牲が払われてきたのである。</p> <p>10 週目までは、黒人による差別撤廃運動の過程を紹介する。公民権運動から半世紀以上が過ぎたが、どれだけ人種間の理解は進展を見たのだろうか。</p> <p>そのあとの講義では、多民族共存のひとつのモデルともいわれるハワイ社会を取り上げる。日本人移民のハワイにおける体験を検証し、異民族共存の困難さを考えてみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. モザイク国家アメリカ</li> <li>3. ロス暴動に見る共生の現実</li> <li>4. 奴隷制下の人種共存</li> <li>5. 奴隷解放? 現実とは?</li> <li>6. 自由と平等への戦いのはじまり</li> <li>7. 公民権運動の共生理念</li> <li>8. 非暴力不服従 ガンジーとキング</li> <li>9. 急進派ブラック・パワーとは</li> <li>10. モハメッド・アリ</li> <li>11. 多民族混合社会ハワイ</li> <li>12. ハワイの経験—多民族の取り込み—</li> <li>13. 日本人移民の背景</li> <li>14. 排斥事件</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献: 『アメリカ黒人の歴史』 本田創造 岩波新書 『キング牧師とマルコム X』 上坂昇 講談社現代新書		学期末試験 レポート 受講希望者はガイダンスに必ず出席してください	

養 外言	多文化共生研究各論 I (アメリカの多文化共生 a) 地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー a)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日米に定住する代表的マイノリティ（被差別少数派）の歴史と現状について学ぶ。とりわけ多数派の側から加えられてきた抑圧・差別を生み出すメカニズムについて詳しく説明する。同時に多数派側からの抑圧をはねのけ共生の道を模索してきたマイノリティ集団側の主体的努力についても学ぶ</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本のマイノリティ、アイヌ</li> <li>2. 日本のマイノリティ、在日（日系）ブラジル人</li> <li>3. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色</li> <li>4. 米南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件</li> <li>5. 自動車王H. フォードの反ユダヤ・キャンペーン</li> <li>6. 米高等教育機関におけるユダヤ人排斥</li> <li>7. 公民権闘争とユダヤ人攻撃</li> <li>8. 多文化共生社会実現にむけてのアメリカの努力</li> <li>9. 合評会第1 回、文庫本 第4 章まで</li> <li>10. 合評会第2 回、文庫本 第5 章以降</li> <li>11. 在日中国人</li> <li>12. 在日コリアン</li> <li>13. 被差別部落問題</li> <li>14. 在日黒人</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤唯行著、『アメリカのユダヤ人迫害史』（2000年 集英社新書）680円、その他、合評会用に400円程の文庫本を入手していただく。</p>		<p>定期試験 70 点 試験はテキスト持ち込み可。 合評会 16 点 出席 14 点 でカウントする。</p>	

養 外言	多文化共生研究各論 II (アメリカの多文化共生 b) 地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニック・ヒストリー b)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。</p> <p>毎回十数本の映像ソフトを担当者が持参し、具体的場면을ピックアップしながら、各エスニック・グループが抱えているジレンマ・課題などを解説していく。つまりエスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。</p> <p>かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 先住民インディアン</li> <li>3. 越境するヒスパニック</li> <li>4. 今を生きる黒人</li> <li>5. 歴史の中の黒人</li> <li>6. " "</li> <li>7. 等身大のユダヤ人</li> <li>8. 反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター</li> <li>9. 歴史の中のユダヤ人</li> <li>10. アジア系ー日系・中国系・韓国系ー</li> <li>11. ホワイト・エスニックーアイルランド系・イタリア系 など過去において蔑視された白人集団</li> <li>12. 異人種・異教徒間カップル</li> <li>13. " "</li> <li>14. おわりに</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>佐藤唯行著、『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008 年 NTT 選書）1600 円</p>		<p>出席は14 点分でカウントする。定期試験は86 点分。試験は8 択、20 題のクイズ形式。テキスト持ち込み可。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	多文化共生研究各論Ⅳ（異文化社会の認識と世界観 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>わたしの専門の文化人類学で「異文化」と言えば「未開の文化」を指すことをまずはっきり認識しておいてもらいたい。この文化では、事物についての認識の仕方でも世界観も、われわれ（文明）のそれとは全くちがったものをもっている。こうした「未開」文化の完全な理解などあり得ないが、われわれの認識の仕方を剥ぎ取りながら、その理解に迫ることは可能である。その一端を明らかにし、「異文化」としての「未開文化」の理解に供したい。</p> <p>注：文化人類学の単位を取ったか、「未開」の文化に興味をもっているかする人が受講するようにしてください。そうしないと、どうしてそんなバカなことを考えたりするんだ、と感じ、それだけでばかばかしく嫌になってしまいかねません。</p>		<p>詳細な内容も回数も明示できないが、「時間」「空間」「色彩」についての認識、「創世神話」「祖先崇拜」「象徴的二元論」に表れる世界観、といったテーマを考えている。このなかから三つないし四つを取り上げて話す予定である。こういう現象を通して「未開」社会の人々の、われわれとは「異なった」認識の仕方を理解できるように、また「世界観」を見ることができるようになりたい。またそうすることによってわれわれの認識の仕方や世界観の特徴を少しは客観化して考えることができるようになるだろう。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が多ければ（例えば 50 人以上なら）定期試験中の試験によるし、少なければ（例えば 30 人程度なら）レポートにすることもありうる。	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅴ（比較社会論） 比較社会論 b	担当者	井上 兼行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解するようにしたい。</p> <p>「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などについて、まず講義を行う。</p> <p>またいくつかの社会の家族については、論文を用意し、受講者に配布して、読んでもらい、発表してもらい。そういう形をとって「異文化」の（文化人類学だから内容的には「未開」の）さまざまな家族について知識を得てもらいたい。そうすることでわれわれのもつ家族についても批判的な知見をもてるはずである。</p>		<p>人間の「家族」は、動物がもたぬ「婚姻」によって成立する、ということから話を始める。婚姻のいろいろな形、意味、親族との関係など、話すことはいくらかもある。その間に家族について読んでもらう論文を用意し、配布する。今予定しているのは、アフリカ、ネパール、バングラデシュ、サモア、カナダ・インディアン、インドなどの社会のものである。これらのなかから全員に1つを選択して読んでもらい、レポートを書いてもらう。また希望に応じて発表してもらい、その発表を聴くことで、自分が読まない社会の家族についての知識を得てもらう。何回目は何をするか、授業が始まってから決めることになる。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
論文は用意する。しかし登録者が多い場合、みんなに論文を配布し、読んでもらうことはできない。希望者に限る。また、その他、必要な文献については随時紹介する。		最初に簡単なレポートを書いてもらうので、受講希望者は必ず初回に出席のこと。レポートで評価したいと思っているが、登録者が多い場合は試験にすることも考えている。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	多文化共生研究各論VI (比較文化論) 比較文化論特殊講義(グローバリゼーションとローカル文化)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を比較するということが、さらに、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。さらに、そこで考えたことをベースに、実際に自分でみつけた事例の異文化比較をし、レポート発表をしてもらう。</p> <p>講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、異なった文化を「比較する」ということはどのようなことなのか、そして、異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳可能性をテーマに、具体的な事例(資料映像・記事など)を用いてディスカッションする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション ——異文化を比較すること</li> <li>2. グローバル化するローカル文化(1) ——情報化社会と文化産業</li> <li>3. グローバル化するローカル文化(2) ——文化のオリジナリティ</li> <li>4. 異文化を比較する(1) 時間、空間</li> <li>5. 異文化を比較する(2) Japanimation と Disney</li> <li>6. 異文化を比較する(3) 未定</li> <li>7. 異文化を比較する(4) 未定</li> <li>8. 文化帝国主義と「英語」使用</li> <li>9. オリエンタリズムをめぐって</li> <li>10. 異文化の翻訳「不」可能性について(1)</li> <li>11. 異文化の翻訳「不」可能性について(2)</li> <li>12. 文化変容と異文化の融合(1)</li> <li>13. 文化変容と異文化の融合(2)</li> <li>14. 文化変容と異文化の融合(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社		出席とレポート(受講者多数の場合、試験を実施する)	

養 外言	多文化共生研究各論VIII (地域メディア論) 比較文化論特殊講義(地域メディア論)	担当者	岡村 圭子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Think Globally, Act locally というフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。そこに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには環境問題や福祉の問題を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。</p> <p>本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える媒体、すなわち『Tokyo Walker』や『散歩の達人』などの地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌、クーポン付きのフリーペーパーなどの紙媒体、さらに FM、CATV、ウェブサイトも含む。さらに、各地のエスニック・コミュニティで発行されているエスニック・メディアもここでは地域メディアとしてとりあげたい。それらの地域メディアが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた/いる/いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。</p> <p>学期のさいごは、身近な地域メディアについてのレポート、もしくは受講者自身が制作した地域メディアを提出・発表してもらう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. グローバル化とローカルコミュニティ</li> <li>3. 地域・地方文化の復権とメディア</li> <li>4. 各地の地域メディア(1)</li> <li>5. 各地の地域メディア(2)</li> <li>6. 各地の地域メディア(3)</li> <li>7. メディアによる地域文化の創造(1)</li> <li>8. メディアによる地域文化の創造(2)</li> <li>9. 多文化共生と地域メディア(1)</li> <li>10. 多文化共生と地域メディア(2)</li> <li>11. 多文化共生と地域メディア(3)</li> <li>12. 受講者による発表(1)</li> <li>13. 受講者による発表(2)</li> <li>14. 受講者による発表(3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房		出席とメディア作成・発表(履修者多数の場合、定期テストを行う)	

養 外言	多文化共生研究各論Ⅶ（大衆文化論） 比較文化論特殊講義（大衆文化論）	担当者	木本 玲一
講義目的、講義概要		授業計画	
この講義では、特に20世紀以降のサブカルチャーについて理解を深めることを目指す。複製芸術の発展、それに関連した産業の成長は、文化、社会のありかたを大きく変化させてきた。講義では、主に20世紀のポピュラー音楽と隣接領域を対象に、文化、社会の動態について考察を深めていく。講義の軸は社会学である。		1 イン트로ダクション 2 20世紀のサブカルチャー1 3 20世紀のサブカルチャー2 4 20世紀のサブカルチャー3 5 サブカルチャーとグローバル化1 6 サブカルチャーとグローバル化2 7 サブカルチャーとグローバル化3 8 産業と文化1 9 産業と文化2 10 産業と文化3 11 ヤンキー文化とオタク文化1 12 ヤンキー文化とオタク文化2 13 複合メディア社会とサブカルチャー1 14 複合メディア社会とサブカルチャー2 15 まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
随時指定する。		試験によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅰ（滞日外国人研究） 比較文化論特殊講義（グローバル社会における文化変容）	担当者	田房 由起子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、日本社会における外国人の状況を知ることにより、国際移動によって「異文化」の中で生活する人々の抱える問題について理解を深めることを目的とする。</p> <p>まず、人の国際移動や、人種、エスニシティに関する理論について紹介する。次に、いくつかのエスニック集団を取り上げ、個々の集団に特徴的な状況について知識を得てもらう。また、教育や労働などのテーマからみられる抱える問題を取り上げてみたい。さらに、受け入れ社会側の人々にとって「異文化」を持つ人々を受け入れるとはどのようなことかを考え、そこから「多文化共生」の可能性を模索したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・日本における外国人の概況（1）</li> <li>2. 日本における外国人の概況（2）</li> <li>3. なぜ人は移動するのか</li> <li>4. 人種とエスニシティ</li> <li>5. オールドカマー</li> <li>6. ニューカマー（1）</li> <li>7. ニューカマー（2）</li> <li>8. ニューカマー（3）</li> <li>9. 労働問題（1）</li> <li>10. 労働問題（2）</li> <li>11. 子どもたちと教育（1）</li> <li>12. 子どもたちと教育（2）・アイデンティティ</li> <li>13. 人種／エスニシティと差別</li> <li>14. 「多文化共生」の可能性</li> <li>15. 総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。必要に応じてプリントを配布する。 参考文献は授業時に紹介する。</p>		<p>出席状況（2/3以上の出席が必要条件、10%）、授業内レポート（40%）、期末試験（50%）により評価。</p>	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅱ（アメリカ合衆国のラティーン社会） 地域社会文化論特殊講義（アメリカ合衆国のラティーン社会）	担当者	佐藤 勘治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、米国におけるラティーン概念誕生の経緯を歴史的に追い、さらにラティーン社会の現状と問題点を、米国内の人種間関係だけでなく隣接地域間の人的交流・相互関係という新しい視点を組み込んで論じたいと思う。</p> <p>一般に米国における人種およびエスニック集団とラテンアメリカの人種をめぐる認識はまったく違うものと考えられてきた。しかし、近年の米国におけるラテンアメリカ系住民の急激な増加は、こうした人種認識の差異に変化をもたらしているように思われる。典型的にはラティーンの「人種」化である。ラティーンが米国を変えるかもしれないという議論の是非を、広い歴史的スパンのなかで考えていこうと思う。</p>		<p>①はじめに：複数形のアメリカ「アメリカス」の時代へラティーン（米国のスペイン語系住民）</p> <p>②センサスから見る米国の人種・民族集団概念</p> <p>③米国ラティーンの特徴と出身地域ごとの特徴</p> <p>④ヒスパニックからラティーンへ：人種化するラティーンラテンアメリカから米国への人の移動</p> <p>⑤なぜ人は移動するのだろうか：サッセン</p> <p>⑥移動の歴史1：キューバ系とプエルトリコ系</p> <p>⑦移動の歴史2：メキシコ系</p> <p>⑧移動の拡大と最近の移民規制：北米自由貿易協定と国境線の警備強化</p> <p>チカノ（米国のメキシコ系住民）</p> <p>⑨チカノ・ルネサンス 壁画運動など</p> <p>⑩セサル・チャベスとチカノ運動</p> <p>⑪チカノと先住民：アストラン伝説と「アストラン宣言」</p> <p>⑫プエブロ・インディアン：米国先住民とはだれか ＋メキシコ先住民の米国への移民</p> <p>米国における多文化主義とラティーン</p> <p>⑬トランスナショナルとしてのラティーン</p> <p>⑭主流化と差異化の相克 ラティーン</p> <p>⑮講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：中條献『歴史の中の人種』北樹出版 2004 サミュエル・ハンチントン『分断されるアメリカ』集英社2004など 授業中に必読文献リストを配る		小テスト、レポート、出席、発言の総合評価	

養 外言	多文化共生特殊研究Ⅲ（カリブ海域社会の民族関係） 地域社会文化論特殊講義（カリブ海域の民俗と文化 b）	担当者	井上 兼行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>カリブ海域社会は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまずその歴史をしっかりと知ってもらいたい。そしてそれを基礎にした、複雑な民族構成、錯綜した民族関係とその意識を知り、さらにこの地域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成を理解する。ただ、これだけだとあまりに基礎的な知識を得てもらっただけでつまらないとも考えている。それで、わたしが調査した「家族」「マーケット」、人口に膾炙した「音楽」などについて話を挟むことになるかもしれない。見てもらいたい映像もある。右の授業計画は暫定的なものと考えてもらいたい。</p> <p>注：この地域の社会は規模も小さく、資源もありません。したがって世界のなかで政治的・経済的に全く力もっていません。ただ人間はいるのだし、それぞれに独特の文化や意識をもって生活していることだけは確かです。そういうことだけで十分興味があるという人が受講してください。</p>		<p>1 カリブ海域鳥瞰</p> <p>2 資料（本、ビデオ、CD など）紹介</p> <p>3 歴史（1）</p> <p>4 歴史（2）</p> <p>5 歴史（3）</p> <p>6 民族・住民——白人と黒人</p> <p>7 民族・住民——黒人同士（1）</p> <p>8 民族・住民——黒人同士（2）</p> <p>9 民族・住民——黒人とインド人</p> <p>10 言語分布鳥瞰</p> <p>11 クレオール語の成立</p> <p>12 各クレオール語解説（1）</p> <p>13 各クレオール語解説（2）</p> <p>14 クレオール語の行方</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはない。参考文献は随時紹介する。		受講者が少ない場合は、何度もレポートを出してもらったことも含め、出席を厳しく取る。また提出レポートで評価する。多い場合は、試験にすることも考えている。	

養 外言	国際交流研究Ⅰ（国際関係論） 国際交流特殊講義（国際関係・日米中）	担当者	山本 秀也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この講座では、現代世界を読み解くために必要な国際関係論について、アジアの現状と政治理論を有機的に結びつけながら学びます。講義のなかでは、私たちの暮らすアジア地域の安全保障を共通の課題としつつ、日本、米国、中国の動向を中心としてテーマ別に検討を加えてゆきます。各回のテーマには、北朝鮮の核開発が与えた衝撃や、台頭する中国の海軍力、日米同盟の課題など、時事問題としてよく取り上げられるテーマを選び、基礎的な知識の確認から最新の状況までを見渡す構成となっています。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際関係とは何かー東日本大震災の事例から</li> <li>2. 東アジアにおける冷戦構造</li> <li>3. 分断国家の誕生</li> <li>4. 核戦力と不拡散体制</li> <li>5. 地政学からみた米中関係</li> <li>6. 米国との同盟</li> <li>7. 中国の軍事力</li> <li>8. アジアの民主化と人権</li> <li>9. ASEANの挑戦</li> <li>10. 国連海洋法条約と南シナ海問題</li> <li>11. 開発援助の功罪</li> <li>12. 平和維持活動の現状と課題</li> <li>13. テロとの戦いとアジア</li> <li>14. 成長と環境</li> <li>15. まとめーアジアの明日</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
毎回レジュメを配布する。		期末試験（ないしレポート）を主な対象とするが、平常の出席状況も評価の対象とする。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	国際交流研究Ⅱ（国際協力論） 国際関係概論 a	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はPKO（平和維持活動）やODA（政府開発援助）を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。</p> <p>本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的な事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 国連と平和維持活動（PKO）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国連憲章とPKO</li> <li>2. PKOの原則と変遷</li> <li>3. PKOの事例研究（モザンビーク）</li> <li>4. 日本のPKO協力法</li> </ol> <p>II. 地域紛争と平和協力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 武力紛争と和平交渉（エルサルバドルの事例：1）</li> <li>6. 和平合意と平和維持（エルサルバドルの事例：2）</li> <li>7. 地域紛争とPKO：成果と限界</li> <li>8. 地域紛争終結後の課題</li> </ol> <p>III. 貧困問題と開発協力</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 政府開発援助（ODA）の理念と枠組み</li> <li>10. 南北関係の変化と開発援助の変遷</li> <li>11. 貧困と人間の安全保障</li> <li>12. 開発協力と非政府組織（NGO）</li> </ol> <p>IV. 国際協力の新しい課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 平和協力と開発協力の融合</li> <li>14. 武装解除と平和構築</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	国際交流研究Ⅴ（南北問題） 国際関係概論 b	担当者	浦部 浩之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>地球上にいる人間の約8割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約5分の1（約12億人）は1日1ドル以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策（教育・保健・福祉）を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。</p> <p>本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。</p>		<p>I. 地球環境政治</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球環境問題と南北対立</li> <li>2. 貧困と環境破壊</li> <li>3. 持続可能な開発の模索</li> <li>4. 地球温暖化（気候変動枠組み条約）と南北関係</li> </ol> <p>II. 南北関係の展開と開発援助</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 第三世界の独立と開発援助戦略</li> <li>6. 第三世界のナショナリズムと南々格差の拡大</li> <li>7. 貧困と「人間開発」</li> <li>8. 新しい開発援助戦略と国連ミレニアム開発目標</li> </ol> <p>III. 南北問題の争点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 経済のグローバル化と貧困問題</li> <li>10. 世界の食糧問題</li> <li>11. 人口の増加とエネルギー問題</li> <li>12. 世界の水問題と砂漠化問題</li> </ol> <p>IV. 世界の直面する課題と南北関係</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 自然災害と復興支援</li> <li>14. 原子力利用をめぐる軋轢と核拡散</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業で随時紹介する。		期末試験（これに出席状況を加味する）。	

養 外言	国際交流研究Ⅲ（国際機構論） 国際機構論 a	担当者	鈴木 淳一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。</p> <p>〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。</p> <p>本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部の学生が履修する場合は2年生以上で受講することをお勧めします)。</p> <p>この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 国際組織と国際法</li> <li>3 紛争の平和的解決に関わる国際組織（1）</li> <li>4 紛争の平和的解決に関わる国際組織（2）</li> <li>5 安全保障に関わる国際組織（1）</li> <li>6 安全保障に関わる国際組織（2）</li> <li>7 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織</li> <li>8 人権問題にかかわる国際組織</li> <li>9 人道・難民問題に関わる国際組織</li> <li>10 国際貿易・国際金融に関わる国際組織</li> <li>11 開発援助と南北問題に関わる国際組織</li> <li>12 教育・文化に関わる国際組織</li> <li>13 国際保健に関わる国際組織</li> <li>14 海洋に関わる国際組織</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
大森正仁編著『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房）		主として学期末に実施する試験と出席により評価します。	

養 外言	国際交流研究Ⅳ（NGO 論） 国際交流特殊講義（NGO 論）	担当者	清水 俊弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が目撃されている。この講座では非政府組織、NGO の活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。</p> <p>この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ODA）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。</p> <p>また、こうした紛争地等で活動するNGOが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する （受講生への要望） 世界各地で起きている諸問題について、自分なりの視点で考えてみたいと思う人に受講していただきたい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>①NGO 論オリエンテーション</li> <li>②～③「対テロ戦争」と市民社会 I/アフガニスタンの現状と NGO の活動</li> <li>④～⑤「対テロ戦争」と市民社会 II/イラクの現状と NGO の活動</li> <li>⑥パレスチナ問題と NGO の取り組み</li> <li>⑦東アジアの平和と市民交流</li> <li>⑧NGO による復興・開発協力の事例（カンボジア）</li> <li>⑨ミレニアム開発目標（MDGs）とラオスにおける森林保全</li> <li>⑩アフリカにおける HIV/AIDS の原状と NGO の取り組み</li> <li>⑪政府開発援助と NGO</li> <li>⑫～⑬非人道兵器の禁止と市民社会 I 対人地雷の廃絶キャンペーンに学ぶ NGO のネットワーク</li> <li>⑭非人道兵器の禁止と市民社会 II クラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割</li> <li>⑮NGO の組織運営と資金</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
日本国際ボランティアセンター著『NGO の選択』めこん 2005 年 地雷廃絶日本キャンペーン編『地雷と人間』岩波ブックレット 2003 年 清水俊弘著『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年		レポート提出。平常授業の課題など。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	国際交流研究VI (情報とメディア) マス・コミュニケーション論 b	担当者	森 保裕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ニュースを読むことで、さまざまな外国や国際関係への理解を深めましょう。日本のほか、中国や台湾、米国の新聞記事や論説を読み、ひとつのできごとについて、解釈や主張にどのような違いがあるか、調べてみましょう。</p> <p>メディア全般の役割、実態、問題点について考える一方、日本の国際報道、中国や台湾および諸外国のメディアの在り方などについて、概観します。</p> <p>人権侵害や偏向などの問題報道の実例を取り挙げて、分析します。授業を通じて、賢い読者、視聴者として日々のニュースを正しく読み取る能力（メディアリテラシー）を身に付けてほしいと願っています。</p> <p>約30年間の記者経験に基づき、取材や編集の現場でメディアについて感じたこと、考えたことも話したいと思います。</p> <p>日本語、中国語、英語の記事を取り上げます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、メディアの役割</li> <li>2、国際交流とメディア</li> <li>3、中国報道</li> <li>4、中国のメディア</li> <li>5、台湾報道</li> <li>6、台湾のメディア</li> <li>7、国際報道</li> <li>8、世界のメディア</li> <li>9、報道と人権侵害</li> <li>10、誤報</li> <li>11、原発事故報道</li> <li>12、テレビ報道</li> <li>13、ネット時代と新聞危機</li> <li>14、時事英語と時事中国語</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、コピー教材を配布。新聞購読を推奨		出席、レポート	

養 外言	国際交流研究各論Ⅰ（国際政治論 a） 国際政治論 a	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際政治（世界政治）の現在は著しく日常化し、我々の生存は国際政治の在り方に大きく依存している。我々は、核を中心とする大量破壊兵器問題をはじめ、民族・宗教紛争の激化、南北問題の深化、環境破壊の拡大、人口・食糧・エネルギー問題、人権抑圧問題、エイズ・麻薬問題、などの地球的規模の問題群に直面している。この巨大で、複雑で、流動的で、日常化した国際政治の危機構造の本質、その特徴、変容過程などをグローバルな安全保障、経済、文化、地球環境破壊などの実態や問題を地球環境財という視点から検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際政治学の基本的課題ーグローバル政治の構造ー</li> <li>2 国際政治の構造的変動ー冷戦構造崩壊の意味ー</li> <li>3 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (1)</li> <li>4 現代国際政治の新しい枠組みー湾岸危機・戦争ー (2)</li> <li>5 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (1)</li> <li>6 現代国際政治の新しい枠組みーソ連邦の崩壊ー (2)</li> <li>7 グローバル政治の形成と意義</li> <li>8 世界政治と平和財</li> <li>9 世界政治と安全保障財</li> <li>10 世界政治と人権保障財</li> <li>11 世界政治と貧困・不平等・不正義</li> <li>12 世界政治と環境保全財</li> <li>13 知識財</li> <li>14 グローバル政治におけるグローバル市民社会</li> <li>15 グローバル政治の中の日本</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界政治と地球公共財』同文館（テキスト）		試験、出欠状況による総合評価。ただし、レポート（書評）を提出した者は加点する。	

養 外言	国際交流研究各論Ⅱ（国際政治論 b） 国際政治論 b	担当者	星野 昭吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日の我々の生存と日常生活は地球的規模の問題群におおわれているため、巨大で、複雑で、流動的な国際政治（世界政治）の危機構造の本質、特徴、また変革の可能性と必要性などの検討が要求されている。そうした国際政治の形成・維持・展開・変容・変革の過程が現状維持志向秩序勢力（コミュニタリアニズム中心的秩序勢力）と現状変革志向秩序勢力（コスモポリタニズム中心的秩序勢力）との弁証法的運動によって規定されている。それらの勢力を構成する政治権力、経済秩序勢力、安全保障秩序勢力、アイデンティティ勢力、環境保全勢力などから国際政治（世界政治）の弁証法的運動をみていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 戦後国際政治の現実の基本的枠組みと理論</li> <li>2 事例ー戦後日米関係の展開過程ー (1)</li> <li>3 事例ー戦後日米関係の展開過程ー (2)</li> <li>4 事例ー戦後日米関係の展開過程ー (3)</li> <li>5 事例ー戦後日米関係の展開過程ー (4)</li> <li>6 世界政治における権力の弁証法ー (1)</li> <li>7 世界政治における権力の弁証法ー (2)</li> <li>8 世界政治における安全保障の弁証法ー (1)</li> <li>9 世界政治における安全保障の弁証法ー (2)</li> <li>10 世界政治における経済勢力の弁証法ー (1)</li> <li>11 世界政治における経済勢力の弁証法ー (2)</li> <li>12 世界政治におけるアイデンティティ政治の弁証法</li> <li>13 世界政治における環境問題の弁証法</li> <li>14 世界政治における環境ガバナンス</li> <li>15 世界政治における脱（非）国家主体の役割</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
星野昭吉『世界秩序の変動と弁証法』（テイハン）		試験、出欠状況、レポート（任意）による総合評価。	

養 外言	国際交流研究各論Ⅲ（国際経済論 a） 国際経済論 a	担当者	益山 光央
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際貿易概観</li> <li>2 リカード的比較優位説</li> <li>3 リカード的比較優位説</li> <li>4 ヘクシャー・オリーン定理</li> <li>5 ヘクシャー・オリーン定理</li> <li>6 国際貿易の一般均衡</li> <li>7 国際貿易の一般均衡</li> <li>8 経済成長と貿易</li> <li>9 国際資本移動と移民</li> <li>10 国際資本移動と移民</li> <li>11 関税・輸入数量制限</li> <li>12 関税・輸入数量制限</li> <li>13 輸入補助金と輸出自主規制</li> <li>14 輸入補助金と輸出自主規制</li> <li>15 質問とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
大山道広・伊藤元重『国際貿易』 岩波書店		定期試験80%、出席20%	

養 外言	国際交流研究各論Ⅳ（国際経済論 b） 国際経済論 b	担当者	益山 光央
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的内容なので、きちんと理解する必要があります。</p> <p>春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国際収支と国民所得勘定</li> <li>2 国際収支と国民所得勘定</li> <li>3 外国為替市場</li> <li>4 外国為替市場</li> <li>5 外国為替市場</li> <li>6 固定相場制下の所得決定</li> <li>7 固定相場制下の所得決定</li> <li>8 変動相場制下の所得決定</li> <li>9 変動相場制下の所得決定</li> <li>10 国際収支と財政・金融政策</li> <li>11 国際収支と財政・金融政策</li> <li>12 国際資本移動と財政・金融政策</li> <li>13 国際資本移動と財政・金融政策</li> <li>14 質問とまとめ</li> <li>15 質問とまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
未定		定期試験80%、出席20%	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅰ（日本政治外交史 a） 日本政治外交史 a	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。</p> <p>春学期は敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつけられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを見つめる。</p> <p>受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるという姿勢をもってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに—国際社会のなかの日本—</li> <li>2. 日米戦争と戦後日本（1）</li> <li>3. 日米戦争と戦後日本（2）</li> <li>4. 敗戦と占領の開始（1）</li> <li>5. 敗戦と占領の開始（2）</li> <li>6. 政党の復活</li> <li>7. 新憲法の誕生（1）</li> <li>8. 新憲法の誕生（2）</li> <li>9. 占領と改革</li> <li>10. 政党政治の再生—戦後日本の出発</li> <li>11. 中道政権の形成と崩壊（1）</li> <li>12. 中道政権の形成と崩壊（2）</li> <li>13. 占領政策の転換—実らなかった講和</li> <li>14. 占領政策の転換—経済復興</li> <li>15. おわりに</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50点）と年度末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅱ（日本政治外交史 b） 日本政治外交史 b	担当者	福永 文夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>21世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると見えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつけられたかを、サンフランシスコにおける講和・独立から「55年体制」を経て1970年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。</p> <p>受講者には、歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えるという姿勢をもってもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに—国際社会と戦後日本—</li> <li>2. 講和への胎動（1）</li> <li>3. 講和への胎動—東京とワシントン（2）</li> <li>4. 講和をめぐる国内政治—「全面講和論」</li> <li>5. 講和をめぐる国際関係</li> <li>6. サンフランシスコ講和</li> <li>7. 保守勢力の混迷</li> <li>8. 「55年体制」の成立—保守合同と社会党の統一</li> <li>9. 鳩山・岸内閣</li> <li>10. 60年安保騒動と政党政治</li> <li>11. 高度成長期の政治と外交—池田政権</li> <li>12. 高度成長期の政治と外交—佐藤政権</li> <li>13. 混迷の70年代（1）</li> <li>14. 混迷の70年代（2）</li> <li>15. おわりに</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
【テキスト】福永文夫『戦後日本の再生—1945～1964年』丸善。【参考文献】福永文夫『大平正芳—戦後保守とは何か』中公新書。		講義中に行う平常試験（50点）と年度末の定期試験（50点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a） 地域経済論 ii a	担当者	高安 健一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。</p> <p>講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀も経っていません。</p> <p>もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。加えて、各国が直面している経済的課題を取り上げます。</p> <p>受講生が講義内容を、就職活動のみならず卒業後も活用することを期待します。国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b）も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の目的、成績評価</li> <li>2. 東南アジア経済の概要と課題</li> <li>3. タイ：経済発展の軌跡と特徴</li> <li>4. タイ：タクシン元首相と経済的停滞</li> <li>5. シンガポール：経済発展の軌跡と特徴</li> <li>6. シンガポール：産業高度化戦略</li> <li>7. シンガポール：多国籍企業の活動</li> <li>8. マレーシア：マハティール元首相の発展戦略</li> <li>9. インドネシア：経済再生への課題</li> <li>10. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策</li> <li>11. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋</li> <li>12. ミャンマー：経済再建に向けた動き</li> <li>13. ラオス：対外開放戦略への転換</li> <li>14-15 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。</p>		<p>出席 20%、学期末テスト 80%。出席が一定回数を下回った履修者は学期末試験を受けることができない（詳しくは第1回の講義で説明）。</p>	

養 外言	国際交流特殊研究Ⅳ（アジア太平洋地域交流 b） 地域経済論 ii b	担当者	高安 健一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。</p> <p>講義の柱は3つあります。第1は、1967年に発足したASEANがいかなる経緯を経て地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを学習することです。ラオス、カンボジア、タイ、ベトナムなどで構成されるメコン地域の開発構想についても解説します。</p> <p>第2は、ASEANにおける経済発展の担い手である華僑・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。</p> <p>第3は、我が国がASEANのさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。</p> <p>受講生が講義内容を、就職活動のみならず卒業後も活用することを期待します。国際交流特殊研究Ⅲ（アジア太平洋地域交流 a）も履修して下さい。第1回の講義に必ず出席すること（出席カード配布予定）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の目的、成績評価等</li> <li>2. 経済発展の軌跡と課題</li> <li>3. 地域経済共同体としてのASEAN：形成過程</li> <li>4. 地域経済共同体としてのASEAN：共同体の実現</li> <li>5. 地域経済共同体としてのASEAN：将来構想</li> <li>6. ASEANの域外自由貿易協定（FTA）戦略</li> <li>7. 大メコン圏開発：開発構想と南部経済回廊</li> <li>8. 大メコン圏開発：東部経済回廊</li> <li>9. わが国自動車メーカーの事業展開</li> <li>10. 邦銀の事業展開</li> <li>11. 経済発展と華僑・華人資本</li> <li>12. わが国と東南アジアの経済関係：ASEANの視点</li> <li>13. わが国と東南アジアの経済関係：日本の視点</li> <li>14-15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教員が作成した資料を配布する。参考文献は、最初の講義で紹介する。</p>		<p>出席 20%、学期末テスト 80%。出席が一定回数を下回った履修者は学期末試験を受けることができない（詳しくは第1回の講義で説明）。</p>	

養	国際交流特殊研究Ⅴ（グローバル・ガバナンス a）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。</p> <p>【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 a」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス a」としては2年生以上に開講される。国際教養学部の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 環境問題と国際社会</li> <li>3 国際環境問題の法的紛争類型</li> <li>4 越境汚染と領域使用の管理責任</li> <li>5 無過失責任条約</li> <li>6 国際公域の環境保全と責任</li> <li>7 国際環境法の生成と諸原則①</li> <li>8 国際環境法の生成と諸原則②</li> <li>9 環境責任論の進展</li> <li>10 国際環境保全規範と事前防止</li> <li>11 事前防止の手続的規則①</li> <li>12 事前防止の手続的規則②</li> <li>13 国際環境保全とソフト・ロー</li> <li>14 国際環境保全と国内公法・私法</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献として、松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010 年『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

養	国際交流特殊研究Ⅵ（グローバル・ガバナンス b）	担当者	一之瀬 高博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。</p> <p>〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。</p> <p>【注意事項】 この講義は、法学部専門科目「国際環境法 b」としては3年生以上に開講されるが、国際教養学部必須教養科目「グローバル・ガバナンス b」としては2年生以上に開講される。国際教養学部生の2年生が受講する場合は、履修が容易ではないので、「国際交流研究Ⅲ（国際機構論）」、全カリ「国際法 1」、「国際法 2」のいずれかを受講して、基本的知識を身につけていることが望ましい（並行しての受講でもよい）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 長距離越境大気汚染、酸性雨</li> <li>3 地球大気圏・気候変動問題①</li> <li>4 地球大気圏・気候変動問題②</li> <li>5 海洋環境の保全①</li> <li>6 海洋環境の保全②</li> <li>7 海洋環境の保全③</li> <li>8 南極の環境保護</li> <li>9 廃棄物の越境移動</li> <li>10 化学物質、原子力と環境</li> <li>11 自然環境の保全</li> <li>12 生物多様性の保全</li> <li>13 環境と貿易</li> <li>14 環境と武力紛争</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは開講時に指示する。参考文献として、西井・白杵編『国際環境法』有信堂 2011 年『地球環境条約集』第 4 版、中央法規 2003 年</p>		<p>期末試験の成績を重視し、出席・小テスト・レポートも評価の対象にする。</p>	

養 外言	宗教・文化・歴史研究Ⅰ（文化史入門） 地域社会文化論特殊講義（文化史入門）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティの確立の必要性を意識します。そのとき、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれら文化遺産や文化事象を包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体现された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているかを古代ギリシア・ローマ世界を例にとりあげ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的にしています。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 本講義では、古代地中海世界で体现された技術文化、造形芸術、文学・演劇などの個々の文化事象（狭義の文化）とそれらを生み出した社会との関係を示した後、宗教と祭祀、世界観、性愛、競争の人間類型などの生活や思考様式（広義の文化）がどのように歴史的に作り上げられていったかを見ます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに（講義の目的、概要、その他）</li> <li>2 技術文化（その1）：動力とエネルギー源 奴隷労働は生産的であったか？</li> <li>3 技術文化（その2）：水の供給・処理と農業・牧畜 水道橋にかけるローマ人の執念</li> <li>4 運送手段（その1）：船と海上輸送 古代の戦艦「三段櫓船」の脅威</li> <li>5 運送手段（その2）：陸上輸送 古代の「一般道」と「高速道路」</li> <li>6 造形芸術：建築と彫刻 アルカイック・スマイルの謎</li> <li>7 文学の世界：叙事詩と演劇 ギリシア文化の普遍性</li> <li>8 宗教と祭祀：神々と人間 ギリシア人は「神話」を信じていたか？</li> <li>9 性愛の諸相（男と女）（その1）：同性愛</li> <li>10 性愛の諸相（男と女）（その2）：異性愛</li> <li>11 競技的（アゴン）人間類型：理想的人間とは？</li> <li>12 クリエンテラ・パトロネジ関係</li> <li>13 民主政の中の間人間関係（1）</li> <li>14 民主政の中の間人間関係（2）</li> <li>15 まとめ（総括と展望）</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使わず、プリントを配布します。また、初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅰ（世界の宗教と文化—一神教と多神教）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; 本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかを探ることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 講義は概説的に進めていきますが、関連するテーマのビデオや映画、DVDなどの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問や意見が出るのが期待されています。その意味でも自由な発言ができるようなアット・ホームな雰囲気です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに（講義の目的、概要、その他）</li> <li>2 メソポタミアの宗教と文化 死すべき人間と不死なる神々</li> <li>3 エジプトの宗教と文化（その1） 来世信仰とピラミッド</li> <li>4 エジプトの宗教と文化（その2） 一神教革命とツタンカーメンの死</li> <li>5 パレスチナ地域の宗教と文化（その1）カナン人の宗教</li> <li>6 パレスチナ地域の宗教と文化（その2）ユダヤ教</li> <li>7 ギリシアの宗教と文化（その1） オリンポスの神々と合理主義</li> <li>8 ギリシアの宗教と文化（その2） 密儀宗教（エレウシスの秘儀、オルペウス信仰）</li> <li>9 ヘレニズムの宗教と文化（その1） コスモポリタニズムと内向きの心性</li> <li>10 ヘレニズムの宗教と文化（その2）諸神の習合</li> <li>11 ローマ帝国の宗教と文化（その1） キリスト教の成立とその意義</li> <li>12 ローマ帝国の宗教と文化（その2）グノーシス主義</li> <li>13 ローマ帝国の宗教と文化（その3）キリスト教確立</li> <li>14 多神教から一神教への道筋</li> <li>15 まとめ：宗教と道徳</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、参考文献を初回の授業時に、「参考文献一覧表」として配布します。		学期末のレポートと数回の小レポート・報告の成績に、出席点を加味して総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅱ（東洋思想史 a）	担当者	松丸 壽雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史aでは、古代インド、中国思想を中心に、日本における神道ならびに仏教思想をも含めながら、おおよその区分として十三世紀までを視野に入れることになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (インド)アールリア人とヴェーダの宗教</li> <li>2. (インド)ウパニシャッド哲学の思想</li> <li>3. (インド)ウパニシャッド哲学と原始仏教の思想</li> <li>4. (インド)原始仏教</li> <li>5. (インド)原始仏教</li> <li>6. (インド)仏教とヒンドゥー教の思想</li> <li>7. (中国)孔子と論語</li> <li>8. (中国)孔子と論語の思想と墨子の兼愛</li> <li>9. (中国)老荘思想</li> <li>10. (中国)儒教と老荘思想</li> <li>11. (中国)儒教の意味</li> <li>12. (日本)無常思想</li> <li>13. (日本)無常思想</li> <li>14. 中世の東洋思想のまとめ</li> <li>15. 中世の東洋思想のまとめと質問</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅲ（東洋思想史 b）	担当者	松丸 壽雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>二十一世紀の現代に生きている我々は、さまざまな文化に触れながら、我々の日々の振る舞いの仕方を決定している。だが、それぞれの文化圏、それぞれの国、それぞれの地域に特有の、身についた考え方に、知らぬ間に影響を受けながら、自らの行動決定をしている場合が多い。このように、自らの行動決定の基盤となる、固有の文化圏、固有の地域の伝統的考え方と現在の考え方を反省的に捉えて顕在化し、行動決定に際して、自分が育まれてきた文化圏の思想を捉え、実地に使える行動決定の原理として、古代から現代に至る東洋思想を自覚化する。その範囲は主として日本、中国、インドにおける諸思想と諸宗教を扱うことになる。なお、東洋に中近東までを含めるのか否かはきわめて問題となるところではある。しかし東洋思想史bでは、インド、中国、さらには両者に影響を与えた、回教の伝来に伴う思想的変化をも考慮に入れた近現代の思想、そして日本の近現代思想を扱う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (インド)仏教哲学</li> <li>2. (インド)仏教哲学</li> <li>3. (インド)仏教哲学</li> <li>4. (インド)ガンジー非暴力思想と現代</li> <li>5. (中国)宋学Ⅰ</li> <li>6. (中国)宋学Ⅱ</li> <li>7. (中国)宋学Ⅲ</li> <li>8. (中国)宋学Ⅳ</li> <li>9. (中国)宋学Ⅴ</li> <li>10. (日本)本居宣長の思想</li> <li>11. (日本)本居宣長の思想</li> <li>12. (日本)京都学派の哲学</li> <li>13. (日本)京都学派の哲学Ⅱ</li> <li>14. (日本)京都学派の哲学Ⅲ</li> <li>15. 東洋思想史の現代的意義と質問</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示		出席とレポートによる評価	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅳ（文明史研究 a）	担当者	櫻井 悠美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; 人間の諸活動の総体としての文明は、世界中に多様な形で存在しました。サミュエル・ハンチントンは、冷戦後の数々の国際紛争を文明の衝突としてとらえたのです。 しかし、本当に世界は文明単位で対立する状況なのでしょうか。こうした文明の概念の有効性を問い、これまでの研究史にふれながら、具体的な事例としてヨーロッパ文明の源流となったギリシア・ローマ文明に焦点を当て、考察を深めることを目的とします。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 古代にみられたそれぞれの文明について、戦争などの対立を契機に、それぞれの文明がどのように影響しあったのかを論じます。特に民主主義発祥の地、ギリシアの経済危機がヨーロッパ全体に影響を及ぼしている現状を踏まえ、今後の民主主義の在り方についても考察します。また、画像資料やビデオ映像も使用し理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 はじめに（講義の目的、概要、その他）</li> <li>2、 クレタ文明</li> <li>3、 ミケーネ文明</li> <li>4、 トロイア戦争</li> <li>5、 ギリシア文明 1</li> <li>6、 ギリシア文明 2</li> <li>7、 ペルシア文明</li> <li>8、 ペルシア戦争</li> <li>9、 ペロポネソス戦争</li> <li>10、 マケドニアとアレクサンドロス</li> <li>11、 ヘレニズム文明</li> <li>12、 ローマの対内外戦争</li> <li>13、 ローマ文明 1</li> <li>14、 ローマ文明 2</li> <li>15、 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末のレポート及び小レポートさらに出席点を加えて総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究Ⅴ（文明史研究 b）	担当者	櫻井 悠美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; 現代社会はヨーロッパにおけるEUの統合や多文化の共存、さらには経済活動のグローバル化とあいまって、これまでの歴史像を大きく変えてきました。本講義ではシュペングラーやトインビーの文明論を概観し、文明の世代交代としての範型として、ヨーロッパ文明について考察します。ギリシア・ローマ時代に体现された古典文明がその後どのように伝播されていったのかを辿ります。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 文明論の一環としてのヨーロッパの歴史をとりあげたいと思います。 エウロペ神話からはじめ、ヨーロッパとは何かを論じます。ヨーロッパ文明が思想的にも物質的にもどのような形で世界の他地域へ伝播され、受容されていったかを検証します。特にアジアやアフリカの視点からもヨーロッパがどのような存在であったかを検討し、平和的共存のためにヨーロッパに求められていることは何かについても考察します。また画像資料やビデオ映像を使用し理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 はじめに（講義の目的、概要、その他）</li> <li>2、 ヨーロッパとは何か</li> <li>3、 ヨーロッパ文明の源、ギリシア文明</li> <li>4、 アレクサンドロス大王とヘレニズム文明</li> <li>5、 ローマ帝国の意味</li> <li>6、 中世フランク王国</li> <li>7、 イタリア・ルネサンス</li> <li>8、 大航海時代</li> <li>9、 植民地を求めて</li> <li>10、 植民地の争奪</li> <li>11、 第一次世界大戦</li> <li>12、 大戦後のヨーロッパ</li> <li>13、 ヨーロッパ統合の思想</li> <li>14、 講義のまとめ（1）</li> <li>15、 講義のまとめ（2）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは使わずプリントを配布します。また授業時に参考文献も紹介します。		学期末レポートと小レポート、さらに出席点を加えて総合的に評価します。	

養	宗教・文化・歴史研究VI (倫理学 a)	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【講義目標】</b> 西洋哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。</p> <p><b>【講義概要】</b> 哲学史の入門書をもとに授業を進行していく。 古代ギリシアから、近世のデカルト・パスカルなどを経て、近代のニーチェまでをこの学期で見えていく。 教科書はかなりコンパクトに各哲学者の思想をまとめたものだが、その圧縮された内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。</p> <p><b>【受講生への要望】</b> 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む)</li> <li>2. プラトン (1) 「ソクラテスの死から」</li> <li>3. プラトン (2)</li> <li>4. アリストテレス 「人間は知ることを欲する」</li> <li>5. エピクロス派、ストア派</li> <li>6. デカルト (1) 「私は思考する、ゆえに私は在る」</li> <li>7. デカルト (2)</li> <li>8. デカルト (3)</li> <li>9. パスカル 「考える葦」</li> <li>10. ルソー (1) 「人づきあい人間を不幸にする」</li> <li>11. ルソー (2)</li> <li>12. ニーチェ (1) 「永遠回帰に耐えられるか」</li> <li>13. ニーチェ (2)</li> <li>14. ニーチェ (3)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト (※各自入手しておくこと)		評価方法	
ドミニク・フォルシェー 『西洋哲学史 パルメニデスからレヴィナスまで』 (白水社・文庫クセジュ)		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約20点を加点する予定。	

養	宗教・文化・歴史研究VII (倫理学 b)	担当者	川口 茂雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【講義目標】</b> 西洋現代哲学においてどのような倫理学的問題がどのように取扱われ、思索されてきたかを、概説する。 教職科目でもあるため、哲学知識の網羅的取得と同時に、社会や人生におけるベーシックでファンダメンタルな事柄の考え方を、高校生などにも理解可能なしかたで言語表現できる実践力の習得が、目標として設定される。 哲学の学習は「言葉を選ぶ」ことのできる社会人になるための訓練の場なのだ、というようにとらえてもいい。</p> <p><b>【講義概要】</b> この学期では現代の哲学的諸問題について扱っていく。もちろん古代～近代の哲学者たちの考察が参考にされる。 現代は画像・映像といったイメージが飛びかい、そうしたイメージによる記録／記憶が人々の心を苦しめる時代でもある。これを記憶と歴史の問題として考察していく。 教科書にまとめられている内容を発展的にふくらませる補足説明を毎回担当者にプレゼンしてもらう予定。</p> <p><b>【受講生への要望】</b> 他人の言葉を読む・聴くときには、自分の心のなかを静かに沈黙させて、他人の言葉をできる限りていねいに受けとれるようにしてみよう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 (プレゼン担当者の募集・日程調整を含む)</li> <li>2. プラトンの記憶論 「記憶は足跡か、絵画か」</li> <li>3. アリストテレスの記憶論</li> <li>4. ベルクソンの記憶論 「イマージュ - 想い出」</li> <li>5. サルトルの記憶論 「幻覚」</li> <li>6. フッサールの記憶論 「想像と記憶を区別する？」</li> <li>7. 個人的記憶と集合的記憶</li> <li>8. 〈心性史〉の歴史記述</li> <li>9. 〈表象史〉の歴史記述 (1)</li> <li>10. 〈表象史〉の歴史記述 (2)</li> <li>11. 王の肖像——イマージュの魅惑</li> <li>12. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって (1)</li> <li>13. ナチスのユダヤ人虐殺をめぐって (2)</li> <li>14. 「困難な赦し」</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト (※各自入手しておくこと)		評価方法	
川口茂雄『表象とアルシーヴの解釈学 —— リクール「記憶、歴史、忘却」の問題系』(京都大学学術出版会)		学期末試験による。 ただし、各授業回で教科書内容への補足プレゼンを担当してくれた学生には、試験点数に約20点を加点する予定。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅰ（地中海世界の宗教と文化 a） 地域社会文化論特殊講義（地中海世界の歴史 a）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; 本講義は、地中海世界の歴史に大きな役割を果たした古代ギリシアの、「歴史と神話」に焦点を絞り、両者が密接な関係をもって考えられていたことを具体的な神話をもとに考察することを目的としています。その際に、「神話」を単にお話ととらえるのではなく、古代の人々が宗教生活の一環として「祭祀」あるいは「祭典」の形で、どのようにそれを理解し、伝えていたかを史料に即してたどることでこの地域・時代の宗教と文化の歴史的意義を考えるという手法を採りたいと思います。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 授業は概説的に進めて行きますが、関連するテーマのビデオや映画、DVD などでもできるだけ使って理解を深めるのに役立たせたいと考えています。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうということを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見がでることを期待しています。その意味でも自由な発言が出るようなアット・ホームな雰囲気での講義を進めていくつもりです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：神話と歴史はどのように関連していたか？</li> <li>2 テーベ伝説圏の神話（その1） ディオニュソス信仰とペンテウスの悲劇</li> <li>3 テーベ伝説圏の神話（その2）ディオニュシア祭</li> <li>4 テーベ伝説圏の神話（その3） オイディプスの悲劇と「知ること」の意味</li> <li>5 テーベ伝説圏の神話（その4）ライオス家の悲劇とその後日談</li> <li>6 テーベ伝説圏の神話（その4） ヘラクレスの誕生と狂気</li> <li>7 テーベ伝説圏の神話（その5）伝説と考古遺跡</li> <li>8 アテナイ伝説圏の神話（その1）アテナイの建国神話</li> <li>9 アテナイ伝説圏の神話（その2）パンアテナイア祭</li> <li>10 アテナイ伝説圏の神話（その3）テセウス冒険物語</li> <li>11 アテナイ伝説圏の神話（その4） テセウスとアテナイ民主政</li> <li>12 アテナイの歴史的発展（その1）</li> <li>13 アテナイの歴史的発展（その2）</li> <li>14 神話から歴史へ ギリシア人は「過去」をどのように認識していたか</li> <li>15 まとめ：神話と現代</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用せず、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。		学期末のレポートと1～2回の小報告に、出席点を加味して総合的に評価します。	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅱ（地中海世界の宗教と文化 b） 地域社会文化論特殊講義（地中海世界の歴史 b）	担当者	古川 堅治
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; 同上</p> <p>&lt;講義概要&gt; 同上</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：宗教と祭祀</li> <li>2 アルゴス伝説圏の神話（その1） ミケーネ世界と呪われたアトレウス家</li> <li>3 アルゴス伝説圏の神話（その2） トロイア戦争：叙事詩の環</li> <li>4 アルゴス伝説圏の神話（その3） トロイア戦争：『イリアス』の世界</li> <li>5 アルゴス伝説圏の神話（その4） トロイア戦争：『オデュッセイア』の世界</li> <li>6 アルゴス伝説圏の神話（その5） アトレウス家の末路</li> <li>7 トロイア戦争後日談：ローマ建国神話とアイネアス</li> <li>8 イオルコス伝説圏の神話（その1） イアソンとアルゴ船遠征物語</li> <li>9 イオルコス伝説圏の神話（その2）メデイアの復讐</li> <li>10 テレボス神話（その1）アウゲの数奇な運命</li> <li>11 テレボス神話（その2）テレボスの負傷</li> <li>12 神話に見られる女性群像（その1）カナケの悲恋</li> <li>13 神話に見られる女性群像（その2）メラニッペ悲惨</li> <li>14 神話に見られる女性群像（その3）メロペの悲劇</li> <li>15 まとめ：神話と現代</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上		同上	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅲ（比較宗教史） 比較思想概論	担当者	谷口 郁夫
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ユダヤ民族の歴史を縦糸に、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の比較対照を試みます。 宗教・民族に関わる争いが絶えないのはなぜなのかを念頭に、書物を通じて哲学者・思想家・宗教家と呼ばれる人々の考えを知るだけでなく、映画、絵画、地図などを使いながらごく普通の人々の思いを考える予定です。 特にパレスチナおよびコソボ共和国の現状の報告を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概説</li> <li>2&amp;3. ユダヤ民族の歴史</li> <li>4. 流浪の民としてのユダヤ民族</li> <li>5. キリスト教の誕生</li> <li>6. イスラム教とユダヤ教——イスラム教誕生から十字軍の時代まで</li> <li>7. オスマントルコ時代の中東における、イスラム教、ユダヤ教、キリスト教の関係</li> <li>8. ルネッサンス時代</li> <li>9. イスラム圏における反ユダヤ主義</li> <li>10&amp;11. 近代における民族主義の誕生とキリスト教圏における反ユダヤ主義</li> <li>12&amp;13&amp;14. 現代におけるヨーロッパ、中東における反ユダヤ主義</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義中に資料を配布します		学期末のレポート	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論Ⅳ（日本思想史 1） 日本思想史 a	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。</p> <p>2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する。</p> <p>3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。</p> <p>4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。</p> <p>かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成も数回あるので、意欲的に参加されたい。</p> <p>日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。受講にあたってはサポートの必要が出てくるので、初回の授業で必ず申し出てください。</p> <p>古文や漢文を資料として用いるなど、かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいて下さい。</p>		<p>1 講義の進め方の説明</p> <p>2 古代から近世までの思想史の概略</p> <p>3 日本文化の特質について</p> <p>4 『古事記』の思想</p> <p>5～6 仏教の思想</p> <p>7 日本の近世思想の概略／江戸という時代</p> <p>8～9 儒学の思想</p> <p>10 朱子学と日本</p> <p>11 貝原益軒の思想</p> <p>12 荻生徂徠の思想</p> <p>13 水戸学の思想</p> <p>14 武士道について</p> <p>15 幕末維新期の思想／民衆の思想</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義支援システムを利用して配布するプリント類による／参考文献は、適宜紹介する。		授業レポートシステムを利用して、毎回学んだことを記述してもらい、出席を管理する。その出席と中間レポート提出を6割以上クリアすれば、最高でB評価だが、さらに最終レポートを提出すれば、最高AA評価とする。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論VI (アラブ文化・芸術 a) 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 a)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。</p> <p>アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。</p> <p>アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そしてSFの原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。</p> <p>ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：アラブ人とは？</li> <li>2. 「イスラーム」と「イスラーム」</li> <li>3. ムスリムにとって「クルアーン」とは</li> <li>4. アラブ人の生活文化 1) 食生活と祭</li> <li>5. アラブ人の生活文化 2) 家族・女性</li> <li>6. アラブ音楽入門 I</li> <li>7. アラブ音楽入門 II</li> <li>8. パレスチナ問題と芸術 1) 演劇 「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞</li> <li>9. 演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション</li> <li>10. パレスチナ問題と芸術 2) 記録映画</li> <li>11. パレスチナ問題と芸術 3) 小説 作家ガッサーン・カナファーニの世界 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 読後レポート提出・ディスカッション</li> <li>12. パレスチナ問題と芸術 4) 詩人 「パレスチナの声」マハムード・ダルウィーシュ</li> <li>13. パレスチナ問題と芸術 5) 映画</li> <li>14. イスラーム報道・アラブ報道を考える</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。</p>		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

養 外言	宗教・文化・歴史研究各論VII (アラブ文化・芸術 b) 地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術 b)	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか？テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラーム教や女性の抑圧、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないのでしょうか。</p> <p>しかし、テレビで報道されるアラブ像は、アラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。</p> <p>アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、皆さん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。</p> <p>アラブの芸術といえば、世界一有名なファンタジー、そしてSFの原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが、同時にアラブの文化は詩人の文化であり、また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説から始まり、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。</p> <p>ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性</li> <li>2. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション</li> <li>3. 「アラブ革命の春」を考える</li> <li>4. アラブ文化は詩の文化（1）：詩人変人今昔</li> <li>5. アラブ文化は詩の文化（2）：中世ヒップホップ</li> <li>6. アラブ文化は詩の文化（3）：現代のアイドル</li> <li>7. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」</li> <li>8. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学</li> <li>9. アラブの芸能 界 1) 歌謡曲</li> <li>10. アラブの芸能界 2) テレビ</li> <li>11. ノーベル賞作家ナギーブ・マハフーズの世界</li> <li>12. 小説「バイナルカスライン」レポート提出</li> <li>13. 続き（ディスカッション）</li> <li>14. ヨルダン映画 「キャプテン・アブーラーイド」</li> <li>15. 映画鑑賞ディスカッション・まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。参考文献：『恋するアラブ人』『イスラームから考える』（師岡カリーマ・エルサムニー著、白水社）『アジア読本・アラブ』（大塚和夫編・河出書房新書）など。</p>		出席回数、レポート、平常点（ディスカッション参加や発言の頻度）	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	宗教・文化・歴史特殊研究Ⅱ（思想と文化） 地域社会文化論特殊講義(思想と文化)	担当者	松丸 壽雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>物事を考えることが人間の存在にとってどのような意味を持つのか。そのように考えている自己とは如何なる存在であるのか。この自己の探究を通して、人間の存在の意味は何かを探る。この作業の助けとして、ヤスパース、ハイデッガー、フロイト、ユング、ベルグソン、西田幾多郎、西谷啓治、鈴木大拙などの哲学者・思想家の考え方をおよび仏教哲学などを参考にすることもある。だが、この授業は単に聞くだけのものではない。教師が考えていることを聴講者に投げかけるので、聴講者はそれに対してどのように考えたらいのかの応答を求められる。そして次に、各グループに分かれて、ディスカッションを主体に授業が進められるので、興味ある題と取り組むためのグループを作って、このグループによる発表とディスカッションを行ってゆくこともあるが、受講者の人数次第で変更もあり得る。なお、これらの題に関する学生と教師の間答によって探求を進めることが基本となる。</p> <p>外国人（特に英語を母国語ないしは理解可能言語とする留学生など）の聴講参加がある場合には、英語によって講義およびディスカッションがなされる場合も一部分ある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明と導入</li> <li>2. ディスカッションのためのグループ分けと最初の問題設定「人間と思索」について</li> <li>3. 「人間の存在」と「自己」との連関</li> <li>4. 「自己」とは何かのグループ・ディスカッション</li> <li>5. 「私」と「汝」に関する探求</li> <li>6. 「私」と「汝」に関する探求Ⅱ</li> <li>7. 「私」と「汝」に関する探求Ⅲ</li> <li>8. 「人間とは何か」に関する探求Ⅰ</li> <li>9. 「人間とは何か」に関する探求Ⅱ</li> <li>10. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅰ</li> <li>11. 「人間とは何か」と「自己」の関係についての考察Ⅱ</li> <li>12. 「自己」を現代の研究成果から考える</li> <li>13. 「自己」を現象学的に探求Ⅰ</li> <li>14. 「自己」を現象学的に探求Ⅱ</li> <li>15. 「自己」の本質に関する全体ディスカッション</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に指示		ディスカッションへの出席、授業への取り組み方を調査研究発表態度から判定および試験から最終判定。	

養	日本語教育研究Ⅰ（日本語教育概説）	担当者	石塚 京子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義概要&gt;</p> <p>「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。</p> <p>この講義は、将来、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。</p> <p>なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法Ⅰの内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。</p> <p>&lt;講義の目的&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。</li> <li>2. 日本語教育の歴史と現状を知る。</li> <li>3. さまざまな外国語教授法を概観する。</li> <li>4. 日本語を外国語として客観的に捉える。</li> <li>5. 外国語としての日本語の指導法を考える。</li> <li>6. 教師の役割を考える。</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要説明、日本語教育の一例の紹介</li> <li>2. 日本語教育とは何か(1) 日本語教育と国語教育の違い</li> <li>3. 日本語教育とは何か(2) 日本語教育の歴史</li> <li>4. 外国語教授法の歴史</li> <li>5. 外国語教授法の紹介(1)</li> <li>6. 外国語教授法の紹介(2)</li> <li>7. 異文化接触と日本語教育</li> <li>8. 言語教育と学習観</li> <li>9. コースデザインとシラバス</li> <li>10. 日本語のしくみと指導のポイント(1)</li> <li>11. 日本語のしくみと指導のポイント(2)</li> <li>12. 教室活動の活動例</li> <li>13. 教師の役割</li> <li>14. 評価</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol> <p>*進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>&lt;参考文献&gt;</p> <p>佐々木康子『ベーシック日本語教育』ひつじ書房、2007</p> <p>中西家栄子『実践日本語教授法』バベル出版</p>		<p>期末定期試験に出席率を加味して評価します。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	日本語教育研究Ⅱ（日本事情とコミュニケーション教育）	担当者	小山 慎治
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本における時事問題について、異文化理解、多文化共生、および外国人に対する日本語教育に関する話題を中心に授業を展開します。具体的には、外国人の定住化の問題について扱います。特に、いわゆるニューカマーと呼ばれる新来外国人の受け入れの背景を知った上で、定住化する外国人のソーシャルサポートのあり方を通じ、多文化共生の可能性について考えます。</p> <p>また、授業においては、日本社会での異文化理解、多文化共生に関する諸問題をテーマとした調査活動および発表、グループディスカッションを適宜取り入れる予定です。これらの活動は基本的にグループ単位で行う予定なので、積極的に活動に参加し、クラスを活性化してくれる学生を特に歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 多文化共生社会とは</li> <li>3 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状①</li> <li>4 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状②</li> <li>5 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状③</li> <li>6 外国人労働者の受け入れの史的変遷と現状④</li> <li>7 留学生受け入れ政策①</li> <li>8 留学生受け入れ政策②</li> <li>9 外国人児童①</li> <li>10 外国人児童②</li> <li>11 ソーシャル・サポート</li> <li>12 調査と発表活動①</li> <li>13 調査と発表活動②</li> <li>14 日本社会と多文化共生</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：特に指定しない</p> <p>参考文献： 多文化共生キーワード事典編集委員会（編）『多文化共生キーワード事典（改訂版）』明石書店 2010年</p>		出席(10%)、クラスへの貢献(10%)、クラスでの課題(20%)、および定期試験(60%)による総合評価	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅰ（日本語教授法1a） 日本語教授法Ⅰa	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>将来、国内あるいは海外で日本語教師として日本語を教えたい、あるいは、ボランティア活動を通じて外国人と関わり、日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（但し、言語教育という観点からは、他言語の教育にも応用され得る）。</p> <p>言語教育の基本理念、言語学習及び習得理論を紹介した上で、主要な外国語教授法の理論的背景を概観する。主たる目標は、発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える能力を養うことであり、そのために教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を具体的に紹介する。最終的には、各自がそれぞれ実際に教案・教材を作成する、極めて実践的な授業である。</p> <p>課題の発表についてはグループワーク、ペアワークの形態をとるが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般にわたるかなり広範囲な内容になる。</p>		<p>1.オリエンテーション 外国語としての日本語教育 2 教授法の理論・学習理論 3. L1 と L2 習得の違いについて 4.基本的な教室活動について 5. コースデザインの概要 6.教材・教具の紹介 7.聴解の指導 8.発音の指導 9.文字の指導</p> <p>上記の授業内容の配分はその時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考文献 ①プリント ②授業中に紹介 テキストは特に指定しないが、日本語教授法関連の本を一冊授業内容に合わせて読むことが望まれる。</p>		<p>①課題提出 ②前期テスト ③出席率</p>	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅱ（日本語教授法1b） 日本語教授法Ⅰb	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
前期と同じ		<p>1.語彙・意味の指導 2.読解指導 3.文法と文型の指導 4.会話の指導 5.作文の指導 6.教室活動の流れと構成 7.教案の書き方 ー 導入からまとめまで 8.テストと評価 9.教案発表</p> <p>上記の授業内容の配分はその時点での進捗状況に合わせる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
前期と同じ		<p>①課題提出（教案の作成） ②後期テスト ③出席率</p>	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅲ（日本語音声学） 日本語音声学 a	担当者	磯村 一弘
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。</p> <p>そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語音を作るしくみ</li> <li>2. 母音</li> <li>3. 子音(1)</li> <li>4. 子音(2)</li> <li>5. 子音(3)</li> <li>6. 有声音と無声音、母音の無声化</li> <li>7. 特殊音素(1)</li> <li>8. 特殊音素(2)</li> <li>9. 拍とリズム</li> <li>10. アクセント(1)</li> <li>11. アクセント(2)</li> <li>12. イントネーション(1)</li> <li>13. イントネーション(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>国際交流基金（2009）『国際交流基金日本語教授法シリーズ2 音声を教える』ひつじ書房。 そのほか、適宜プリントを配布する。</p>		<p>期末試験による。出席は取らない。</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅳ（日本語文法形態論） 日本語文法論 a	担当者	松浦 恵津子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 日本語文法を体系的に把握し、基本的な文法を理解・考察して規則性を見出す力を養う。同時に、日本語教育において、学習文法項目の分析を正しく行うことができる力もつける。</p> <p>〔講義概要〕 講義資料は、講義支援ポータルサイトに掲示される。その資料に目をおし問題を考えてから、授業に臨むことが毎回要求される。授業は、問題に対する考えの説明・考察というかたちで進める。</p> <p>個別の言語事象を全体の体系と関連付けて考察し、規則性を見出していくということを通して、日本語文法に対する知的興味・おもしろさを感じることができると思う。</p> <p>授業は休まず出てくること。体系の各部分はお互いに関連し合って体系をなしているので、1つの部分の理解が抜けてしまうと、全体を把握することに支障をきたす。</p> <p>また、講義資料以外の文献の読解も同時に要求するので、相応の自宅学習時間が必要となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文法入門（文法とは・形態論と統語論・単語と文・文法カテゴリ）</li> <li>2. 品詞の認定 名詞（名詞の種類・述語名詞の形）</li> <li>3. 動詞1（動詞の種類）</li> <li>4. 動詞2（活用体系）</li> <li>5. 形容詞（形容詞の種類・活用）</li> <li>6. 副詞 接続詞 感動詞 その他</li> <li>7. 品詞の転成 品詞のまとめ</li> <li>8. 格</li> <li>9. テンス・アスペクト①</li> <li>10. アスペクト②</li> <li>11. ヴォイス動詞</li> <li>12. 可能動詞 述語内部の語順</li> <li>13. とりたて</li> <li>14. 敬語</li> <li>15. 形態論のまとめ②</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義支援ポータルサイトに掲示される資料を、各自印刷して持ってくること。 参考文献：鈴木重幸『日本語文法・形態論』むぎ書房</p>		<p>①学期末テスト（80～90%）＊ ②出席（10%） 3分の2以上の出席が必要 ＊受講者数によっては、授業への参加度も加味する。（10%）</p>	

養 外言	日本語教育研究各論Ⅴ（日本語文法統語論） 日本語文法論 b	担当者	松浦 恵津子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ</p> <p>春学期の日本語文法形態論を先に履修しておくことが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文の組み立て 文の成分どうしの語順</li> <li>2. ヴォイス①（受身文）</li> <li>3. ヴォイス②（使役文・使役受身文）</li> <li>4. その他のヴォイスに関連する構文</li> <li>5. モダリティー①</li> <li>6. モダリティー②</li> <li>7. 終助辞の用法</li> <li>8. 授受の構文</li> <li>9. 存在文と所有文</li> <li>10. 主語につく「は」と「が」①</li> <li>11. 主語につく「は」と「が」②</li> <li>12. 重文と複文①（中止形接続・連体修飾節）</li> <li>13. 複文②（時間節・条件節）</li> <li>14. 複文③（名詞節・従属節の従属性）</li> <li>15. 統語論のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>講義支援ポータルサイトに掲示される資料を、各自印刷して持ってくること。 参考文献：高橋太郎『日本語の文法』ひつじ書房</p>		春学期と同じ	

養 外言	日本語教育研究各論VI (日本語談話論) 日本語学 b	担当者	武田 明子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 談話分析についての基本的な知識と方法の習得を目的とする。談話分析は、全盛期の後半以降、文学、文化人類学、社会学、心理学などの分野とも関連して発展してきた言語の学である。本講義では、日本語教育の中上級の学習項目を談話論に求めるという目標のもとで、談話とは何か、どのような理論があり、どのような具体的分析が可能なのかを学習していく。</p> <p><b>講義概要</b> 講義では下記のテキストおよび適宜用意するプリント資料を使用する。テキストにそって講義を進めていくので、下準備をしておくこと。また学生各自にも課題が課せられる。ガイダンスの時にどのような進め方をするかの詳細を話すので、1回目には必ず出席することが講義受講の条件となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスー全体の進め方</li> <li>2 談話分析概論(1)</li> <li>3 談話分析概論(2)</li> <li>4 意図表現と解釈(1)</li> <li>5 意図表現と解釈(2)</li> <li>6 文脈情報と意味</li> <li>7 会話の構造</li> <li>8 会話のストラテジー</li> <li>9 テキストと情報</li> <li>10 言語機能と文法</li> <li>11 言語と文化</li> <li>12 相互行為の理論(1)</li> <li>13 相互行為の分析(2)</li> <li>14 相互行為と社会分析</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
林 宅男『談話分析のアプローチ～理論と実践』研究社 (2008年)		授業内の発表内容と試験、および期末レポートで評価する。また、授業への参加姿勢も加味し、出席することがきびしく要求される。	

養 外言	日本語教育研究各論VII (日本語意味論・語用論) 日本語語彙・意味論	担当者	武田 明子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 日本語の語彙論および語彙レベルでの意味論と、文および談話レベルの意味処理の問題である語用論について、その概要を理解するとともに、日本語教育への応用を考えることを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 授業ではプリントを使用する。毎回授業終了時に次週で使用するプリントを渡すので欠席しないようにすることが必要である。授業にはプリントの内容を読んであることを前提に講義をすすめるので、積極的に参加することが望まれる。 全体把握のあと、実践的な教授のむずかしいとされる語彙教育、意味教育へと学習内容を応用すべく、各自あるいは履修者グループによる応用・活動などを要求する。各自の積極的な参加が望まれる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスー全体の進め方</li> <li>2 日本語の語彙(1)ー語の特性と形成</li> <li>3 日本語の語彙(2)ー語の種類 a</li> <li>4 日本語の語彙(3)ー語の種類 b</li> <li>5 日本語の語彙(4)ー語の使用</li> <li>6 意味論(1)ー意味の意味</li> <li>7 意味論(2)ー意味の分解</li> <li>8 意味論(3)ーパラディグマティック性</li> <li>9 意味論(4)ーシンタグマティック性</li> <li>10 語用論(1)ー文の意味</li> <li>11 語用論(2)ー情報と意味</li> <li>12 語用論(3)ー場面と意味</li> <li>13 語用論(4)ー行為と意味</li> <li>14 語用論(5)ー含意</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配布する。次週のプリントを前の週に配布するので、欠席しないようにすること。		授業内の発表内容と試験、および期末レポートで評価する。また、授業への参加姿勢も加味し、出席することがきびしく要求される。	

養 外言	日本語教育特殊研究 I (対照言語学・誤用分析 a) 対照言語学 a	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語と他言語との共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかもあわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。</p> <p><u>具体的なクラス運営</u></p> <p>① クラスの形態は講義と演習 ② 資料としては、日本語学習者（主として英語母語話者による作文）および日英の対訳を使用する。 ③ 基本的には日本語と英語の対照が中心になるが、対照研究に関する知見を得ることが主たる目的となるので、他言語との対照比較も紹介される。</p>		<p><u>講義形式</u></p> <p>1. 講義の概要 - 類型から見た日本語 2. 対照研究の歴史) 3. 誤用分析と中間言語 4. 言語の対照研究の役割と意義</p> <p><u>演習形式</u></p> <p>5. 作文の正用・誤用から、初級・中級レベルの学習者の中間言語の特徴をさぐる。</p> <p>6. 特に誤用が顕著な項目について、参加者が 1 項目を選び、両言語間の相違を調べるとともに、その原因をさぐる。基本的には日本語と英語の対照が中心になる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①プリント ②『対照研究と日本語教育』国立国語研究所（2002）を使用する。</p>		<p>①テスト ②課題発表 ③ 出席率 ④クラス参加</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅱ（対照言語学・誤用分析 b） 対照言語学 b	担当者	白石 実
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語と西語の共時的な比較対照及び誤用分析の方法を演習を通して学び、対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかを検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。下記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される可能性もある。</p> <p><b>具体的なクラス運営</b></p> <p>① クラスの形態は講義と演習（学生による誤用分析）を中心とする。</p> <p>② 初級レベルのスペイン人学習者による日本語作文を資料とし、比較対照を行う演習形式をとる。参加者は用例を資料等から探してることが求められる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 母語干渉と異文化要素</li> <li>3. とりたて「ハ」と「ガ」</li> <li>4. 逆説「のに」「けれど」</li> <li>5. 原因・逆説</li> <li>6. 願望</li> <li>7. 並列</li> <li>8. 推量「らしい」「ようだ」</li> <li>9. 条件文</li> <li>10. 接続詞</li> <li>11. 受身・使役</li> <li>12. 決断</li> <li>13. 授受表現</li> <li>14. 発音「長音」</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>基本的にはプリントの配布を中心とするが、参考文献として『対照研究と日本語教育』国立国語研究所（2002）を使用する。</p>		①テスト ②課題発表 ③出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅲ（文献読解 a） 日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論 a)	担当者	白石 実
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨今、西欧の外国語教育は、人口移動と直接的接触の機会増加にともない、改善化の必要性が求められている。ヨーロッパ協議会はそのような背景から、外国語教育への問題提起として、言語学習と教育に従事する全てのものに、その仕事を始める前に、学習者の需要、動機、特徴、学習教材について反省をめぐらす意味で、「ヨーロッパ言語共通枠組み」を作成した。</p> <p>この文献を基本に、複言語、複文化のヨーロッパにおける外国語学習及び言語教育の状況を理解し、その知見からこの「ヨーロッパ言語共通枠組み」を批判的に捉えて分析する。同時に日本語教育への応用という観点から、日本語学習者の要求、需要から見て何が有意義であるか、不必要であるか、どのような改善、展開が必要か等、さまざまな項目、要因について検討したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション（本文献、参考文献の提示等）</li> <li>2. 概説 ①CEF の政治的及び教育的背景</li> <li>3. 概説 ②CEF の理論的背景</li> <li>4. 共通レベル参照</li> <li>5. 言語使用と言語使用者</li> <li>6. 学習者の能力</li> <li>7. 言語学習と言語能力</li> <li>8. 言語教育における課題</li> <li>9. 言語の多様性とカリキュラム</li> <li>10. 評定</li> <li>11. 発表①</li> <li>12. 発表②</li> <li>13. 発表③</li> <li>14. 発表④</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>『ヨーロッパ言語共通枠組み参照 Common European Framework of References for Languages』 『ヨーロッパにおける日本語教育と Common European Framework of References for Languages』(AJE) (2005)。</p>		①テスト ②課題発表	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅳ（文献読解 b） 日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論 b)	担当者	中西 家栄子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>基本的には日本語と英語の比較対照研究をさらに進める。使用するテキストは英語の語彙力・表現力を増すことが目的の著書である。日本人が陥りやすい英語の誤りに留意して、日本語とも対比させている。本講義では、それを、日本語を学習する英語母語話者が陥りやすい誤りという視点から見て行く。検討する項目は意味論、語用論、語法に関するものとなる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Markedness</li> <li>2. Opposites &amp; Negatives</li> <li>3. Deixis</li> <li>4. Orientations</li> <li>5. Modal Verbs</li> <li>6. Time: Tense &amp; Aspect</li> <li>7. Aspect in Verbs</li> <li>8. Words to Sentences</li> <li>9. Meaning to Sentences</li> <li>10. Combining sentences</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト 10 Voyages in the Realms of Meaning 10日間 意味旅行、Th.R.Hofmann &amp; 影山太郎 共著 くろしお出版 その他、必要に応じてプリントの配布</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>① レポート</li> <li>②出席率</li> <li>③クラスへの貢献度</li> </ol>	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法Ⅱ） 日本語教授法Ⅱ	担当者	坂谷 佳子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>[講義目的] 外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。</p> <p>[講義概要] 毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者はまず教案を1週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の受講者は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その際、模擬授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う指導法、教室活動を具体的に検討・評価しながら受ける。模擬授業後、全員で模擬授業について具体的に検討し合い、授業の改善につなげていく。</p> <p>模擬授業担当者は、授業終了後、ビデオ録画した自分の授業を観察し、自己評価を行う。その上で、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。</p> <p><b>**注意：1回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席をすること。</b></p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 - 復習 ④動詞の活用と分類 - 復習 ⑤ドリル作成 - 復習 ⑥授業観察シートの書き方</p> <p>2回目より 担当者による模擬授業 模擬授業と検討・評価</p> <p>指導内容：初級文型の導入と指導、中級読解の指導等 模擬担当回数：履修者の数にもよるが、2回程度 1回目はペアで、2回目は一人で行う</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』スリーエーネットワーク 参考文献：『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ教え方の手引き』スリーエーネットワーク		①模擬授業の準備と実践 ②教案の提出 ③レポート（「授業観察シートのまとめと自己分析」を実習より1週間後以内に提出） ④出席 ⑤参加度	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法2） 日本語教授法Ⅱ	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関で実習を行なうための準備教育であり、演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業となる。模擬授業の担当者はまず教案を1週間前に教員に提出し、授業の準備を行う。模擬授業担当以外の学生は、仮の日本語学習者となり、その授業を受ける。その場合、学習者は授業の進行を客観的に観察し、担当者の行う教室活動、指導法を具体的に検討・評価する。一方、模擬授業担当者は自分の授業をビデオ録音し、授業後、自分の授業を観察し、さらに自己評価を行う。最後に、自己評価および他者からの観察シートをまとめ、自己分析に基づいて、レポートを提出する。登録者数にもよるが、各自、少なくとも2回程度の模擬授業を行うことになる。</p> <p><b>**注意： 1回目の授業で、担当の割り当て、日程を決定するので、必ず出席をすること。初回出席できないものはその旨を前もって知らせること。</b></p>		<p>1回目 ①オリエンテーション ②分担の取り決め ③教案の書き方 ー 復習 ④動詞の活用と分類 ー 復習 ⑤ドリル作成 ー 復習 ⑥授業観察シートの書き方</p> <p>2回目より 担当者による模擬授業 授業担当者は1回につき2名。 30分の模擬授業と15分の質疑応答</p> <p>指導内容：初級文型の導入と指導 中級読解の指導、など</p> <p>模擬担当回数：履修者の数にもよるが、2回 1回目はペアで、2回目は一人で行う</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>初級：『みんなの日本語』を中心に 参考文献：①「日本語の教え方の秘訣」スリーエーネットワーク ②「中・上級を教える人のための日本語文法ハンドブック」スリーエーネットワーク</p>		<p>①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート （「授業観察シートのまとめと自己分析」を実習より1週間後以内に提出）④出席</p>	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅵ（日本語教育教材論） 日本語学 a	担当者	中西 家栄子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、日本語コミュニケーション能力を育成するための教材について検討する。前半では、初級者用の教科書分析を通じてコミュニケーションのための日本語教育文法について検討する。その上で、日本語でのコミュニケーション能力を促進するには、どのような教材が求められるのかをクラスで考える。</p> <p>後半では、各自が教材の作成を進める。どのような教材にするかは、自由選択とするが、その作成過程をクラスで発表し、皆でコメントを出し合い協力しながら教材を完成させる。基本的には2課分相当のモデル教材の作成を課題とする。</p> <p>クラスでの話し合いによる理解を深めることが目的となるため、指定された教科書のページをきちんと読んでくることが求められる。</p>		<p>1. 教材開発の基本理論と教材紹介 2. コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図 3. コミュニケーションに役立つための教材 a.日本語学的文法から独立した日本語教育文法 b.学習者の習得を考慮した日本語教育文法 c.学習者の母語を考慮した日本語教育文法 4. 聞くための日本語教育文法+聴解教材の開発 5. 話すための日本語教育文法+会話教材の開発 6. 読むための日本語教育文法+読解教材の開発 7. 教材開発と発表</p> <p>時間の配分は授業の進展次第とする。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>①テキスト 「コミュニケーションのための日本語教育文法」 野田尚史編 くろしお出版 ②参考文献 「みんなの日本語」スリーエーネットワーク</p>		<p>① 課題の提出 ② 出席率（クラス活動への参加） ③ 課題教材の作成</p>	

養 外言	日本語教育特殊研究Ⅴ（日本語教授法Ⅱ） 日本語教授法Ⅱ	担当者	野村 美知子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語を外国語として教える具体的な方法を学ぶ。</p> <p>日本語教育機関で実習を行うための準備教育であり、演習中心の授業である。</p> <p>毎回、学生による模擬授業を行う。模擬授業の担当者は事前に教員に教案を提出し、指導を受けながら授業の準備を進める。模擬授業担当以外の学生は、仮の学習者となって授業を受けるが、その際授業の進め方も客観的に観察する。授業後、全員で担当者の行った教室活動や指導法について具体的に講評しあい、授業の改善を目指す。</p> <p>担当回数と模擬授業時間は人数によって決めるが、全体を通して少なくとも1人2～3回は行う。</p> <p>周到的準備とリハーサルを行ったうえで模擬授業に臨むことが求められる。</p>		<p>1回目①オリエンテーション</p> <p>②分担の取り決め、スケジュール決め</p> <p>③初級の学習項目（確認）</p> <p>④教案の書き方（確認）</p> <p>⑤ドリルとアクティビティ</p> <p>⑥授業観察の方法</p> <p>⑦評価方法説明</p> <p>⑧参考文献紹介</p> <p>2回目以降：担当者による模擬授業と各授業について全員での講評</p> <p>必ず1回目から出席すること。2回目から模擬授業を行うので、そのつもりで参加すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>『みんなの日本語 初級Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）</p> <p>参考文献：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ教え方の手引き』</p>		<p>①模擬授業の準備と実践 ②事前の教案提出 ③レポート（授業観察のまとめと自己分析） ④授業への参加度</p>	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	中西 家栄子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>獨協大学における日本語教員養成課程では、4年次における教育実習を必須としている。教授法Ⅱを修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2週間（48時間相当）にわたって行う。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。</p>		<p>各教育機関による。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各教育機関によって指定されるもの		<p>基本的には実習効からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。</p>	

養	日本語教育特殊研究Ⅶ（教育実習）	担当者	中西 家栄子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>獨協大学における日本語教員養成課程では、4年次における教育実習を必須としている。教授法Ⅱを修了していることが履修条件となる。実習は学外の日本語教育機関において、少なくとも2週間（48時間相当）にわたって行う。実習では、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることが目的となる。</p>		<p>各教育機関による。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各教育機関によって指定されるもの		<p>基本的には実習効からの評価に基づく。 欠席、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅰ（教育の原理）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。</p> <p>【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明 第2回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第3回：習熟度別学級編成の問題 第4回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第5回：系統学習と問題解決学習について 第6回：「学力低下」と学力テストについて 第7～9回：戦後の教育の思想と歴史 第10回：「能力に応じた」教育を考える 第11回：教育における競争と自由の問題を考える 第12回：子どもの権利条約の精神 第13回：子どもに固有する権利と人権 第14回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円） 参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には小テストの点数等も加味します。出席は6割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

養	教育科学研究 I (教育の原理)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教職課程履修者が最初に受講するものと想定している。したがって、教職課程の基礎理論編として、教育哲学、教育史、教育制度、教育法などの基礎を広く扱う。</p> <p>●講義概要 1回目のガイダンスでは、授業の進め方や評価方法、参考文献等を指示する。 2～4までは、日本の戦後教育の成り立ちとその理念について憲法・教育基本法体制を中心に扱う。 5～8までは、国家と教育とのかかわりについて、教科書検定や、学力テストの関係をj中心に検討する。 9～11までは、教育と経済の関係において、とくにキーとなる「能力主義」を中心に扱う。 12～14までは教育の自由や、公共性の問題を扱いながら、教育基本法の改正動向等についても検討する。</p> <p>※授業内容の変更もありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義についてのガイダンス</li> <li>2. 戦後教育改革をどうとらえるか①</li> <li>3. 戦後教育改革をどうとらえるか②</li> <li>4. 戦後教育改革をどうとらえるか③</li> <li>5. 国家と教育①</li> <li>6. 国家と教育②</li> <li>7. 国家と教育③</li> <li>8. 小テスト&amp;まとめ</li> <li>9. 経済と教育①</li> <li>10. 経済と教育②</li> <li>11. 経済と教育③</li> <li>12. 教育の自由と公共性①</li> <li>13. 教育の自由と公共性②</li> <li>14. 教育の自由と公共性③</li> <li>15. 小テスト&amp;まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。	

養	教育科学研究 I (教育の原理)	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 教職課程履修者が最初に受講するものと想定している。したがって、教職課程の基礎理論編として、教育哲学、教育史、教育制度、教育法などの基礎を広く扱う。</p> <p>●講義概要 1回目のガイダンスでは、授業の進め方や評価方法、参考文献等を指示する。 2～4までは、日本の戦後教育の成り立ちとその理念について憲法・教育基本法体制を中心に扱う。 5～8までは、国家と教育とのかかわりについて、教科書検定や、学力テストの関係をj中心に検討する。 9～11までは、教育と経済の関係において、とくにキーとなる「能力主義」を中心に扱う。 12～14までは教育の自由や、公共性の問題を扱いながら、教育基本法の改正動向等についても検討する。</p> <p>※授業内容の変更もありうる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義についてのガイダンス</li> <li>2. 戦後教育改革をどうとらえるか①</li> <li>3. 戦後教育改革をどうとらえるか②</li> <li>4. 戦後教育改革をどうとらえるか③</li> <li>5. 国家と教育①</li> <li>6. 国家と教育②</li> <li>7. 国家と教育③</li> <li>8. 小テスト&amp;まとめ</li> <li>9. 経済と教育①</li> <li>10. 経済と教育②</li> <li>11. 経済と教育③</li> <li>12. 教育の自由と公共性①</li> <li>13. 教育の自由と公共性②</li> <li>14. 教育の自由と公共性③</li> <li>15. 小テスト&amp;まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
		①授業への出席、発言などの貢献、②授業レポートシステムの提出・内容、③テスト等を総合的に評価する。評価方法等の詳細は一回目のガイダンスで指示する。	

養	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	川村 肇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【目的】 教職課程で学ぶ諸科目の入門として、教職の意義と教職に就く心構えを学び、さまざまな角度から教育に対する見方を鍛えることを目標とします。</p> <p>【概要】 1. 「学級崩壊」「いじめ」「体罰」など、現代教育の抱えている諸問題を取り上げて、実態をビデオ等により確認し、参加者で討議します。こうした問題への教師の取り組みを考えることを通して、教職の意義及び教員の役割および教員の職務内容を学びます。 2. 進路選択に資する各種の機会の提供を行いません。 3. 諸問題が教育や社会に投げかけている問題を認識し、教職の役割を明確にすることで、今後の学習につなげていく道筋を理解していきます。特に体罰については、その問題点をきちんと理解することを求めます。</p> <p>【要望】 ・ビデオを見たり、グループ討議を取り入れるので、遅刻や欠席は避けてください。討論がどうしても嫌だという人はこの講義には向きません。 ・右の講義計画は、討論の進み具合等によって、変更することがあります。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明／本学で教職免許状が取得できる理由／教職の意義と役割 第2回：学級崩壊を考える（実態把握）／宿題：学級崩壊への対処について 第3回：学級崩壊を考える（グループ討論） 第4回：学級崩壊を考える（グループ討論のプレゼンテーション）／宿題：少年法改正について 第5回：ADHDを考える（実態把握）／宿題：ADHDから学ぶこと 第6回：体罰を考える（グループ討論） 第7回：体罰を考える（体罰に関する理論的問題） 第8回：体罰を考える（裁判例と実態把握） 第9回：いじめを考える（実態把握）／宿題：いじめへの対処について 第10～11回：いじめを考える（グループ討論・発表） 第12回：教員の職務内容（研修、服務、身分保障）と職業選択の問題について 第13回：教師の専門職性を考える 第14回：様々な進路選択の問題を考える 第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義支援システムを利用して配布するプリント類により ます。 参考文献は、授業中に適宜紹介します。		期末レポートと、数回の小レポートを総合評価します。出席は、6割以上を必須とし、毎回授業レポートシステムを利用して学んだことを記述してもらいます。	

養	教育科学研究Ⅲ（教育の歴史2）	担当者	川村 肇
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>【目的】 教育の本質を理解するために、自らの教育観を相対化しつつ、さまざまな基本的概念を学び、教育に対する考え方の基礎を養います。</p> <p>【概要】 1. 教育の思想と歴史の概略を基礎として、子どもの権利条約や教育基本法等を素材にし、人権と子どもの権利、能力の問題、義務教育等の、教育において基本的な概念や考え方を学びます。 2. 教育と学習との関係を、ビデオ、教育の時事問題や教育実践などを教材として、様々な角度から考えていきます。</p>		<p>第1回：講義の進め方の説明 第2回：学力問題の国際比較（ドイツの事例） 第3回：習熟度別学級編成の問題 第4回：学力問題の国際比較（フィンランドの事例） 第5回：系統学習と問題解決学習について 第6回：「学力低下」と学力テストについて 第7～9回：戦後の教育の思想と歴史 第10回：「能力に応じた」教育を考える 第11回：教育における競争と自由の問題を考える 第12回：子どもの権利条約の精神 第13回：子どもに固有する権利と人権 第14回：子どもとはどういう存在か（系統発達と子どもの発見） 第15回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『ポケット版 子どもの権利ノート』（300円） 参考文献は、授業中適宜紹介します。授業資料は講義支援システムを利用して配布します。		授業内試験結果に、授業レポートシステムを利用したレポートや感想文を加味します。実施した場合には小テストの点数等も加味します。出席は6割以上、授業内試験の受験を必須とします。	

養	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【目的】</b> 本講義は、教育職員免許法に規定された教職の意義等に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、教職の概要を理解するとともに、教職に必要な不可欠な基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。</p> <p><b>【概要】</b> 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分や服務、職務の内容や必要とされる資質などについての主体的な理解を深めていく。教員が直面している諸課題についても取り上げ、教育に対する質の高い関心と教職に対する熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		<p>第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：期待される教師像と目指す教師像 第 3 回：教員の資質・能力 第 4 回：教員養成と教員免許 第 5 回：教員の任用と教育委員会 第 6 回：教員の身分と服務 第 7 回：教員の職務(1) 教員の日・学校運営と校務分掌 第 8 回：教員の職務(2) 学習指導と生徒指導 第 9 回：教員の研修 第 10 回：教員の人事評価 第 11 回：教職の現代的課題(1) 少年非行問題 第 12 回：教職の現代的課題(2) いじめ問題 第 13 回：教職の現代的課題(3) 不登校問題 第 14 回：教職の現代的課題(4) 教職員事故 第 15 回：教育理念と教育信条</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎の資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

養	教育科学研究Ⅳ（教職論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	白砂 佐和子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、教育分野にまつわる心理学の知見に幅広く触れつつ、教育現場で重要と思われる「人を理解すること」について心理学的に深めることを目的とする。具体的には、学習心理学、人格の理解、人格の発達、発達課題とつまずき、子どもの心理を理解すること等について、現場と理論のつながりを考えながら講義していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育心理学について</li> <li>2. 動機づけ理論</li> <li>3. 人格の理解（1）</li> <li>4. 人格の理解（2）</li> <li>5. 学習心理学</li> <li>6. 記憶・認知の心理学</li> <li>7. 発達心理学序論・ライフサイクル</li> <li>8. 乳幼児期の重要性（1）</li> <li>9. 乳幼児期の重要性（2）</li> <li>10. 人間の深層心理とその理解について</li> <li>11. 発達上の課題 学童期前半</li> <li>12. 発達上の課題 学童期後半</li> <li>13. 発達上の課題 思春期</li> <li>14. 発達上の課題 青年期以降</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業にて提示する		出席状況とテスト結果を合わせて評価します。	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	松尾 由美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨今教育現場で起こる様々な問題（いじめ、不登校、学級崩壊など）の解決のために、心理学の理論を用いたアプローチが求められることも少なくありません。</p> <p>この講義では、これまでの心理学で得られてきた、学習や発達に関する心理学の基本的な理論を紹介するとともに、特に、生徒の発達や学習にかかわる問題について、心理学の理論から、どのようにアプローチできるのか、考えます。</p> <p>また、心理学の理論を使って、生徒をよりよく理解すること、よりよい教育方法を考えることを目標とします。</p> <p>ですので、ただ講義を聴くだけではなく、授業中に実施する実習や課題について、積極的に取り組むことを求めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 育ちゆく心と体</li> <li>3. やる気を高める</li> <li>4. 学習のメカニズム</li> <li>5. 認知の発達</li> <li>6. アイデンティティ</li> <li>7. 社会性を育む</li> <li>8. 親子・仲間関係の発達</li> <li>9. 記憶</li> <li>10. 思考</li> <li>11. 教育評価</li> <li>12. 学級づくり</li> <li>13. 発達障害の理解と教育①</li> <li>14. 発達障害の理解と教育②</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは用いない。プリントを配布する。参考文献は、授業中に適宜紹介する。		評価方法：期末試験の結果（70%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物や実習への参加（30%）も評価対象とする。	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>今日、日本の教育環境は大きな転換点にさしかかっている。このように激変しつつある教育現場に携わるときに必要とされる心理学の基礎的知識について、本講義を通して理解を深めてほしい。</p> <p>教育心理学には大きく（１）測定・評価、（２）人格・適応、（３）発達、（４）学習という４つの領域がある。本講義ではまず教育心理学が成立した歴史的背景を述べた上で、これらの４領域の内容を詳しくみていくことにする。すなわち、１．教育心理学とはなにか、２．教育評価と学力問題、３．学習の過程と学習への動機付け、４．発達および発達障害などについて講義していく予定である。</p>		<p>授業計画</p> <p>第１回：教育心理学の領域とその歴史  第２回：教育測定と教育評価  第３回：教育評価の方法  第４回：教育評価と学力問題  第５回：学習の原理  第６回：学習における動機付け  第７回：学習意欲と原因帰属  第８回：学習意欲と目標理論  第９回：学習意欲と教師の役割  第１０回：発達と学習  第１１回：心理アセスメントと発達障害  第１２回：学習障害の理解  第１３回：AD/HDの理解  第１４回：自閉性障害の理解  第１５回：まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>特定のテキストは使用しない。毎回レジュメを配布して授業をおこなう。また、必要な資料は授業において配布する。</p>		<p>授業時の小レポートおよび学期末の試験により総合的に評価をおこなう。</p>	

養	教育科学研究Ⅴ（発達と学習の心理学）	担当者	田口 雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>半期完結授業のため春学期の内容を参照のこと</p>			
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養	教育科学研究VI（こころの世界）	担当者	田口 雅徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、まず、現代心理学の成立過程を概観する。その後、性格の形成、ストレス、生きがいと心の健康などのテーマについて、さまざまなデータを示しながら説明していく。</p> <p>本講義を通して、心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また、心理学の基本的知識を習得し、同時に、社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。</p>		<p>以下のような計画で講義をおこなっていく予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：科学としての心理学</li> <li>2. 心理学のあゆみ①：哲学的心理学・心理学の誕生</li> <li>3. 心理学のあゆみ②：ゲシュタルト心理学</li> <li>4. 心理学のあゆみ③：行動主義の心理学</li> <li>5. 心理学のあゆみ④：精神分析理論</li> <li>6. 性格とは？：自己の性格理解</li> <li>7. 性格をとらえる枠組み：性格理論</li> <li>8. 性格の形成：遺伝的要因と双生児研究</li> <li>9. 性格の形成：環境的要因</li> <li>10. ストレス①：ストレスと性格</li> <li>11. ストレス②：ストレス・コーピング</li> <li>12. ストレス③：ストレスの生理心理学</li> <li>13. 現代社会とストレス</li> <li>14. 現代社会とこころの病</li> <li>15. 生きがいとこころの健康</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは使用しない。		授業における小レポートと試験により総合的に評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養	教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>【目的】</b> 本講義は、教育職員免許法に規定された教育の基礎理論に関する科目であり、教職課程履修の基礎的・基本的な科目として位置づけられている。本講義においては、日本の教育制度の意義や構造の概要を理解するとともに、生涯学習社会における学校教育、家庭教育、社会教育の関係性にも触れながら教育制度全般に対する基礎的・基本的な識見をはぐくむことを目的とする。</p> <p><b>【概要】</b> 本講義では、グループ討議や全体討議などを通して、日本の教育制度の意義や構造、教育改革の現状と課題などについて主体的な理解を深めていく。教育行政、学校・家庭・社会教育との関連や諸外国の教育制度にも触れながら教育に対する質の高い関心と熱い情熱や崇高な使命感の醸成を図っていく。</p>		第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：教育の制度化 第 3 回：学校教育制度の概要 第 4 回：学校教育制度の変遷 第 5 回：公教育と私教育 第 6 回：教育行財政 第 7 回：教育委員会制度 第 8 回：教育課程と学習指導要領 第 9 回：諸外国の教育制度 第 10 回：家庭教育の現状と課題 第 11 回：社会教育の現状と課題 第 12 回：教育改革の現状と課題(1) 学校評価・人事評価制度 第 13 回：教育改革の現状と課題(2) 学校選択制・小中高一貫教育 第 14 回：教育改革の現状と課題(3) 学校評議員・学校運営協議会 第 15 回：教育改革の現状と課題(4) 初任者研修・教員免許更新制度	
テキスト、参考文献		評価方法	
講義毎の資料。参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点 (30%)、課題レポート (20%)、試験 (50%) により、出席 3 分の 2 以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	担当者	小島 優生
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>●講義目的 教育に関わる法制度の理論と仕組みを理解した上で、新しい動向を検討することを目的としている。</p> <p>●講義概要 2, 3は他の行政分野とは異なる仕組み、教育委員会を中心にその仕組みと、準公選制度を実施した中野区の事例を検討する。 4, 5は学校運営の仕組みを概観した後、世界的動向ともいえる「自律的学校経営」について、日本の学校評議員や韓国の学校運営委員会制度などとも比較しながら検討する。 7, 8では教育行政の主な役割とされる教育条件整備について学級定員、および例外事項としての教員給与を扱う。 9, 10では教員養成の仕組みについて、戦後の教員養成制度の特徴および最近の動向、そして日本が範としたフィンランドの教員養成を検討する。 11, 12では教科書編成を中心とした仕組みを検討し、独自の副読本づくりを行った犬山市の事例を検討する。 また、随時用語説明を中心とした小テストを実施し、理解での定着を図りたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス (講義の目的、進め方についての説明など)</li> <li>2. 教育行政を動かす組織—教育委員会制度</li> <li>3. 教育委員会制度 (中野区・韓国?)</li> <li>4. 学校運営の仕組み</li> <li>5. 学校運営の新しい動向 (韓国の学校運営委員会)</li> <li>6. 小テスト</li> <li>7. 条件整備行政の仕組み</li> <li>8. 条件整備行政の新しい動向 (少人数学級)</li> <li>9. 教員の養成・採用・研修・身分の仕組み</li> <li>10. 教員政策の新しい動向 (社会人の登用)</li> <li>11. 教員政策の新しい動向 (教員評価)</li> <li>12. 教育課程行政と教科書の仕組み</li> <li>13. 教育課程行政と教科書の新しい動向 (犬山市)</li> <li>14. 小テスト</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：勝野正章・藤本典裕編 (2008)『教育行政学 (改訂版)』学文社 参考文献：授業中に適宜指示する</p>		<p>①出席、発言など、②授業レポートシステム、③小テスト、④学期末テスト (レポート) などで評価する。 <u>評価方法などは第一回目に指示する。</u></p>	

養	教育科学研究各論 I (比較教育制度論)	担当者	小島 優生
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期と同様。		春学期と同様。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同様。		春学期と同様。	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>教育課程とは、学校教育の目的や目標を達成するために、教育の目標や内容、授業時数などを総合的に組織した学校の教育計画である。この教育課程は、校長を中心として全教職員の参画の下に、学校が主体性を持って編成していかなければならない。したがって、教職に携わる者は、教育課程に関する基礎的・基本的な事項を修得しておかなければその使命と責務を果たすことはできない。</p> <p>本講義では、平成20年に改訂された学習指導要領を踏まえ、教育課程の概念や意義、教育課程編成の一般方針、指導計画の作成、編成の手順と評価等について研究を深めつつ実践能力をはぐくむことを目的とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 教育課程の概念と意義</li> <li>3 西欧の教育課程・カリキュラムの変遷</li> <li>4 日本の教育課程・カリキュラムの変遷</li> <li>5 教育課程の基準と関係法令</li> <li>6 教育課程編成の一般方針</li> <li>7 内容の取扱いと各教科等の授業時数</li> <li>8 教育課程実施上の配慮事項</li> <li>9 指導計画の作成と教育課程編成の手順</li> <li>10 年間教育計画、週日課、時間割等の編成の実際</li> <li>11 各国の教育課程の比較検討1</li> <li>12 各国の教育課程の比較検討2</li> <li>13 各国の教育課程の比較検討3</li> <li>14 各国の教育課程の比較検討4</li> <li>15 整理とまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
『中・高等学校学習指導要領解説・総則編』 講義毎に配布する資料 参考文献は講義内容に応じて適宜紹介する。		平常点(30%)、課題レポート(20%)、試験(50%)により、出席3分の2以上の受講者を評価対象者として総合的に評価する。	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	桑原 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ)</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学研究各論Ⅱ（教育課程論）	担当者	安井 一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講は、学力、評価、総合的学習など、今日の学校教育の内容をめぐる問題状況をふまえながら、教育課程の研究、実践に関する今日的課題について考察することを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、VTR教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程と学力問題</li> <li>2 教育課程とは何か</li> <li>3 日本の教育課程(1)</li> <li>4 日本の教育課程(2)</li> <li>5 教育課程編成の理論と方法(1)</li> <li>6 教育課程編成の理論と方法(2)</li> <li>7 教育課程編成の理論と方法(3)</li> <li>8 学習指導要領と教育課程(1)</li> <li>9 学習指導要領と教育課程(2)</li> <li>10 学習指導要領と教育課程(3)</li> <li>11 学習指導要領と教育課程(4)</li> <li>12 新学習指導要領の検討(1)</li> <li>13 新学習指導要領の検討(2)</li> <li>14 教育課程と評価</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説 総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説 総則編』その他は、講義の中で紹介する。</p>		出席（7割以上、厳守のこと）、レポート、試験による総合評価	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	教育科学研究各論Ⅲ (カウンセリング論) 人間関係とカウンセリング a	担当者	瀧本 孝雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>まず、カウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的な技法について学習する。特に、カウンセリングにおける傾聴の重要性を理解する。</p> <p>さらに、ロールプレイや心理テストを実施する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.講義の概要</li> <li>2.カウンセリングとは何か</li> <li>3.カウンセラーの役割と資格</li> <li>4.カウンセラーの世界 (相談機関)</li> <li>5.カウンセリングと心理療法</li> <li>6.クライアント中心カウンセリング (1)</li> <li>7.クライアント中心カウンセリング (2)</li> <li>8.精神分析的カウンセリング</li> <li>9.認知行動カウンセリング</li> <li>10.傾聴の理論</li> <li>11.傾聴の実習</li> <li>12.ロールプレイの実習</li> <li>13.心理テストの実施</li> <li>14.講義のまとめ(1)</li> <li>15.講義のまとめ(2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループ・ワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

養 外言	教育科学研究各論Ⅳ (パーソナリティ理論) 人間関係とカウンセリング b	担当者	瀧本 孝雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人の行動の特徴を表す言葉として、心理学ではパーソナリティという言葉が使われている。われわれが人を理解するとき、このパーソナリティという用語は非常に重要な概念の一つである。</p> <p>本講義では、パーソナリティの定義、理論、形成、発達について学習し、またパーソナリティと関連の深い葛藤、フラストレーション、防衛機制などの諸問題について考察する。</p> <p>さらに、パーソナリティ・テストの方法について理解し、テストを実施することで、自己理解を深めていく。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるが、全学科の2年生以上の学生は受講できる。</p> <p>出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.講義の概要</li> <li>2.パーソナリティとは何か</li> <li>3.パーソナリティの類型論</li> <li>4.パーソナリティの特性論</li> <li>5.パーソナリティ形成の諸理論</li> <li>6.パーソナリティの発達</li> <li>7.青年期のパーソナリティ</li> <li>8.成人期・老年期のパーソナリティ</li> <li>9.文化とパーソナリティ</li> <li>10.フラストレーションと葛藤.</li> <li>11.防衛機制</li> <li>12.パーソナリティ・テストの種類と方法</li> <li>13.パーソナリティ・テストの実施</li> <li>14.講義のまとめ (1)</li> <li>15.講義のまとめ (2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『カウンセリングへの招待』 瀧本孝雄著 サイエンス社		講義、グループワークに関するレポートおよび出席状況による。実習をするので出欠を重視する。	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	松尾 由美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校カウンセリングとは、生徒の心の発達を援助し、対人関係を改善したり、社会的適応性を高めることを目標とする活動であり、学校現場を取り巻く様々な問題を解決するために、近年ますます重要視されています。</p> <p>この講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要な基礎的なカウンセリングの基本的な理論や技法について講義します。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に考えてもらいます。カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることがこの講義の目標です。ですので、授業中の実習やグループワークへの積極的な参加を求めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 教師が行う学校カウンセリングの特徴</li> <li>3. 学校カウンセリングの理論① ：来談者中心療法とカウンセリングマインド</li> <li>4. 学校カウンセリングの理論②</li> <li>5. 予防的カウンセリング①：構成的グループエンカウンター</li> <li>6. 予防的カウンセリング②：ソーシャルスキルトレーニング</li> <li>7. 予防的カウンセリング③：ライフスキルトレーニング</li> <li>8. 思春期の心の発達と危機</li> <li>9. 学校カウンセリングの実際①：いじめ</li> <li>10. 学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり</li> <li>11. 学校カウンセリングの実際③：非行</li> <li>12. 学校カウンセリングの実際④：発達障害の理解と支援</li> <li>13. 学校カウンセリングの実際④：精神障害の理解と支援</li> <li>14. 学級運営に活かすカウンセリング</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは用いない。プリントを配布する。 参考文献は、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>評価方法：期末試験の結果（70%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物や実習への参加（30%）も評価対象とする。</p>	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	松尾 由美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校カウンセリングとは、生徒の心の発達を援助し、対人関係を改善したり、社会的適応性を高めることを目標とする活動であり、学校現場を取り巻く様々な問題を解決するために、近年ますます重要視されています。</p> <p>この講義では、教員が学校で生徒と接する際に必要な基礎的なカウンセリングの基本的な理論や技法について講義します。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について、どのように対応すべきか、実際に考えてもらいます。カウンセリングに関する「知識」を習得することにとどまらず、学校現場で起こりうる様々な問題への対処について、自分自身で「考える力」を身につけることがこの講義の目標です。ですので、授業中の実習やグループワークへの積極的な参加を求めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 教師が行う学校カウンセリングの特徴</li> <li>3. 学校カウンセリングの理論① ：来談者中心療法とカウンセリングマインド</li> <li>4. 学校カウンセリングの理論②</li> <li>5. 予防的カウンセリング①：構成的グループエンカウンター</li> <li>6. 予防的カウンセリング②：ソーシャルスキルトレーニング</li> <li>7. 予防的カウンセリング③：ライフスキルトレーニング</li> <li>8. 思春期の心の発達と危機</li> <li>9. 学校カウンセリングの実際①：いじめ</li> <li>10. 学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり</li> <li>11. 学校カウンセリングの実際③：非行</li> <li>12. 学校カウンセリングの実際④：発達障害の理解と支援</li> <li>13. 学校カウンセリングの実際④：精神障害の理解と支援</li> <li>14. 学級運営に活かすカウンセリング</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは用いない。プリントを配布する。 参考文献は、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>評価方法：期末試験の結果（70%）によって評価するが、平常授業における課題レポートなどの提出物や実習への参加（30%）も評価対象とする。</p>	

養	教育科学研究各論Ⅴ（学校カウンセリング）	担当者	瀧本 孝雄
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>まず初めに教育相談とは何かについて考察し、その具体的内容について検討する。次に、カウンセリングについての理論、技法等について全般的に学習する。</p> <p>さらに学校カウンセリングの目標と方法に関して具体的に学習する。特にいじめ、校内暴力、非行、情緒障害等について、教育相談との関連において考察していく。さらに心理テストの役割について概説し、カウンセリングにおける心理テストの役割を考察したうえで、実際に心理テストを実施する。</p> <p>また、養護教諭、学校医、スクールカウンセラー等の職務の実際や連携について考察する。</p>		<p>第1回：ガイダンス 第2回：グループ・ワーク 第3回：教育相談とは何か 第4回：教育相談の内容 第5回：養護教諭、学校医の役割 第6回：スクールカウンセラーの役割 第7回：カウンセリングの目的とその意義 第8回：カウンセリングの理論と技法 第9回：学校カウンセリングの目的と特徴 第10回：学校カウンセリングの方法 第11回：中学生・高校生と学校カウンセリング 第12回：生徒の問題行動 第13回：生徒の精神衛生 第14回：心理テストの理論と実際 第15回：全体のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『カウンセリングへの招待』瀧本孝雄著 サイエンス社 2006		評価方法は講義、グループ・ワークに関する小テスト、レポートおよび出席状況による。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養 外言	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学） 認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり、その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また、授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい、その結果をまとめて、授業にてレポート発表してもらう予定である。これらのレポートや授業での発言をもとに成績評価をおこなう。</p> <p>授業内容は、まず、人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに、動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに、近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める。</p>		<p>授業計画は以下の通り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知科学とは（授業概要）</li> <li>2. 認知科学の歴史</li> <li>3. 視知覚の特性①（概説）</li> <li>4. 視知覚の特性②（実験・調査）</li> <li>5. 視知覚の特性③（レポート発表）</li> <li>6. 音の知覚</li> <li>7. 学習と記憶①（学習の原理）</li> <li>8. 学習と記憶②（実験と調査）</li> <li>9. 学習と記憶③（レポート発表）</li> <li>10. 記憶のしくみ①（記憶の過程）</li> <li>11. 記憶のしくみ③（実験と調査）</li> <li>12. 記憶のしくみ④（レポート発表）</li> <li>13. 言語と脳</li> <li>14. 認知工学と脳</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストは使用しない。必要ない資料は配付する。		レポートと授業での発表内容により評価する。	

養 外言	教育科学研究各論Ⅶ（認知科学） 認知科学	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>半期完結授業のため春学期と同内容</p>			
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究Ⅰ（異文化理解教育）	担当者	小島 優生
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>●講義目的 異文化（間）教育の理論と実践を学ぶことで、多文化社会における人間形成や学校教育制度に関する基礎的な知識を身につけ、最終的には現在の学校が抱える課題について自身の考えを持つことを目標とする。</p> <p>●講義概要 2. ～4. では、異文化理解教育や、日本の置かれている状況等を概観する、いわば理論編である。グローバリゼーションや、異文化など身近な用語から理解をしていく。 6. ～11. は、日本の教育制度が抱える課題であるニューカマー（NC）、オールドカマー（OC）それぞれの教育課題を探究する。この2つは、同様に外国籍の子どもの対象とする点では一見類似しているが、それぞれの状況が大きく異なる。2つの教育問題は、結果として学校や教育に対する日本政府の考え方を顕在化させる。 13. ～15. は、上記のような教育や学校に対する考え方を他の国の政策との比較で考えていく。 少人数で、ディスカッションを多く用いながら授業を進めたいと考えている。</p>		<p>1. 授業に関するガイダンス 2. 国際化と教育 3. 異文化理解の教育 4. 日本の異文化間教育とその視点 5. まとめ 6. オールドカマーの子どもたち① 7. オールドカマーの子どもたち② 8. オールドカマーの子どもたち③ 10. ニューカマーの子どもたち① 11. ニューカマーの子どもたち② 12. まとめ 13. 多文化教育の国際比較① 14. 多文化教育の国際比較② 15. 多文化教育の国際比較③・まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：特になし 参考文献：授業中に適宜指示する</p>		<p>①授業への参加、発言などの貢献、②レポートシステムの提出、内容、③学期末レポートなどを総合的に評価する。 ※評価方法等は1回目の授業で説明する。</p>	

養	教育科学特殊研究Ⅱ（教師と語る）	担当者	川村 肇
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1. 目的：教育の実際の姿を、実践記録を読みあい、教育現場の小中学校の教師との討論を通じてつかみます。そのなかで、特に生活指導についての理解を深めます。 2. 概要：教室での講義・討論と、埼玉県の教師の研究会合宿（懇親会を含む）への参加とで構成します。そのため、右記の研究会合宿に必ず参加して下さい（参加費は9000円程度）。研究会合宿に参加できない場合には、この授業を受講しても、単位を認定することはできません。 3. 研究会合宿で7コマ相当の実践的学修をするため、教室での講義は8回程度とします。2回目以降の日程は相談の上、決定するため、初回の授業には必ず参加して下さい。参加できなかった場合には、研究室（720）を訪れてください。 4. 教職課程に登録している必要はありません。 5. 履修登録の上限を30名とします。 6. 春または秋学期だけを履修してもいいですが、できるだけ春と秋の両方を受講して下さい。</p>		<p>1 講義の進め方等の説明／参加者自己紹介 2～7 実践記録を読む 8 研究会合宿参加のまとめ</p> <p>研究会は、12月1日、2日（土・日）、またはその前後の土日、場所は埼玉県西部にある森林公園近くのホテルの予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>高橋陽一他編『生活指導論』 （武蔵野美術大学出版局、1900円）</p>		<p>研究会と講義への出席と最終レポートによります。研究会に終日参加しない場合には、不可とします。</p>	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	教育科学特殊研究Ⅲ（心理検査法と自己理解）	担当者	田口 雅徳
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらおう。これらの学習を通して、心理学の基本的知見を習得してほしい。また、心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。関連するビデオを視聴し、レポートを書いてもらうこともありうる。</p> <p><b>※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円程度）を負担してもらおう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。</b></p>		<p>授業計画は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理検査とは？</li> <li>2. 心理検査の種類と理論</li> <li>3. 質問紙による性格検査①</li> <li>4. 質問紙による性格検査②</li> <li>5. ストレス・コーピング</li> <li>6. 絵からみる家族像</li> <li>7. 知能検査</li> <li>8. 感情指数</li> <li>9. 職業興味</li> <li>10. グループ・ワークによる自己理解①</li> <li>11. グループ・ワークによる自己理解②</li> <li>12. グループ・ワークによる自己理解③</li> <li>13. グループ・ワークによる自己理解④</li> <li>14. グループ・ワークによる自己理解⑤</li> <li>15. 心理検査による自己理解のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>各種の心理検査用紙はこちらで用意する。ただし、履修者には、これら心理検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらおう。申請書と引き換えに検査用紙を配布する予定である。</p>		<p>各回の授業レポートと最終のレポートにより総合的に評価する。</p>	

養	教育科学特殊研究Ⅳ（スポーツコーチ学 a）	担当者	依田 珠江
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔講義目的〕 スポーツのパフォーマンスは人間の身体の幾つもの機能が複雑に働いて現出しています。スポーツ選手の競技力向上には身体機構、運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスのチェックが欠かせません。そこで本講義では、スポーツに関わる身体の基本的な機能を学び、実際にスポーツパフォーマンスの向上に必要な様々な測定を経験し、各自のスポーツへの関わり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指します。</p> <p>〔講義概要〕 基本的な身体機能および運動中の反応について概説します。実際にスポーツ中の生理データを測定し（受講生同士、グループに分かれて）、試合の映像を持ち寄って分析を行い、その成果を発表します。またビデオなどを利用してスポーツ科学の現状についても紹介する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 身体の基本的な機能</li> <li>3. 動きをコントロールする</li> <li>4. 筋が力を発揮する仕組み</li> <li>5. 運動と循環</li> <li>6. フィジカルテストの基礎</li> <li>7. フィジカルテスト作成・実践（グループワーク）</li> <li>8. 動作分析の基礎</li> <li>9. 動作分析①（測定・グループワーク）</li> <li>10. 動作分析②（解析・グループワーク）</li> <li>11. ゲーム分析の基礎編</li> <li>12. ゲーム分析①（試合の分析・グループワーク）</li> <li>13. ゲーム分析②（試合の分析・グループワーク）</li> <li>14. 成果発表①</li> <li>15. 成果発表②</li> </ol> <p>* 講義の内容の順番は変わる可能性があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『イラスト運動生理学』 朝山正己 他編 東京共学社		出席、授業態度、グループ発表およびレポートの内容で総合的に判断します。	

養	教育科学特殊研究Ⅴ（スポーツコーチ学 b）	担当者	松原 裕
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 金曜日 3 時限に使用できる学内の施設を利用して、コーチングの実践・実習を行う。</p>		<p>第 1 回授業時、第 2 回授業時に提示します。 基本的なスポーツは次の通りですが、受講生の人数等で変更があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成</li> <li>3 硬式テニスコーチング①</li> <li>4 硬式テニスコーチング②</li> <li>5 硬式テニスコーチング③</li> <li>6 ソフトボールコーチング①</li> <li>7 ソフトボールコーチング②</li> <li>8 ソフトボールコーチング③</li> <li>9 スキーコーチング①</li> <li>10 スキーコーチング②</li> <li>11 スキーコーチング③</li> <li>12 トレーニングルーム利用法①</li> <li>13 トレーニングルーム利用法②</li> <li>14 トレーニングルーム利用法③</li> <li>15 コーチング方法の分類</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要により紹介し、プリントを配布する。		毎回の参加とコーチング方法の理解、最終レポートを総合して評価する。	

養	教育科学特殊研究VI（リーダーシップ論）	担当者	和田 智
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。</p> <p>グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目標とします。</p> <p>授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。</p> <p>いくつかのグループによって提案された企画は投票によって1位を決定し、1位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。</p> <p>グループでの話し合いと実践が多いので出席が重視されます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 集団形成：アイスブレーキング</li> <li>3 グループワークによる問題解決活動と発表</li> <li>4 イニシアティブゲームによる問題解決活動1</li> <li>5 イニシアティブゲームによる問題解決活動2</li> <li>6 グループ内での課題についての討論と発表</li> <li>7 リーダーシップ理論1</li> <li>8 イベント企画作成の手順</li> <li>9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論</li> <li>10 イベント企画案の作成</li> <li>11 イベント企画プレゼンテーション第1回</li> <li>12 イベント企画プレゼンテーション第2回</li> <li>13 イベントの実施</li> <li>14 イベントの評価とまとめ</li> <li>15 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
必要に応じて資料を配布します。		出席、授業への取り組み姿勢、小レポート、期末レポート 企画コンテスト1位のグループは成績に反映します	

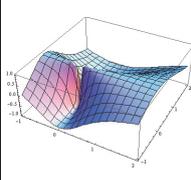
		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養	教育科学特殊研究Ⅶ（体育経営スポーツマネジメント）	担当者	川北 準人
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>〔目的〕マネジメントは成果によって定義されるといわれている。スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。身近なスポーツ活動からトップ・プロの動向など幅広く題材として扱い、スポーツの普及とは如何にあるべきかを考える。</p> <p>〔講義概要〕1980年から1990年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応じてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。</p> <p>〔受講生への要望〕適宜資料を配布するので、ファイル等を用意することが望ましい。</p>		<p>〔授業計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.オリエンテーション</li> <li>2.スポーツ・マネジメントの概要</li> <li>3.我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景</li> <li>4.スポーツ・マネジメントの研究動向</li> <li>5.我が国におけるスポーツ組織の組織論的分析</li> <li>6.マーケティングとイノベーション</li> <li>7.諸外国のスポーツ・マネジメント（NCAAを事例に）①</li> <li>8.諸外国のスポーツ・マネジメント（NCAAを事例に）②</li> <li>9.マーケティングとイノベーション</li> <li>10.学生スポーツのマネジメント①</li> <li>11.学生スポーツのマネジメント②</li> <li>12.プロスポーツのマネジメント</li> <li>13.我が国における健康教育のマネジメント</li> <li>14.これからのスポーツ・マネジメント</li> <li>15.総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜資料を配布する。		〔評価方法〕出席状況、授業態度、そして期末試験の結果を総合的に評価する。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養	自然・環境研究Ⅰ（科学史 a）	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を開発する基礎となって私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。その一方で、科学が戦争や環境破壊に使われると、私たちの健康や生存に大きな脅威をもたらす可能性があります。このような科学はどこからきてどこに向かおうとしているのでしょうか。</p> <p>この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています。</p> <p>春学期は、古代から17世紀の科学革命を経て「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、科学とはなにか？</li> <li>2. 科学的な考え方のはじまり（古代）</li> <li>3. 古代世界の宇宙観</li> <li>4. 地中海世界からアラビア世界へ</li> <li>5. アラビア世界からヨーロッパ世界へ</li> <li>6. コペルニクスと地動説</li> <li>7. 魔術と科学</li> <li>8. 機械論的自然観と科学</li> <li>9. ニュートンと科学革命</li> <li>10. 科学アカデミーの誕生</li> <li>11. 女性と科学</li> <li>12. 産業革命と科学</li> <li>13. フランス革命と科学</li> <li>14. 「科学者（scientist）」の登場</li> <li>15. なぜヨーロッパで近代科学が誕生したのか？</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは使用しない。</p> <p>参考文献：橋本毅彦『〈科学の発想〉をたずねて 自然科学から現代科学まで』左右社・放送大学叢書，2010年</p>		<p>出席30%</p> <p>中間レポート（文章の要約・1回）30%</p> <p>期末試験40%</p>	

養	自然・環境研究Ⅱ（科学史 b）	担当者	野澤 聡
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現在の私たちの生活は、科学と切り離すことができません。科学は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を開発する基礎となって私たちの人生や生活を豊かにしてくれます。その一方で、科学が戦争や環境破壊に使われると、私たちの健康や生存に大きな脅威をもたらす可能性があります。このような科学はどこからきてどこに向かおうとしているのでしょうか。</p> <p>この講義では、科学の歴史を大まかに見ることによって、私たちが社会の中で科学を生かす方法を考えるとともに、受講生が一般市民に科学を学ぶことの意義や楽しさを伝えられるようになることを目指しています。</p> <p>秋学期は、「科学者（scientist）」という言葉が登場した19世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得していく様子について、具体的な事例に焦点を当てて概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、「科学者（scientist）」とはだれか？</li> <li>2. 蒸気機関と熱力学の誕生</li> <li>3. 科学の制度化と専門職業化</li> <li>4. 科学の産業化</li> <li>5. 公害の発生と科学</li> <li>6. 進化論と社会</li> <li>7. 帝国主義と科学</li> <li>8. 研究所の誕生と展開</li> <li>9. 科学と国家</li> <li>10. 現代科学の登場と自然観の転換</li> <li>11. 科学と戦争</li> <li>12. ビッグ・サイエンスの誕生</li> <li>13. 地球環境問題と科学</li> <li>14. 科学技術政策の展開</li> <li>15. 科学はどこに向かうのか？</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは使用しない。</p> <p>参考文献：橋本毅彦『〈科学の発想〉をたずねて 自然科学から現代科学まで』左右社・放送大学叢書，2010年</p>		<p>出席30%</p> <p>中間レポート（文章の要約・1回）30%</p> <p>期末試験40%</p>	

養	自然・環境研究Ⅲ（数学 a）	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>① 数学は、現象を客観的に解析する際に威力を発揮します。『数学 a』では、現象の変化を解析する際に登場する「微分学」を学びます。微分学は現象の変化のうち、特に山頂・丘・窪み・谷底等を扱うことを得意とします。身の回りの複雑な環境を反映して、多変数微分まで勉強します。</p> <p>② 身近な現象を関数に対応させて解析し、この関数の変化の様子から、対応する身近な現象の知られざる部分の変化の様子を逆に探ります。</p> <p>③ 講義・演習を通して、微分学の知識を<b>実際の現象解析に使える</b>ようになればと思います。</p> <p>④ 主体的に多くの問題を解き、微分学を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p> <p>⑤ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。</p>		<p style="text-align: center;">微分学</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>関数・逆関数</p> <math>y = f^{-1}(x)</math> <p>有理関数・無理関数 指数関数・対数関数 三角関数・逆三角関数</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>極限</p> <math>\lim_{x \rightarrow a} f(x)</math> <p>極限值 Achilles と亀 0.9 = 1</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>微分</p> <math>\frac{\partial z}{\partial x}, \frac{\partial z}{\partial y}</math>  <p>常微分・偏微分 極値 最小二乗法</p> </div> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『数学読本④、⑤』松坂 和夫 著・岩波書店)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう <b>評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身</b> です。	

養	自然・環境研究Ⅳ（数学 b）	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>① 『数学 b』は上記『数学 a』の知識を前提に、現象の奥底に潜む法則のモデル作りに便利な道具「積分学（<b>積分・微分方程式</b>）」を学びます。</p> <p>② 応用として、身近な現象の数学モデルに登場する変数の発展を辿り、着目する現象の具体的な行動・未来予測等に挑戦します。数学モデルを作る際、現象のどの点に着眼するか一苦勞です。</p> <p>③ 講義・演習を通して、積分学（積分・微分方程式）の知識を<b>実際の現象解析に使える</b>ようになれば Second opinion の構築に役立つと思います。</p> <p>④ 主体的に多くの問題を解き、積分学（積分・微分方程式）を身の回りの現象に実際に応用する努力をして下さい。</p> <p>⑤ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。</p>		<p style="text-align: center;">積分学</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>積分</p> <math>\int f(x)dx</math> <p>不定積分 初期条件 部分積分法</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>微分方程式</p> <math>f(x, y, y', y'', \dots, y^{(n)}) = 0</math>  <p>変数分離形（人口問題） 1 階線形（美術品の贋作） 2 階線形（ロケットの飛行）</p> </div> </div>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
① (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/ 『微分方程式で数学モデルを作ろう』垣田 高夫、大町 比佐栄 訳・日本評論社)		① 主たる評価資料は、授業時間中に提出してもらう <b>評価用紙(演習・宿題・Quiz)の中身</b> です。	

養	自然・環境研究V (宇宙論 a)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>☆ 『宇宙論 a』では Einstein の「特殊相対性理論」を学びます。自らの座標系をしっかりとさせ、“特殊”に付けられた条件に留意する必要があります。</p> <p>☆ Einstein は当時、研究者の間で議論されていた <b>光</b> の伝播に関して強い関心を抱きました。また Einstein が、<b>時間</b>・<b>空間</b>に対する考え方をそれまでの絶対から相対に変えたことに依り、物理的世界観は本質的な変質を遂げました。</p> <p>☆ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭でユニークな先を考え、必要とあらば思い切った <b>発想の転換</b> (Paradigm Shift) を試みることも時には大切なことだと思います。</p> <p>☆ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。</p> <p>☆ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。</p>		<pre> graph TD     A[特殊相対性理論 (1905年)] --&gt; B[光]     A --&gt; C[時空]     A --&gt; D[特殊相対論]     B --&gt; E[光速 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮]     C --&gt; F[絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理]     D --&gt; G[特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー]     </pre> <p>特殊相対性理論 (1905年)</p> <p>光</p> <p>時空</p> <p>特殊相対論</p> <p>光速 Michelson-Morley の実験 Fitzgerald-Lorentz 収縮</p> <p>絶対・相対時空 Newton のバケツ Mach 原理</p> <p>特殊相対性原理 光速不変の原理 時間の遅れ・長さの縮み・質量はエネルギー</p>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<p>☆ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)</p>		<p>☆ 主に、<b>試験</b> (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の <b>評価用紙</b> (宿題・発言) です。</p>	

養	自然・環境研究VI (宇宙論 b)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<p>◎ 『宇宙論 b』は上記『宇宙論 a』の知識を前提に Einstein の「一般相対性理論」を学びます。</p> <p>◎ “一般”化する事により構築された「一般相対性理論」はその後の観測で <b>検証</b> され、<b>重力</b> をより深く理解することになりました。そこで応用として、重力が纏わる現象を最新の成果・話題 (Dark energy など) も交えながら学びます。</p> <p>◎ 発想の転換に因る独自の考えは、用心深く実践する必要があります。(相対性)理論構築への道程の話を通して、自分の考えの構築に取り組んだ後、<b>責任を持って実践</b>する工夫が不可欠なことに思い至って欲しいと思います。</p> <p>◎ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。</p> <p>◎ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。</p>		<pre> graph TD     A[一般相対性理論 (1916年)] --&gt; B[一般相対論]     A --&gt; C[検証]     A --&gt; D[重力現象]     B --&gt; E[一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力]     C --&gt; F[重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動]     D --&gt; G[宇宙モデル Black holes 重力波]     </pre> <p>一般相対性理論 (1916年)</p> <p>一般相対論</p> <p>検証</p> <p>重力現象</p> <p>一般相対性原理 等価原理 幾何学と重力</p> <p>重力に依る光の赤方偏移 重力は光の進路を曲げる 水星の近日点移動</p> <p>宇宙モデル Black holes 重力波</p>	
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
<p>◎ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『相対性理論がみるみるわかる本』佐藤 勝彦 監修・PHP 研究所)</p>		<p>◎ 主に、<b>試験</b> (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の <b>評価用紙</b> (宿題・発言) です。</p>	

養 外言	自然・環境研究Ⅶ (天文学 a) 地球環境論 a (太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>❖ 我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。諸環境のお蔭で地球上では他の惑星とは異なり、生物が誕生(?)・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の<b>起源</b>を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。</li> <li>❖ 『(太陽系)天文学 a』(太陽)では、天体としての地球を取り巻く環境を考察するに当たり、地球にとって掛け替えの無い恒星 <b>The Sun</b> を天文学の立場から学びます。What is the Sun?</li> <li>❖ 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・<b>実行</b>して下さい。</li> <li>❖ 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。</li> <li>❖ 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。</li> </ul>			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
❖ (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)		❖ 主に、 <b>試験</b> (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の <b>評価用紙</b> (宿題・発言) です。	

養 外言	自然・環境研究Ⅷ (天文学 b) 地球環境論 b (太陽系)	担当者	福井 尚生
講義目的		講義概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 『(太陽系)天文学 b』(太陽系天体)では、『(太陽系)天文学 a』(太陽)の知識を前提に <b>The Solar system</b> = The Sun's family (除・太陽)を地球環境に関わりを持たせて天文学の立場から学びます。</li> <li>* 地球が宇宙を司る自然法則に支配されていることは他の太陽系天体と同じです。我々の存在を可能にしている他の太陽系天体からの違いは何でしょう?地球が The Goldilocks planet と呼ばれる理由がここにあります。</li> <li>* 主体的に勉強して得た知識をもとに、自然の一員としての宇宙船「地球号」の進路を自ら考え、勇気をもって操縦・<b>実行</b>して下さい。</li> <li>* 数学と視聴覚教材とを必要に応じて使います。</li> <li>* 第一回の講義でこのシラバスの内容を質します。</li> </ul>			
(テキスト)・(参考文献)		評価方法	
* (テキスト/ 配布プリント)・(参考文献/『教養のための天文学講義』米山 忠興 著・丸善)		* 主に、 <b>試験</b> (授業・配布プリント・宿題) と毎時間提出の <b>評価用紙</b> (宿題・発言) です。	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅰ（地球環境論 a） 地球環境論 a(地理学)	担当者	北崎 幸之助
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、地中海森林地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション—地理学とは</li> <li>2. 環境の諸要素（1）気候環境</li> <li>3. 環境の諸要素（2）緯度帯別降水量・蒸発量・気温</li> <li>4. 環境の諸要素（3）地形・植生</li> <li>5. 熱帯地域（1）熱帯林と伝統的生活様式</li> <li>6. 熱帯地域（2）熱帯林の開発と環境問題</li> <li>7. 熱帯地域（3）熱帯林の保全</li> <li>8. 沙漠地域（1）自然的・文化的特色と伝統的経済活動</li> <li>9. 沙漠地域（2）石油資源と近代化、沙漠の開発</li> <li>10. 地中海森林地域の特性</li> <li>11. 地中海地域の生活様式—西欧文化の原点</li> <li>12. 地球環境問題に対する視点（1）</li> <li>13. 地球環境問題に対する視点（2）</li> <li>14. まとめ（1）</li> <li>15. まとめ（2）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

養 外言	自然・環境研究各論Ⅱ（地球環境論 b） 地球環境論 b(地理学)	担当者	北崎 幸之助
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>地理学の扱う内容は多岐にわたる。本講義では、居住環境が人間にとって、どのような意義をもっているのかという視点から、世界の諸地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。秋学期の講義は、まず地形環境を概観し、温帯草原地域、温帯混合林地域、亜寒帯森林地域、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。そして最後に、深刻化する地球環境問題を取り上げ、今後の人間生活と自然環境との共生方法について理解を深める。なお、履修に際しては、地球環境問題に対して高い関心のある、意欲的な学生を希望する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境の諸要素—地形環境</li> <li>2. 温帯草原地域の自然特性</li> <li>3. 温帯草原地域の開発と環境問題</li> <li>4. 温帯混合林地域（1）高密度都市化地域の特性</li> <li>5. 温帯混合林地域（2）産業革命と都市域の拡大</li> <li>6. 亜寒帯森林地域（1）タイガの中の生活</li> <li>7. 亜寒帯森林地域（2）タイガの開発と保全</li> <li>8. 山地地域（1）山地の自然環境と高度帯の利用</li> <li>9. 山地地域（2）山地資源の開発と観光化</li> <li>10. 地球環境問題（1）生態系と人間活動</li> <li>11. 地球環境問題（2）自然環境の破壊</li> <li>12. 地球環境問題（3）環境問題解決にむけた取り組み</li> <li>13. 地球環境問題（4）私たちにできること</li> <li>14. まとめ（1）</li> <li>15. まとめ（2）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山本正三他著（2004）『自然環境と文化—世界の地理的展望 改訂版』原書房		期末定期試験の結果（90％）に、出席状況（10％）等を加味して、総合的に評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅰ（自然観察 a）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物学の基礎は材料となる種（種類）の認識である。種の認識は時代、民族によって大きく異なる。その違いを知り、植物(種)の多様性を知ること为目标とする。</li> </ul> <b>履修資格</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>植物名に関心があること。</li> <li>普通の植物 100 種を認識できること。</li> </ul>		1 登録に先立っての試験 2 実験室の使用法 3 5月の花 1 4 植物の基礎 分類学 1 5 5月の花 2 6 植物の基礎 分類学 2 7 6月の花 1 8 植物の基礎 分類学 3 9 6月の花 2 10 植物の基礎 分類学 4 11 植物の基礎 分類学 5 12 7月の花 1 13 7月の花 2 14 7月の花 3 15 まとめ  第一回目の講義で <b>詳細な説明と基礎テスト</b> を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅱ（自然観察 b）	担当者	加藤 僖重
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>講義の目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の地域によって異なる植物相を理解し、日本の自然環境の特質を知ること为目标とする。</li> </ul> <b>講義の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域によって生物型が定まっている。その共通点と相違点を知ること为目标とする。</li> </ul> <b>履修資格</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>植物に興味があり、地理が好きであること。</li> <li>普通の植物 100 種を認識できること。</li> </ul>		1 登録に先立っての試験 2 植物の基礎 形態学 1 3 10月の花 1 4 植物の基礎 形態学 2 5 10月の花 2 6 植物の基礎 形態学 3 7 11月の花 1 8 植物の基礎 形態学 4 9 11月の花 2 10 植物の基礎 形態学 5 11 植物の基礎 形態学 6 12 12月の花 1 13 12月の花 2 14 12月の花 3 15 まとめ  第一回目の講義で <b>詳細な説明と基礎テスト</b> を行なうので、必ず出席すること（欠席者の登録お断り）。	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、文献を紹介するので、必要に応じて購入すること。必要なプリントは配布する。		毎回出欠を確認。4 回以上の欠席者は不可とする。提出数回のレポートの出来具合、講義中に行なう何度かのテストの結果、その他を総合して評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅲ（観察と実験生物学 a）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>登録するに先立っての注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の性質上、受講生は年間を通じて履修することが望ましい。</li> <li>一クラスの受講者を抽選に受かった48名に限定する。<b>抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)</b>を収めること。</li> <li>詳細は1回目の講義で説明する。</li> </ul> <b>講義の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然を知ること为目标とする。</li> </ul> <b>履修資格</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な植物100種以上認識できること。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに 講義内容の説明</li> <li>実験室内における心得・実験器具の説明</li> <li>キャンパスウォッチング 1 種の識別</li> <li>身近な植物の観察 1 花の構造 ①</li> <li>顕微鏡使用法 1 顕微鏡の構造 ②</li> <li>顕微鏡使用法 2 ミクロメーターの使用</li> <li>身近な植物の観察 2 花の構造</li> <li>キャンパスウォッチング 2 五感を働かす</li> <li>身近な植物の観察 3 果実の構造 ①</li> <li>身近な植物の観察 4 果実の形態 ②</li> <li>身近な植物の観察 5 葉の形態 ①</li> <li>身近な植物の観察 6 葉の構造 ②</li> <li>身近な植物の観察 7 根の構造①</li> <li>身近な植物の観察 8 根の構造②</li> <li>まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回、プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

養	自然・環境特殊研究Ⅳ（観察と実験生物学 b）	担当者	加藤 偉重
講義目的、講義概要		授業計画	
<b>登録するに先立っての注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の性質上、受講生は春学期に連続して履修することが望ましい。</li> <li>一クラスの受講者を抽選に受かった48名に限定する。<b>抽選に受かった学生は実習費(¥2,000-)</b>を収めること。</li> <li>詳細は1回目の講義で説明する。</li> </ul> <b>講義の目的</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然を知ること为目标とする。</li> </ul> <b>履修資格</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な植物100種以上認識できること。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>はじめに：講義の内容を説明</li> <li>身近な植物の観察 1</li> <li>キャンパスウォッチング 1：種の同定</li> <li>蛋白質の分析</li> <li>生産構造図の作成</li> <li>種の多様性の観察：ブナ科果実の観察</li> <li>身近な植物の観察 2</li> <li>光合成の色素の分析：クロマトグラフィー</li> <li>身近な植物の観察 3</li> <li>キャンパスウォッチング：五感を働かす</li> <li>形質と系統：類縁関係を知る</li> <li>身近な植物の観察 4</li> <li>身近な植物の観察 5</li> <li>身近な植物の観察 6</li> <li>まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回 プリント配布		毎回のレポート、宿題レポート、期末テスト等で評価する。	

養	多言語情報処理研究 I (コンピュータと言語)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2. データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3. コンピュータの構成要素</li> <li>4. ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5. オペレーティングシステム (OS)</li> <li>6. プログラム言語</li> <li>7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11. 機械翻訳システムの演習</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

養	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論 I (表計算とプレゼンテーション)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅱ（情報検索と加工）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使して、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組みを解説し、実習を通して情報検索の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習を織り交ぜて行う。</p> <p>情報検索の歴史、情報検索ための情報収集、情報整理、そして、情報抽出の順番で講義を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界</li> <li>3. 情報検索の基本（2）：情報の表現</li> <li>4. 情報検索の基本（3）：データベース</li> <li>5. 情報検索の種類</li> <li>6. 情報検索システムの構成と役割</li> <li>7. 情報の収集</li> <li>8. 情報の整理（1）</li> <li>9. 情報の整理（2）</li> <li>10. 情報の抽出（1）</li> <li>11. 情報の抽出（2）</li> <li>12. 情報検索の評価</li> <li>13. 情報検索システムの例：図書検索</li> <li>14. 情報検索システムの例：ネット検索</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：必要に応じて配布する</p> <p>参考文献：原田，江草，小山，澤井共著『情報検索演習』新・図書館学シリーズ6，2007（樹村房）</p>		出席（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅳ（データベース）	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】本講義は Microsoft Office Access を利用して、データベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>【概要】データベースの歴史から始め、データベースの概念や、設計方法や、構築手法などを解説しながら、Microsoft Office Access というソフトウェアを利用して、実際の操作を行う。そして、実例を通して、さらにデータベースの概念及び設計に対する理解を深める。</p> <p>【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. データベース概論（1）：概念と歴史と種類</li> <li>3. データベース概論（2）：設計方法と構築手法</li> <li>4. Microsoft Office Access 入門</li> <li>5. Microsoft Office Access 基本操作（1）</li> <li>6. Microsoft Office Access 基本操作（2）</li> <li>7. Microsoft Office Access 基本操作（3）</li> <li>8. テーブルの構築と操作（1）</li> <li>9. テーブルの構築と操作（2）</li> <li>10. クエリ（1）</li> <li>11. クエリ（2）</li> <li>12. リレーションシップの構築</li> <li>13. レポートの印刷</li> <li>14. 総合演習</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献：30 時間でマスター『Access 2010』，（実教出版）		出席（20%），レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅲ（ホームページ設計）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

養	多言語情報処理研究各論Ⅴ（統計と調査法）	担当者	安間 一雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目的</p> <p>基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。</p> <p>授業概要</p> <p>・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？</p> <p>・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？</p> <p>・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？</p> <p>私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をする事ができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 英語学習実態調査 → アンケートの取りかた</li> <li>(2) お国自慢クイズ → テスト問題作成</li> <li>2-3. (1) データを集めてみよう → 統計量の種類(量的変数・質的変数): 比例変数, 間隔変数, 順位変数, 名義変数</li> <li>(2) データの傾向を見よう → 度数分布, 相対度数, 度数分布表</li> <li>(3) データをグラフ化しよう → 量的変数のグラフ表現, 質的変数のグラフ表現</li> <li>4. データの特徴を数値で表そう その1 → 代表値(平均値, 中央値, 最頻値), 値の広がり, 能力テストと到達度テスト</li> <li>5. データの特徴を数値で表そう その2 → 正規分布, 散布度(標準偏差), 歪度, 尖度, 標準得点, 偏差値</li> <li>6. データを採点しよう(これまでのまとめ) → 表計算ソフトによる採点・集計</li> <li>7. テストを見直す → 信頼性係数, 項目分析, ロジスティック回帰分析</li> <li>8. 偶然か, 特殊能力か? → 記述統計と推測統計, 仮説(帰無仮説, 対立仮説)</li> <li>9. 学習時間と成績には関係があるか? → 相関散布図, 相関係数, 回帰直線, 欠損値の推定, 相関検定</li> <li>10. あさがお観察日記 → 対応がない場合のt検定, 分散分析</li> <li>11. ダイエット観察日記 → 対応がある場合のt検定, プリテスト・ポストテスト, 時系列分析</li> <li>12. 出身地と種類の好みに関係はあるか? → クロス集計, カイ二乗検定</li> <li>13. 駅前出店計画 → 判別分析</li> <li>14. おいしい料理のための食材分量 → 重回帰分析</li> <li>15. 隠れた傾向を探り出す → 主成分分析, 因子分析</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
山口和範『よくわかる統計解析の基本と仕組み:統計データ分析入門』(秀和システム, 2004) ISBN 4-7980-0913-X		(定期試験(80%)+平常授業におけるまとめ(20%)) x 出席率	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅰ（自然言語処理 a） 自然言語処理 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語といいます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言葉とコンピュータ 自然言語処理の諸方面</li> <li>2. 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性</li> <li>3. 自然言語処理の予備知識</li> <li>4. 形態素解析（1）形態素解析の原理と方法</li> <li>5. 形態素解析（2）日本語と英語の形態素解析実験</li> <li>6. 単語処理 単語の同定、単語の統計処理</li> <li>7. 構文解析（1）文脈自由文法、句構造文法</li> <li>8. 構文解析（2）構文解析の原理と実験</li> <li>9. 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出</li> <li>10. コーパス、言語データベースの構造と使い方</li> <li>11. 言語の統計処理技術</li> <li>12. 言語処理とオントロジー</li> <li>13. 総合演習</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>（1）最初の講義で指示します。</li> <li>（2）必要な資料を配布します。</li> </ol>		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅱ（自然言語処理 b） 自然言語処理 b	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、コンピュータを使用した自然言語の処理に関する方法、そして利用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身につくことを目標とします。</p> <p>本講義では、自然言語処理 a での知識を踏まえた上で、自然言語処理基礎技術である意味解析、文脈解析、知識の表現法を学ぶ。世の中に研究・開発されている応用技術に力を入れ、典型的な応用例を紹介します。特に、自動要約システム、機械翻訳システム、文書校正支援システム、自然言語対話システム、質問応答システム、情報検索システムなどの基本技術・アーキテクチャを説明し、演習を行います。そして、現在の自然言語処理システムの問題点などを議論します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 意味解析：意味解析の方法と実験</li> <li>3. 文脈解析：談話構造、照応問題の対処法</li> <li>4. 知識の表現法</li> <li>5. 文書処理（1）言い換え、文書校正</li> <li>6. 文書処理（2）自動要約の原理</li> <li>7. 機械翻訳（1）機械翻訳の処理方式と原理</li> <li>8. 機械翻訳（2）機械翻訳システム</li> <li>9. 質問応答システム</li> <li>10. 情報検索における言語処理技術</li> <li>11. 対話システム</li> <li>12. 自然言語処理システム</li> <li>13. 総合演習</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>（1）最初の講義で指示します。</li> <li>（2）必要な資料を配布します。</li> </ol>		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅲ (プログラミング論 a) プログラミング論 a(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 C++, Javaと並んでGoogleで利用されるプログラミング言語がPythonである。この授業はPythonを取り上げ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にプログラミングをどのようにすればよいかを理解することを目的とする。</p> <p>【概要】 Pythonの基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、1つ1つの命令に対して実習を行う。また、プログラミングするためのアルゴリズムに関して、必要に応じて、織り交ぜて講義する。</p> <p>【受講者への要望】 毎回実習があるので、休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業ガイダンス</li> <li>2. Python 入門 (1) : プログラミングはじめ</li> <li>3. Python 入門 (2) : 歴史と実行環境</li> <li>4. Python の基本構文</li> <li>5. 日本語と文字コード</li> <li>6. 文字列</li> <li>7. 数値</li> <li>8. 変数</li> <li>9. 条件分岐 (1)</li> <li>10. 条件分岐 (2)</li> <li>11. リスト</li> <li>12. 辞書</li> <li>13. 繰り返し (1)</li> <li>14. 繰り返し (2)</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：必要に応じて配布する		出席 20%, レポート 20%, 試験 60%	

養 外言	多言語情報処理特殊研究Ⅳ (プログラミング論 b) プログラミング論 b(プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	黄 海湘
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 この授業では、プログラミング a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成することを目的とする。</p> <p>【概要】 プログラム a と同様に、Python をプログラミング言語として取り上げる。ほぼ毎回演習課題を行ってもらい、最後に、自分でテーマを決め、一つのソフトウェアの製作を行う。</p> <p>【受講者への要望】 毎回実習があるので、休まずに出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンス</li> <li>2. 前期の復習</li> <li>3. 関数作成 (1)</li> <li>4. 関数作成 (2)</li> <li>5. クラス作成 (1)</li> <li>6. クラス作成 (2)</li> <li>7. クラスの継承</li> <li>8. クラスの利用</li> <li>9. 演習 (1)</li> <li>10. パッケージ化</li> <li>11. ファイルの読み書き</li> <li>12. 暗号化</li> <li>13. 演習 (2)</li> <li>14. 演習 (3)</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキスト：必要に応じて配布する		出席 20%, レポート 20%, 試験 60%	

養	多言語情報処理特殊研究VI (マルチメディア論)	担当者	田中 雅英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>動画・音声など、今やインターネットの世界ではもう常識的になってきている。しかしそれは、ブログなどでただ単に指定通りに貼り付けるだけであり、その原理をマスターしている人は少ない。これらを自分の力で処理・コントロールできるようになることを目指し、より表現力が豊かなものにできるようにしたい。</p> <p>いろいろと手法はあるが、ここではもう標準となっているともいえるソフトのフラッシュを使い、それによってまず基本の処理ができるようになることを目指す。</p> <p>もちろん、これはソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、あくまでもそれは導入としてであり、今後より一層の深化にもつなげられるものとしてほしい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. イラストの作成①</li> <li>3. イラストの作成②</li> <li>4. イラストの作品制作</li> <li>5. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン</li> <li>6. シンボルの制作, 保存。レイヤーの利用</li> <li>7. 作品の制作①</li> <li>8. トゥイーンアニメーション</li> <li>9. シェイプトゥイーン</li> <li>10. 写真の利用</li> <li>11. サウンドの貼り付け</li> <li>12. 作品の制作②</li> <li>13. 作品の制作③</li> <li>14. 作品の制作④</li> <li>15. 作品の制作予備日</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に適宜指示・配布する。		いくつかの作品を制作してもらい、それによって評価する。出席は重視し、欠席回数が多いと不可とする。	

養	多言語情報処理特殊研究V (コンピュータ構造論)	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。</p> <p>本講義では、(1) 情報に関する基本的な概念、(2) コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、(3) 情報システムに関する基礎的な素養、(4) 情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンス</li> <li>2. ファイル編成とデータベース</li> <li>3. データベース管理システム (DBMS)</li> <li>4. SQL 言語</li> <li>5. コンピュータ・ネットワーク</li> <li>6. インターネットの仕組み</li> <li>7. インターネットサービス</li> <li>8. セキュリティ、暗号システム、電子認証</li> <li>9. コンピュータのハードウェア構造</li> <li>10. 情報検索</li> <li>11. 情報システムを支える技術</li> <li>12. ソフトウェア開発手順</li> <li>13. 総合演習</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
最初の講義で指示します。毎回の講義で必要な教材は配布します。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

養	卒業研究	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>卒業研究では、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導のもとでそれぞれ研究を進め、その成果を論文としてまとめ上げることがもとめられる。研究と論文の執筆を通して、4年間の大学での学びを確かなものとするのが本演習の目的である。</p> <p>論文の執筆に当たっては、別紙の「卒業論文提出の手引き」を参照し、その諸注意に従うことがもとめられる。手引きには論文の提出期限や論文執筆上の注意などが細かく定められている。手引きに従っていない論文はいつい受け付けない。</p>		<p>授業期間を通して、研究と論文執筆に対する指導がおこなわれる。進め方については各担当教員により異なる。</p> <p>(卒業研究の担当教員は5・6学期に所属していた演習の教員とし、変更は原則的に認めない。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当者による		各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。	

養	卒業研究	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期参照		春学期参照	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期参照		春学期参照	

養	スポーツ・レクリエーション(学生交流支援プログラム) 国際教養学部指定クラス	担当者	松原裕 依田珠江 和田智
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>この科目は、現在および将来の健康で充実した生活のために、健康を創り、維持し、守ること、自由時間をより充実させるための態度、知識、技術を身につけること、身体活動を通じて、国際教養学部新入生のコミュニケーションを図ることを目的にして設置されています。</p> <p>講義概要</p> <p>この授業用に指定クラスを編成し、各クラスが3人の教員の授業をローテーションで受講します。</p> <p>詳細は第1週のガイダンスで説明します。</p>		<p>1. ガイダンスと写真付受講票の作成</p> <p>2—5、6—10、11—15週でローテーション</p> <p>松原担当は硬式テニス・フットサル・ソフトボール・アルティメットなどを人工芝グラウンドで行う予定。</p> <p>依田担当はボール・ラケット競技などをアリーナで行う予定。</p> <p>和田担当はコミュニケーションゲーム(アイスブレイキング)・イニシアティブゲーム・ペタンク・アウトドアクッキング又はレクリエーションalスポーツなどを行う予定。</p> <p>注意：1回目の授業は指定の教室に顔写真1枚と筆記用具を持参し、この授業用の指定クラスを確認して集合してください。更衣する必要はありません。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
必要に応じて紹介する。		毎回の出席、受講態度を総合して評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

養	初級日本語 Basic Level Japanese	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>初級日本語は、日本語未習及び初習者向けの入門の授業であるが、日本語能力試験N5からN3前半の広い範囲に相当する。</p> <p>1週間14コマの集中コースで、4技能すべてを総合的に学ぶ。日常生活に必要とされる文字・語彙、表現、および基本的な日本語文を理解・産出する能力を習得,することが目的となる。</p> <p>基本文型、漢字 300~400, 語彙 1500~1800</p>		<p>(Japanese Language Proficiency Test Level N5 ~ N3 Level)</p> <p>In this course students study simple structures, basic sentence patterns, 300~400 Chinese characters, and 1500~1800 vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand short &amp; simple texts describing general things related to everyday life: immediate needs, personal events, familiar places, hobbies, work, etc. Additionally, students will be able to complete forms and write short sentences and simple letters related to personal events or familiar information. As for speaking, students will be able to communicate their immediate needs and provide general answers to many simple questions in addition to be able to express simple opinions in a familiar context.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Japanese for Everyone</i>  <i>Japanese for Everyone Workbook</i>  <i>Japanese for Everyone Kanji Book</i>  <i>Vocabulary List in English and Chinese</i></p>		<p>1. Class Attendance (min. 70%) 2.Chapter Test 3. Final Test  4.Presentation 5.Homewok  6.Class participation  ①出席 ②チャプターテスト ③期末テスト</p>	

養	中級日本語 Intermediate Level Japanese	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語能力試験N3の後半レベルからN2の前半レベルに相当する。</p> <p>初級日本語修了者のためのクラスである。初級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶが、学習の中心は聞くこと、話すことから読むことが中心になっていく。類義表現が多くなり、場面や文脈に応じた使い分けを学ぶ。ある程度の長さの文や他者の発話を理解し、自分の意見・考えをまとめて、明確に述べるなど、コミュニケーション能力を高めていくことが目的となる。</p> <p>6,000~7,000の語彙、900~1,000の漢字、様々な文中、文末表現を学ぶ。</p>		<p>(Japanese Language Proficiency Test Level N3 &amp; N2 Level)</p> <p>.Students study higher level of sentence structures and sentence patterns, 900~1,000 Chinese characters, and 6,000~7,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand more complicated discourse that consists of general information and articles. As for communication skills, students will be able to express their opinions on abstract/cultural matters in a limited way as well as be able to exchange their opinions and participate in the negotiations of meaning.</p> <p>Active participation in the class activities are recommended.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>1. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編』</p> <p>2. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編練習帳』</p> <p>3. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編聞き取り練習問題』</p> <p>4. プリント - ①中級用漢字リスト、②作文プリント ③プレゼンテーションテキスト</p>		<p>1. 出席 (70%以上の出席)</p> <p>2. チャプターテスト      3. 作文</p> <p>4. 会話テスト              5. プレゼンテーション</p> <p>6. 期末テスト              7. クラス活動への参加</p>	

養	中級日本語 Intermediate Level Japanese	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本語能力試験N3の後半レベルからN2の前半レベルに相当する。</p> <p>初級日本語修了者のためのクラスである。初級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶが、学習の中心は聞くこと、話すことから読むことが中心になっていく。類義表現が多くなり、場面や文脈に応じた使い分けを学ぶ。ある程度の長さの文や他者の発話を理解し、自分の意見・考えをまとめて、明確に述べるなど、コミュニケーション能力を高めていくことが目的となる。</p> <p>6,000~7,000の語彙、900~1,000の漢字、様々な文中、文末表現を学ぶ。</p>		<p>(Japanese Language Proficiency Test Level N3 &amp; N2 Level)</p> <p>.Students study higher level of sentence structures and sentence patterns, 900~1,000 Chinese characters, and 6,000~7,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students will be able to understand more complicated discourse that consists of general information and articles. As for communication skills, students will be able to express their opinions on abstract/cultural matters in a limited way as well as be able to exchange their opinions and participate in the negotiations of meaning.</p> <p>Active participation in the class activities are recommended.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>1. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編』</p> <p>2. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編練習帳』</p> <p>3. 『ニューアプローチ中級日本語基礎編聞き取り練習問題』</p> <p>4. プリント - ①中級用漢字リスト、②作文プリント ③プレゼンテーションテキスト</p>		<p>1. 出席 (70%以上の出席)</p> <p>2. チャプターテスト      3. 作文</p> <p>4. 会話テスト              5. プレゼンテーション</p> <p>6. 期末テスト              7. クラス活動への参加</p>	

養	上級日本語 I Advanced Japanese I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語能力試験N2の後半レベルからN1の前半レベルに相当する。</p> <p>中級日本語修了者のためのクラスである。中級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶ。より複雑な構文、文体、様々な分野特有の表現・談話構造を学び、的確な文章理解力をつける。正確且つ論理的な文章作文力を養い、より完成した言語運用能力を習得する。大学での教育に対応できる言語知識を習得することが目的となる。</p> <p>漢字 2,000 字、語彙 10,000~12,000</p>		<p>(Japanese Language Proficiency Test Level N2&amp;N 1 Level)</p> <p>.Students will learn advanced Japanese that consists of not only complex structures but also stylistically varied discourse. Students will study about 2,000 Chinese characters and 10,000~11,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students are supposed to be ready for continuing their study at a university or a professional school. Students will be able to read quickly enough to cope with fairly long and complex texts that are found in newspaper articles and basic academic subjects. They will also be able to prepare and to write reasonably accurate compositions and notes in class.. As for speaking they will be able to keep up a conversation on a fairly wide range of topics and give a short presentation on a subject of their choice.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. 『ニューアプローチ中級上級日本語完成編』</p> <p>2. プリント ①ニューアプローチ用漢字リス御 ②作文教材, ③作文教材 ④文法テキスト</p> <p>3. 『日本語上級読解』</p> <p>4. 『日本語上級話者への道』</p>		<p>1. 出席 (70%以上の出席)</p> <p>2. チャプターテスト 3. 作文</p> <p>4. プレゼンテーション 5. 期末テスト</p> <p>7. クラス活動への参加</p>	

養	上級日本語 I Advanced Japanese I	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>日本語能力試験N2の後半レベルからN1の前半レベルに相当する。</p> <p>中級日本語修了者のためのクラスである。中級同様、1週間14コマの集中コース。4技能すべてを総合的に学ぶ。より複雑な構文、文体、様々な分野特有の表現・談話構造を学び、的確な文章理解力をつける。正確且つ論理的な文章作文力を養い、より完成した言語運用能力を習得する。大学での教育に対応できる言語知識を習得することが目的となる。</p> <p>漢字 2,000 字、語彙 10,000~12,000</p>		<p>Japanese Language Proficiency Test Level N2&amp;N 1 Level)</p> <p>.Students will learn advanced Japanese that consists of not only complex structures but also stylistically varied discourse. Students will study about 2,000 Chinese characters and 10,000~11,000 vocabulary items. Upon completion of this course, students are supposed to be ready for continuing their study at a university or a professional school. Students will be able to read quickly enough to cope with fairly long and complex texts that are found in newspaper articles and basic academic subjects. They will also be able to prepare and to write reasonably accurate compositions and notes in class.. As for speaking they will be able to keep up a conversation on a fairly wide range of topics and give a short presentation on a subject of their choice.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1. 『ニューアプローチ中級上級日本語完成編』</p> <p>2. プリント ①ニューアプローチ用漢字リス御 ②作文教材, ③作文教材 ④文法テキスト</p> <p>3. 『日本語上級読解』</p> <p>4. 『日本語上級話者への道』</p>		<p>1. 出席 (70%以上の出席)</p> <p>2. チャプターテスト 3. 作文</p> <p>4. プレゼンテーション 5. 期末テスト</p> <p>7. クラス活動への参加</p>	

養	上級日本語 II Advanced Japanese II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>トピック・コンテンツシラバス中心の授業</p> <p>獨協大学における専門教育を受けるための準備コースである。日本事情関連の内容を中心とする新聞記事、雑誌、新書、専門書からの抜粋を自由に読みこなし、内容を理解・分析し、纏める力をつけることが目標となる。ゼミで必要となるプレゼンテーション能力、ゼミ論作成に向けた学習を行う。図書館等で情報を収集し、自立的な学習能力を習得することが求められる。</p> <p>学習内容：「国際社会における日本の役割」「医療問題」「情報社会」「日本の心」「異文化コミュニケーション」「食糧問題」「日本の文学」 など</p>		<p>(Japanese Language Proficiency Test Level N1&amp; above)</p> <p>This highly advanced course is offered to those who will pursue their studies at a high level academic or research institution. Students will deal with all types of texts which extend from editorial columns to literature and academic reports. Upon completion of this course, students will be able to understand documents, correspondence and reports including the finer points of complex texts. Students will be able to contribute effectively to meetings and seminars within their own area of work or keep up a casual conversation with a high level of fluency, coping with abstract expressions. Students will be able to take notes in class and seminars and write essays as well as academic reports on various subjects with accuracy and original style.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		<p>1. 出席 (70%以上)</p> <p>2. トピック各のテスト      3. 作文</p> <p>4. プレゼンテーション      5. 期末テスト</p> <p>7. クラス活動への参加</p>	

養	上級日本語 II Advanced Japanese II	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>トピック・コンテンツシラバス中心の授業</p> <p>獨協大学における専門教育を受けるための準備コースである。日本事情関連の内容を中心とする新聞記事、雑誌、新書、専門書からの抜粋を自由に読みこなし、内容を理解・分析し、纏める力をつけることが目標となる。ゼミで必要となるプレゼンテーション能力、ゼミ論作成に向けた学習を行う。図書館等で情報を収集し、自立的な学習能力を習得することが求められる。</p> <p>学習内容：「国際社会における日本の役割」「医療問題」「情報社会」「日本の心」「異文化コミュニケーション」「食糧問題」「日本の文学」 など</p>		<p>(Japanese Language Proficiency Test Level N1&amp; above)</p> <p>This highly advanced course is offered to those who will pursue their studies at a high level academic or research institution. Students will deal with all types of texts which extend from editorial columns to literature and academic reports. Upon completion of this course, students will be able to understand documents, correspondence and reports including the finer points of complex texts. Students will be able to contribute effectively to meetings and seminars within their own area of work or keep up a casual conversation with a high level of fluency, coping with abstract expressions. Students will be able to take notes in class and seminars and write essays as well as academic reports on various subjects with accuracy and original style.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
配布プリント		<p>1. 出席 (70%以上)</p> <p>2. トピック各のテスト      3. 作文</p> <p>4. プレゼンテーション      5. 期末テスト</p> <p>7. クラス活動への参加</p>	

外言	通訳翻訳論	担当者	永田 小絵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>通訳、翻訳についての知識を深めることを目的とします。</p> <p>学期前半では通訳という職業について理解を深め、また外国語学習に役立つ通訳訓練法を紹介します。</p> <p>学期後半では翻訳と通訳の発展の歴史、翻訳の規範などを通じて、翻訳・通訳の社会における役割と貢献について学びます。</p> <p>授業ではビデオやDVDを多く利用しますので、欠席しないようにしてください。</p>		<p>第1回 全体ガイダンス、教授用資料の入手方法説明</p> <p>第2回 通訳の実例研究（香港返還記念式典）</p> <p>第3回 会議通訳の実際</p> <p>第4回 司法通訳（外国人の人権を守る）</p> <p>第5回 放送通訳とコミュニティ通訳</p> <p>第6回 ガイド、芸能・スポーツの通訳</p> <p>第7回 通訳訓練法 通訳の原理</p> <p>第8回 学期前半のまとめ</p> <p>第9回 日本における翻訳通訳の歴史（1）</p> <p>第10回 日本における翻訳通訳の歴史（2）</p> <p>第11回 日本における翻訳通訳の歴史（3）</p> <p>第12回 翻訳と通訳の理論（1）</p> <p>第13回 翻訳と通訳の理論（2）</p> <p>第14回 通訳と翻訳の理論（3）</p> <p>第15回 全体のまとめ、期末レポートに関する説明</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
講義資料は、大学ホームページにアクセスし、教員紹介から授業資料ダウンロードページに飛んでダウンロードしてください。		期末試験により評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、Visual Basic をプログラミング言語として採りあげる。プログラムを実際に作成することで、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。</p> <p>そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic で実際に例題を通じてプログラミングを行い、これらのことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらう。</p> <p>ここでは、プログラミング言語の基本的な命令から始め、それらを組み合わせるどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題を自分のポータルサイト (PorTa) から提出してもらう。最後に自分でテーマを決めて、簡単なアプリケーションを作成する。授業の最初では、先輩たちの作成したアプリケーションを紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンスとコンピュータ概説：講義</li> <li>2 Visual Basic.の概略：講義および実習</li> <li>3 文字の表示：講義および実習</li> <li>4 入力と簡単な計算：講義および実習</li> <li>5 関数の利用：講義および実習</li> <li>6 飛び越し命令：講義および実習</li> <li>7 条件判断による分岐：講義および実習</li> <li>8 複数判断による分岐：講義および実習</li> <li>9 選択用コントロールによる分岐：講義および実習</li> <li>10 回数指定による繰り返し：講義および実習</li> <li>11 条件指定による繰り返し：講義および実習</li> <li>12 多重ループ：講義および実習</li> <li>13 オブジェクトの組み合わせ：講義および実習</li> <li>14 総合問題作成1：実習</li> <li>15 総合問題作成2：実習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	堀江 郁美
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成することを目的とする。ここでは、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてアプリケーションの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プログラムの分割：講義および実習</li> <li>2 プログラムの構造化：講義および実習</li> <li>3 配列の処理：講義および実習</li> <li>4 配列の入出力：講義および実習</li> <li>5 文字列の処理：講義および実習</li> <li>6 文字列の演算：講義および実習</li> <li>7 図形の描画：講義および実習</li> <li>8 画像の拡大・縮小：講義および実習</li> <li>9 画像のアニメーション：講義および実習</li> <li>10 音声の処理：講義および実習</li> <li>11 ファイルの処理：講義および実習</li> <li>12 メニューの処理：講義および実習</li> <li>13 インターネットの利用：講義および実習</li> <li>14 Visual Basic とホームページ：講義および実習</li> <li>15 総合問題作成：実習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、Visual Basic をプログラミング言語として採りあげる。プログラムを実際に作成することで、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。</p> <p>そのために、Windows の機能をフルに活用できるオブジェクト記述型言語である Visual Basic で実際に例題を通じてプログラミングを行い、これらのことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらう。</p> <p>ここでは、プログラミング言語の基本的な命令から始め、それらを組み合わせるどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題を自分のポータルサイト (PorTa) から提出してもらう。最後に自分でテーマを決めて、簡単なアプリケーションを作成する。授業の最初では、先輩たちの作成したアプリケーションを紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業のガイダンスとコンピュータ概説：講義</li> <li>2 Visual Basic.の概略：講義および実習</li> <li>3 文字の表示：講義および実習</li> <li>4 入力と簡単な計算：講義および実習</li> <li>5 関数の利用：講義および実習</li> <li>6 飛び越し命令：講義および実習</li> <li>7 条件判断による分岐：講義および実習</li> <li>8 複数判断による分岐：講義および実習</li> <li>9 選択用コントロールによる分岐：講義および実習</li> <li>10 回数指定による繰り返し：講義および実習</li> <li>11 条件指定による繰り返し：講義および実習</li> <li>12 多重ループ：講義および実習</li> <li>13 オブジェクトの組み合わせ：講義および実習</li> <li>14 総合問題作成1：実習</li> <li>15 総合問題作成2：実習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	立田 ルミ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成することを目的とする。ここでは、様々なアプリケーションがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてアプリケーションの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プログラムの分割：講義および実習</li> <li>2 プログラムの構造化：講義および実習</li> <li>3 配列の処理：講義および実習</li> <li>4 配列の入出力：講義および実習</li> <li>5 文字列の処理：講義および実習</li> <li>6 文字列の演算：講義および実習</li> <li>7 図形の描画：講義および実習</li> <li>8 画像の拡大・縮小：講義および実習</li> <li>9 画像のアニメーション：講義および実習</li> <li>10 音声の処理：講義および実習</li> <li>11 ファイルの処理：講義および実習</li> <li>12 メニューの処理：講義および実習</li> <li>13 インターネットの利用：講義および実習</li> <li>14 Visual Basic とホームページ：講義および実習</li> <li>15 総合問題作成：実習</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著：文科系大学生のための Visual Basic プログラミング、創成社、2010		出席 20%、レポート 40%、試験 40%	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	柏原 賢二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コンピュータを使って、初歩的なプログラミングの演習を行なう。それを通じて、コンピュータ上でプログラムの動く仕組みを学ぶ。言語としては、Javaを用いる。</p> <p>具体的には、以下のようなプログラミングの基本の構造を学ぶ。数字の扱い方、結果の出力の仕方、変数の使い方、条件分岐、繰り返し処理の方法とはなにかについて。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータプログラムとは</li> <li>2. Java のコンパイルの方法</li> <li>3. 変数の宣言と、結果の出力</li> <li>4. キーボードからの入力と乱数発生</li> <li>5. 条件分岐</li> <li>6. じゃんけんをするプログラム</li> <li>7. 繰り返し処理</li> <li>8. 繰り返し処理の応用</li> <li>9. ループの入れ子</li> <li>10. 数あてプログラム</li> <li>11. 素因数分解のプログラム</li> <li>12. 浮動小数点数と数学関数</li> <li>13. 円周率の計算</li> <li>14. 総合演習</li> <li>15. 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。		通常の授業における課題の提出状況と、期末試験の結果を総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	柏原 賢二
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続いて、Javaを用いた、初歩的なプログラミングの演習をする。そして、オブジェクト指向の基本的な考え方も学ぶ。</p> <p>具体的には、以下のようなプログラミングの基本の構造を学ぶ。文字の扱い方、配列変数について、メソッド呼び出しについて、オブジェクトとクラスなど。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の授業内容の復習</li> <li>2. 繰り返し処理と条件分岐の復習</li> <li>3. 文字列の処理</li> <li>4. 文字の処理</li> <li>5. 配列の宣言</li> <li>6. 配列の応用 1</li> <li>7. 配列の応用 2</li> <li>8. メソッド呼び出し 1</li> <li>9. メソッド呼び出し 2</li> <li>10. メソッド呼び出し 3</li> <li>11. オブジェクトとクラス 1</li> <li>12. オブジェクトとクラス 2</li> <li>13. オブジェクトとクラス 3</li> <li>14. オブジェクトとクラス 4</li> <li>15. 総合演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。		通常の授業における課題の提出状況と、期末試験の結果を総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2010 をプログラミング言語としてとりあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解することを目的とする。また、同時に実際にプログラミングをどのようにすればよいかを理解することを目的とする。</p> <p>基本的な命令から、その組み合わせまでを、例をあげて講義する。その後、ひとつひとつの命令に関して実際に Visual Basic 2010 でプログラミングの演習を行う。</p> <p>ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンスとコンピュータ概説</li> <li>2. Visual Basic 2010 の概略</li> <li>3. 簡単なプログラム作成 (1)</li> <li>4. 簡単なプログラム作成 (2): 四則演算</li> <li>5. 簡単なプログラム作成 (3): キャッシュレジスター</li> <li>6. 選択のあるプログラム作成 (1)</li> <li>7. 選択のあるプログラム作成 (2)</li> <li>8. 選択のあるプログラム作成 (3): オプションボタン、チェックボタンの利用</li> <li>9. 選択のあるプログラム作成 (4): リストボックス</li> <li>10. 繰り返しのあるプログラム作成 (1): If と Go To, For Next を用いた繰り返し</li> <li>11. 繰り返しのあるプログラム作成 (2): Case, While 文</li> <li>12. 繰り返しのあるプログラム作成 (3): 応用</li> <li>13. 総合問題作成</li> <li>14. 総合問題作成</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著『文科系大学生のための VISUAL BASIC プログラミング』創生社		平常点と演習 (40%)、レポート (60%) で総合的に評価する。	

外言	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論)	担当者	加藤 尚吾
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>プログラム論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目標とする。画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成することを目的とする。</p> <p>本講義では、プログラム論 a と同様に、Windows の機能をフルに活用できるイベントドリブン型言語である Visual Basic 2010 をプログラミング言語としてとりあげる。</p> <p>ほぼ毎回、演習課題を行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業のガイダンスとプログラミング論 a の復習</li> <li>2. 図形の処理 (1): 直線を描く、曲線を描く</li> <li>3. 図形の処理 (2): 円を描く、色を塗る</li> <li>4. 図形の処理 (3): Windows の画像処理</li> <li>5. 図形の処理 (4): ドラッグアンドドロップの利用</li> <li>6. 音声、動画の処理: 音声を録音する、音声を再生する</li> <li>7. 配列とコントロール配列: 一元配列、コントロール配列の利用</li> <li>8. プルダウンメニュー: コンボボックス、プルダウンメニューの利用</li> <li>9. ファイルの利用 (1): テキストファイルの読み込み</li> <li>10. ファイルの利用 (2): 画像ファイルの読み込み</li> <li>11. ファイルの利用 (3): シーケンスファイルの作成</li> <li>12. ファイルの利用 (4): シーケンスファイルの読み込みと利用</li> <li>13. インターネットの利用: Visual Basic 2010 とホームページとのリンク</li> <li>14. 応用 (まとめ 1)</li> <li>15. 応用 (まとめ 2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
立田ルミ著『文科系大学生のための VISUAL BASIC プログラミング』創生社		平常点と演習 (40%)、レポート (60%) で総合的に評価する。	

外言	地域経済論 iii a	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近年東アジアの急速な発展と域内諸国の相互依存関係の強化によって、東アジアは世界経済を牽引する存在になったと言われている。なかでも中国経済の動向は 21 世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。特に 2010 年の中国の名目 GDP が日本を上回り、米国に次ぐ世界第 2 位の経済大国になった。今後中国の存在感がますます大きくなりそうである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。</p> <p>日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。</p> <p>この授業では中国経済の歴史、発展可能性などについて 1970 年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国経済の全般的な動向(1)</li> <li>2 中国経済の全般的な動向(2)</li> <li>3 どのように GDP 世界第 2 位に到達したか？(1)</li> <li>4 どのように GDP 世界第 2 位に到達したか？(2)</li> <li>5 社会主義市場経済とは何か？(1)</li> <li>6 社会主義市場経済とは何か？(2)</li> <li>7 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか？(1)</li> <li>8 メイド・イン・チャイナは世界市場を席捲するか？(2)</li> <li>9 国有企業改革はどこまで進んだか？(1)</li> <li>10 国有企業改革はどこまで進んだか？(2)</li> <li>11 農村はいかに変化したか？(1)</li> <li>12 農村はいかに変化したか？(2)</li> <li>13 労働力は本当に不足しているのか？(1)</li> <li>14 労働力は本当に不足しているのか？(2)</li> <li>15 総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第 3 版』日本評論社、2012 年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

外言	地域経済論 iii b	担当者	全 載旭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>中国経済の発展をめぐる内的な課題と、対外貿易の発展、外資導入などの経済成長への役割、近年中国の台頭による東アジア経済の再編について考察する。</p> <p>日本にとって中国は 2002 年より最大輸入相手国となり、輸出においても 2009 年より米国を抜いて最大相手国となっている。中国にとって日本は最大の輸入相手国であり、米国に次ぐ第 2 位の輸出相手国である。中国の経済発展と中日経済関係の深化の中で両国の貿易の実態はその貿易量のみならずその内容も変化している。貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。</p> <p>地域経済論 iii a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国は世界最大の資本輸出国であり続けるか(1)</li> <li>2 中国は世界最大の資本輸出国であり続けるか(2)</li> <li>3 外需依存型成長からの転換は可能か？(1)</li> <li>4 外需依存型成長からの転換は可能か？(2)</li> <li>5 外資は何をもたらしたか？(1)</li> <li>6 外資は何をもたらしたか？(2)</li> <li>7 米中両国の経済依存関係は災か福か？(1)</li> <li>8 米中両国の経済依存関係は災か福か？(2)</li> <li>9 日中関係はいかにあるべきか？(1)</li> <li>10 日中関係はいかにあるべきか？(2)</li> <li>11 持続成長は可能か？(1)</li> <li>12 持続成長は可能か？(2)</li> <li>13 成長の果実は誰の手に？(1)</li> <li>14 成長の果実は誰の手に？(2)</li> <li>15 総括</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門第 3 版』日本評論社、2012 年。 その他必要に応じて資料を配布する。		出席状況と筆記試験によって評価する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	国際機構論 b	担当者	鈴木 淳一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>〔講義目的〕 本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する知識を提供することを目的とします。</p> <p>〔講義概要〕 今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。</p> <p>本講義では、履修者が国際法の知識を有することを前提とはしませんが、主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します。</p> <p>また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 国際組織の概念と歴史</li> <li>3 国際法の基礎知識</li> <li>4 国際組織の設立と解散</li> <li>5 国際組織の国際法上の地位</li> <li>6 国際組織の国内法上の地位</li> <li>7 国際組織と加盟国</li> <li>8 国際組織間の連携・協力</li> <li>9 国際組織と NGO（民間団体）</li> <li>10 国際公務員</li> <li>11 国際組織の意思決定</li> <li>12 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題</li> <li>13 国際組織に関する事例研究(1)</li> <li>14 国際組織に関する事例研究(2)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
大森正仁編著『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房）		主として学期末に実施する試験と出席により評価します。	

外言	卒業論文	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>言語文化学科では、卒業論文は必修科目ではないが、学生諸君にはできるだけ履修し、論文を書き上げて提出することを勧めている。</p> <p>なぜなら卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは、物事を論理的に考える姿勢と課題を設定し解答をさぐる能力を養成することになるからである。</p> <p>しかし、諸君の中にはこれを安易にとらえているむきもしばしば見受けられる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備と作業で書き上げられるものではない。担当教員と十分に議論を重ねるとともに指導を受けて、早い時期から取り組む必要がある。</p> <p>諸君の努力に期待する。</p>		<p>執筆指導は、各担当教員の指示に従うこと。</p> <p>提出には、PCの使用が求められる。印刷した論文とデジタルデータを提出すること。</p> <p>提出期限を厳守すること。そのために周到な計画を立てる必要がある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
各担当教員の指示による		学科の申し合わせによる	

外言	卒業論文	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期参照		春学期参照	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期参照		春学期参照	

2012年度

# 外国語学部共通科目シラバス

(2003～2006年度入学者用)

外言	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 1</li> <li>3. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 2</li> <li>4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 3</li> <li>5. 第 2 次大戦と欧州統合</li> <li>6. 戦後復興と欧州統合 1</li> <li>7. 戦後復興と欧州統合 2</li> <li>8. ECSC の成立 1</li> <li>9. ECSC の成立 2</li> <li>10. EEC の成立 1</li> <li>11. EEC の成立 2</li> <li>12. EEC の定着期 1</li> <li>13. EEC の定着期 2</li> <li>14. EEC の定着期 3</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）</p>	

外言	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 通貨統合 1</li> <li>3. 通貨統合 2</li> <li>4. 通貨統合 3</li> <li>5. マーストリヒト条約以降の EU1</li> <li>6. マーストリヒト条約以降の EU2</li> <li>7. EU の制度 1</li> <li>8. EU の制度 2</li> <li>9. EU の政策 1</li> <li>10. EU の政策 2</li> <li>11. 加盟国と EU1</li> <li>12. 加盟国と EU2</li> <li>13. 加盟国と EU3</li> <li>14. EU の現在の課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）</p>	

外言	総合講座（性と芸術）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の総合講座は、「性と芸術」というテーマによるリレー講義です。</p> <p>「ジェンダー」「セクシュアリティ」「エロス」等をキーワードにした場合、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、その他の国の、たとえばどんな芸術作品がどんなふうに関わりあっているのか。どのような問題意識があり、どのような背景があったのか。そこには、どんな表現、抵抗、当惑、禁忌、偏見、検閲、欺瞞、挑戦があったのか。そして、それらの作品を受容する現代の私たちに、いかなる態度が可能なのか。</p> <p>時代も国も異なるさまざまな作品に触れながら、「芸術」と「性」をめぐる多様な視点を手に入れてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 谷口亜沙子（フランス語学科）：初めに－性と芸術</li> <li>2. 原成吉（英語学科）：アメリカ詩にみるホモセクシュアリティ－アレン・ギンズバーグを中心に</li> <li>3. 若森栄樹（フランス語学科）：フランス文学とセクシュアリティ</li> <li>4. 前沢浩子（英語学科）：「恋」か「友情」か－Shakespeareの男たち</li> <li>5. 片山亜紀（英語学科）：19-20世紀イギリスの同性愛文学</li> <li>6. 一條由紀（早稲田大学非常勤講師）：少年愛と吸血鬼－『マルドローラの歌』を中心に</li> <li>7. 江花輝昭（フランス語学科）：18世紀フランス文学に見る男と女</li> <li>8. 柿田秀樹（英語学科）：絵画の視覚論</li> <li>9. 上野直子（英語学科）：フェミニスト文学批評入門</li> <li>10. 渡部重美（ドイツ語学科）：グリム童話の男の子と女の子</li> <li>11. 青山愛香（ドイツ語学科）：アダムとイブ－北方世界におけるヌード（Akt）の誕生</li> <li>12. 下川浩（ドイツ語学科）：なぜ不倫小説が多いのか？</li> <li>13. 前田直子（ドイツ語学科非常勤講師）：ドイツの移民女性たち</li> <li>14. 谷口亜沙子：ユディットとルクレチア－女性の表象を読む</li> <li>15. 谷口亜沙子：総論</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

外言	総合講座（神は細部に宿る）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期の総合講座は、「神は細部に宿る」という言葉から連想されるものならどんなテーマでも結構です、という呼びかけに応じてくださった多彩な講師陣によるリレー講座です。</p> <p>「細部」や「具体」への注目が真理の発見や手ごたえのある喜びにつながるという例や、「傲慢」や「めだたないもの」への注意深さが全体の理解や新しい変化の鍵となることがあるというお話を、様々な分野で聞くことができれば、というのが当初の構想でした。</p> <p>さて、文学、思想、言語学、美術、歴史、人類学、精神医学、宗教、神話、社会、都市、政治、教育、コミュニケーション学などにおいて、一体どんな「神」と「細部」が登場するのか――？</p> <p>「神は細部に宿る」という言葉を、ひとつの方法論あるいは問いかけとして身に持っていることによって、目の前の世界や時間にどんな変化が起こるのかを体験してみてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 谷口亜沙子：初めに－シャーロック・ホームズに倣って</li> <li>2. 田村毅（フランス語学科）：一編の詩から詩人とその時代の宗教思想を読み解く</li> <li>3. 工藤達也（ドイツ語学科）：ヴァルター・ベンヤミンのモノドロジーと歴史について</li> <li>4. 安井美代子（英語学科）：神の設計－言語の単純性と無限性</li> <li>5. 辻田麻里（ドイツ語学科）：メタファーに聞く人間の心</li> <li>6. 工藤和宏（英語学科）：世界を変える大学生たち</li> <li>7. 佐野康子（英語学科）：「ダーウィンの箱庭」－タンザニアから世界へ</li> <li>8. 日野克美（交流文化）：地名の不思議－モントリオールの街路名</li> <li>9. 須永和博（交流文化）：＜周辺＞という「細部」－寄せ場と貧困の人類学</li> <li>10. 佐藤唯行（英語学科）：ユダヤ教の成立－613もの戒律</li> <li>11. 下川浩（ドイツ語学科）：神と仏と愛と</li> <li>12. A.ゾーリンジャー（英語学科）：Utsushi: The Art of Copying（英語による講義）</li> <li>13. 青山愛香（ドイツ語学科）：神は細部に宿る－ファン・アイク兄弟の『ゲントの祭壇画』（1432年）</li> <li>14. 鈴木隆（フランス語学科）：細部に宿る都市空間の秩序</li> <li>15. 谷口亜沙子：総論－詩の生まれる瞬間</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

外言	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2. データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3. コンピュータの構成要素</li> <li>4. ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5. オペレーティングシステム (OS)</li> <li>6. プログラム言語</li> <li>7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1)</li> <li>10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2)</li> <li>11. 機械翻訳システムの演習</li> <li>12. 情報検索と質問応答システム</li> <li>13. インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14. 授業のまとめ</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

		担当者	
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	

外言	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション) (中級 プレゼンテーション) (中級 万能ツールとしての Excel) (中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション) (中級 プレゼンテーション) (中級 万能ツールとしての Excel) (中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008 年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要:</b> この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件:</b> 2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

外言	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

外言	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す。<u>英語学習に強い興味関心がある人、教職を目指す人</u>に適した内容と考える。</p> <p>【概要】 ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は1人1台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを分析し結果をレポートにまとめることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>【ガイダンス】</li> <li>言語の基本（1）：品詞</li> <li>言語の基本（2）：形態素、単語、句、節</li> <li>学習者言語の分析：語彙力とは何か（1）</li> <li>学習者言語の分析：語彙力とは何か（2）</li> <li>学習者言語の分析：語彙力とは何か（3）</li> <li>学習者言語の分析：文法力とは何か（1）</li> <li>学習者言語の分析：文法力とは何か（2）</li> <li>学習者言語の分析：文法力とは何か（3）</li> <li>学習者言語の分析：流暢さとは何か（1）</li> <li>学習者言語の分析：流暢さとは何か（2）</li> <li>学習者言語の分析：流暢さとは何か（3）</li> <li>最終レポート準備（1）</li> <li>最終レポート準備（2）</li> <li>【まとめ】</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

外言	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的な数量的に把握する視点や分析方法を身につける。</p> <p>【概要】 春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため、春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。</p> <p>授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、受講生の作業、演習、発表が中心になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>【ガイダンス】</li> <li>学習者言語の分析の視点（1）：概要</li> <li>学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ</li> <li>学習者言語の分析の視点（3）：語彙力</li> <li>学習者言語の分析の視点（4）：文法力</li> <li>学習者言語の分析の視点（5）：正確性</li> <li>データ収集と学習者コーパスの作成（1）</li> <li>データ収集と学習者コーパスの作成（2）</li> <li>学習者コーパスの加工：tagging（1）</li> <li>学習者コーパスの加工：tagging（2）</li> <li>分析（1）</li> <li>分析（2）</li> <li>プレゼンテーション（1）</li> <li>プレゼンテーション（2）</li> <li>【まとめ】</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

外言	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</b></p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）</p>		<p>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</p> <p>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</p> <p>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</p> <p>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</p> <p>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</p> <p>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</p> <p>7 Excel 関数のネスト(1)</p> <p>8 Excel 関数のネスト(2)</p> <p>9 Excel 関数のネスト(3)</p> <p>10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</p> <p>11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</p> <p>12 データベース上のデータの蓄積方法</p> <p>13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</p> <p>14 データベースの活用</p> <p>15 まとめと演習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

外言	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましよう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<p>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</p> <p>2 Access 上にデータを格納</p> <p>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</p> <p>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</p> <p>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</p> <p>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</p> <p>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</p> <p>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</p> <p>9 品詞の使われ方と英文の特徴</p> <p>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さー</p> <p>11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1)</p> <p>12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2)</p> <p>13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3)</p> <p>14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</p> <p>15 まとめと演習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

外言	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

外言	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つである WWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>2008 年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

		担当者	
講義目的、講義概要		授業計画	
テキスト、参考文献		評価方法	

外言	情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習 (1)</li> <li>3 HTML と FTP の復習 (2)</li> <li>4 インタラクティブなページ (HTML と CGI)</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript (1)</li> <li>7 JavaScript (2)</li> <li>8 JavaScript (3)</li> <li>9 JavaScript (4)</li> <li>10 JavaScript (5)</li> <li>11 CGI の利用</li> <li>12 総合課題 (1)</li> <li>13 総合課題 (2)</li> <li>14 総合課題 (2)</li> <li>15 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。		授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。	

外言	経済原論 a	担当者	未定 (掲示で確認)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。春学期のミクロ経済学では主に家計と企業の意思決定と、市場の機能について説明する予定である。</p> <p><b>講義目的</b> 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではミクロ経済学を学習するが、消費者(家計)や生産者(企業)がどのようなことを考えながら行動しているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミクロ経済学とは何か</li> <li>2. 市場機能の働き①</li> <li>3. 市場機能の働き②</li> <li>4. 数学的予備知識の準備</li> <li>5. 消費者の行動理論①</li> <li>6. 消費者の行動理論②</li> <li>7. 消費者の行動理論③</li> <li>8. 生産者の行動理論①</li> <li>9. 生産者の行動理論②</li> <li>10. 生産者の行動理論③</li> <li>11. 市場均衡と資源配分</li> <li>12. 市場の失敗</li> <li>13. 政府による市場介入①</li> <li>14. 政府による市場介入②</li> <li>15. 試験前まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に指定しない。参考文献としてスティグリッツ『ミクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。</p>	

外言	経済原論 b	担当者	未定 (掲示で確認)
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。秋学期のマクロ経済学では主に日本経済の概要とマクロ経済モデルに基づいた財政金融政策について説明する予定である。</p> <p><b>講義目的</b> 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではマクロ経済学を学習するが、日本のマクロ経済の実態や、経済がどのような政策によって運営されているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学とは何か</li> <li>2. ストック変数とフロー変数</li> <li>3. GDP の概念</li> <li>4. 経済成長と寄与度</li> <li>5. 消費と貯蓄</li> <li>6. 投資</li> <li>7. GDP の決定</li> <li>8. 財市場分析</li> <li>9. 貨幣需要</li> <li>10. 貨幣供給</li> <li>11. 政府の役割と財政金融政策①</li> <li>12. 政府の役割と財政金融政策②</li> <li>13. 総需要と総供給</li> <li>14. インフレーションとデフレーション</li> <li>15. 試験前まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に指定しない。参考文献として伊藤元重『マクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。</p>	

シラバス 言語文化学科

---

2012年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1664



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	